

秋田県文化財調査報告書第361集

開防遺跡  
貝保遺跡

－主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

開防遺跡・貝保遺跡



2003・3

秋田県教育委員会

2003・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂(しろざか)遺跡  
出土の「岩偶」です。  
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ 7 cm、凝灰岩。

か い ぼ う  
開 防 遺 跡  
か い ほ  
貝 保 遺 跡

－主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

2 0 0 3 • 3

秋 田 県 教 育 委 員 会

## 序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものあります。

一方、高速交通関連道路秋田八郎潟線をはじめとする交通体系の整備は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものあります。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、高速交通関連道路秋田八郎潟線建設に先立って、平成13年度に五城目町で実施した開防遺跡の発掘調査成果と、平成13・14年度に八郎潟町で実施した貝保遺跡の発掘調査成果についてまとめたものであります。調査では、平安時代の堅穴住居跡などが発見され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県秋田建設事務所、五城目町、五城目町教育委員会、八郎潟町、八郎潟町教育委員会など関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺清

## 例　　言

1. 本書は、主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に係る、開防遺跡と貝保遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本報告書は、平成13年度に調査した秋田県南秋田郡五城目町に所在する開防遺跡と、平成13・14年度に調査した同八郎潟町に所在する貝保遺跡の調査成果を収めたものである。
3. 開防遺跡と貝保遺跡の発掘調査の成果については、既にいくつかの発表・報告等を行っている。しかし、いずれも調査・整理の途中段階のものであり、本書の記載内容と相違がある場合には、本書が優先するものとする。
4. 本書の執筆は、「はじめに」・開防遺跡の第1～5章を利部修が、「遺跡の環境」を足利直哉が、貝保遺跡の第1～3章を山田広美が執筆した。編集は利部修が行った。
5. 土層断面等の土色の表記は、農林水産省農林水産技術委員会議事務所監修 財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠った。
6. 本書に使用した地形図及び地勢図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「五城目」及び秋田県秋田建設事務所提供的1/1,000工事用図面である。
7. 自然科学的分析は以下の機関に委託した。

### 開防遺跡

樹種同定、<sup>14</sup>C年代測定：株式会社パレオ・ラボ

種実同定：株式会社古環境研究所

### 貝保遺跡

樹種同定、<sup>14</sup>C年代測定：株式会社パレオ・ラボ

8. 本報告書を作成するにあたり、以下の方々並びに諸機関からご指導、ご助言を賜った。記して感謝の意を表します（五十音順、敬称略）。

穴澤義功 宇部則保 木村淳一 高島成侑 鍋倉勝夫 新野直吉 船木義勝

## 凡例

1. 本書に掲載した遺構平面図及び、遺構配置図の方位は座標北を示す。座標北と磁北との偏角は、開防遺跡では西に  $9^{\circ} 11' 20''$ 、貝保遺跡では西に  $7^{\circ} 28' 40''$  である。

2. 各遺構に付している略記号は以下の通りである。遺構は検出後、種類を問わず、開防遺跡はA・B区、C区、D区ごとに1からの通し番号を付した。貝保遺跡は1次調査では1からの通し番号を付し、2次調査では201からの通し番号を付した。

S I : 壺穴住居跡

S K I : 壺穴状遺構

S B : 掘立柱建物跡

S A : 柱穴列

S E : 井戸跡

S R : 土器埋設遺構

S K : 土坑

S S : 鍛冶炉

S S T : 製鉄関連捨て場

S W : 炭焼成遺構

S O : カマド状遺構

S N : 焼土遺構

S D : 溝跡

S X : 性格不明遺構

S K P : 柱穴様ピット

3. 本書に掲載した遺構実測図の縮尺は、1/40、1/80を各遺構の規模に応じて使い分けている。遺物実測図の縮尺は1/3を主としているが、一部には異なる縮尺も使用している。いずれの場合も、挿図中にそれぞれスケールを付している。

4. 挿図中のスクリーン・トーン、シンボルマークの凡例は以下の通りである。

遺構：焼土・被熱範囲



炭化物分布範囲



土師器



須恵器



鉄関連遺物



羽口



炉壁



遺物：須恵器



(断面に)

黒色処理土師器

Bを付す

5. 遺構実測図において、複数の遺構が切り合う場合、当該切り合い部分は原則として新しい遺構の形状のみを実線で表現した。

6. 本文中にある出土遺物の数量を示す表現は、特に断りのある場合を除いて、「多数」は50点以上、「多量」は100点以上の場合に用いている。

# 目 次

## 序

例言	iii
凡例	iv
目次	v
挿図目次	vi
表目次	vii
図版目次	viii

はじめに	1
------	---

第1節 調査に至る経過	1
-------------	---

第2節 調査要項	1
----------	---

遺跡の環境	4
-------	---

第1節 遺跡の立地	4
-----------	---

第2節 歴史的環境	4
-----------	---

## 開防遺跡

第1章 調査の概要	11
-----------	----

第1節 遺跡の概観	11
-----------	----

第2節 発掘調査の方法	12
-------------	----

第3節 発掘調査の経過	13
-------------	----

第4節 整理作業の方法と経過	14
----------------	----

第2章 A・B区調査の記録	17
---------------	----

第1節 検出遺構と出土遺物	17
---------------	----

1 古代	17
------	----

2 中世以降	34
--------	----

第2節 遺構外出土遺物	34
-------------	----

第3章 C区の調査の記録	37
--------------	----

第1節 検出遺構と出土遺物	37
---------------	----

1 古代	37
------	----

2 中世以降	70
--------	----

第2節 遺構外出土遺物	70
-------------	----

第4章 D区の調査の記録	77
--------------	----

第1節 検出遺構と出土遺物	77
---------------	----

1 古代	77
------	----

第2節 遺構外出土遺物	152
-------------	-----

第5章	まとめ	154
-----	-----	-----

## 貝保遺跡

第1章	調査の概要	179
第1節	遺跡の概観	179
第2節	発掘調査の方法	179
第3節	発掘調査の経過	180
第4節	整理作業の方法と経過	181
第2章	調査の記録	182
第1節	検出遺構と出土遺物	182
第2節	遺構外出土遺物	191
第3章	まとめ	200

## 報告書抄録

## 挿図目次

第1図	開防遺跡・貝保遺跡の調査範囲図	3	第19図	遺構外出土遺物(1)	34
第2図	開防遺跡・貝保遺跡の位置	4	第20図	C区遺構配置図	35
第3図	開防遺跡・貝保遺跡周辺の地質図	5	第21図	竪穴住居跡(1)、掘立柱建物跡(3)	38
第4図	開防遺跡・貝保遺跡周辺の遺跡分布図	6	第22図	掘立柱建物跡(4)	39
第5図	開防遺跡の基本層序	12	第23図	掘立柱建物跡(5)	41
第6図	開防遺跡の区割図	13	第24図	掘立柱建物跡(6)	42
第7図	A・B区遺構配置図	15	第25図	柱穴列(2)、土器埋設遺構(1)、土坑(3)	44
第8図	掘立柱建物跡(1)	18	第26図	土坑(4)	46
第9図	掘立柱建物跡(2)、井戸跡(1)	19	第27図	土坑(5)	48
第10図	土坑(1)	21	第28図	土坑(6)	50
第11図	土坑(2)、鍛冶炉(1)、炭焼成遺構(1) 燒土遺構(1)、溝跡(1)	23	第29図	土坑(7)	52
第12図	溝跡(2)	26	第30図	土坑(8)	54
第13図	溝跡(3)	27	第31図	土坑(9)	55
第14図	溝跡(4)、性格不明遺構(1)	28	第32図	製鉄関連捨て場(1)、炭焼成遺構(2)、燒土 遺構(2)	57
第15図	柱穴列(1)	29	第33図	溝跡(5)	59
第16図	A・B区柱穴様ピット配置図	30	第34図	溝跡(6)	60
第17図	遺構内出土遺物(1)	32	第35図	井戸跡(2)	61
第18図	遺構内出土遺物(2)	33	第36図	C区柱穴様ピット配置図(1)	62

第37図 C区柱穴様ピット配置図(2) .....	63	第69図 焼土遺構(4) .....	121
第38図 遺構内出土遺物(3) .....	71	第70図 溝跡(7) .....	123
第39図 遺構内出土遺物(4) .....	72	第71図 溝跡(8) .....	124
第40図 遺構内出土遺物(5) .....	73	第72図 溝跡(9) .....	126
第41図 遺構外出土遺物(2) .....	74	第73図 溝跡(10) .....	127
第42図 D区遺構配置図 .....	75	第74図 溝跡(11) .....	129
第43図 壺穴住居跡(2) .....	78	第75図 性格不明遺構(2) .....	131
第44図 壺穴住居跡(3) .....	79	第76図 性格不明遺構(3) .....	132
第45図 壺穴住居跡(4) .....	81	第77図 性格不明遺構(4) .....	133
第46図 壺穴住居跡(5) .....	82	第78図 D区柱穴様ピット配置図 .....	134
第47図 壺穴状遺構(1) .....	83	第79図 遺構内出土遺物(6) .....	143
第48図 掘立柱建物跡(7) .....	85	第80図 遺構内出土遺物(7) .....	144
第49図 掘立柱建物跡(8) .....	86	第81図 遺構内出土遺物(8) .....	145
第50図 掘立柱建物跡(9) .....	88	第82図 遺構内出土遺物(9) .....	146
第51図 掘立柱建物跡(10) .....	89	第83図 遺構内出土遺物(10) .....	147
第52図 掘立柱建物跡(11) .....	90	第84図 遺構内出土遺物(11) .....	148
第53図 柱穴列(3)、土器埋設遺構(2) .....	93	第85図 遺構内出土遺物(12) .....	149
第54図 土坑(10) .....	95	第86図 遺構内出土遺物(13) .....	150
第55図 土坑(11) .....	96	第87図 遺構内出土遺物(14) .....	151
第56図 土坑(12) .....	98	第88図 遺構内出土遺物(15) .....	152
第57図 土坑(13) .....	99	第89図 遺構外出土遺物(3) .....	153
第58図 土坑(14) .....	101	第90図 貝保遺跡の基本層序 .....	180
第59図 土坑(15) .....	102	第91図 貝保遺跡の区割図 .....	181
第60図 土坑(16) .....	104	第92図 貝保遺跡遺構配置図 .....	183
第61図 土坑(17) .....	106	第93図 掘立柱建物跡(1)、柱穴列(1) .....	185
第62図 土坑(18) .....	107	第94図 井戸跡(1)、土坑(1) .....	186
第63図 土坑(19) .....	109	第95図 土坑(2)、鍛冶炉跡(1)、焼土遺構(1) .....	189
第64図 土坑(20) .....	111	第96図 焼土遺構(2)、溝跡(1) .....	190
第65図 土坑(21) .....	113	第97図 溝跡(2)、性格不明遺構(1) .....	192
第66図 鍛冶炉(2) .....	115	第98図 遺構内出土遺物(1) .....	197
第67図 炭焼成遺構(3)、カマド状遺構(1) .....	117	第99図 遺構内出土遺物(2) .....	198
第68図 カマド状遺構(2)、焼土遺構(3) .....	119	第100図 遺構外出土遺物(1) .....	199

## 表 目 次

第1表	開防遺跡・貝保遺跡周辺の遺跡一覧	7	第12表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(3)	137
第2表	開防遺跡A・B区柱穴様ピット一覧	31	第13表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(4)	138
第3表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(1)	64	第14表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(5)	139
第4表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(2)	65	第15表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(6)	140
第5表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(3)	66	第16表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(7)	141
第6表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(4)	67	第17表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(8)	142
第7表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(5)	68	第18表	貝保遺跡柱穴様ピット一覧(1)	193
第8表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(6)	69	第19表	貝保遺跡柱穴様ピット一覧(2)	194
第9表	開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(7)	70	第20表	貝保遺跡柱穴様ピット一覧(3)	195
第10表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(1)	135	第21表	貝保遺跡柱穴様ピット一覧(4)	196
第11表	開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(2)	136			

## 図版目次

図版1	開防遺跡調査区全景	図版13	D区掘立柱建物跡・D区土器埋設遺構(1)
図版2	B区掘立柱建物跡・井戸跡・土坑(1)	図版14	D区土器埋設遺構(2)・D区土坑(1)
図版3	A区土坑・B区土坑(2)・B区鍛冶炉・ B区炭焼成遺構・B区焼土遺構	図版15	D区土坑(2)
図版4	B区溝跡(1)	図版16	D区土坑(3)
図版5	B区溝跡(2)・B区柱穴列	図版17	D区土坑(4)
図版6	C区堅穴住居跡・C区掘立柱建物跡(1)	図版18	D区土坑(5)
図版7	C区掘立柱建物跡(2)・C区柱穴列・ C区土器埋設遺構(1)	図版19	D区鍛冶炉・D区炭焼成遺構・ D区カマド状遺構・D区焼土遺構
図版8	C区土器埋設遺構(2)・C区土坑(1)	図版20	D区溝跡(1)
図版9	C区土坑(2)	図版21	D区溝跡(2)・D区性格不明遺構(1)
図版10	C区製鉄関連捨て場	図版22	D区性格不明遺構(2)
図版11	C区土坑(3)・C区炭焼成遺構・C区焼土遺構・ C区溝跡・C区井戸跡	図版23	貝保遺跡遠景・掘立柱建物跡・柱穴列・井戸跡・ 土坑(1)
図版12	D区堅穴住居跡・D区堅穴状遺構	図版24	土坑(2)・鍛冶炉・焼土遺構
		図版25	溝跡・性格不明遺構・作業風景

# はじめに

## 第1節 調査に至る経過

開防遺跡は、主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に伴って、発掘調査を行った遺跡である。この事業は日本海沿岸東北自動車道五城目・八郎潟ICからのアクセス道として、西の八郎潟町国道7号線から、東の五城目町国道285号線までを結び、高速道路から周辺地域への交通の円滑化を目的として計画されたものである。開防遺跡は、平成12年に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室によって行われた遺跡分布調査によって、新たに発見された遺跡である。

この分布調査により、道路建設予定地に開防遺跡が存在することが確認され、秋田県埋蔵文化財センターが同年11月27日から12月1日にかけて16,600m<sup>2</sup>を対象に遺跡確認調査を実施した。その結果、当該範囲内において、開防遺跡が古代の集落跡であることが確認され、遺跡確認調査対象地域のうち、7,400m<sup>2</sup>の発掘調査が必要であることがわかった。

この結果を基に、秋田県秋田建設事務所と秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室とが、道路建設が遺跡に及ぼす影響等について協議した結果、遺跡確認調査で示した遺跡の範囲全てを発掘調査する事が決定された(第1図)。発掘調査は、平成13年度に秋田県埋蔵文化財センターが行うこととなった。

貝保遺跡は、同じく主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に伴って、平成13年度に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室によって行われた路線内の遺跡分布調査において、新たに発見された遺跡である。発掘対象面積が少ないこともあり、遺跡確認調査をせずに13年度中に開防遺跡の調査終了を待って、住宅地を除いた860m<sup>2</sup>を対象に発掘調査を行うことになった。更に14年度中には、住宅を解体した後、残りの450m<sup>2</sup>を発掘調査した(第1図)。

## 第2節 調査要項(※職名等は発掘調査当時のものである)

### 開防遺跡

遺 跡 名	開防遺跡(略記号 4 KB)
所 在 地	秋田県南秋田郡五城目町小池字開防49-2外
調 査 目 的	主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査
調 査 期 間	平成13年4月16日～8月31日
調 査 面 積	7,400m <sup>2</sup> (実質調査面積6,163m <sup>2</sup> )
調 査 主 体	秋田県教育委員会
調 査 担 当	大森 浩(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 深浦真人(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 足利直哉(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員) 井上理子(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員) 大渕和峰(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

小野栄一郎(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

小塚裕姫子(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

奥山美樹(秋田県埋蔵文化財センター北調査課非常勤職員)

佐藤 有(秋田県埋蔵文化財センター北調査課非常勤職員)

総務担当 土橋謙一(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課主事)

調査協力機関 秋田県秋田建設事務所 五城目町教育委員会

貝保遺跡

遺 跡 名 貝保遺跡(略記号 4 K H)

所 在 地 秋田県南秋田郡八郎潟町川崎字貝保99-3 ほか

調査目的 主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査

調査期間 平成13年度 平成13年8月27日～9月18日

平成14年度 平成14年4月11日～4月26日

調査面積 平成13年度 860m<sup>2</sup>(実質調査面積726m<sup>2</sup>)

平成14年度 450m<sup>2</sup>(実質調査面積317m<sup>2</sup>)

調査主体 秋田県教育委員会

調査担当 平成13年度

大森 浩(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事)

大渕和峰(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

小野栄一郎(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

平成14年度

村上義直(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事)

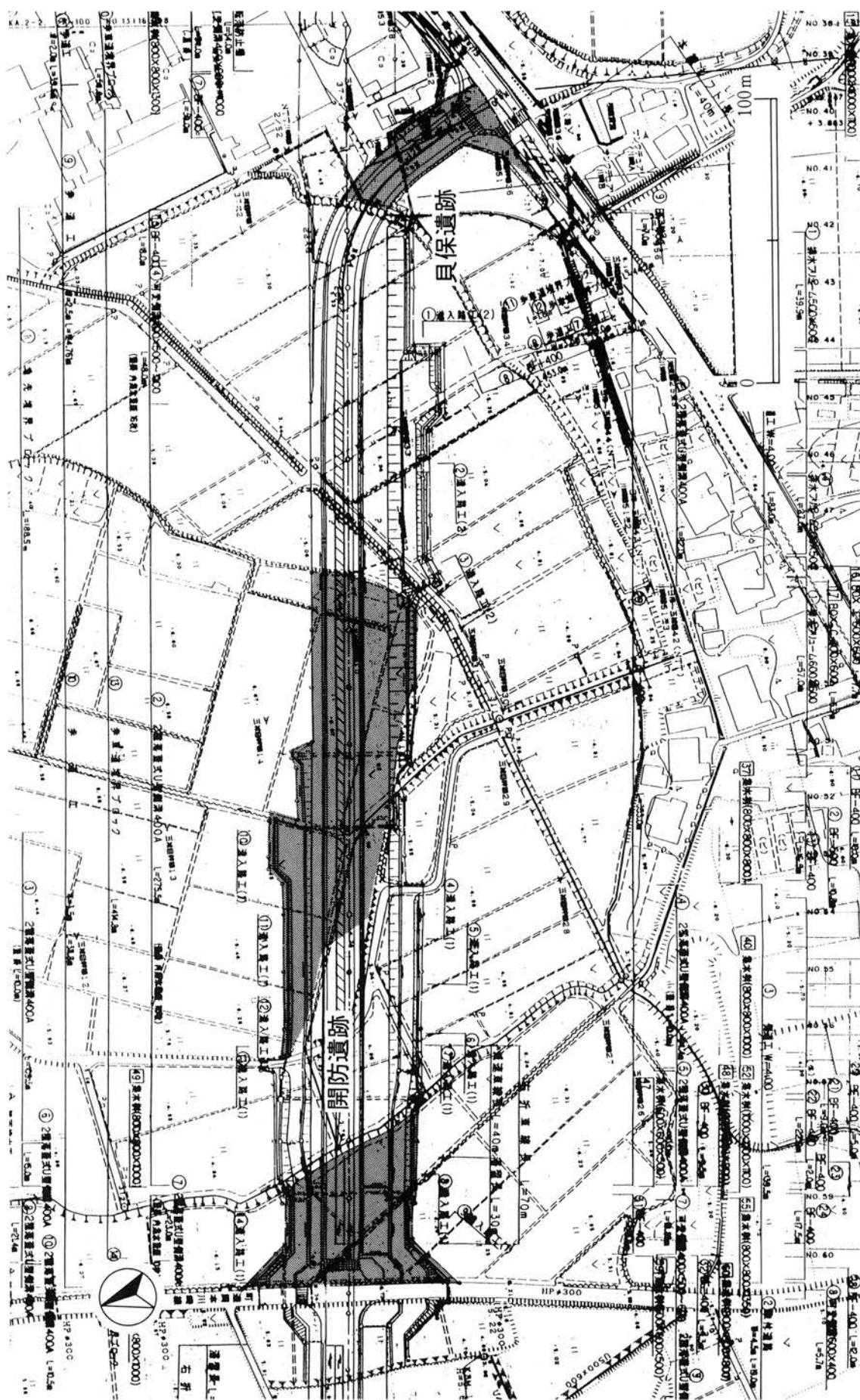
山田広美(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事・五城目町派遣職員)

足利直哉(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

堀井帝仁(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課非常勤職員)

総務担当 土橋謙一(秋田県埋蔵文化財センター中央調査課主事)

調査協力機関 秋田県秋田建設事務所 五城目町教育委員会 八郎潟町教育委員会



第1図 開防遺跡・貝保遺跡の調査範囲図

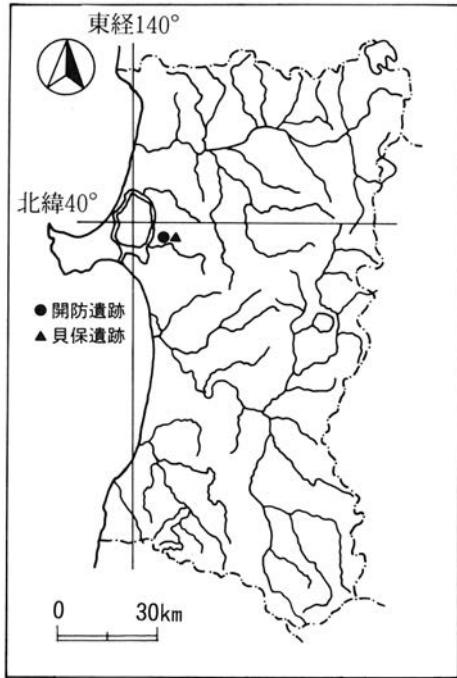
## 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の立地

開防遺跡(五城目町)と貝保遺跡(八郎潟町)は隣接しており、八郎潟残存湖の南東部、南秋田郡の北部に位置する。両遺跡は、五城目町役場から西へ約0.8km、JR奥羽本線八郎潟駅から東へ約2km、馬場目川右岸から北へ約0.3kmに位置する。開防遺跡が北緯 $39^{\circ} 56' 36''$ 、東経 $140^{\circ} 6' 18''$ であり、貝保遺跡は北緯 $39^{\circ} 56' 32''$ 、東経 $140^{\circ} 6' 23''$ に位置する(第2図)。

遺跡の周辺の地形は、出羽丘陵西部から八郎潟残存湖に向けて山地、丘陵地、低地に分けられる。残存湖の南側には、琴丘町鯉川より秋田市金足に至る狭長な湖東沖積低地が展開し、これらの地域の東には、高度100m内外の登頂丘陵地が南北に帯状に発達している。丘陵地の東には俎山山地から北に延長する一連の山地が発達し、ここから清流する馬場目川、井川、豊川、馬踏川などの河川はすべて八郎潟残存湖に注いでいる(第3図)。

遺跡周辺の地質は、下位から小谷沢層、新砂子淵層、女川層、船川層、天徳寺層、笹岡層、潟西層及び段丘堆積物、沖積層に分けられている。両遺跡は馬場目川右岸に広がる標高約6mの沖積低地に立地している(第3図)。



### 第2節 歴史的環境

開防・貝保遺跡の所在する八郎潟南東部においては、各時代にわたる遺跡が周知されており、また近年における道路建設事業などの大規模な開発事業に伴い、新たに発見され、調査された遺跡も少なくない。ここでは、開防・貝保遺跡の周辺の縄文時代から中世までの遺跡について概観する(第4図)。

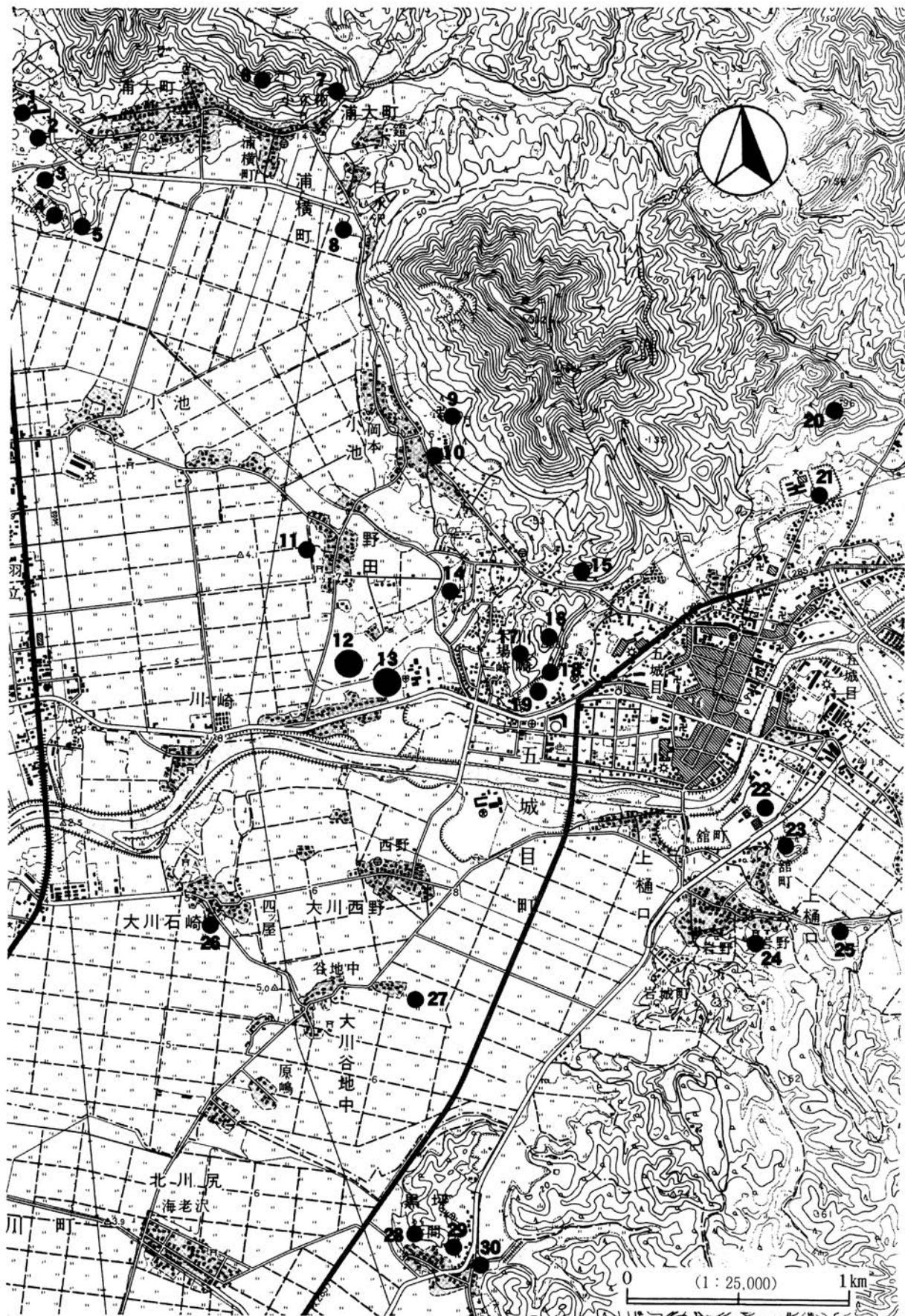
縄文時代の遺跡としては、中期の八郎潟町沢田I遺跡(1)があり、円筒土器と大木式土器などが出土している。後・晚期には、森山南西麓に五城目町の岡本遺跡(10)、また馬場目川を挟んで中山遺跡(25)がある。中山遺跡は、1982・1983年に発掘調査が実施され、湿地帯に残る泥炭層から晩期前半の編布、籃胎漆器、木胎漆器、赤色漆塗り丸木弓、乾漆櫛、樹枝製品等が出土しており、漆工芸技術に関わる貴重な資料となっている。

弥生時代の遺跡としては、井川町の新間A・新間B遺跡(28・29)がある。新間A遺跡からは、糞跡痕を伴う弥生土器が出土している。また越雄遺跡(30)は、2000年に発掘調査が実施され、遠賀川系土器などが出土している。

古代の遺跡としては、五城目町の雀館古代井戸跡(22)、岩野山古墳群(24)、石崎遺跡(26)、中谷地遺跡(27)などがある。岩野山古墳群は、3回の発掘調査が実施されている。8世紀中ごろから10世紀にかけて

第3图 防洪排水·臭味源周围地区的地質圖





第4図 開防遺跡・貝保遺跡周辺の遺跡分布図

地図番号	遺跡名	所在地	種別	遺構・遺跡
1	沢田Ⅰ	八郎潟町真坂字沢田43外	遺物包含地	縄文土器片(中期)、土偶、三角土製品、三脚石器 他
2	沢田Ⅲ	八郎潟町真坂字沢田106-1外	遺物包含地	石皿、石棒、フレーク
3	鳥屋崎	八郎潟町浦大町字鳥屋崎60外	遺物包含地	フレーク
4	寒ノ神石Ⅰ	八郎潟町浦大町字寒ノ神93外	遺物包含地	石鏃、石匙、石皿、フレーク多量
5	寒ノ神石Ⅱ	八郎潟町浦大町字寒ノ神58外	遺物包含地	縄文土器片、石鏃、扁平打製石器、石錘、フレーク 他
6	浦城	八郎潟町浦大町字里ヶ久38	館跡	青磁、黄瀬戸、志野・明染付、越前系陶片 他
7	小立花	五城目町浦大町字子立花	遺物包含地	陶磁器、珠洲系陶器、錢貨、石鏃、石器 他
8	山際道ノ下	五城目町浦大町字山際道ノ下	遺物包含地	石匙、石錘、土師器、珠洲系陶器 他
9	岡本城	五城目町小池字森山下83外	館跡	
10	岡本	五城目町小池字森山下88-45外	遺物包含地	縄文土器片(後・晚期)、竪穴住居跡、土偶、石器
11	北	五城目町野田字北38外	集落跡	井戸跡、便所跡、陶磁器、刀子、木製品 他
12	開防	五城目町小池字開防49-2外	集落跡	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土師器、須恵器、鉄滓 他
13	貝保	八郎潟町川崎字貝保99-3外	集落跡	掘立柱建物跡、井戸跡、土師器、須恵器、鉄滓 他
14	下台	五城目町岡本字下台50外	遺物包含地	縄文土器片(後・晚期)
15	神明前	五城目町字神明前18外	遺物包含地	縄文土器片(中・後期)
16	細越館	五城目町小池字岡本下台99外	館跡	帯郭
17	矢場崎A遺跡	五城目町字七倉	窯跡	土師器
18	矢場崎B遺跡	五城目町小池字岡本下台	窯跡	須恵器
19	細越	五城目町字七倉18-1外	遺物包含地	縄文土器片(晚期)
20	砂沢城	五城目町字羽黒前38外	館跡	
21	砂沢窯跡	五城目町字羽黒前26	窯跡	登窯、陶器片
22	雀館古代井戸	五城目町上樋口字堂社30-3	井戸跡	須恵器片、土師器片、黒陶片、棹木、矢板
23	雀館	五城目町高崎字八田7外	館跡	青磁片、黄瀬戸片、礎石
24	岩野山古墳群	五城目町上樋口字樽沢214外	古墳	蕨手刀、勾玉、鉄鏃、土師器、須恵器 他
25	中山	五城目町高崎字中泉田26	遺物包含地	縄文土器(後・晚期)、漆製品、漆濃し布 他
26	石崎	五城目町大川下樋口字道の下10外	城柵跡	柵列、柱脚、陶硯、木製品等
27	中谷地	五城目町大川谷地中谷地6外	集落跡	掘立柱建物跡、板材列、土師器、須恵器 他
28	新間A	井川町黒坪字新間177、178	遺物包含地	縄文土器片(晚期)、弥生土器片、石鏃、石斧、石錘
29	新間B	井川町黒坪字新間197	遺物包含地	縄文土器片(晚期)、弥生土器片、石匙
30	越雄	井川町黒坪字越雄	集落跡	土坑墓、弥生土器片、石器

第1表 周辺の遺跡

の、古墳を含む遺構が確認される。これらの古墳からは武具、装身具、土師器、須恵器等の副葬品が出土している。石崎遺跡も3次にわたって調査が実施され、柵列や櫓跡が確認されている。秋田郡衙跡の可能性が考えられている。中谷地遺跡は、1999年に発掘調査が実施され、遺構からは、多くの土器と木製品などの遺物が出土した。特に祭祀に関連する遺物がまとまって出土している。

中世以降としては、八郎潟町の浦城(6)、五城目町の岡本城(9)、北遺跡(11)、雀館(23)などがある。北遺跡は、1999年に発掘調査が実施され、井戸跡、便所跡、溝跡などが検出されており、井戸跡からは多種多様の木製品が出土している。

遺跡の環境

参考文献

秋田県『土地分類基本調査 五城目』 1973(昭和48)年

秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図(中央版)』 1990(平成2)年

五城目町『五城目町史』 1975(昭和50)年

五城目町教育委員会『中山遺跡発掘調査報告書』 1983(昭和58)・1984(昭和59)・1990(平成2)年

五城目町教育委員会『岩野山古墳群第3次発掘調査報告書』 1975(昭和50)年

五城目町教育委員会『石崎遺跡発掘調査報告書 第1－第3回合報』 1975(昭和50)年

秋田県教育委員会『北遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VI－』

秋田県文化財調査報告書第315集 2001(平成13)年

秋田県教育委員会『中谷地遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VII－』

秋田県文化財調査報告書第316集 2001(平成13)年

五城目町教育委員会『開防遺跡－湖東総合病院建設に伴う敷地造成工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』

五城目町埋蔵文化財調査報告書第8集 2002(平成14)年

開 防 遺 跡

( 4 K B )

# 第1章 調査の概要

## 第1節 遺跡の概観

開防遺跡は、馬場目川右岸の標高6～6.5mの河岸段丘上に位置する。遺跡の東から南にかけては、馬場目川の旧河道が広がり、A・B地区とC・D地区も旧河道で東西に区画されている。

A・B地区は、町道からの重機道の確保のために重機道になる北側をA区、その南側をB区と便宜的に区画したものである。C・D地区は、調査時の排土処理の関係からD区を優先させることにし、便宜的に中央の用水路によって西側のC区と東側のD区に区分した。調査は併行する場合もあったが、概ねA区→B・D区→C区の順で推移した。

開防遺跡の年代は、出土遺物より古墳時代(7世紀)から奈良・平安時代を経た中世までである。遺跡の内容は平安時代を中心で、遺構・遺物の大半が当該時期に含まれる。遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・柱穴列・井戸跡などが検出された他、鍛冶炉・炭焼成遺構・カマド状遺構等の生産に関する遺構も見つかっている。

遺構や遺物は、調査区の全域に広がるが、特にC・D区において、遺構が多く見つかっている。A・B区では、A区でやや希薄な在り方を示すことから、B区の南側に遺跡が広がると考えられる。C・D区では、遺構密度の濃さから南北の広がりが想定されるが、南側は段丘面沿いまでが相当すると考えられる。北側では、D区の北100mほどに平成13年に五城目町教育委員会が、湖東総合病院移設に伴う開防遺跡の発掘調査を実施し平安時代の集落を検出しており、少なくともそこまでの広がりを持つことが分かっている。また、D区の南東約400mには、馬場目川の旧河道を挟んで平安時代の貝保遺跡が存在する。以上より開防遺跡は、平安時代の大集落であったと同時に、馬場目川流域周辺遺跡との繋がりも理解される。

既述のように、今回の調査区は大きく東西に分かれる。どちらも調査前の状況は、一部の畠地を除き水田となっており標高は6～6.5mである。以下、西側と東側に分けて基本層序について記述する。

### 西側基本土層(B区)(第5図)

現地表面(Ia層)は厚さ約10cmとほぼ均一で調査区全体に広がっている。本層は畠部分を除いて水田耕作土である。本層にも土師器などが見られるが、摩滅が激しい。

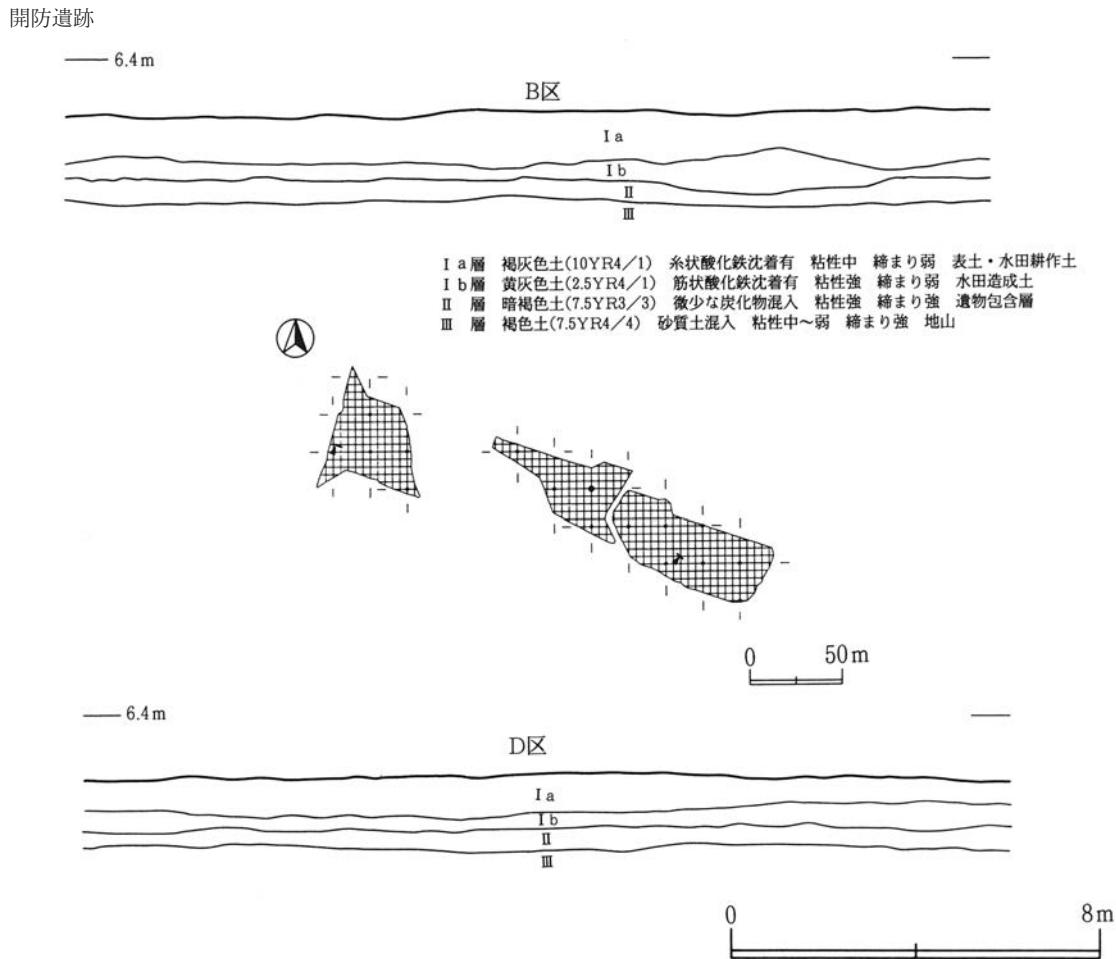
Ib層は水田造成時の盛り土と考えられる。本層は、1～10cmと場所により厚さにはらつきがある。植物の根などが大量に見られる。重機による表土除去は本層までを対象とした。

II層は水田造成以前の層である。上部には間隙がみられ、橙色土粒子が混入している。本層中には、土師器、須恵器、鉄滓等の遺物が含まれていて、一部の遺構の確認面である。

III層は無遺物層のいわゆる地山層で、大半の遺構はこの面で確認している。所々砂質土が広がり河川の働きが想定される。II層との境界は漸移的であったが、両層の間に明確な漸移層を分離することは出来なかった。

### 東側基本土層(D区)(第5図)

現地表面(Ia層)は厚さ10～15cmとほぼ均一で調査区全体に広がっている。本層は畠部分を除いて水田耕作土である。調査区東側の一段標高の低い地域にも同様に広がっている。



第5図 開防遺跡の基本層序

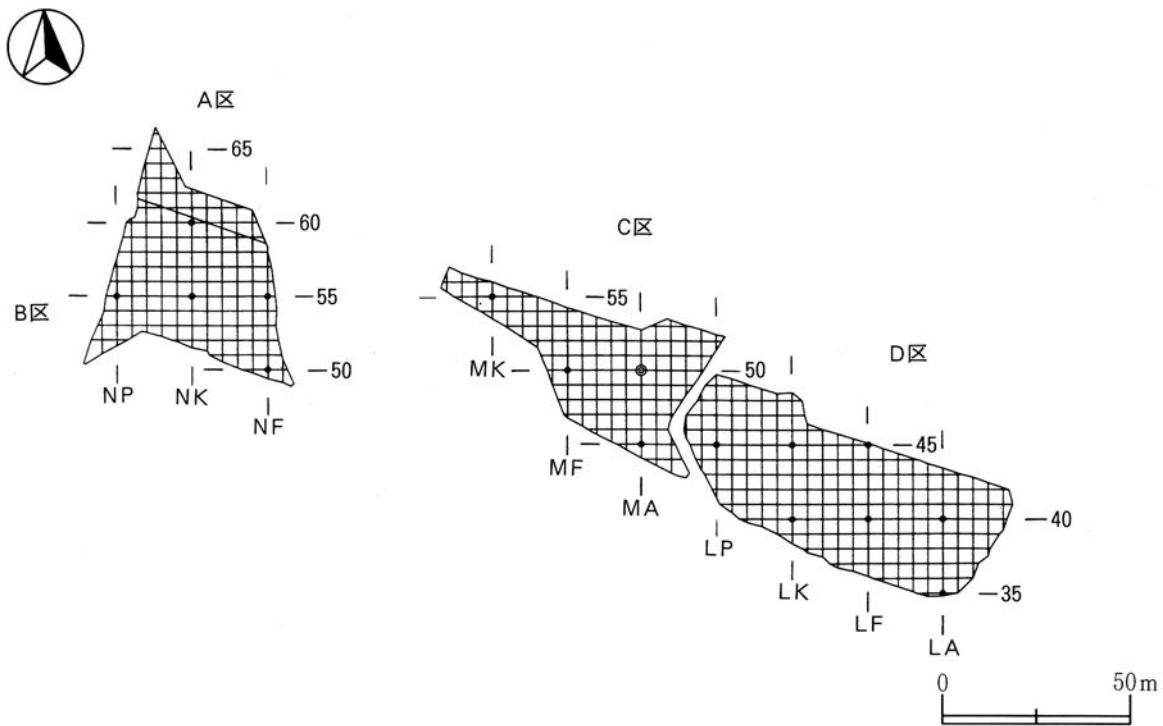
I b層は水田造成時の盛り土と考えられる。本層は、10~15cmとほぼ均一である。また東側低地域についても同様である。植物の根などが大量に見られ、摩滅した土師器も含まれている。重機による表土除去は本層までを対象とした。

II層は水田造成以前の層である。上部には隙間が見られ橙色土粒子の混入が広がる。本層は相対的に北側で厚く、南に向かって薄くなり部分的に消滅している。また東側低地域では本層を認めることができなかった。本層中には、土師器、須恵器、鉄滓等の遺物が含まれていて、一部の遺構の確認面である。

II層は無遺物層のいわゆる地山層で、大半の遺構はこの面で確認している。所々砂質土が広がり河川の働きが想定される。III層との境界は漸移的であったが、両層の間に明確な漸移層を分離することは出来なかった。搅乱として、水田耕作に伴う幅20cm前後の溝が、畦に沿って遺跡内に存在する。

## 第2節 発掘調査の方法

調査はグリット法で行った。調査区全域に国家座標第X系の座標北を基準として、(X-6053.322、Y-62321.880)を原点とする各4m間隔の方眼を設定した。方眼の原点を通る南北線をMA、同じく東西線を50とし、南北線は西に向かってアルファベットの符号を昇順、東西線は北に向かって数字の符号を昇順となるようにして付した。なお、南北線に付した2文字のアルファベットはA~Tまでの20文字の繰り返しで、MA~MT、LA~LTと記述する。この方眼によって画する4m四方の区画は、その南



第6図 開防遺跡の区割図

東隅を通る南北線の符号と、東西線の符号とを組み合わせてMA50グリットのように呼称した、磁北は座標北から西へ $9^{\circ}11'20''$ 偏する(第6図)。

遺構はその種類に応じて略号を付し、各区ごとに1から通しの番号を付した。ただしA・B区は小地区なので連続して行った。なお、調査の結果、遺構ではないと判断したものについてはこれを欠番とした。遺構調査は検出した後、原則として2分割法または4分割法による精査を行った。出土遺物は精査を行い、遺構名又はグリット名、出土層位、出土年月日を記録して取り上げることを原則とした。

記録は、写真と図面に拠った。写真撮影は35mm版カメラでリバーサルフィルム、白黒フィルム、カラー フィルムを使用して行った。遺跡全景写真については、ラジコンヘリコプターに中版カメラを搭載し空中撮影を行った。遺構の平面図、断面図の原図縮尺は1/20を基本として、遺物出土状況などの細部の表現が必要なところは1/10の計測を行った。その他、必要に応じて野帳に記録を留めた。

### 第3節 発掘調査の経過

開防遺跡は、4月16日～20日にA区(進入路部分)の発掘調査を行い、5月16日～8月31日にB・C・D区の発掘調査を開始していった。

A区の調査は水田耕作土を重機で除去し、大森以下調査員6名で調査を終了した。

5月16日からは調査員6名に作業員52名が加わり、調査体制が整った。調査は基本的に西側のB区と、東側のD区に人員を二分し併行して行い、C区はD区からの排土を置く関係から、7月9日の耕作土除去開始まで着手できなかった。

## 開防遺跡

B区の調査は、5月下旬の表土除去後に着手し、6月上旬には鍛冶炉(S S 55)や大溝(S D 5・S D 26・S D 56)を検出した。7月中旬にはS D 82から小型の平瓶が出土し、下旬には井戸跡(S E 94)が検出され時間を要したが、8月7日には調査を終了した。

C区の調査は、7月上旬の表土除去終了後に着手し、下旬には製鉄関連の捨て場(SST18)を検出した。8月上旬には大型の井戸跡(S E 102)、中旬には鍛冶炉を伴う住居(S I 55)、下旬には完形の須恵甕が埋設された遺構(S R 50)を検出した。D区の調査を併行しながら8月31日に調査を終了した。

D区の調査は、5月中旬より表土除去後に着手した。下旬には鍛冶炉(S S 30・S S 80・S S 88)を検出し、6月には中央東側の竪穴住居跡(S I 39・S I 46)、掘立柱建物跡群(S B 1・S B 2・S B 3・S B 4・S B 5・S B 6・S B 7)の柱穴を相次いで検出し、8月上旬には竪穴住居跡(S I 150・S I 420・S I 550)、竪穴状遺構(S K I 100・S K I 333)、大溝(S D 115)を検出した。C区の調査と併行しながら8月31日に調査を終了した。

調査期間中には、新野直吉氏を始め計13名の来跡者と3名の報道関係の取材があった。なお8月25日(土)には遺跡見学会を開催し、152名が見学に訪れ好評を博した。同日テレビにて見学会の模様が報道された。

## 第4節 整理作業の方法と経過

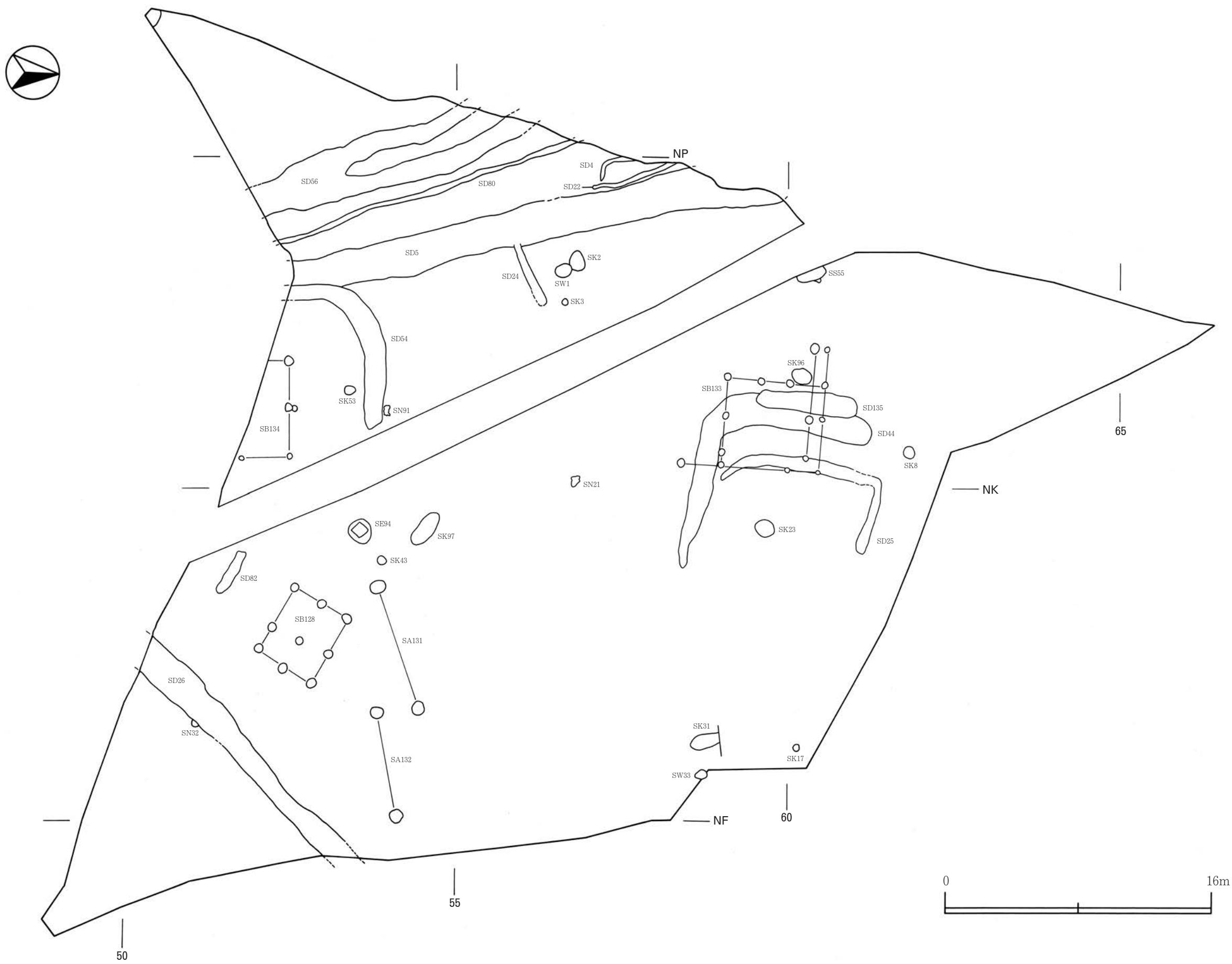
今回の調査では、土師器63.5箱、須恵器7.5箱、鉄関連遺物13箱、木製品4箱、石器等0.5箱が出土している。出土遺物の洗浄は、一部を発掘調査と併行して実施してきた。調査終了後、秋田県埋蔵文化財センター中央調査課において残りの遺物を洗浄し、遺物の注記を実施した後、土器の接合復元作業を行った。

その後、報告書掲載遺物を選択し、約300点を図化し、必要に応じて採拓も行った。実測図は、残存状況も理解できるような作図を心がけ、残存状況の少ない遺物は180°回転で復元実測を行った。これらの作業と併行して、出土した木材、炭化物、種実のサンプルを選択し、科学分析や鉄製品の保存処理を委託した。なお、科学分析については、紙面の関係で掲載できなかった。

遺構図面については、原図を点検・修正した後、製図用の第2原図を作成した。第2原図終了後直ちに、遺構図面のトレースを行った。遺構配置図は各区ごとにまとめるようにしたが、遺構数が多いため、柱穴様ピットとそれ以外の遺構を別途扱うことにし、柱穴様ピットの記述は表としてまとめた。平成14年2月には、八戸工業大学高島成侑教授から、柱穴様ピットの配置図をもとに、掘立柱建物跡についての指導を受け、新たな建物も加わった。

報告書の作成に当たっては、A・B区、C区、D区ごとに遺構番号を付した関係から、A・B区、C区、D区ごとにまとめて掲載した。遺構の記載は、遺構の種類ごとに番号の少ない順に配列してある。また、貝保遺跡と合冊の報告のため、両遺跡に関わる記述を、各遺跡の報告の前段にまとめてある。なお、遺構の記述を優先したため、遺構の写真は最小限に留め、遺物の写真は掲載しなかった。

以上の経過を経て、原稿を作成し編集作業を行った。



第7図 A・B区遺構配置図

## 第2章 A・B区の調査の記録

### 第1節 検出遺構と出土遺物

A・B区から検出された遺構は掘立柱建物跡3棟、柱穴列2列、井戸跡1基、土坑10基、鍛冶炉1基、炭焼成遺構2基、焼土遺構3基、溝跡12条、柱穴様ピット56基である。

#### 1 古代

##### (1)掘立柱建物跡

S B128(第8図、図版2-1)

南東側のN H52・53、N I 52・53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ褐色土が楕円形に広がる。桁行2間×梁行2間の総柱型の建物はP 1～P 9で構成される。桁行総間4.3m(P1-P3)×梁行総間3.7m(P1-P7)で、長軸方向はN-59°-Wである。柱穴の上面形は円形もしくは楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が0.65×0.6×0.28m、P 2が0.6×0.55×0.31m、P 3が0.62×0.52×0.18×0.28m、P 4が0.52×0.49×0.25m、P 5が0.45×0.41×0.22m、P 6が0.62×0.48×0.25m、P 7が0.52×0.45×0.35m、P 8が0.51×0.45×0.35m、P 9が0.5×0.48×0.2mである。P 4とP 7には柱痕跡が認められる。遺物はP 1から土師器4点、P 3から土師器2点、P 6から土師器5点、P 8から土師器3点が出土した。

S B133(第8図)

北側のN K58～60、N L59・60、N M60グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ暗褐色土が円形に広がる。S D25・S D44・S D135と重複しそれらより新しい。桁行3間×梁行3間と考えられる建物はP 1～P 8で構成され、P 9～P 15の底もしくは板塀が取り付くものと思われる。桁行総間6.6m(P1-P3)×梁行総間5.1m(P3-P4)で、長軸方向はN-5°-Eである。柱穴の上面形は、楕円形もしくは隅丸方形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が0.6×0.5×0.45m、P 2が0.45×0.4×0.15m、P 3が0.37×0.31×0.35m、P 4が0.4×0.37×0.38m、P 5が0.45×0.35×0.6m、P 6が0.42×0.38×0.45m、P 7が0.43×0.4×0.2m、P 8が0.45×0.4×0.3mである。P 9～P 15は、長軸0.25～0.45m×短軸0.2～0.45m×深さ0.2～0.35mである。遺物はP 3から土師器1点、P 6から土師器5点、P 10から土師器2点、P 15から土師器1点が出土した。

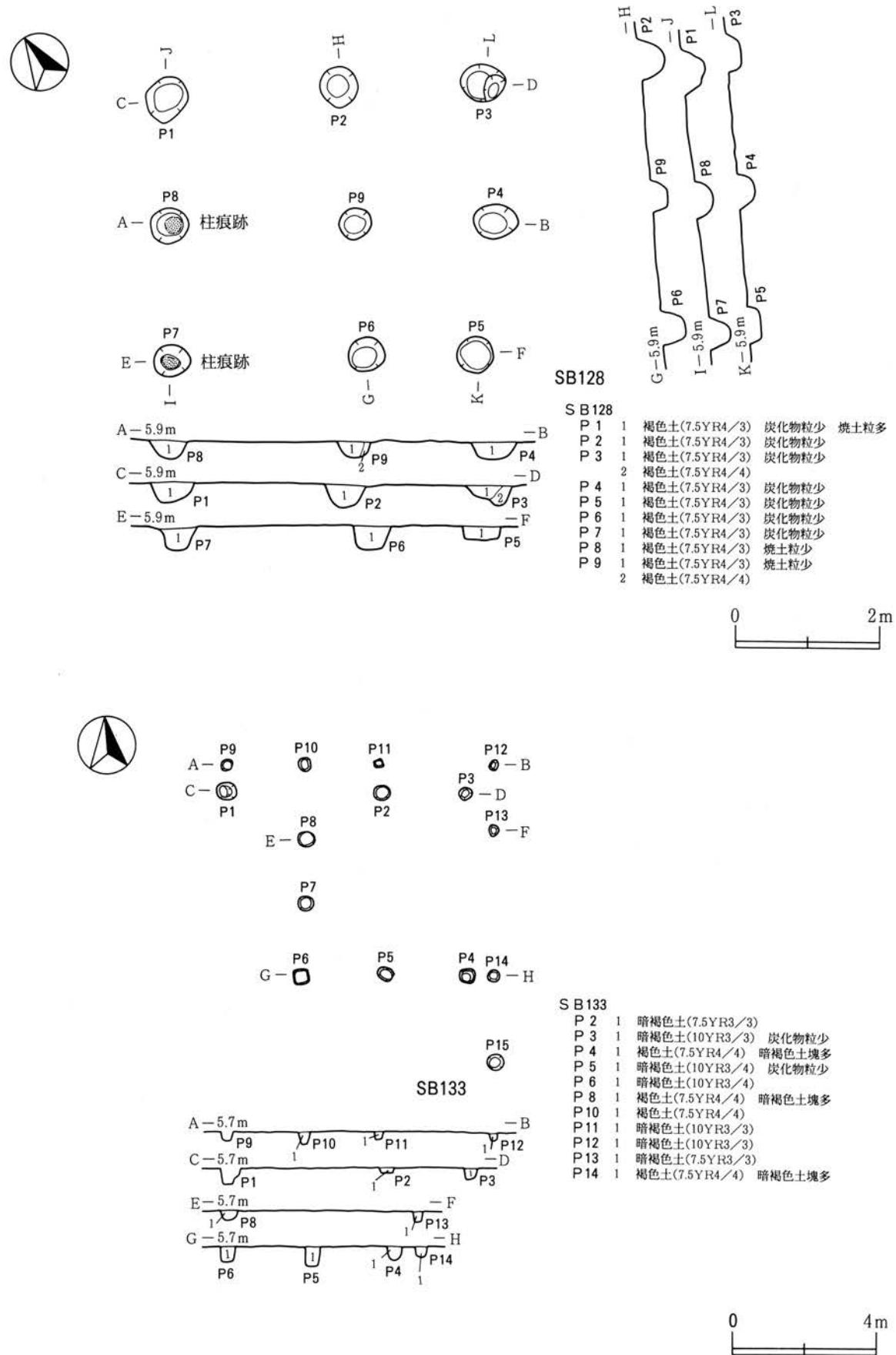
S B134(第9図)

南側のN K51・52、N L52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土がそれぞれ円形に広がる。S K P125と重複しそれより新しい。建物跡は東西2間、南北1間で、柱穴はP1～P4まで確認できた。柱穴の上面形は円形もしくは楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が0.6×0.5×0.33m、P 2が0.48×0.44×0.35m、P 3が0.37×0.3×0.4m、P 4が0.28×0.28×0.26mである。遺物は出土しなかった。

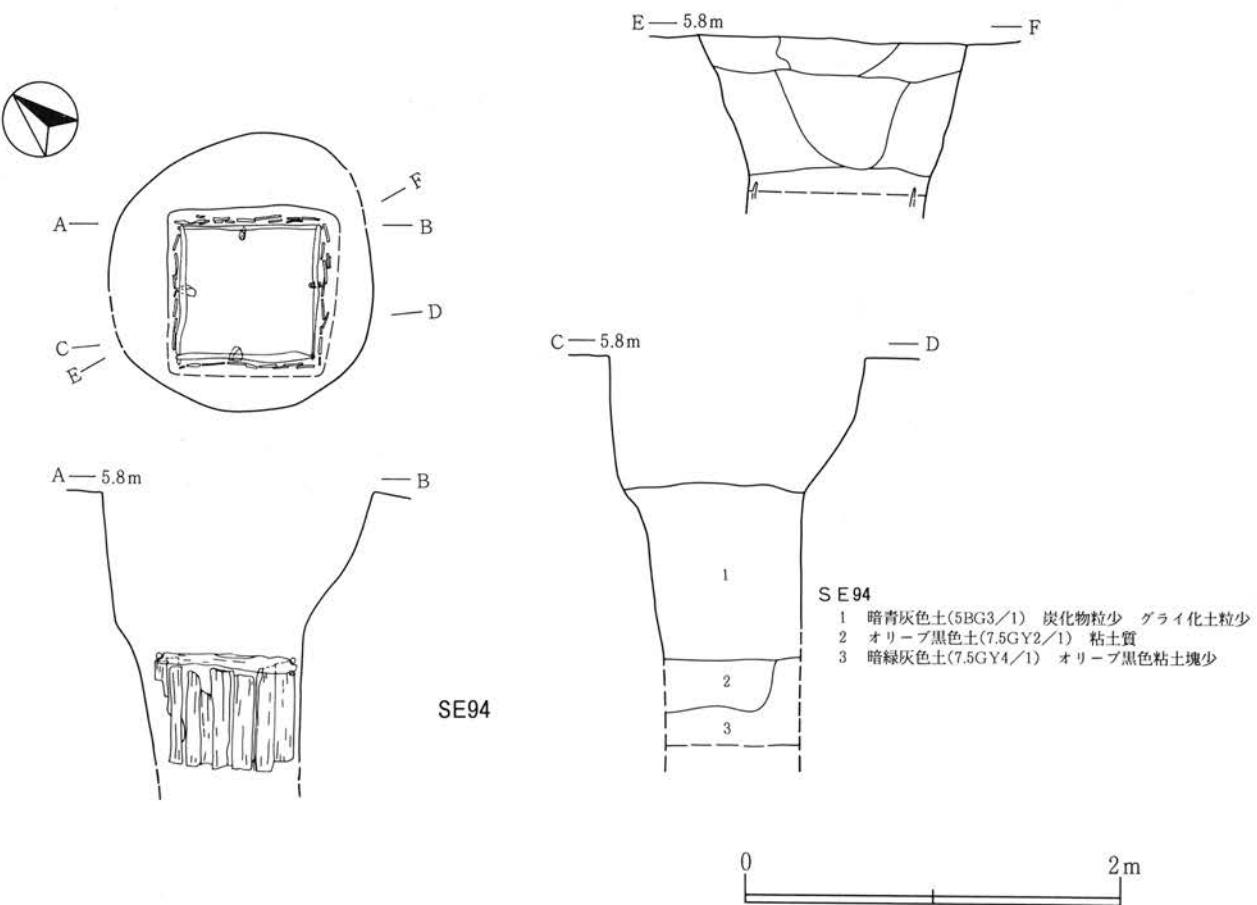
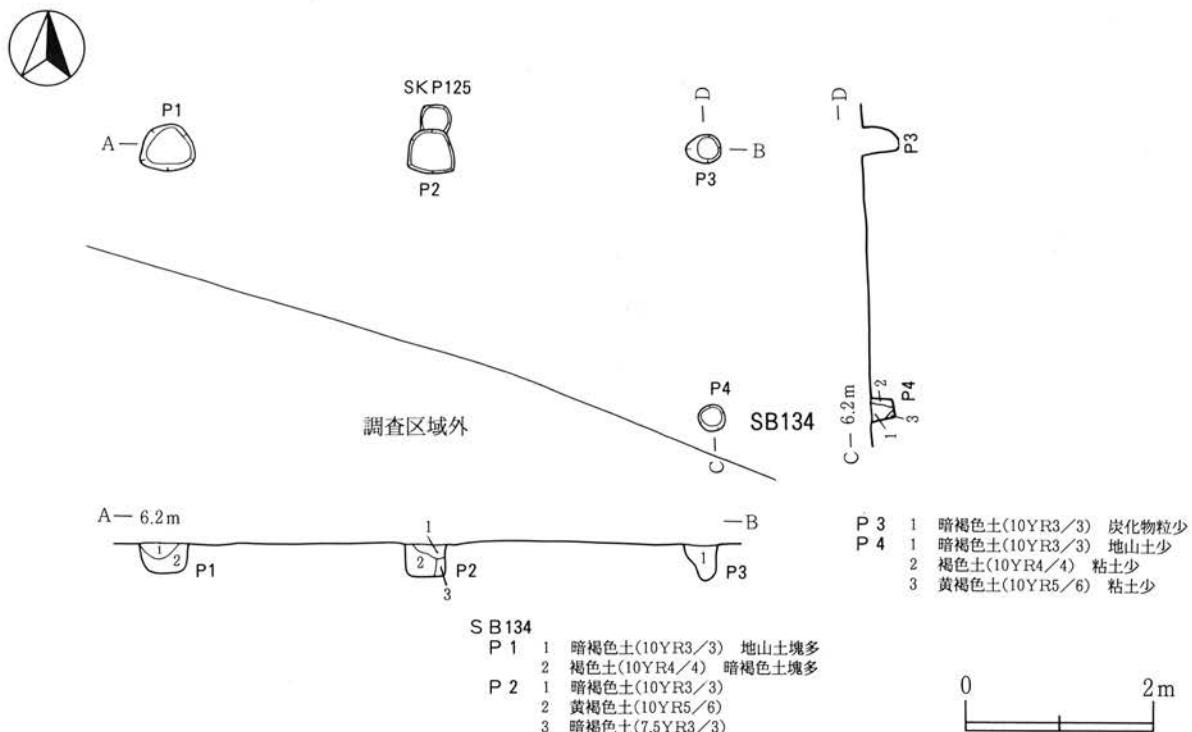
##### (2)井戸跡

S E94(第9・17図、図版2-2・3)

南側のN J53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土が円形に広がる。掘り方の上面形は長軸1.53m、短軸1.45mの楕円形で、深さは2.05mである。断面形は上位が湾曲し、中位から下位が方形の柱状



第8図 掘立柱建物跡(1)



第9図 掘立柱建物跡(2)、井戸跡(1)

## 開防遺跡

を呈する。掘り方の中位にある井戸枠は、上面形が1辺0.8mの方形で、高さが0.6mほどである。上端に幅0.1mほどの横板を組み合わせ、この裏側に幅0.1mほどの縦板を密に配置する。また、上端横板の4辺中央部に幅5cmほどの桟を縦に組んでいる。遺物は土師器や拳大の礫が多量に出土した他、須恵器2点、勾玉1点、鉄滓5点が出土した。1は、下端と上部の片面の一部を欠損する土製の勾玉である。長さ3.2cm、幅1.7cm、穿孔部径は約2mmである。

### (3) 土坑

#### S K 2(第10図、図版2-4)

西側のN N56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、褐色土が楕円形に広がる。S W 1と重複しそれよりも古い。上面形は長軸1.2m、短軸0.93mの西側が尖った楕円形で、深さは0.07mである。断面形は底面が平坦で壁は緩く立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K 3(第10図、図版2-5)

西側のN M56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、焼土を含んだ黒褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.4m、短軸0.37mの略円形で、深さは0.13mである。断面形状は、底面に凹凸があり、壁は急傾斜で立ち上がる。覆土上面には焼土の塊が見られる。遺物は土師器が18点出土した。

#### S K 8(第10図、図版3-1)

南側のN K61グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.74m、短軸0.67mの楕円形で、深さは0.18mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が7点出土した。

#### S K17(第10図)

東側のN G60グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.43m、短軸0.38mの楕円形で、深さは0.15mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

#### S K23(第10図、図版3-2)

北側のN J59グリッドに位置する。確認面はⅢ層上面で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸1.19m、短軸1mの楕円形で、深さは0.25mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が3点出土した。

#### S K31(第10図)

北東側のN G58グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は現存長軸1.82m、短軸0.87mの長い楕円形で、深さは0.16mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が1点出土した。

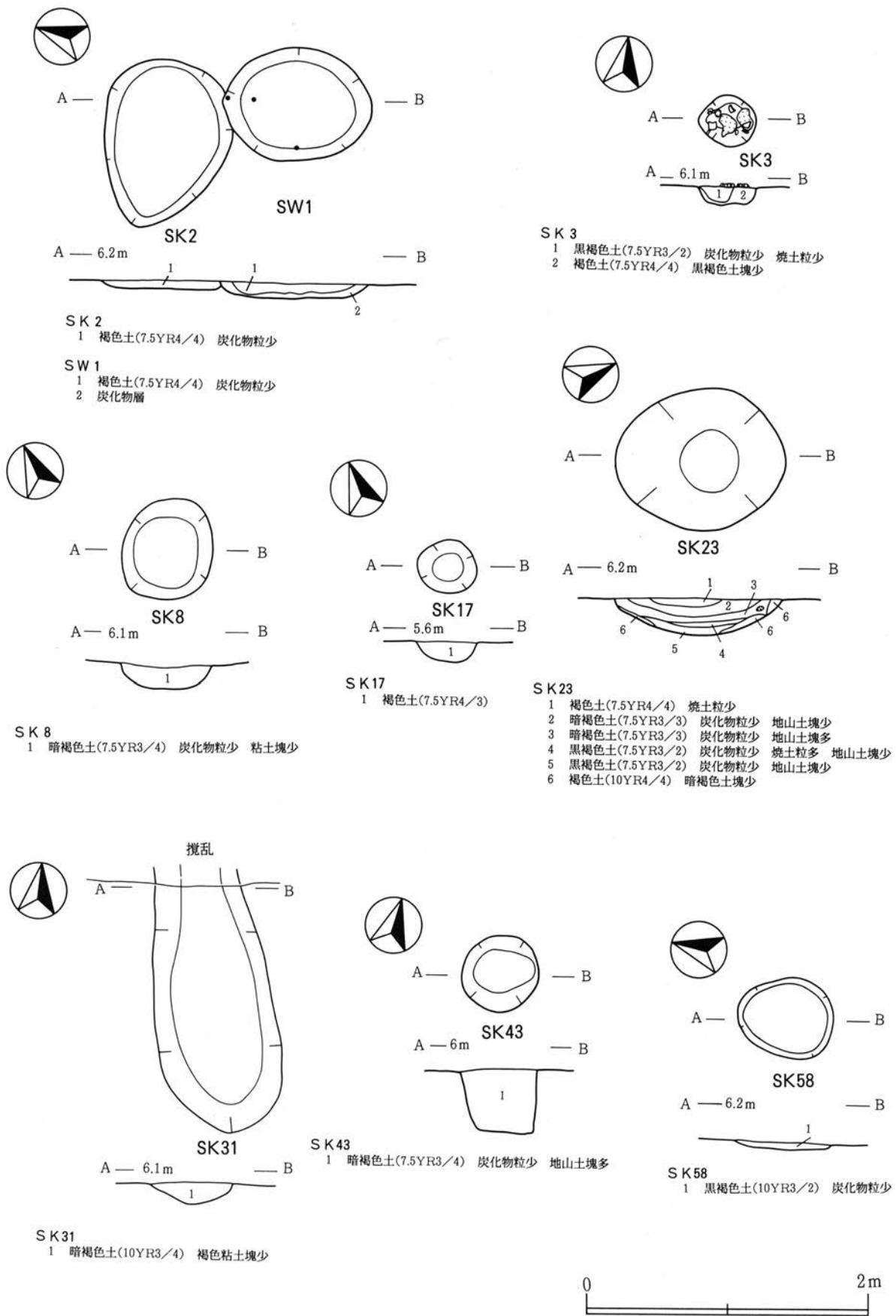
#### S K43(第10図)

南側のN I53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は直径0.55mの円形で、深さは0.45mである。底面が平坦で、北東側の壁がほぼ垂直、南西側は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が6点出土した。

#### S K58(第10図)

南側のN L53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.68m、短軸0.57mの楕円形で、深さは0.06mである。底面にやや凹凸があり壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が多量に出土した。

#### S K96(第11・17図、図版3-3)



第10図 土坑(1)

## 開防遺跡

北側のN L60グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸1.2m、短軸0.95mの不整な楕円形で、深さは0.1mである。北東側底面が平坦で、南西側はそれよりも僅かに窪んでいる。壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器や鉄滓・炉壁が多量に出土した他、須恵器2点、フィゴの羽口2点が出土した。2～5は土師器で、2・3は壺、4・5は甕である。2・4の切り離しは右回転ロクロの回転糸切り、3は静止糸切りである。5は砂底土器で、胴部にはヘラケズリを施す。6は推定口径50.2cmの須恵器の大甕で、口縁部は外反して立ち上がる。外面の全体に自然釉が見られる。7は直径7.9cmのフィゴの羽口で、内径は約3cmである。粘土紐を積み上げて粗く撫でている。

### S K97(第11・17図)

南側のN J54グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸2.28m、短軸1mの長楕円形で、深さは0.2mである。底面には緩い凹凸があり、長軸方向の壁は非常に緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器5点、鍛冶滓1点が出土した。8～10は須恵器の壺である。いずれも底径が大きく内湾ぎみに立ち上がる。切り離しは回転ヘラ切りで、8は褐色、10は灰白色を呈する。10は口径13cm、底径8cm、器高3.6cmである。

### (4)鍛冶炉

#### S S55(第11図、図版3-4)

北西側のN N60グリッドに位置する。西側は現在の用水路で切られる。S K P101・S K P103・S K P104・S K P123と重複し、それらよりも古い。楕円形の掘り方は、確認面がⅡ層で黒褐色が楕円形に広がる。底面には、中央東寄りで高さ0.15mほどの段があり底面を2分する。鍛冶炉は東側底面に位置する。炉の上面形状は長軸0.34m、短軸0.25mの楕円形で、深さは0.06mである。底面が椀形状を呈し、壁は西側で緩い傾斜、東側は急傾斜に立ち上がる。底面から壁にかけては硬く焼けていた。遺物は土師器と鉄滓が多量に出土した。

### (5)炭焼成遺構

#### S W1(第10図、図版3-5)

西側のN N56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。S K 2よりも新しい。上面形は長軸1.07m、短軸0.8mの楕円形で、深さは0.11mである。底面はほぼ平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がる。底面には被熱・硬化した範囲を認めている。遺物は土師器が3点出土した。

#### S W33(第11図、図版3-6)

北東側のN F58グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。上面形状は長軸0.73m、短軸0.57mの楕円形で、深さは0.05mである。底面にはやや凹凸があり、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が1点出土した。

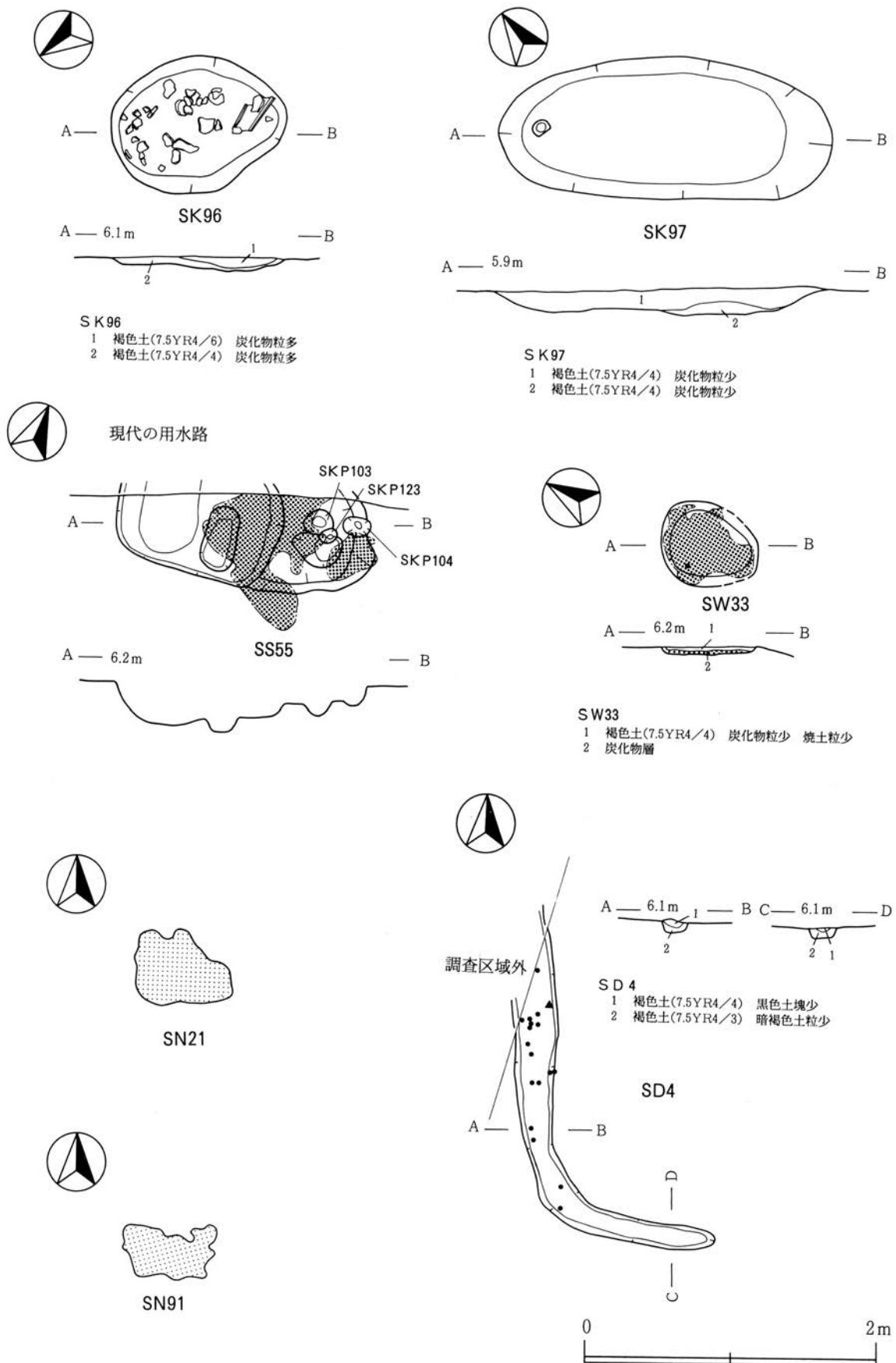
### (6)焼土遺構

#### S N21(第11図、図版3-7)

北側のN K56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色土の焼土が広がる。上面形は長軸0.72m、短軸0.55mの不整形で、焼土の厚さは5cmである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

#### S N32(第12図)

南東側のN G51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で赤褐色土の焼土が広がる。S D26と重複しそれよりも新しい。上面形は長軸の現状が0.34m、短軸0.45mの楕円形と考えられ、焼土の厚さは6cmであ



第11図 土坑(2)、鍛冶炉(1)、炭焼成遺跡(1)、焼土遺構(1)、溝跡(1)

## 開防遺跡

る。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N91(第11図、図版3-8)

南側のN L53・54グリッドに位置する。確認面はⅢ層で極暗赤褐色土の焼土が広がる。上面形は長軸0.62m、短軸0.35mの不整形で、焼土の厚さは2cmである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

#### (7)溝跡

### S D 4(第11図、図版4-1)

西側のN O57グリッドに位置する。確認面はⅡ層で褐色土が溝状に広がる。北一南一東の方向に「L」字状を呈して延びる。全長2.95m以上、最大幅0.3m、深さは0.1mである。断面形は「U」字状を呈する。遺物は須恵器1点、土師器21点が出土した。

### S D 5(第12・17図、図版4-4)

西側のN N52~57、N O55~59グリッドに位置する。確認面はⅡ・Ⅲ層で黒褐色土が溝状に広がる。北北西一南南東の方向に、やや蛇行しながら延びる。S D54と重複しているがそれより古い。全長30m以上、最大幅2.4m、深さは1.2mである。断面形は漏斗状を呈する。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器12点、勾玉1点、土錘1点、鉄滓7点が出土した。11は完形の土製の勾玉、12は土師器の壊である。11は長さ4cm、幅2.3cm、穿孔部は直径2~3mmである。焼成は不良であるが作りは丁寧である。12は内湾して立ち上がり、底面の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

### S D 22(第13図、図版4-1)

西側のN O57・58グリッドに位置する。確認面はⅡ層で黒褐色土が溝状に広がる。北一南の方向にやや蛇行しながら延びる。全長4.6m以上、最大幅は0.37m、深さは0.14mである。断面形は「U」字状を呈する。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器1点、鉄滓2点が出土した。

### S D 24(第12図、図版4-2)

西側のN M56、N N55・56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。北北西一南南東の方向に直線的に延びる。S D 5と重複するが前後関係は不明である。全長4m以上、最大幅0.6m、深さは0.07mである。断面形は「U」字状を呈する。遺物は土師器7点が出土した。

### S D 25(第13図、図版4-3)

北側のN J61、N K59~61グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。東西方向から南の方向に直角に延び、先端が内に湾曲する。S B133と重複しそれよりも古い。全長14.2m以上、最大幅0.9m、深さは0.25mである。断面形は東一西方向は「U」字状を、北一南方向は摺鉢状を呈する。遺物は土師器25点、鉄滓5点が出土した。

### S D 26(第12・17・18図、図版4-5)

南東側のN E52・53、N F51・52、N G50~52、N H50・51グリッドに位置する。確認面はⅡ・Ⅲ層で褐色土が溝状に広がり、北東一南東方向に直線的に延びる。S N32と重複しそれより新しい。全長18.65m以上、最大幅は2.23m、深さは1.1mである。断面形は「V」字状を呈する部分と、その北西側に平坦な段を形成する部分がある。「V」字状の溝の一部を埋めながら、「U」字状に拡張した可能性がある。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器25点、土錘5点、フイゴの羽口1点、大型の木材1点、鉄滓11点が出土した。13~15は土師器で、13は壊、14・15は甕である。13は内湾して立ち上がり、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。14は非ロクロの甕で、胴部の内外面に木口によるカキ目を施す。底面には、下敷きと考え

られる痕跡がある。15は丸底の長胴甕で、外面にはタタキ目を内面にはカキ目の後タタキ目を施す。16は土錐で、長さ2.2cm以上、幅1.1cm、穿孔部の直径約3mmである。

#### S D44(第14・18図)

北側のN I 58・N J 58、N K 58～61、N L 58～61グリッドに位置する。確認面はⅡ層で褐色土が溝状に広がる。南北方向から東の方向に直角に延びる。S D 135・S B 133と重複しそれらよりも古い。全長18.5m、最大幅2.1m、深さは0.35mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器10点、土錐1点、鉄滓25点が出土した。17は須恵器の坏、18は土師器の有台坏で、内湾して立ち上がる。17の切り離しは回転ヘラ切りである。18の高台部は柱状に作り出し、底面の切り離しはロクロ右回転の糸切りである。高台部の横に、回転糸切りの際に付いた平行な糸の痕跡が認められる。

#### S D54(第12・18図、図版4-4)

北側のN K 53、N L 53、N M 52・53、N N 52・53グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が弧状に広がる。南-北-東の方向に延びる。S D 5と重複しそれよりも新しい。全長12m以上、最大幅1.5m、深さは0.4mである。断面形は「U」字状を呈する。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器10点、炉壁5点、鉄滓1点が出土した。19は須恵器の坏、20は土師器の坏である。19は径が大きく直線的に立ち上がる。切り離しは回転ヘラ切りで、底部外面に渦巻き状の痕跡を明瞭に残す。推定口径13cm、底径7.8cm、器高3.1cmである。20は内湾して立ち上がり、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

#### S D56(第12・18図、図版4-4)

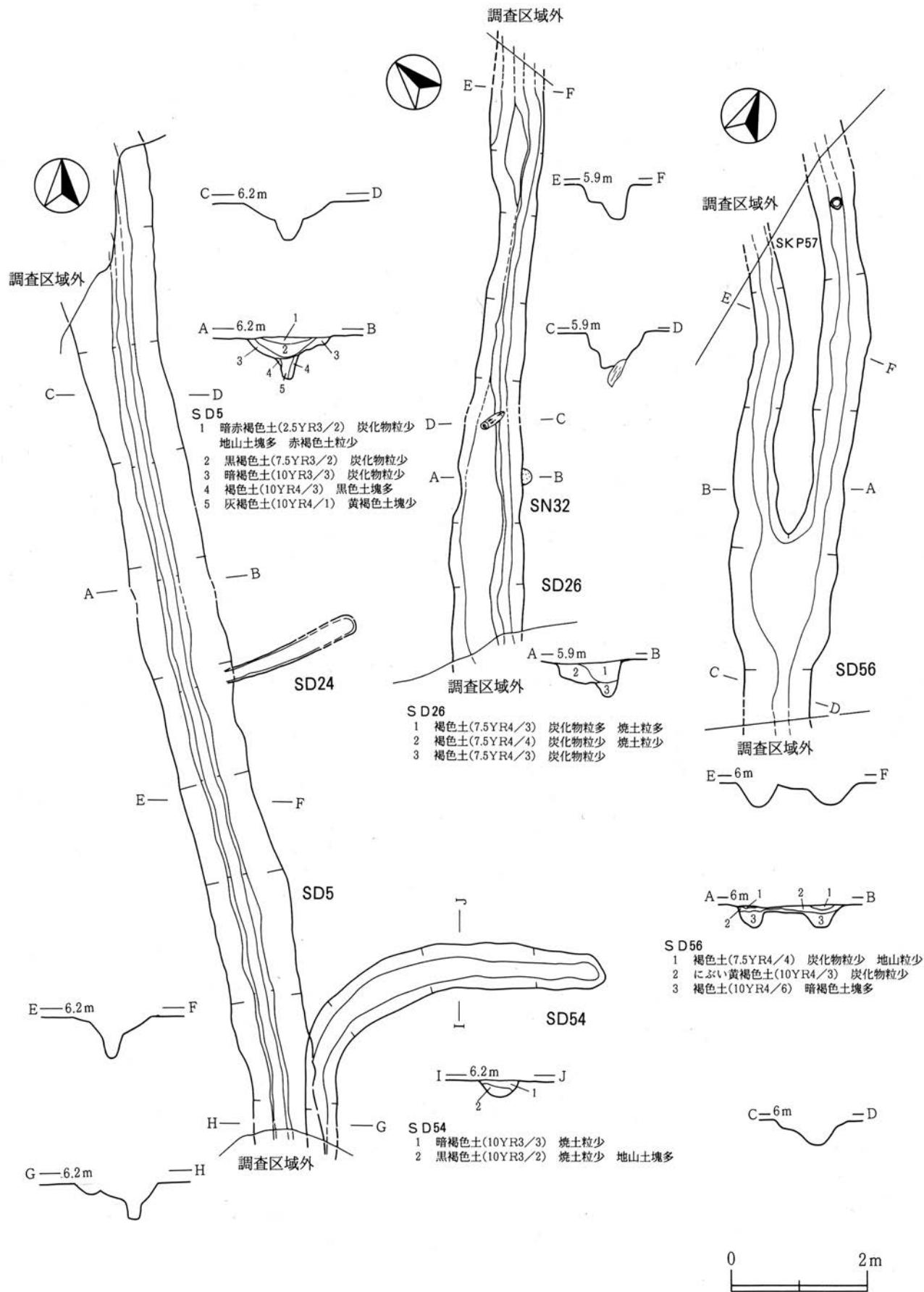
南西側のN O 51～55、N P 52～56グリッドに位置する。確認面はⅡ層でぶい黄褐色土が溝状に広がる。北北西-南南東の方向に延び、南側の1/3より北側は2つの溝に分かれる。S K 57と重複しそれよりも古い。全長17.4m以上、最大幅3.2m(南側)、深さは0.8mである。断面形状は、溝が2本になる分岐点部分は「U」字状、他は底面が緩やかな「V」字状を呈する。溝の方向を違えて造り替えた可能性がある。遺物は須恵器・土師器・鉄滓が多量に出土した。21は須恵器、22～24は土師器である。22～24は坏で内湾して立ち上がる。切り離しは、いずれも右回転ロクロの糸切りである。21は甕の底部で、内面に渦巻き状のロクロ目が明瞭に残る。切り離しはヘラオコシと考えられるが、ケズリ状の丁寧な調整を施す。25は中世陶器の底部である。内面に卸し目が認められ摺鉢と考えられる。切り離しはヘラオコシである。

#### S D80(第13図)

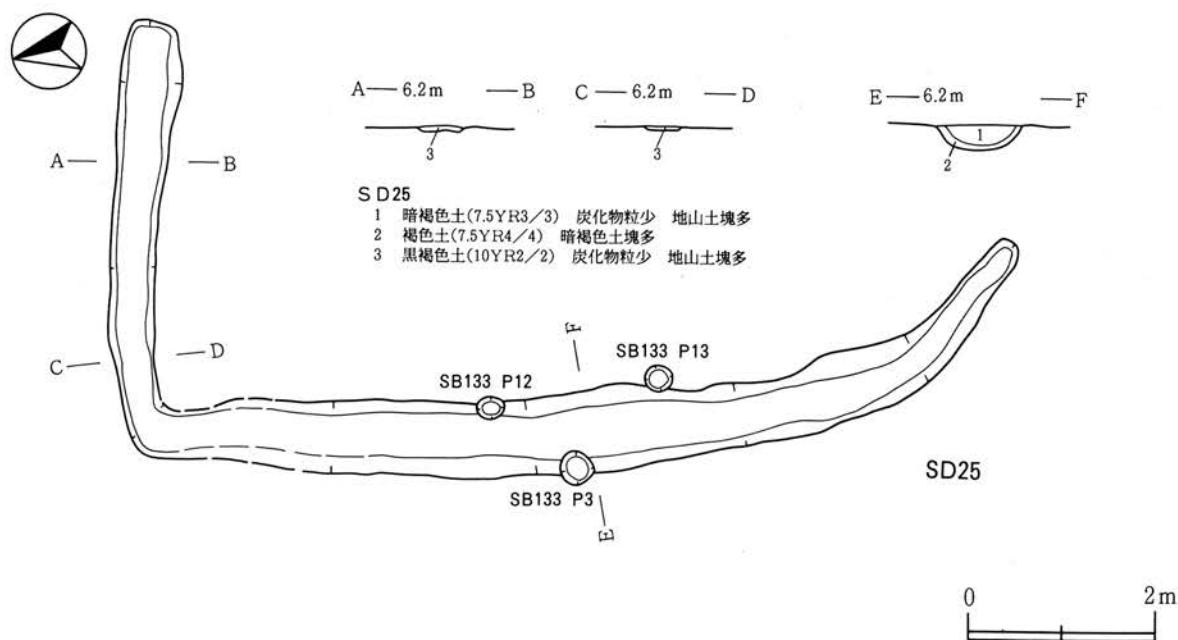
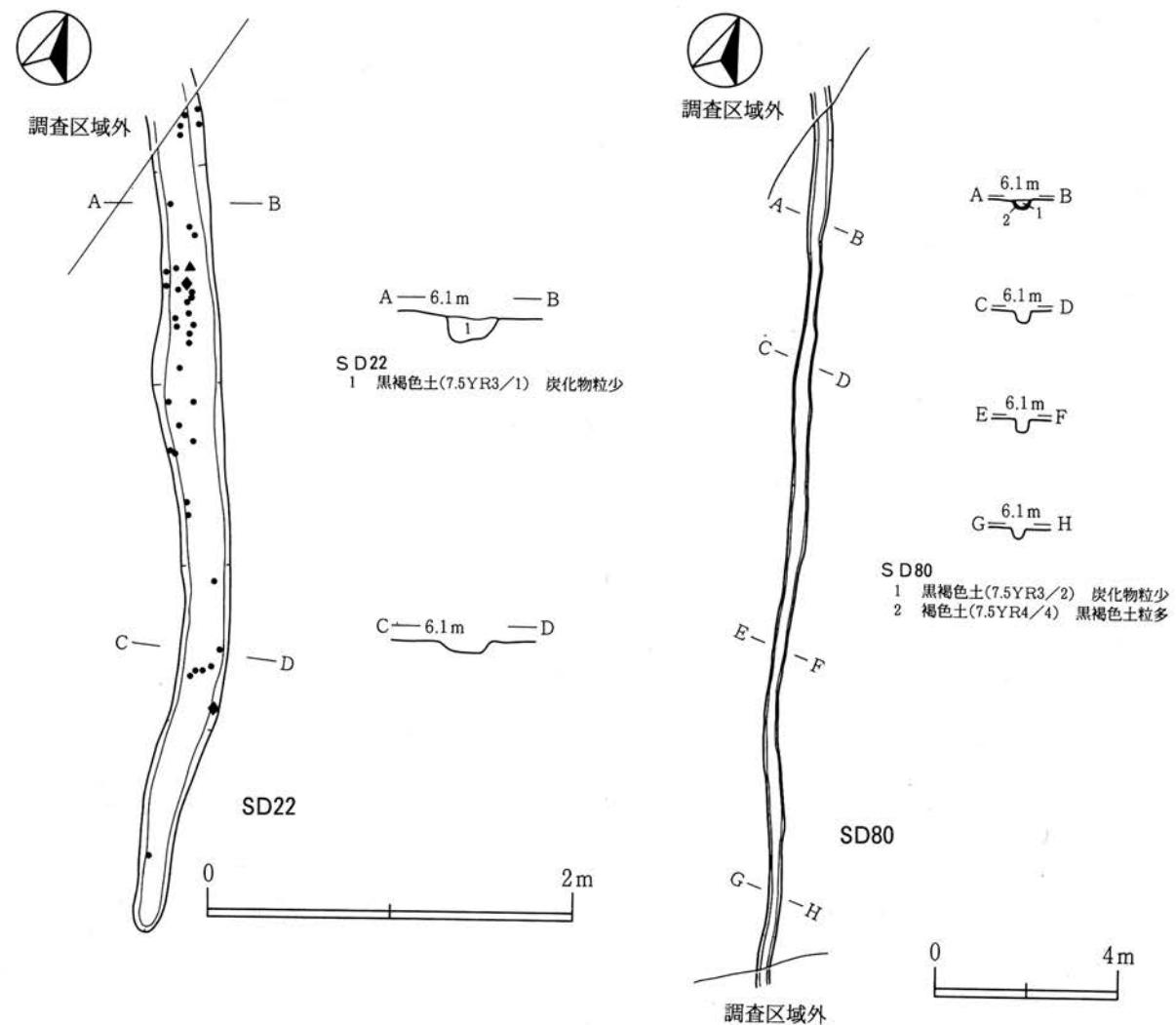
南西側のN N 52・53、N O 53～56、N P 56グリッドに位置する。確認面はⅡ層で黒褐色土が溝状に広がる。北北西-南南東の方向に直線的に延びる。全長19m以上、最大幅0.42m、深さは0.25mである。断面形は「U」字状を呈する。遺物は須恵器2点、土師器17点、鉄滓5点が出土した。

#### S D82(第14・18図、図版5-1)

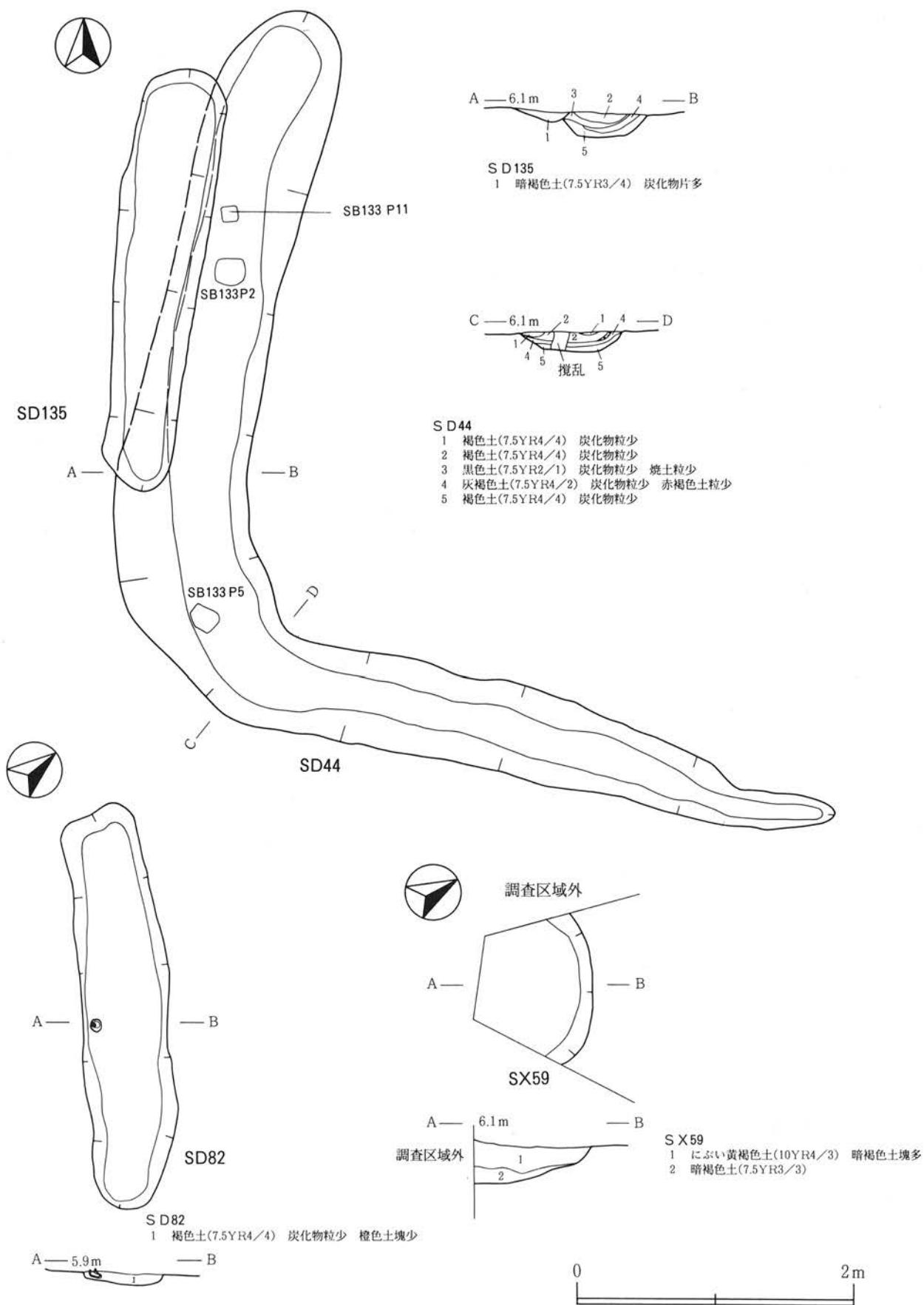
南側のN I・N J 51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が長い楕円形に広がる。北西-南北方向にやや湾曲して延びる。全長2.95m、最大幅0.65m、深さは0.1mである。底面が南西側で高く壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器20点が出土した。26は小型の平瓶で、口縁部を欠損する。天井部に微妙に糸切りの痕跡が認められる。胴部の上部側を別個に作り、ロクロ上の下部側に接合したものであろう。その後孔を穿って口縁部を装着し、底面を回転ヘラ切りで切り離したものと考えられる。胴部最大径9.1cm、底径6.4cm、器高6.7cm以上である。



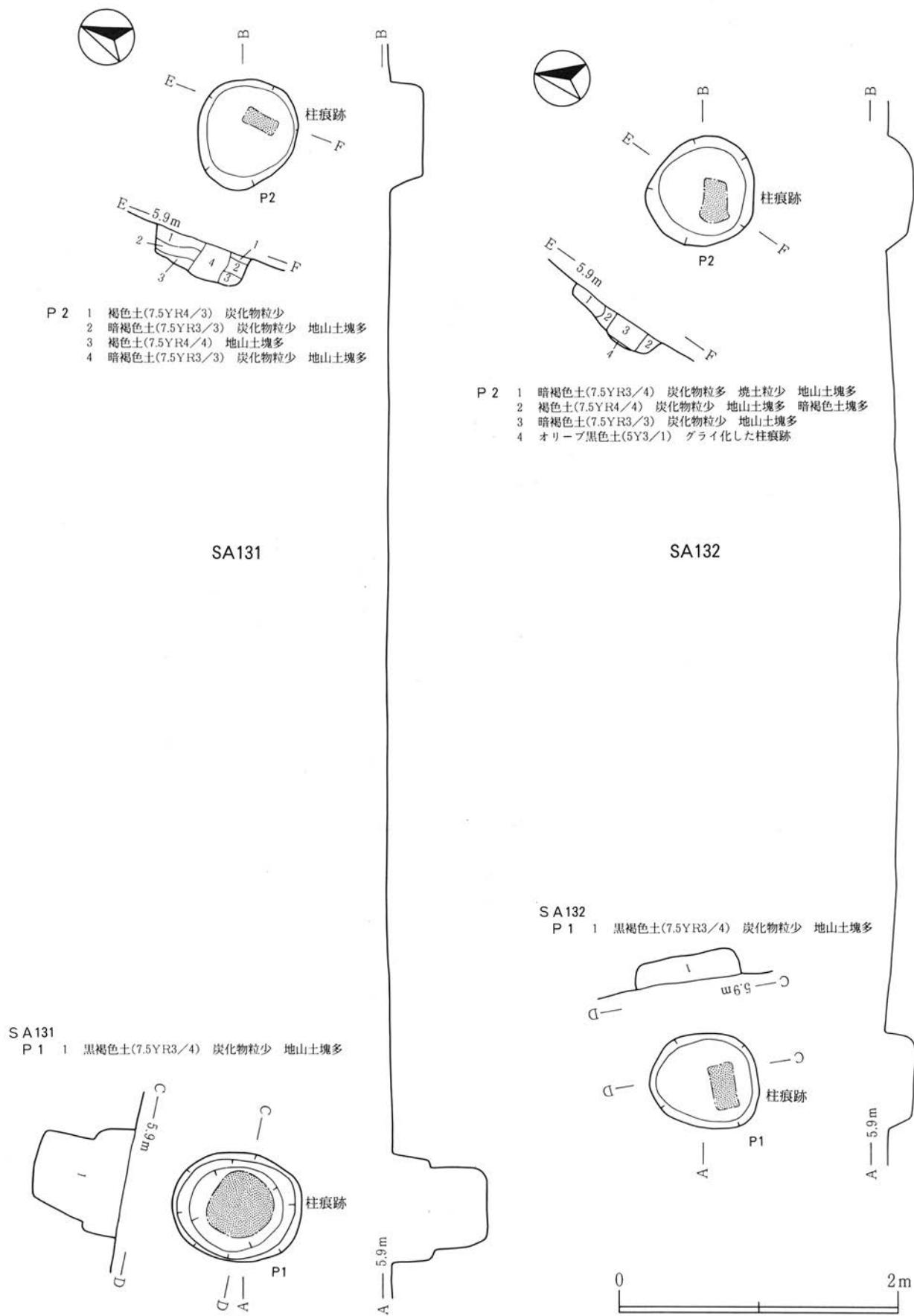
第12図 溝跡(2)



第13図 溝跡(3)



第14図 溝跡(4)、性格不明遺構(1)



第15図 柱穴列(1)

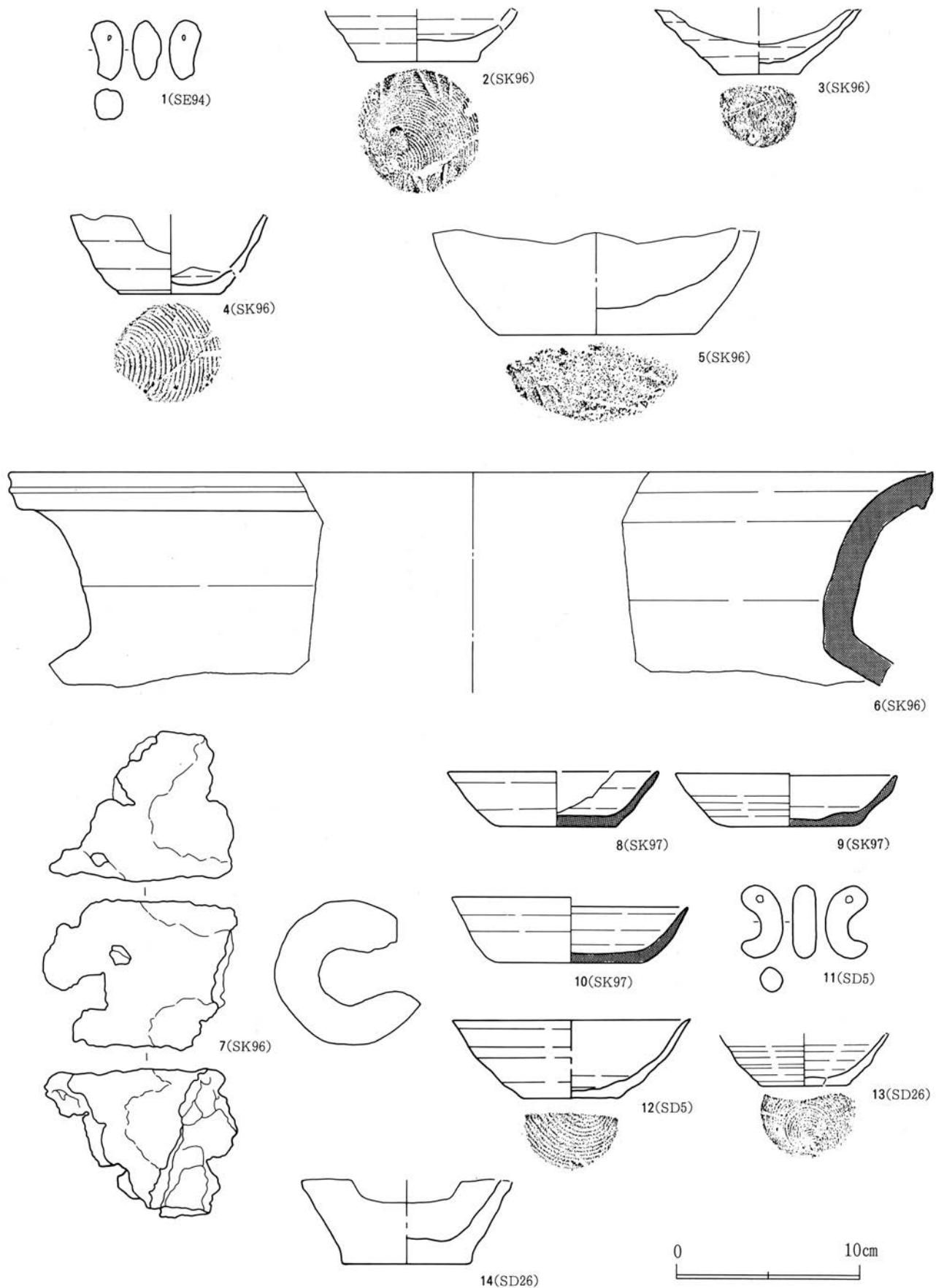


第16図 A・B区柱穴様ヒット配置図

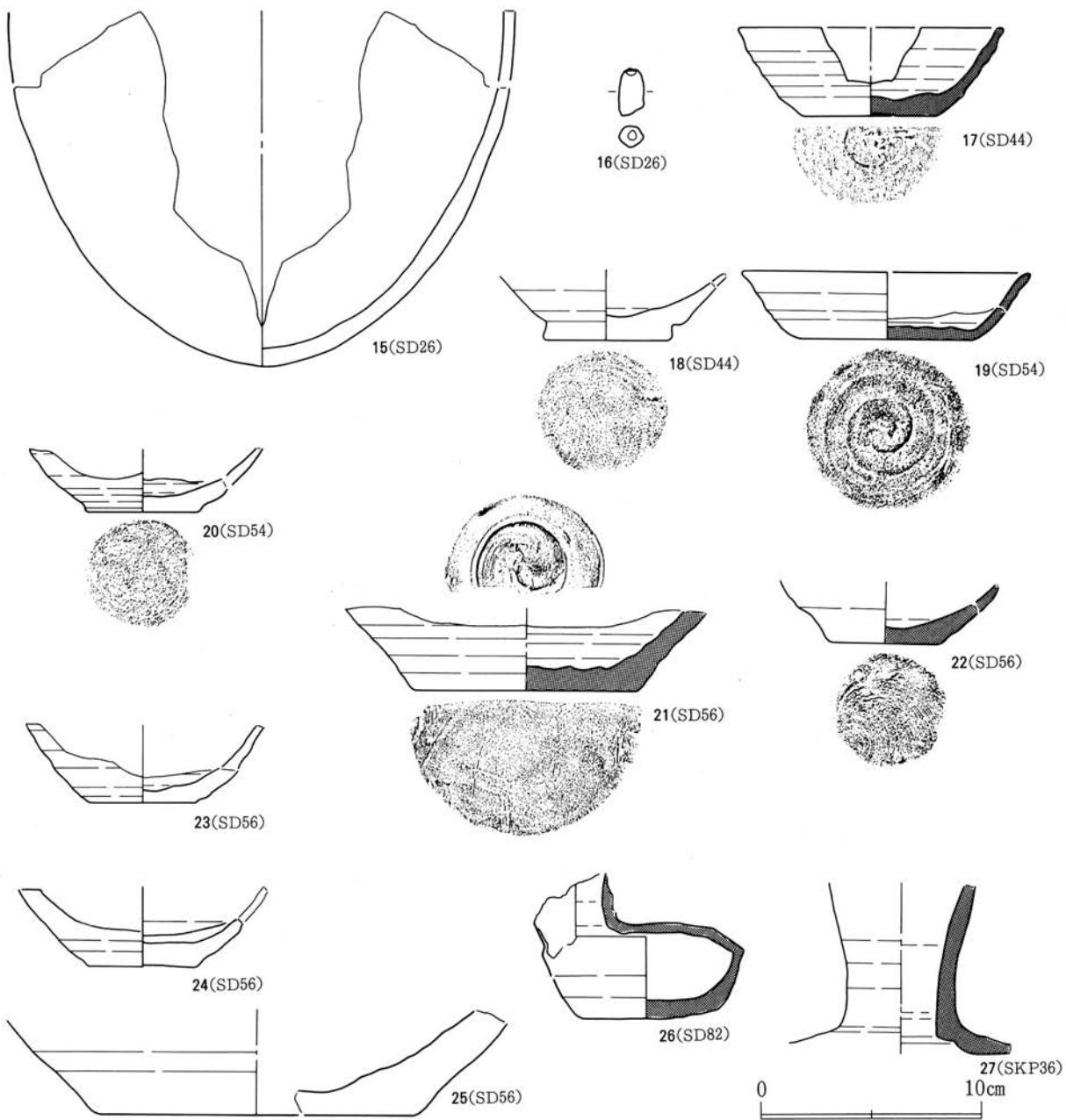
番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
6	NL61	円形	0.26	0.24	0.24	
9	NO57	不整円形	0.40	0.32	0.28	土師器出土
10	NO57	不整楕円形	0.38	0.28	0.28	土師器出土
11	NO57	不整円形	0.28	0.24	0.25	
13	NJ60	楕円形	0.30	0.22	0.07	土師器出土
15	NI61	隅丸方形	0.18	0.12	0.11	土師器・鉄滓出土
17	NK58	不整円形	0.34	0.26	0.36	
19	NK57	方形	0.34	0.32	0.13	
20	NK56	円形	0.22	0.22	0.33	
36	NG52	不整楕円形	0.77	0.70	0.28	中世以降の柱穴 土師器・須恵器出土
40	NG54	楕円形	0.44	0.36	0.05	土師器出土
41	NG54	楕円形	0.52	0.42	0.09	土師器出土
46	NE52	隅丸方形	0.54	0.50	0.20	SKP47に切られる 土師器出土
47	NE52	不整円形	0.24	0.16	0.10	SKP46を切る 土師器出土
57	NP55	楕円形	0.42	0.34	0.06	土師器出土
60	NM54	円形	0.66	0.62	0.15	須恵器出土
70	NI52	不整円形	0.42	0.38	0.34	
71	NH51	不整楕円形	0.56	0.50	0.27	
72	NH51	不整楕円形	0.47	0.32	0.07	
73	NI52	不整円形	0.26	0.24	0.36	
74	NI52	不整円形	0.22	0.22	0.30	
75	NI52	不整円形	0.20	0.16	0.35	
76	NH52	不整円形	0.28	0.24	0.19	
77	NH51	円形	0.40	0.38	0.10	
78	NH53	不整円形	0.26	0.24	0.16	
79	NI51	不整楕円形	0.54	0.34	0.23	
81	NQ51	不整楕円形	0.38	0.26	0.41	土師器出土
84	NL52	不整円形	0.42	0.36	0.16	
58	NM52	円形	0.22	0.22	0.26	
86	NO55	不整楕円形	0.40	0.30	0.65	
88	NL53	不整楕円形	0.48	0.38	0.30	
89	NL52	不整楕円形	0.54	0.36	0.13	
90	NM52	不整円形	0.26	0.24	0.22	
95	NJ53	不整楕円形	0.40	0.32	0.27	
100	NN60	不整楕円形	0.20	0.16	0.07	鉄滓出土
101	NF54	円形	0.18	0.18	0.08	
102	NF54	円形	0.18	0.18	0.06	
103	NN60	円形	0.20	0.18	0.22	SKP123に切られる 鉄滓出土
104	NN60	楕円形	0.18	0.14	0.13	鉄滓出土
106	NH59	円形	0.24	0.22	0.17	
107	NH59	円形	0.14	0.14	0.06	
108	NH59	円形	0.16	0.16	0.13	
109	NI59	円形	0.16	0.14	0.08	
110	NJ60	楕円形	0.18	0.14	0.10	
113	NI58	円形	0.16	0.16	0.09	
14	NI59	不整円形	0.30	0.28	0.11	
115	NI59	不整円形	0.22	0.20	0.14	
116	NG58	不整円形	0.20	0.20	0.11	
117	NJ60	楕円形	0.38	0.20	0.15	
118	NJ60	不整円形	0.16	0.16	0.13	
119	NJ60	不整円形	0.16	0.14	0.06	
120	NL60	不整円形	0.26	0.24	0.17	
123	NN60	円形	0.12	0.10	0.11	SKP103を切る 鉄滓出土
124	NJ54	方形	0.26	0.24	0.09	
125	NL52	不整円形	0.31	0.27	0.27	SB134P2に切られる
129	NK52	不整楕円形	0.24	0.22	0.11	

第2表 開防遺跡A・B区柱穴様ピット一覧

開防遺跡



第17図 遺構内出土遺物(1)



第18図 遺構内出土遺物(2)

## S D135(第14図)

北側のN L 59~61グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が長い楕円形に広がり、北-南方向に直線的に延びる。S D44・S B133と重複し S D44よりも新しいが、S B133との新旧関係は不明である。全長6.1m、最大幅1.4m、深さは0.14mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

## (8)柱穴様ピット(第16図、第2表)

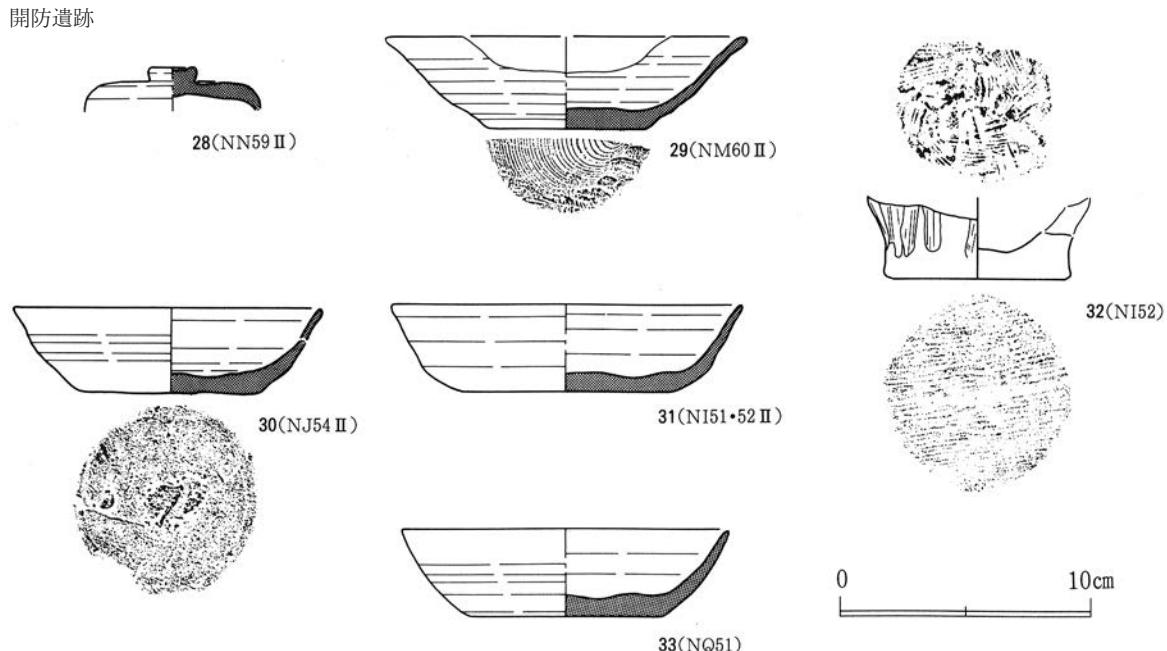
調査区の南側と北側に集中している。出土遺物や覆土より、平安時代もしくはそれ以前と考えられる。以下に図示した遺物を説明する。

27は、SKP36から出土した長頸瓶である。頸部に2段構成の接合痕が明瞭に残る。

## (9)性格不明遺構

## S X59(第14図)

南西側のN R 50グリッドに位置する。確認面はⅢ層でふい黄褐色土が不整形に広がる。一部を除い



第19図 遺構外出土遺物(1)

て調査区域外に延びる。上面形は円形状の落ち込みと考えられ、長軸1.1m、短軸0.35mの大きさが確認できた。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が9点出土した。

## 2 中世以降

### (1) 柱穴列

S A131(第15図、図版5-2・3)

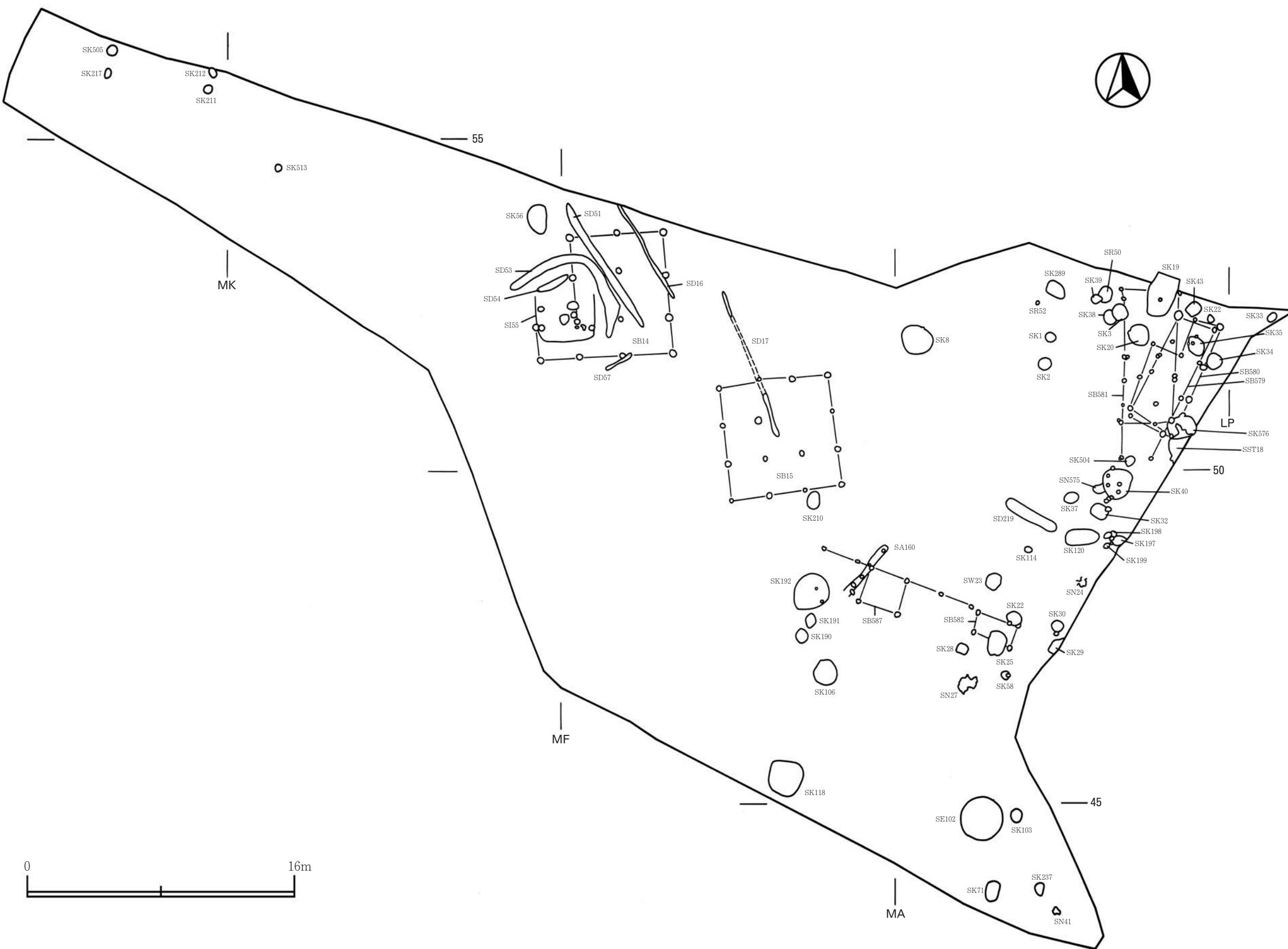
南東側のN G54、N I 53グリッドに位置する。確認面はII層でそれぞれ黒褐色が円形に広がる。P 1とP 2で構成され、N-70°-Eの方向性がある。上面形は長軸0.92m、短軸0.78mの楕円形で、深さは0.67mである。底面中央には、直径0.45mの円形の柱痕跡が認められた。底面中央が僅かに窪み、壁は上位に段が形成され急傾斜で立ち上がる。P 2の上面形は長軸0.81m、短軸0.72mの楕円形で、深さは0.25mである。底面東側には、長さ0.25m、幅0.1mの柱痕跡が認められた。底面東側が僅かに窪み壁は急傾斜で立ち上がる。P 1とP 2の芯々距離は7.57mである。遺物はP 1から土師器3点、P 2から土師器1点、鉄滓4点が出土した。

S A132(第15図、図版5-4・5)

南東側のN F54、N G53グリッドに位置する。確認面はII層で、それぞれ黒褐色土が円形に広がっていた。P 1とP 2で構成される。N-75°-Eの方向性がある。P 1の上面形は長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形で、深さは0.2mである。底面の南側には、長さ0.32m、幅0.2mの柱痕跡が認められた。底面が平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。P 2の上面形は長軸0.8m、短軸0.76mの楕円形で、深さは0.2mである。底面の南側には、長さ0.3m、幅0.2mの柱痕跡が認められた。底面南側が僅かに窪み、壁は急傾斜で立ち上がる。P 1とP 2の芯々距離は6.4mである。遺物はP 2から須恵器1点、土師器22点が出土した。

## 第2節 遺構外出土遺物(第19図)

遺物は少量出土した。28~32は須恵器、33は土師器である。28は小型の短頸壺の蓋で、つまみと天井部の一部を残す。29~32は壺で、内湾して立ち上がり、29・30の口縁部は外反する。29以外は底径が広く器高が低い。切り離しは、29が右回転ロクロの糸切りで他は回転ヘラ切りである。30は推定口径12.3cm、底径7cm、器高3.4cmである。33は長胴甕の底部である。内外面に木口によるカキ目を施す。



第20図 C区遺構配置図

## 第3章 C区の調査の記録

### 第1節 検出遺構と遺物

C区から検出された遺構は堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡7棟、柱穴列1列、土器埋設遺構2基、井戸跡1基、土坑46基、製鉄関連捨て場1ヵ所、炭焼成遺構1基、焼土遺構3基、溝跡7条、柱穴様ピット405基である。

#### 1 古代

##### (1) 堅穴住居跡

S I 55(第21・38図、図版6-1・2)

北側のM E 51・52、M F 51・52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が不整形に広がる。削平が著しく北壁は消滅するが、南東側にカマドの袖が検出されたので住居跡とした。S B 14と重複しそれよりも古く、P 3～P 5・P 9・P 10は住居には伴わない。上面形は1辺3.6mの隅丸方形を呈すると考えられ、深さは0.1mである。P 2とP 11が主柱穴と判断され、P 2が長軸0.38m、短軸0.36m、深さ0.15mの楕円形、P 11が長軸0.32m、短軸0.28m、深さ0.37mの円形である。P 7は鍛冶炉でP 6とP 8がこれに関連しており、周囲の床面より鍛造剥片と粒状滓が検出された。P 7は強い火熱が認められ、P 8には炭化物が充填していた。これらの規模(長軸×短軸×深さ)は、P 7が $0.38 \times 0.35 \times 0.14$ m、P 6が $0.6 \times 0.5 \times 0.14$ m、P 8が $0.7 \times 0.44 \times 0.18$ mである。堅穴住居跡の断面形状は、床面に緩い凹凸があり、残存する壁は緩く傾斜する。遺物は土師器14点、鉄滓4点が出土した。34は甕の底部と考えられる。胴部外面には粗いケズリを施す。底部外面の中央側には、下敷きの痕跡があり、周囲にはヘラケズリを施す。内面は器面が丁寧に整えられているが、中央から外側に皺状の痕跡が見られる。

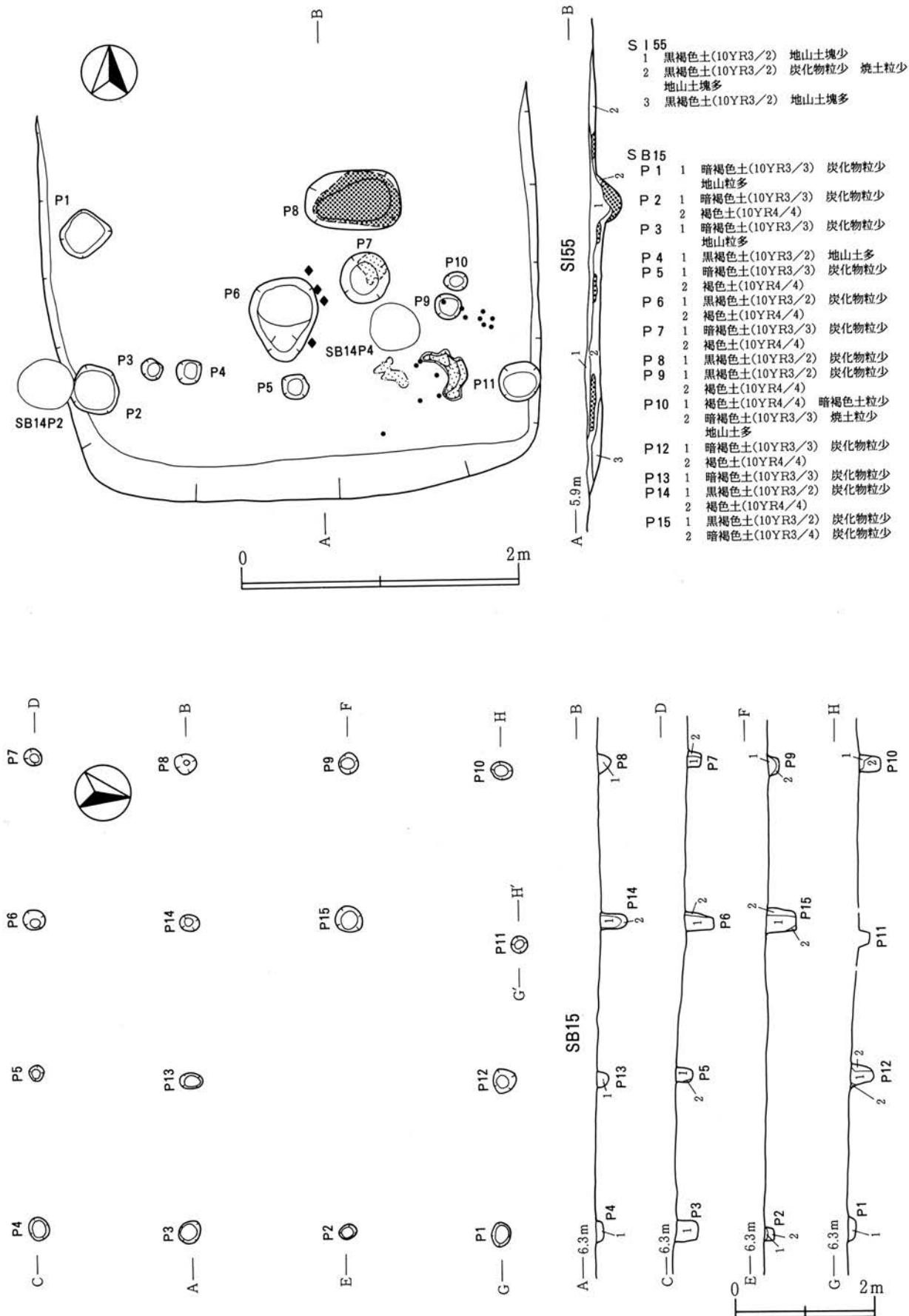
##### (2) 掘立柱建物跡

S B 14(第22図、図版6-3)

北側のM D 51～53、M E 51～53、M F 51・52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土がそれぞれ楕円形に認められた。S I 55・S D 16・S D 51・S D 53・S D 57と重複し、S I 55・S D 57よりも新しいがその他の新旧関係は不明である。桁行3間×梁行2間の総柱の建物に1間の入り口が付いたものと考えられ、P 1～P 14で構成される。桁行総間7.5m(P 12～P 7)×梁行総間5.6m(P 5～P 9)で、長軸方向はN-5°-Wである。柱穴の上面形は円形もしくは楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.35 \times 0.3 \times 0.3$ m、P 2が $0.4 \times 0.35 \times 0.27$ m、P 3が $0.35 \times 0.32 \times 0.57$ m、P 4が $0.35 \times 0.32 \times 0.55$ m、P 5が $0.4 \times 0.37 \times 0.55$ m、P 6が $0.45 \times 0.4 \times 0.45$ m、P 7が $0.35 \times 0.3 \times 0.4$ m、P 8が $0.45 \times 0.4 \times 0.4$ m、P 9が $0.4 \times 0.37 \times 0.55$ m、P 10が $0.42 \times 0.4 \times 0.5$ m、P 11が $0.45 \times 0.35 \times 0.45$ m、P 12が $0.35 \times 0.34 \times 0.5$ m、P 13が $0.35 \times 0.35 \times 0.55$ m、P 14が $0.3 \times 0.28 \times 0.2$ mである。遺物は出土しなかった。

S B 15(第21図、図版7-1)

北側のM A 49・50、M B 49～51、M C 49～51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土がそれぞれ楕円形に認められた。S D 17と重複するが新旧関係は不明。桁行3間×梁行3間の総柱の建物と考えられ、P 1～P 15で構成される。桁行総間7m(P 11～P 6)×梁行総間6.7m(P 3～P 8)で、長軸方向は



第21図 積穴住居跡(1)、掘立柱建物跡(3)



第22図 掘立柱建物跡(4)

## 開防遺跡

N-10°-Wである。柱穴の上面形は円形もしくは橢円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.35 \times 0.3 \times 0.1\text{m}$ 、P 2が $0.25 \times 0.2 \times 0.15\text{m}$ 、P 3が $0.35 \times 0.3 \times 0.1\text{m}$ 、P 4が $0.3 \times 0.27 \times 0.35\text{m}$ 、P 5が $0.22 \times 0.2 \times 0.25\text{m}$ 、P 6が $0.32 \times 0.25 \times 0.4\text{m}$ 、P 7が $0.25 \times 0.23 \times 0.2\text{m}$ 、P 8が $0.33 \times 0.27 \times 0.2\text{m}$ 、P 9が $0.3 \times 0.27 \times 0.2\text{m}$ 、P 10が $0.3 \times 0.23 \times 0.3\text{m}$ 、P 11が $0.25 \times 0.23 \times 0.15\text{m}$ 、P 12が $0.35 \times 0.33 \times 0.35\text{m}$ 、P 13が $0.34 \times 0.25 \times 0.15\text{m}$ 、P 14が $0.3 \times 0.23 \times 0.4\text{m}$ 、P 15が $0.4 \times 0.35 \times 0.45\text{m}$ である。遺物はピットより土師器4点が出土した。

### S B 579(第23図)

北東側のL P 50~52、L Q 50~51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、黒褐色土がそれぞれ橢円形に認められた。S B 580・S B 581・S K 35と重複するが新旧関係は不明である。桁行4間×梁行1間の建物でP 1~P 8で構成される。桁行総間8.6m(P 1-P 5)×梁行総間2.25m(P 4-P 6)で、長軸方向はN-26°-Eである。柱穴の上面形は橢円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.3 \times 0.25 \times 0.45\text{m}$ 、P 2が $0.3 \times 0.25 \times 0.35\text{m}$ 、P 3が $0.35 \times 0.34 \times 0.3\text{m}$ 、P 4が $0.35 \times 0.33 \times 0.25\text{m}$ 、P 5が $0.25 \times 0.2 \times 0.2\text{m}$ 、P 6が $0.26 \times 0.25 \times 0.2\text{m}$ 、P 7が $0.25 \times 0.22 \times 0.2\text{m}$ 、P 8が $0.55 \times 0.45 \times 0.15\text{m}$ である。遺物はP 3から土師器5点、P 4から土師器3点、P 5から鉄滓1点が出土した。

### S B 580(第23図)

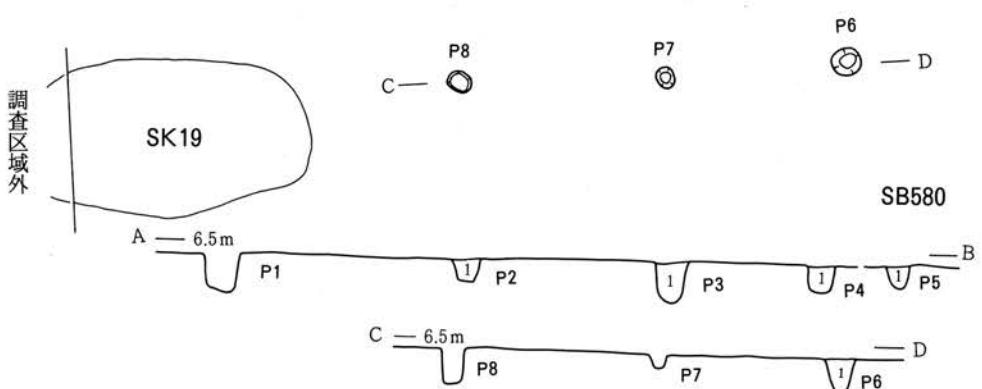
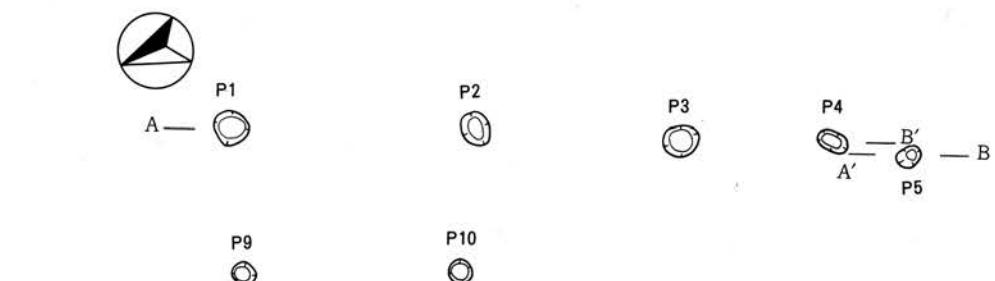
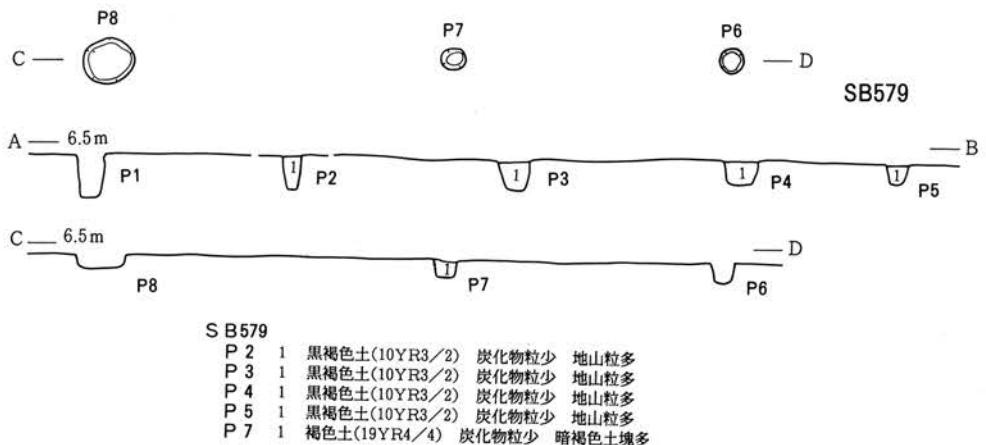
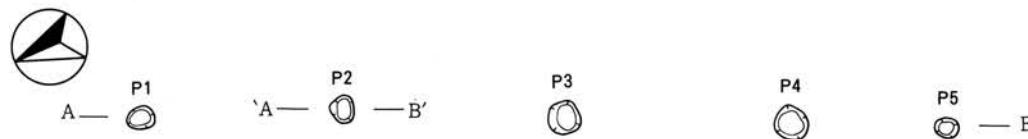
北東側のL P 50~52、L Q 50~51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土がそれぞれ橢円形に認められた。S B 579・S B 581・S K 35と重複するが新旧関係は不明である。桁行3間×梁行2間の建物でP 1~P 10で構成される。桁行総間6.4m(P 1-P 4)×梁行総間3.4m(P 2-P 8)で、長軸方向はN-21°-Eである。柱穴の上面形は橢円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.36 \times 0.34 \times 0.45\text{m}$ 、P 2が $0.37 \times 0.3 \times 0.25\text{m}$ 、P 3が $0.4 \times 0.3 \times 0.4\text{m}$ 、P 4が $0.35 \times 0.2 \times 0.3\text{m}$ 、P 5が $0.27 \times 0.2 \times 0.25\text{m}$ 、P 6が $0.3 \times 0.28 \times 0.4\text{m}$ 、P 7が $0.25 \times 0.18 \times 0.15\text{m}$ 、P 8が $0.24 \times 0.2 \times 0.35\text{m}$ 、P 9が $0.25 \times 0.24 \times 0.25\text{m}$ 、P 10が $0.25 \times 0.24 \times 0.3\text{m}$ である。遺物はP 2から土師器1点、鉄滓1点、P 3から土師器5点、P 6から鉄滓1点、P 10から土師器1点が出土した。

### S B 581(第24図)

北東側のL P 50~52、L Q 50~52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、黒褐色土がそれぞれ橢円形に認められた。S B 579・S B 580・S K 3・S K 19・S K 20と重複し、S K 19よりも新しいがその他は不明である。P 1~P 7の柱筋がほぼ真直ぐなので、これらで桁を構成する建物と考えられるが梁行が不明瞭である。長軸方向はN-2°-Eと考えられる。検出できた柱穴はP 1~P 16まであり、これらの上面形は橢円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.25 \times 0.2 \times 0.38\text{m}$ 、P 2が $0.28 \times 0.25 \times 0.2\text{m}$ 、P 3が $0.16 \times 0.14 \times 0.2\text{m}$ 、P 4が $0.31 \times 0.25 \times 0.33\text{m}$ 、P 5が $0.27 \times 0.25 \times 0.25\text{m}$ 、P 6が $0.25 \times 0.18 \times 0.12\text{m}$ 、P 7が $0.25 \times 0.22 \times 0.18\text{m}$ 、P 8が $0.2 \times 0.17 \times 0.4\text{m}$ 、P 9が $0.25 \times 0.17 \times 0.22\text{m}$ 、P 10が $0.2 \times 0.17 \times 0.25\text{m}$ 、P 11が $0.3 \times 0.26 \times 0.2\text{m}$ 、P 12が $0.35 \times 0.25 \times 0.2\text{m}$ 、P 13が $0.2 \times 0.13 \times 0.15\text{m}$ 、P 14が $0.25 \times 0.16 \times 0.2\text{m}$ 、P 15が $0.25 \times 0.15 \times 0.18\text{m}$ 、P 16が $0.33 \times 0.25 \times 0.3\text{m}$ である。遺物はP 16から須恵器1点、土師器9点、鉄滓1点が出土した。

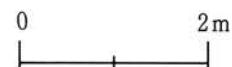
### S B 582(第22図)

東側のL S 47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土がそれぞれ橢円形に認められた。S K 22・S K 25と重複しS K 22より古い。桁行1間×梁行1間の建物でP 1~P 4で構成される。桁行総間2.55m



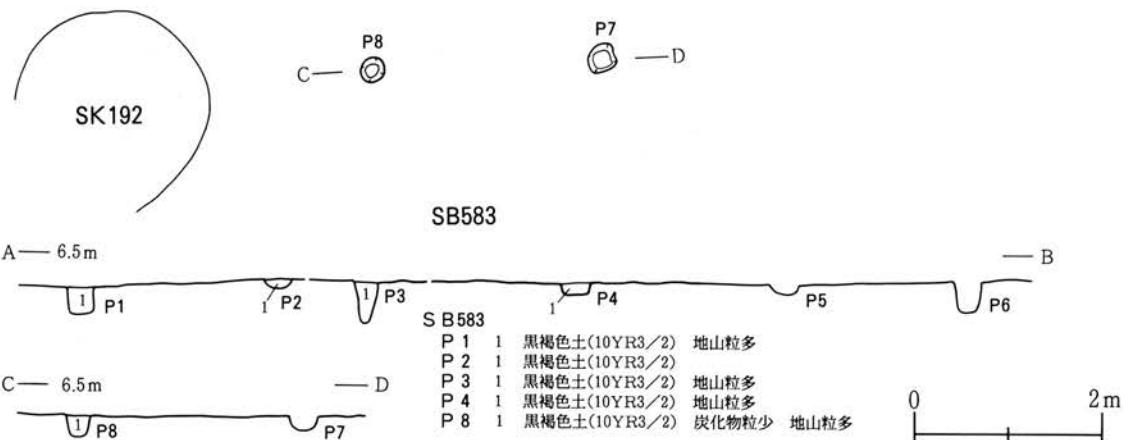
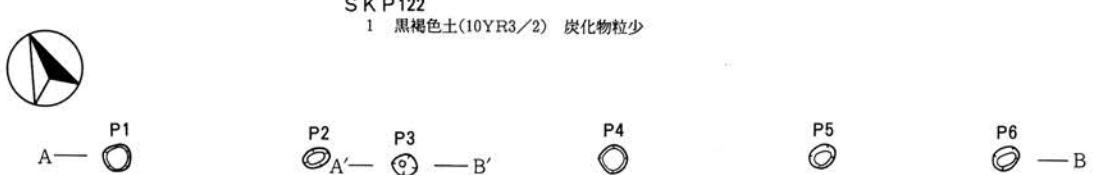
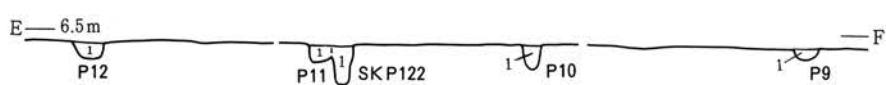
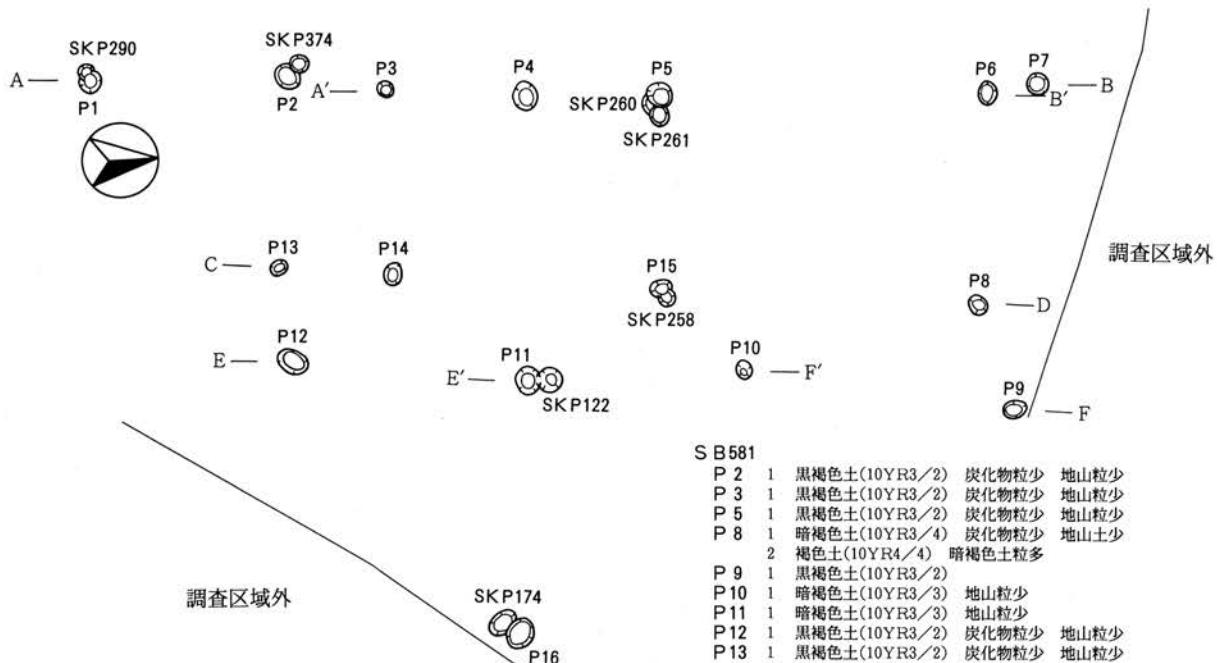
**S B580**

P 2	1	黒褐色土(10YR3/2)	炭化物粒少	地山粒多
P 3	1	暗褐色土(10YR3/3)	炭化物粒少	
P 4	1	黒褐色土(10YR3/2)	炭化物粒少	地山粒多
P 5	1	黒褐色土(10YR3/2)	炭化物粒少	地山粒多
P 6	1	暗褐色土(10YR3/3)	褐色土多	



第23図 挖立柱建物跡(5)

開防遺跡



第24図 掘立柱建物跡(6)

(P 1—P 2)×梁行総間1.45m(P 2—P 3)で、長軸方向はN—70°—Wである。柱穴の上面形は橢円形である。上面の規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.35 \times 0.27 \times 0.15\text{m}$ 、P 2が $0.38 \times 0.27 \times 0.15\text{m}$ 、P 3が $0.34 \times 0.27 \times 0.15\text{m}$ 、P 4が $0.35 \times 0.29 \times 0.2\text{m}$ である。遺物は出土しなかった。

#### S B 583(第24図)

東側のL S 47、L T 47・48、M A 47・48、M B 48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が橢円形に認められた。S A 160と重複しそれより新しい。桁行4間×梁行1間の建物でP 1～P 8で構成される。桁行総間9.5m(P 1—P 6)×梁行総間2.2m(P 3—P 8)で、長軸方向はN—65°—Wである。柱穴の上面形は橢円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が $0.3 \times 0.27 \times 0.3\text{m}$ 、P 2が $0.3 \times 0.2 \times 0.1\text{m}$ 、P 3が $0.27 \times 0.25 \times 0.45\text{m}$ 、P 4が $0.3 \times 0.28 \times 0.15\text{m}$ 、P 5が $0.3 \times 0.23 \times 0.1\text{m}$ 、P 6が $0.28 \times 0.23 \times 0.35\text{m}$ 、P 7が $0.35 \times 0.3 \times 0.15\text{m}$ 、P 8が $0.27 \times 0.25 \times 0.15\text{m}$ である。遺物はP 1から須恵器1点、土師器3点、P 4から土師器2点、P 5から土師器1点、P 6から炉壁4点が出土した。

#### (3) 柱穴列

##### S A 160(第25図、図版7—2)

東側のM A 48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。布掘りにピットを伴う形態と考えられ、北東—南西方向に直線的に延びる。S B 583・S K P 218・S K P 573と重複しそれらより古い。溝の全長3.75m以上、最大幅0.4m、深さは0.15mである。これにP 1～P 4のピットが伴うと判断された。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器が3点出土した。

#### (4) 土器埋設遺構

##### S R 50(第25・38図、図版7—3・4)

北東側のL Q 52グリッドに位置する。確認面はⅡ層で、須恵器甕の口縁部と土師器の蓋が確認できた。掘り方の平面形は長軸1m、短軸0.8mの橢円形で、深さは0.35mである。断面形は摺鉢形で、底面は直径0.27mの円形である。甕は完形で覆土中に僅かに北東に傾いた状態で出土し、土師器の蓋は裏返しの状態で出土した。35は土師器の有台皿、36は須恵器の甕である。35は高台が外に傾斜し、体部は直線的に外傾し口縁部は大きく外反する。口径16.2cm、高台径6.6cm、器高3.9cmである。36は完形で、胴部中央やや上位に最大径がある。頸部は「く」の字状を呈し、口縁部は外傾する。口唇部は平坦である。胴部下半に不定方向のケズリを施す。口径16cm、胴部最大径28.8cm、底径11cm、器高33.1cmである。

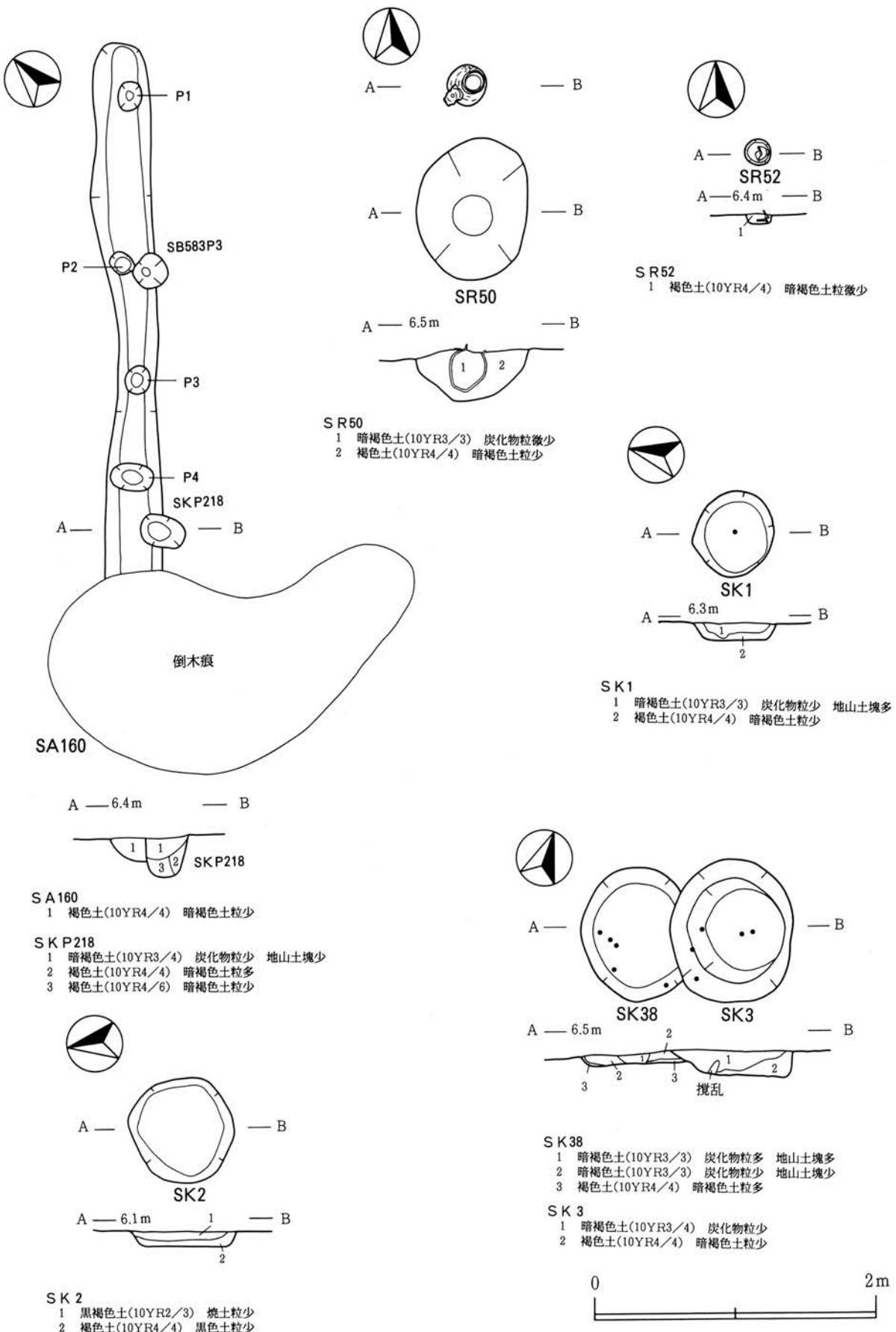
##### S R 52(第25・38図、図版8—1)

北東側のL R 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、褐色土が円形に広がり土師器甕の口縁部が確認できた。掘り方の平面形は直径0.2mほどの円形で、深さは0.07mである。底面が平坦で壁は垂直に近く立ち上がる。甕が口縁部を僅かに欠損するだけで、覆土中から横倒しの状態で出土した。37は土師器の小型の甕で、突出した底部中央を抉り高台状に作り出す。内湾ぎみに立ち上がり、口縁部が短く外反する。胴部外面に木口の細かいカキ目を縦位に施す。外面に光沢のある黒色付着物を部分的に認める。口径9.4cm、底径4.4cm、器高7.3cmである。

#### (5) 土坑

##### S K 1(第25図、図版8—2)

北東側のL R 51・52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.62m、短軸0.55mの橢円形で、深さは0.13mである。底面は平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器



第25図 柱穴列(2)、土器埋設遺構(1)、土坑(3)

が3点出土した。

#### S K 2(第25図、図版8-3)

北東側のL R 51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.75m、短軸0.7mの六角形状の楕円形で、深さは0.1mである。底面は平坦で壁が急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K 3(第25図、図版8-4)

北東側のL Q 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S B 581・S K 38と重複しS K 38より新しい。上面形は長軸1m、短軸0.86mの楕円形で、深さは0.2mである。底面が東側に緩く傾斜し、壁は西側で緩く、東側は垂直に近く立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した。

#### S K 8(第26図)

東側のL T 51・52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸1.92m、短軸1.7mの楕円形で、深さは0.55mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が3点出土した。

#### S K 19(第26・38図、図版8-5)

北東側のL P・L Q 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S B 581と重複するが新旧関係は不明である。上面形は長軸2.57m以上、短軸1.7mの楕円形で、深さは0.3mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器1点、鉄滓2点が出土した。38・39は土師器の壊である。いずれも内湾ぎみに立ち上がる。切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

#### S K 20(第26・38図)

北東側のL Q 51・52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S K P 21と重複しそれより古い。上面形は長軸1.35m、短軸1.25mの略円形で、深さは0.1mである。中央から西側よりに緩く窪み、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器が1点、土師器が28点出土した。40・41は土師器の壊と小型の甕である。40は内湾して立ち上がり、口縁部が外反する。41の底部内面には、ロクロ目が明瞭に認められる。切り離しは、いずれも右回転ロクロの糸切りである。

#### S K 22(第26図、図版8-6)

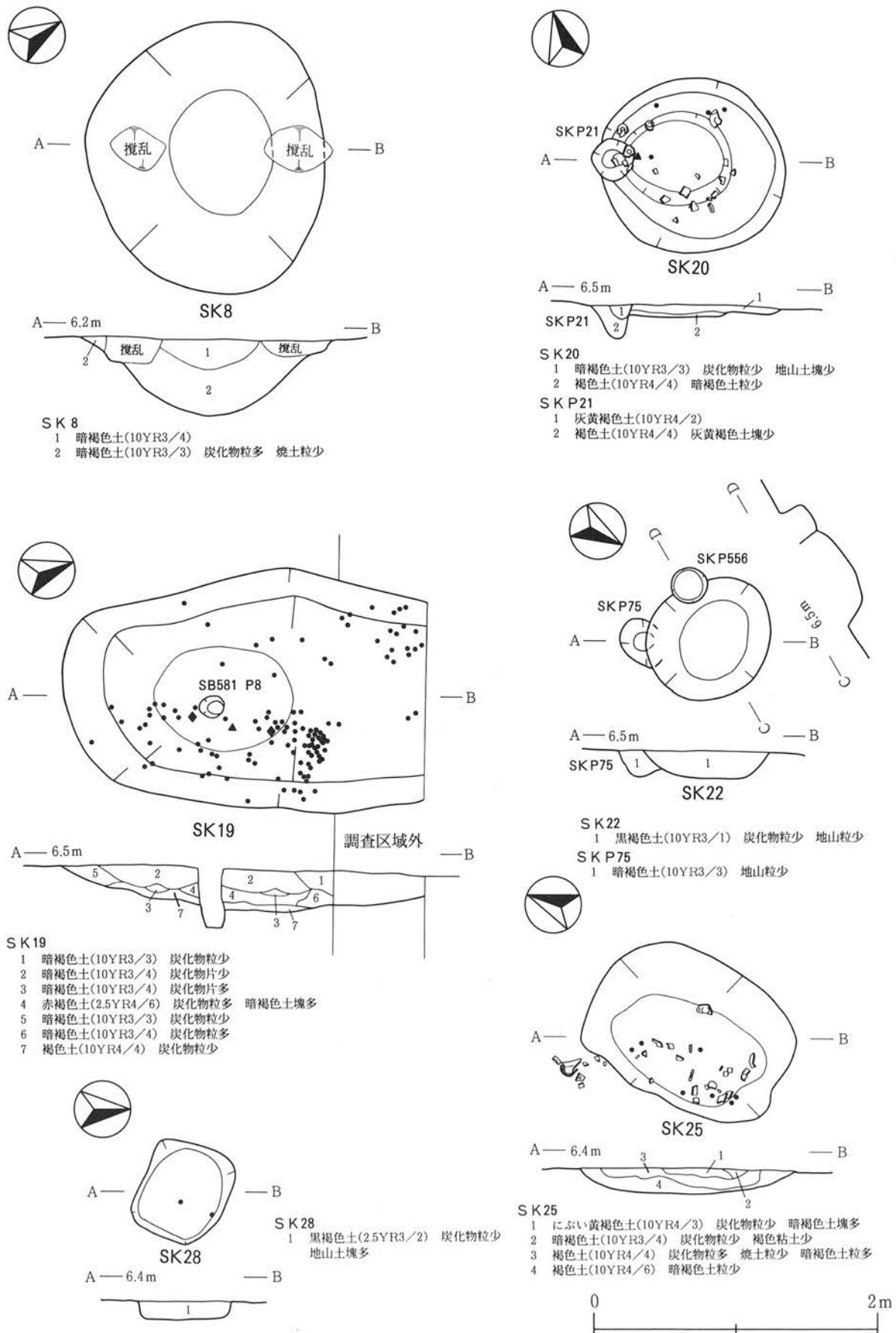
東側のL S 47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S B 582・S K P 556と重複し、S B 582より新しくS K P 556よりも古い。上面形は長軸0.95m、短軸0.83mの楕円形で、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が7点、土錐が1点出土した。

#### S K 25(第26・38図、図版8-7)

東側のL S 47グリッドに位置する。確認面はⅢ層でぶい黄褐色土が楕円形に広がる。S B 582と重複するが新旧関係は不明。上面形は長軸1.45m、短軸1.05mの不整楕円形で、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多数出土した。42・43は土師器の壊で、いずれも内湾して立ち上がる。42の切り離しはロクロ右回転の糸切りで、43は糸切りの痕跡が僅かに残る。

#### S K 28(第26図、図版8-8)

東側のL S・L T 47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が方形に広がる。上面形は、長軸0.7m、短軸0.61mの隅丸の不整な四角形で、深さは0.13mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が2点出土した。



第26図 土坑(4)

## S K29(第27図)

東側のL R 47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が不整形に広がる。SK P 552と重複しそれより新しい。上面形は長軸1m以上、短軸0.85mの楕円形と考えられ、深さは0.18mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が1点、土錐が2点出土した。

## S K30(第27図)

東側のL R 47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。SK P 42と重複しそれより古い。上面形は直径0.7mの不整円形で、深さは0.08mである。底面が平坦で壁は東側で緩い段を形成する。遺物は土師器が4点、土錐が2点出土した。

## S K32(第27・38図、図版9-1)

東側のL Q・L R 49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が方形に広がる。SK P 65と重複しそれより古い。上面形は長軸1.05m、短軸0.85mの隅丸長方形で、深さは0.3mである。底面にやや凹凸があり壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器33点、手捏ね土器1点、フイゴの羽口11点が出土した。44の手捏の土器はほぼ完形で、全体に丸みがある。口径3.9cm、器高4cmである。

## S K33(第27図、図版9-2)

北東側のL O 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。SK P 235・SK P 555と重複しそれらより新しい。上面形は長軸0.6m、短軸0.55mの楕円形で、深さは0.1mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器4点が出土した。

## S K34(第27・38図、図版9-3)

北東側のL P 51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は直径0.97mの円形で、深さは0.56mである。断面形状は、上位で段を形成し底面にかけて長方形を呈する。遺物は須恵器1点、土師器15点が出土した。45～47は土師器の壊で、内湾して立ち上がるが45の口縁部は外反する。47の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

## S K35(第27図、図版9-4)

北東側のL P 51・52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土が方形に広がる。SB 579・SB 580・SK P 231・SK P 232・SK P 577と重複し、SK P 231・577より新しくSK P 232より古い他は不明である。上面形は長軸1.3m、短軸0.95mの隅丸の菱形で、深さは0.1mである。底面中央が全体にやや盛り上がる状態で、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器1点が出土した。

## S K37(第27図)

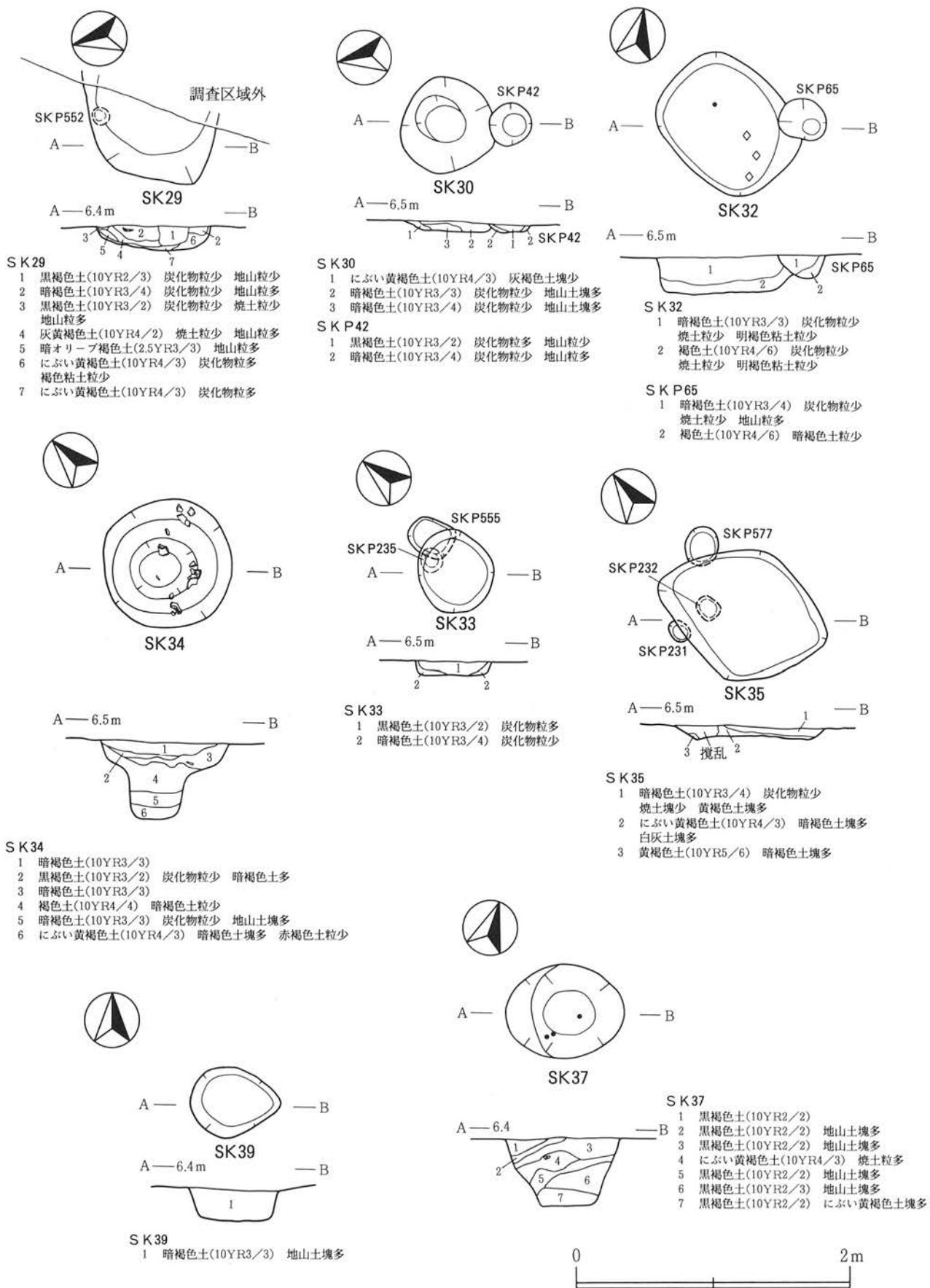
東側のL R 49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.87m、短軸0.7mの楕円形で、深さは0.5mである。底面が平坦で壁は西側が緩い段を形成し、急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器8点が出土した。

## S K38(第25図、図版8-4)

北東側のL Q 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。SK 3と重複しそれより古い。上面形は長軸0.95m、推定短軸0.8mの楕円形で、深さは0.1mである。底面が平坦で西側に僅かに傾斜し、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が30点出土した。

## S K39(第27図、図版9-5)

北側のL Q・L R 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸



第27図 土坑(5)

0.67m、短軸0.52mの一端が尖った橢円形で、深さは0.25mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K40(第28・39図、図版9-6)

東側のL Q49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S N575・S K P506・S K P508・S K P509・S K P510・S K P511・S K P514などと重複し、S N575・S K P509などよりも新しい。上面形は長軸1.83m、短軸1.8mの不整形で、深さは0.37mである。断面形状は摺鉢状を呈する。遺物は土師器・鉄滓・炉壁が多量に出土した他、土錐1点、フィゴの羽口10点が出土した。48・49は土師器の坏、50は土錐である。48・49は内湾して立ち上がり、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。50は両端が欠損しており、中央の孔は直径約4mmである。

#### S K43(第28・39図、図版9-7)

北東側のL P52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S K P104・S K P105と重複し、S K P104よりも新しくS K P105よりも古い。上面形は長軸0.9m、短軸0.8mの不整な隅丸方形で、深さは0.2mである。底面に凹凸があり壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器39点が出土した。51～54が坏、55は甕である。52～55は直線的に立ち上がり、52は薄く仕上がる。いずれも底面に回転糸切りを残す。55はロクロで仕上げてあるが、全体に雑な作りである。

#### S K56(第28図)

北側のM F53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸1.73m、短軸1.05mの不整な橢円形で、深さは0.13mである。底面が平坦で壁は摺鉢状に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K58(第28図)

東側のL S46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S K P578と重複しそれより古い。上面形は長軸0.5m、短軸0.45mの橢円形で、深さは0.15mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が1点出土した。

#### S K71(第28図)

南東側のL S43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸1.2m、短軸0.8mの橢円形で、深さは0.15mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が2点出土した。

#### S K103(第29図、図版9-8)

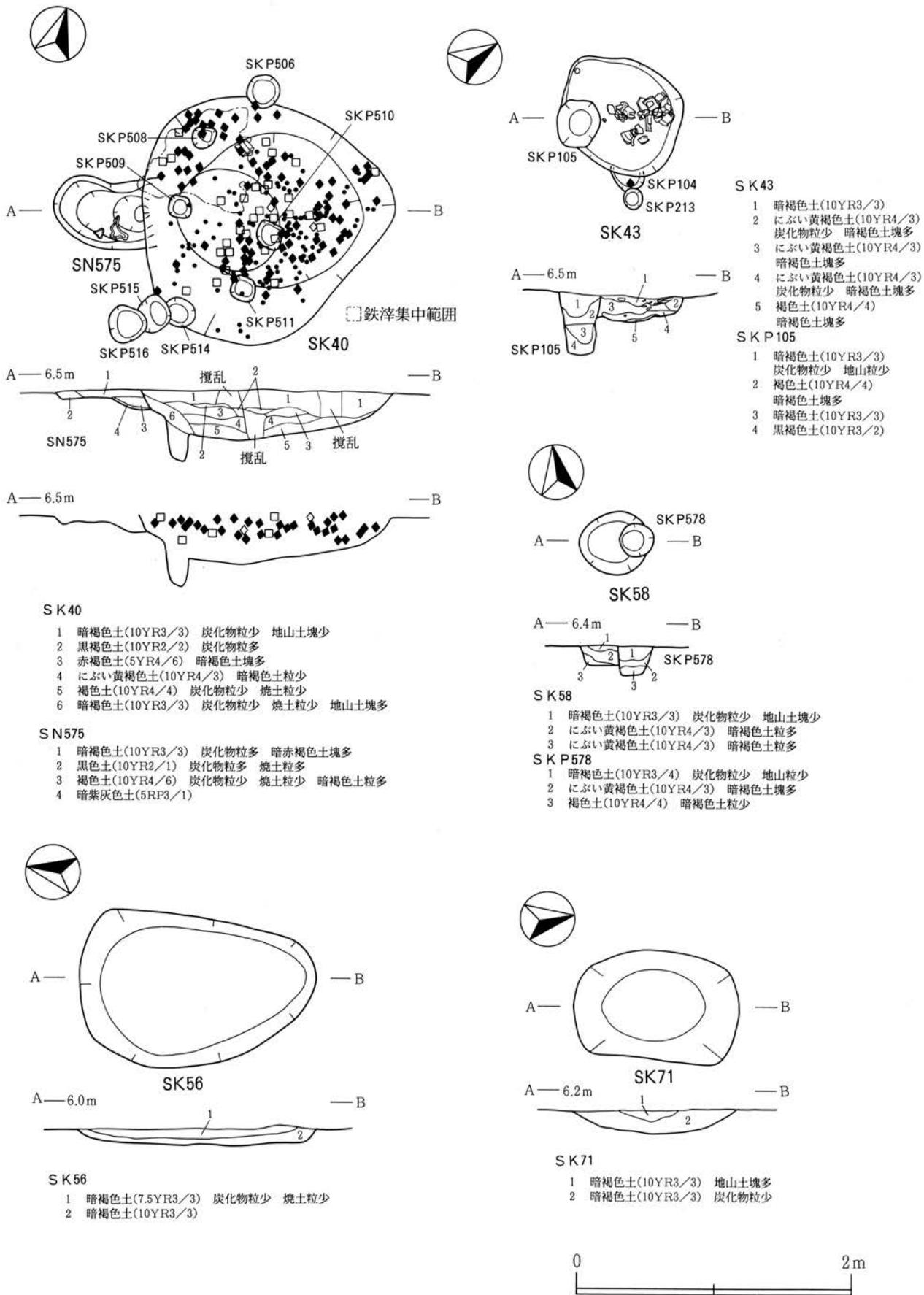
南東側のL S44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸0.8m、短軸0.7mの橢円形で、深さは0.15mである。底面がほぼ平坦で壁はやや急な傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K106(第29図)

南東側のMA・MB46・47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸1.5m、短軸1.45mの不整な円形で、深さは0.2mである。底面に凹凸があり壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K114(第29・39図)

東側のLR・LS48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸



第28図 土坑(6)

0.5m、短軸0.4mの橢円形で、深さは0.25mである。断面形は摺鉢状を呈する。比較的大きな炭化物がまとまって出土した。遺物は土師器8点、炉壁1点が出土した。56は内外面を黒色処理した土師器の蓋である。内外面にミガキを施した精巧な作りである。胎土・焼成・色調・技法の特徴から、D区S R 299の有台坏とセット関係にあると考えられる。

#### S K118(第29図、図版11-1)

南東側のMB45グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸2.05m、短軸2mの不整な隅丸方形で、深さは0.88mである。底面に凹凸があり壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器・鉄滓が多量に出土した他、須恵器1点、土錘4点が出土した。

#### S K120(第29図)

東側のL Q48・49、L R 48・49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸2.05m、短軸0.95mの不整な橢円形で、深さは0.15mである。底面が平坦で壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器14点が出土した。

#### S K161(第29図)

東側のMA47・48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.82m、短軸0.65mの橢円形で、深さは0.25mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器2点が出土した。

#### S K190(第29図)

東側のMB47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸0.85m、短軸0.75mの橢円形で、深さは0.1mである。底面は北側がやや高く全体に凹凸があり、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器1点が出土した。

#### S K191(第30図)

東側のMB47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は0.93m、短軸0.7mの橢円形で、深さは0.07mである。底面はほぼ平坦で壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器41点が出土した。

#### S K192(第30・39図、図版11-2)

東側のMA48、MB47・48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。SKP143と重複しそれよりも新しい。上面形は長軸2.42m、短軸2.05mの橢円形で、深さは0.42mである。断面形状は摺鉢状を呈する。底面は長軸1.23m、短軸1mの不整橢円形である。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器7点、鉄滓1点が出土した。57は須恵器の坏、58~63は土師器で、63の他は坏である。坏は内湾して立ち上がり、57・58・61・62の切り離しは右回転クロの糸切りである。

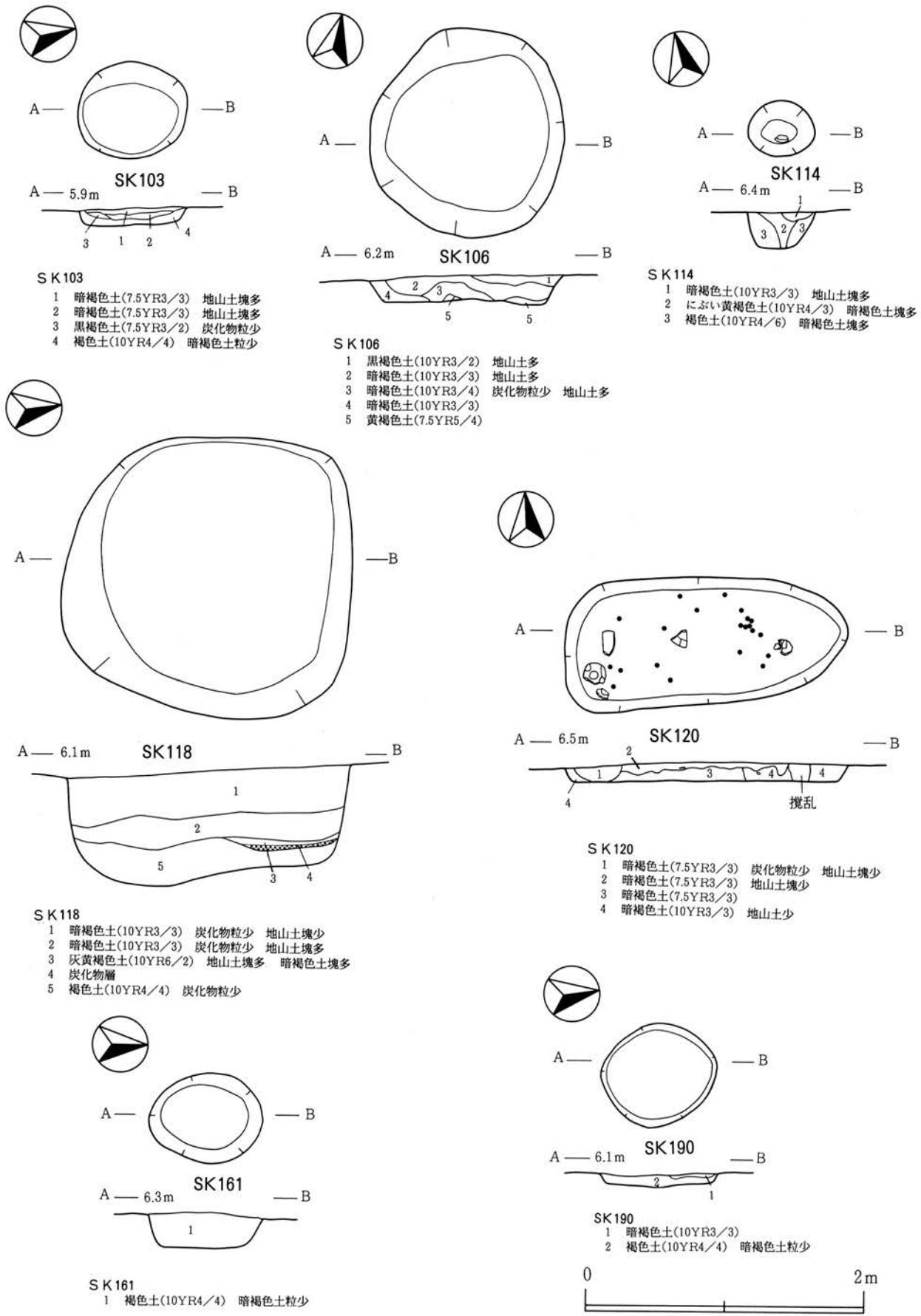
#### S K197(第30図、図版11-3)

東側のL Q48・49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が不整形に広がる。SK198・SKP202・SKP203と重複しそれらよりも古い。上面形は現存長軸0.9m、短軸0.6mの橢円形と推定され、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多数出土した。

#### S K198(第30・39図、図版11-3)

東側のL Q48・49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。SK197・SKP202と重複し、SK197より新しくSKP202よりも古い。上面形は長軸0.42m、短軸0.38mの橢円形で、深さ

開防遺跡



第29図 土坑(7)

は0.25mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した。64は土師器壺の底部で、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

S K199(第30図、図版11-3)

東側のL Q48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.43m、短軸0.3mの楕円形で、深さは0.3mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が2点出土した。

S K210(第30・39図)

東側のM B49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸1.05m、短軸0.7mの楕円形で、深さは0.35mである。底面中央がやや高まり壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が1点出土した。65は土師器の壺で内湾して立ち上がる。

S K211(第30図)

西側のM K55グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は一辺が0.5mの隅丸三角形で、深さは0.17mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

S K212(第30図)

西側のM K55・56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.55m、短軸0.4mの楕円形で、深さは0.38mである。底面がやや湾曲し壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

S K217(第30図)

西側のM L55・56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.58m、短軸0.42mの楕円形で、深さは0.1mである。底面が平坦で壁はやや急な傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

S K222(第31図)

北東側のL P52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S K P349と重複するが新旧は不明である。上面形は1辺が0.45mの隅丸三角形で、深さは0.37mである。底面が西側に傾斜し壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器5点が出土した。

S K237(第31図)

南東側のL R43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.82m、短軸0.55mの楕円形で、深さは0.1mである。底面が平坦で壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器3点が出土した。

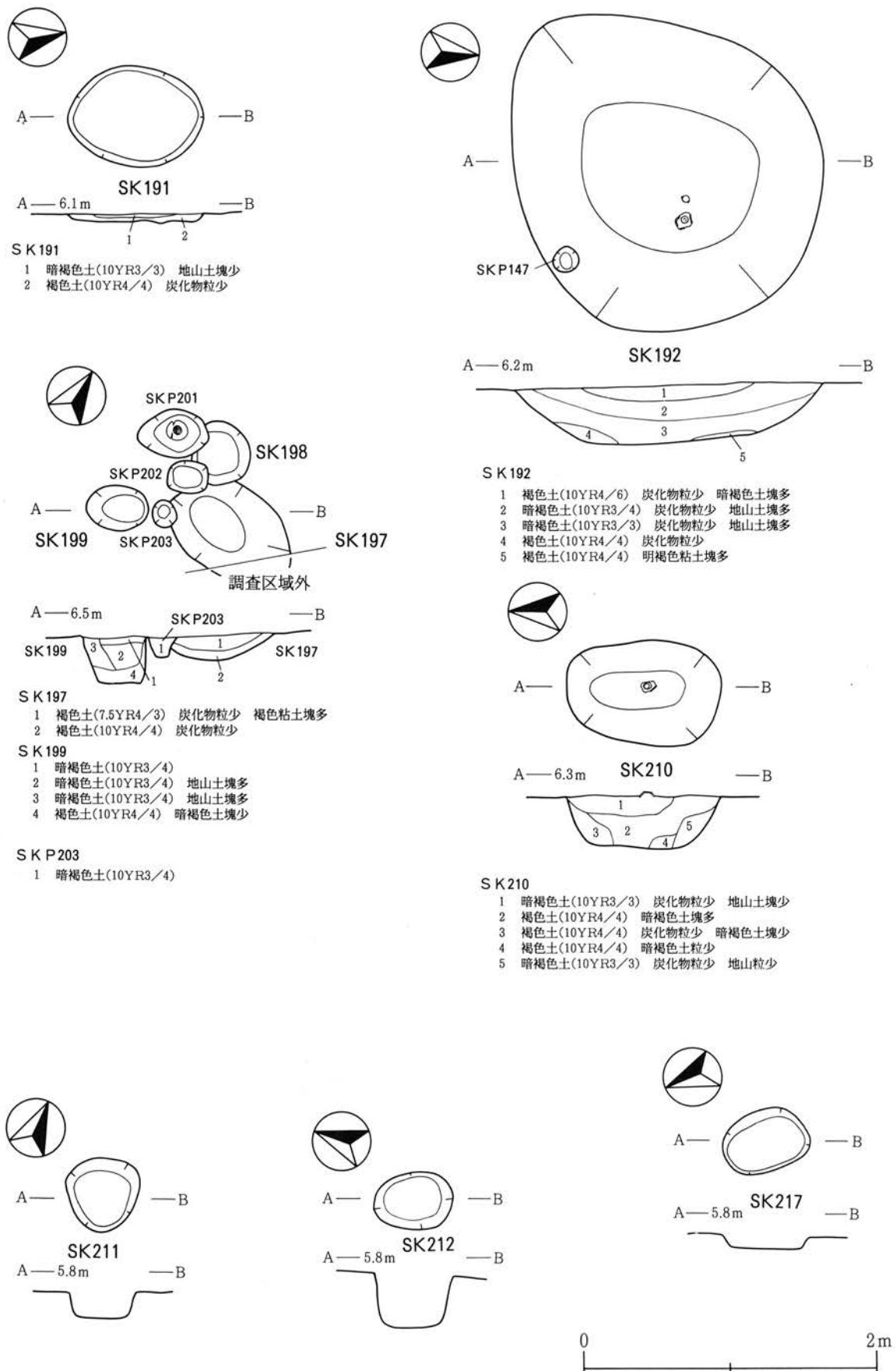
S K289(第31図)

北東側のL R52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸1.3m、短軸0.9mの不整楕円形で、深さは0.2mである。底面の中央側が端側に比べて相対に高く、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器2点が出土した。

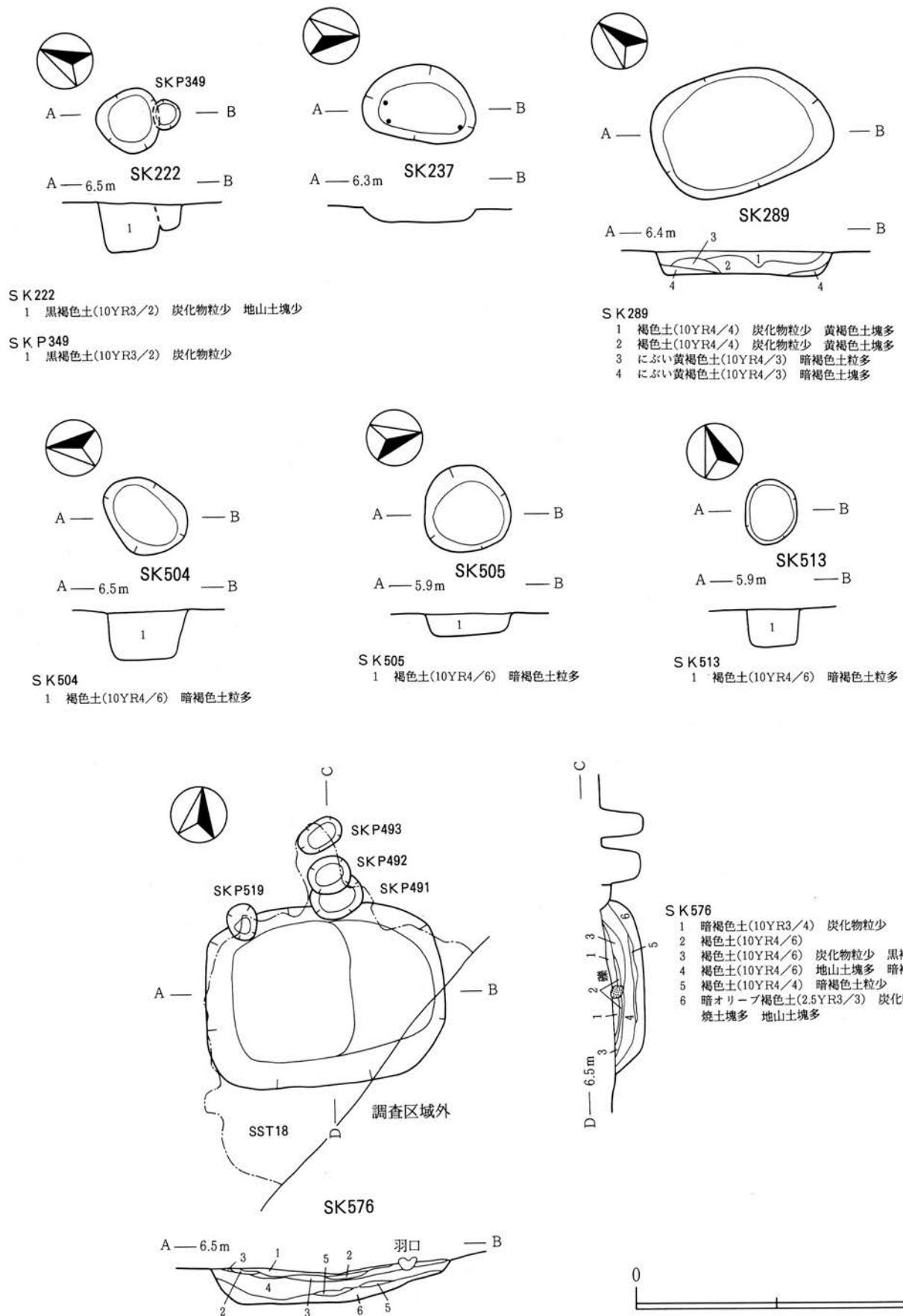
S K504(第31図)

東側のL Q50グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.65m、短軸0.5mの楕円形で、深さは0.35mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

開防遺跡



第30図 土坑(8)



第31図 土坑(9)

## 開防遺跡

### S K505(第31図)

西側のM L 56グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.62m、短軸0.6mの略円形で、深さは0.16mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

### S K513(第31図)

西側のM J 54グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.45m、短軸0.37mの楕円形で、深さは0.25mである。底面が平坦で壁は垂直に近く立ち上がる。遺物は出土しなかった。

### S K576(第31図)

北東側のL P 50グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S S T 18・S K P 491・S K P 519と重複しそれらより古い。上面形は長軸1.7m、短軸1.3mの隅丸長方形で、深さは0.3mである。底面は長軸1m、短軸0.85mの隅丸長方形である。底面は西側が平坦で摺鉢状に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

## (6) 製鉄関連捨て場

### S S T 18(第32・40図、図版10-1~3)

北東側のL P 50グリッドに位置する。確認面はⅡ層で、鉄滓・炉壁・羽口の碎片を含んだ黒褐色土が不整形に広がる。東側の半分ほどは調査区域外である。特に焼けた状態がなかったので捨て場と判断した。一部突出した部分を除いた範囲は、1辺2mほどの隅丸方形状と考えられる。遺物の含まれる覆土の厚さは0.1~0.6mほどで、中央の径1mの範囲には5cmほどの厚みのある大型の炉壁が重なって出土した。遺物は土師器・炉壁・鉄滓が多量に出土した。66~71は土師器で、71の他は壊である。67を除いた壊の切り離しは、右回転ロクロの糸切りである。71は細頸の壺で、口縁部と胴部の一部が剥落している。全体に焼成が不良で観察しにくいものの、頸部の絞り目からロクロを使用したと考えられる。口径2.4cm、胴部最大径8.1cm、底径4.2cm、器高8.1cmである。72・73は羽口、74・75は鉄滓である。72・73はいずれも片側に溶着面を残す。72・73の断面は三角形を呈し、2つの孔の長さは3.7~4.5cmである。74は流動滓、75は流出孔滓でそれぞれ重さは14.9gと197.8gである。

## (7) 炭焼成遺構

### S W23(第32図、図版11-4)

東側のL S 48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形状は長軸1.05m、短軸0.9mの楕円形で、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。底面には僅かな硬化範囲を認めた。遺物は土師器が3点出土した。

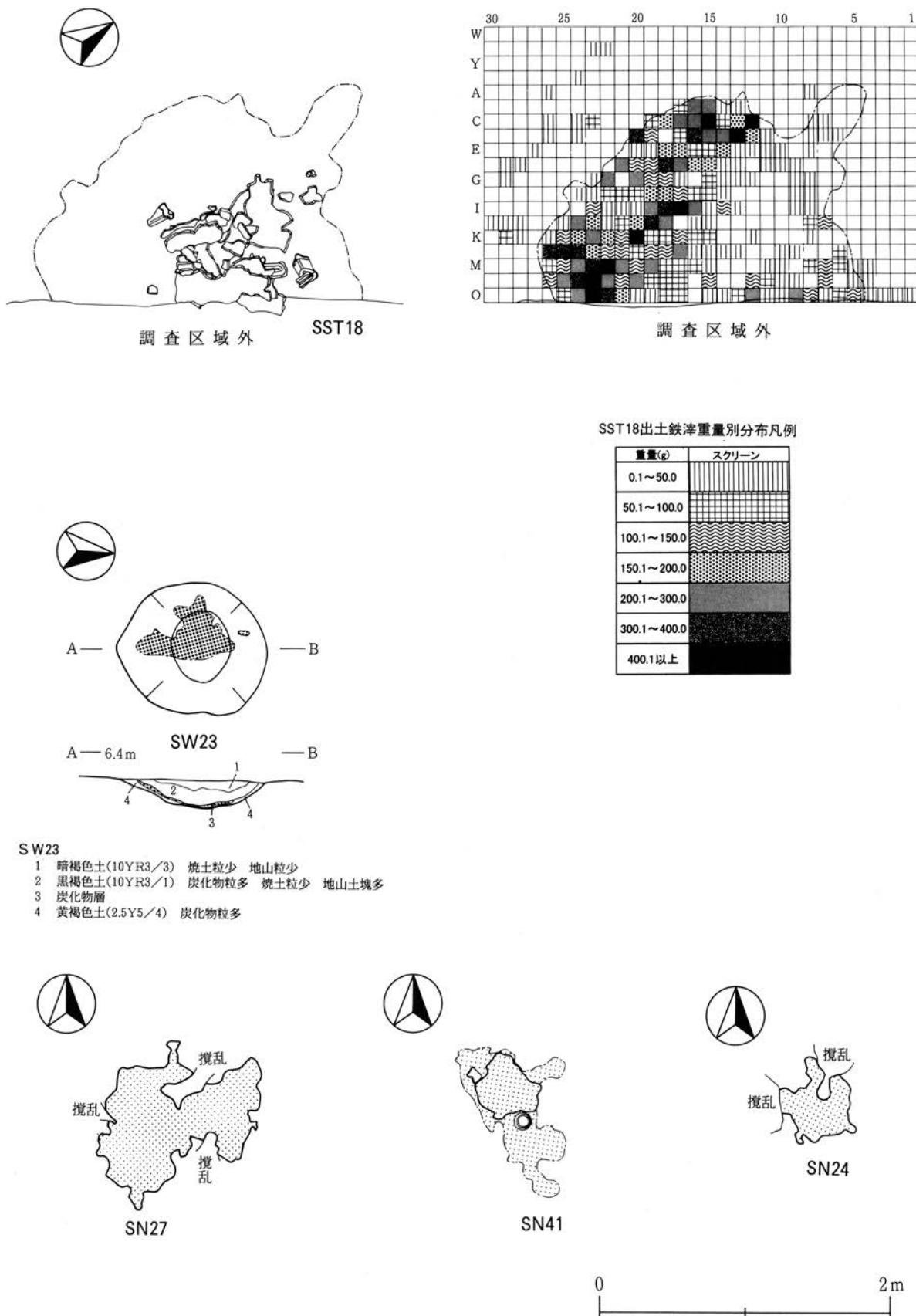
## (8) 燃土遺構

### S N24(第32図)

東側のL R 48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の燃土が広がる。上面形は長軸0.6m、短軸0.55mの不整形で、燃土の厚さは0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N27(第32図)

南東側のL S・L T 46グリッドに位置する。確認面はⅢ層でぶい赤褐色の燃土が広がる。上面形は長軸0.13m、短軸1mの不整形で、燃土の厚さは0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しな



第32図 製鉄関連捨て場(1)、炭焼成遺構(2)、焼土遺構(2)

## 開防遺跡

かった。

### S N41(第32図、図版11-5)

南東側のL R 43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で明赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸1.2m、短軸0.7mの不整形で、焼土の厚さは0.04mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器が12点出土した。76・77は土師器で、76は壺、77は甕である。76の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

### S N575(第28図、図版9-6)

東側のL Q 49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土の焼土が楕円形に広がる。S K 40と重複しそれより古い。上面形は長軸0.7m以上、短軸0.5mの不整楕円形で、深さは0.14mである。底面は西側が平坦で東側は緩い傾斜で立ち上がる。底面は著しく硬化していた。遺物は鉄滓が23点出土した。

## (9) 溝跡

### S D16(第33図)

北側のM D 52・53、M E 53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北西-南東方向へ直線的に延びる。S B 14と重複しそれより新しい。長さは6.5m以上、最大幅0.25m、深さは0.07mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S D17(第33図)

北側のM C 52(北部)、M B 50・51(南部)グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。北北西-南南東方向へ直線的に延びる。全長は1.62m、最大幅0.2m、深さは0.05mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S D51(第33図)

北側のM D 52、M E 52・53・54グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北西-南東方向へ僅かに蛇行しながら延びる。全長は8.7m、最大幅0.53m、深さは0.15mである。底面が平坦で壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

### S D53(第34図)

北側のM E・M F 52・53グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。南西-北東方向から南東方向に直角に延びる。全長10m、最大幅0.9m、深さは0.1mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S D54(第34図)

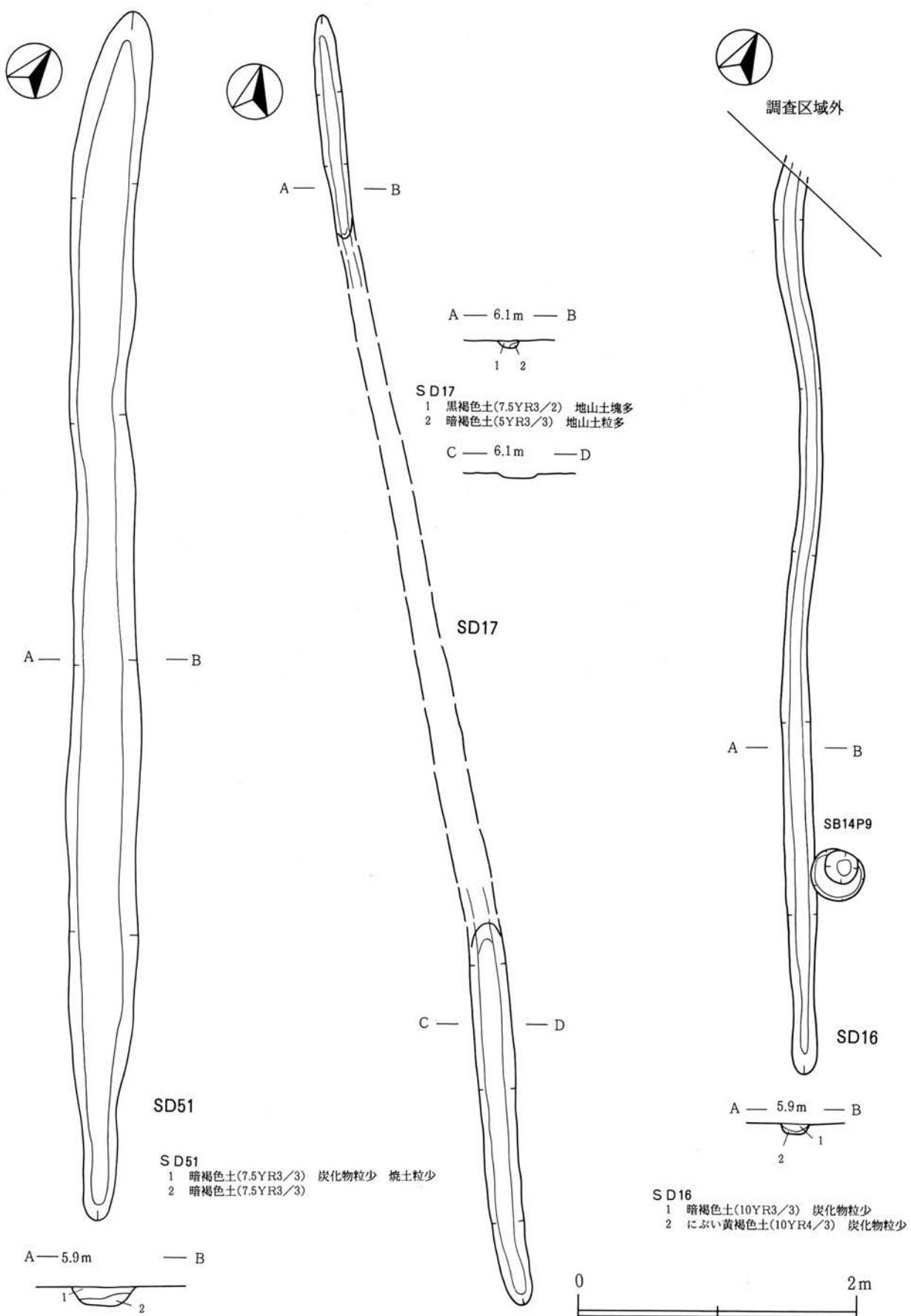
北側のM E・M F 52グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。東北東-西南西方向へやや湾曲して延びる。S I 55と重複しそれより新しい可能性がある。全長2.05m、最大幅0.42m、深さは0.05mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S D57(第34図)

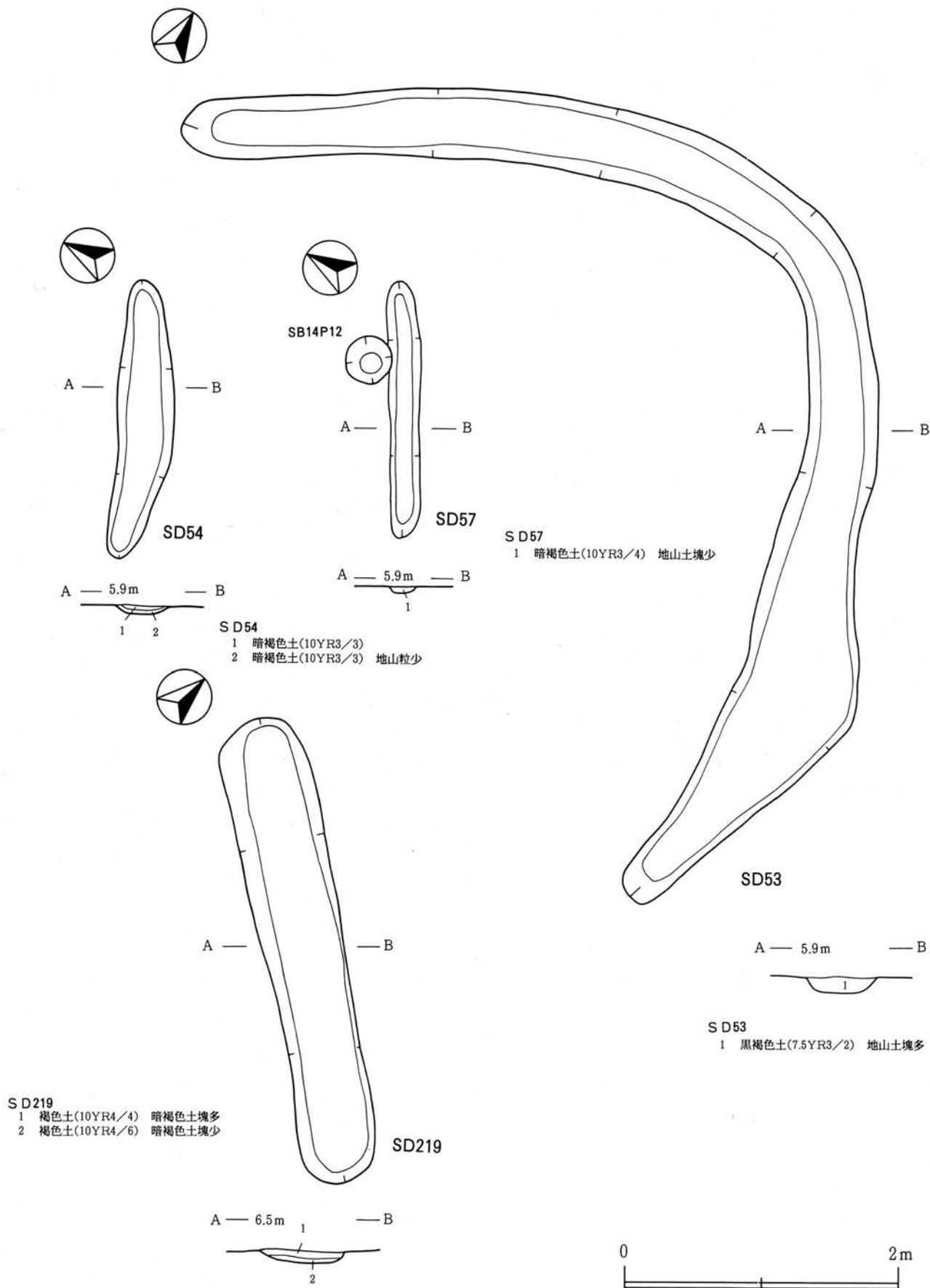
北側のM D・M E 51グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北東-南西方向に直線的に延びる。S B 14と重複しそれより古い。全長1.9m、最大幅0.23m、深さは0.05mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S D219(第34図、図版11-6)

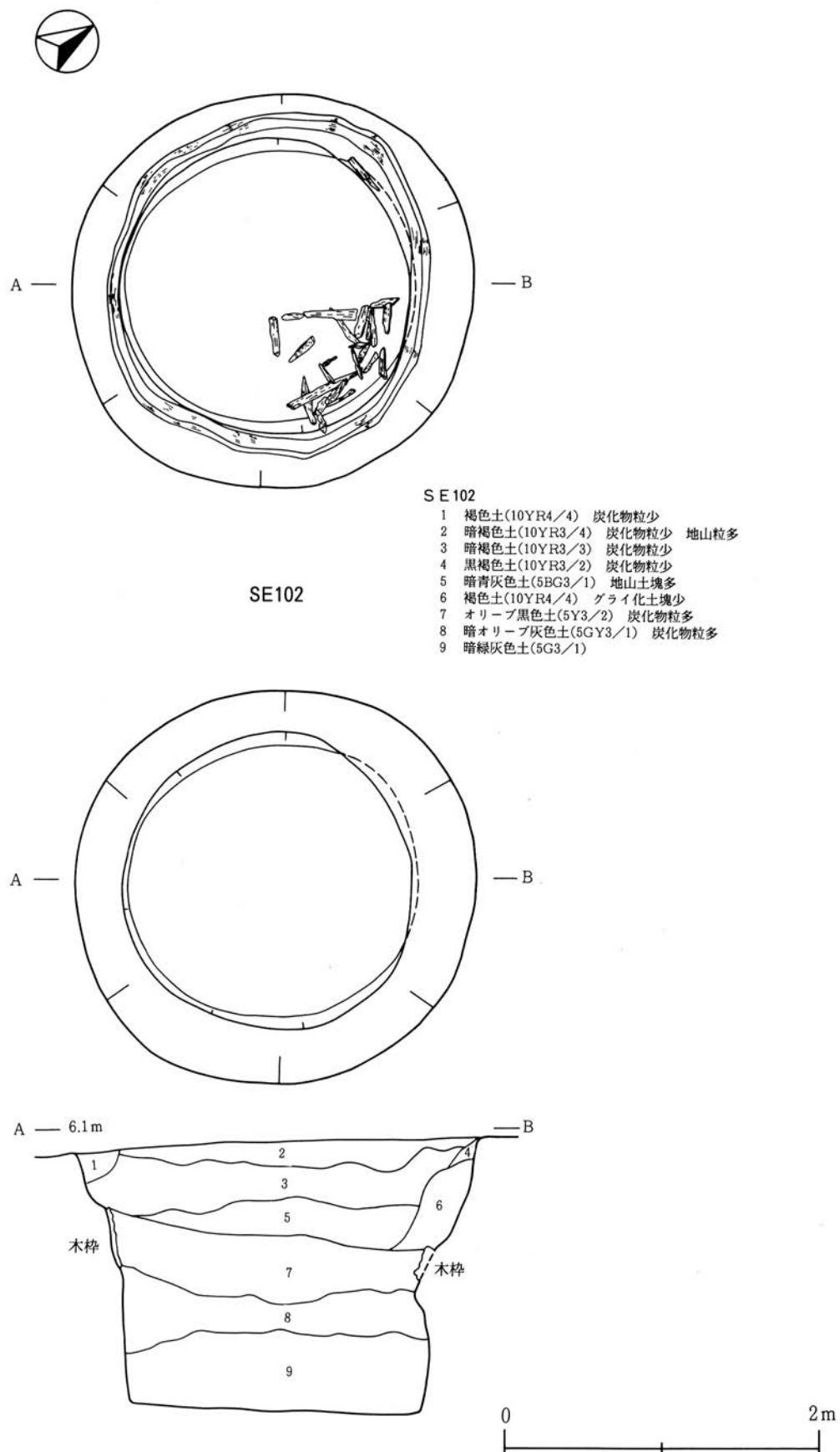
東側のL R・L S 49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が溝状に広がる。北西-南東方向に直線的に延びる。全長3.45m、最大幅0.65m、深さは0.1mである。断面形は摺鉢状に立ち上がる。遺物は



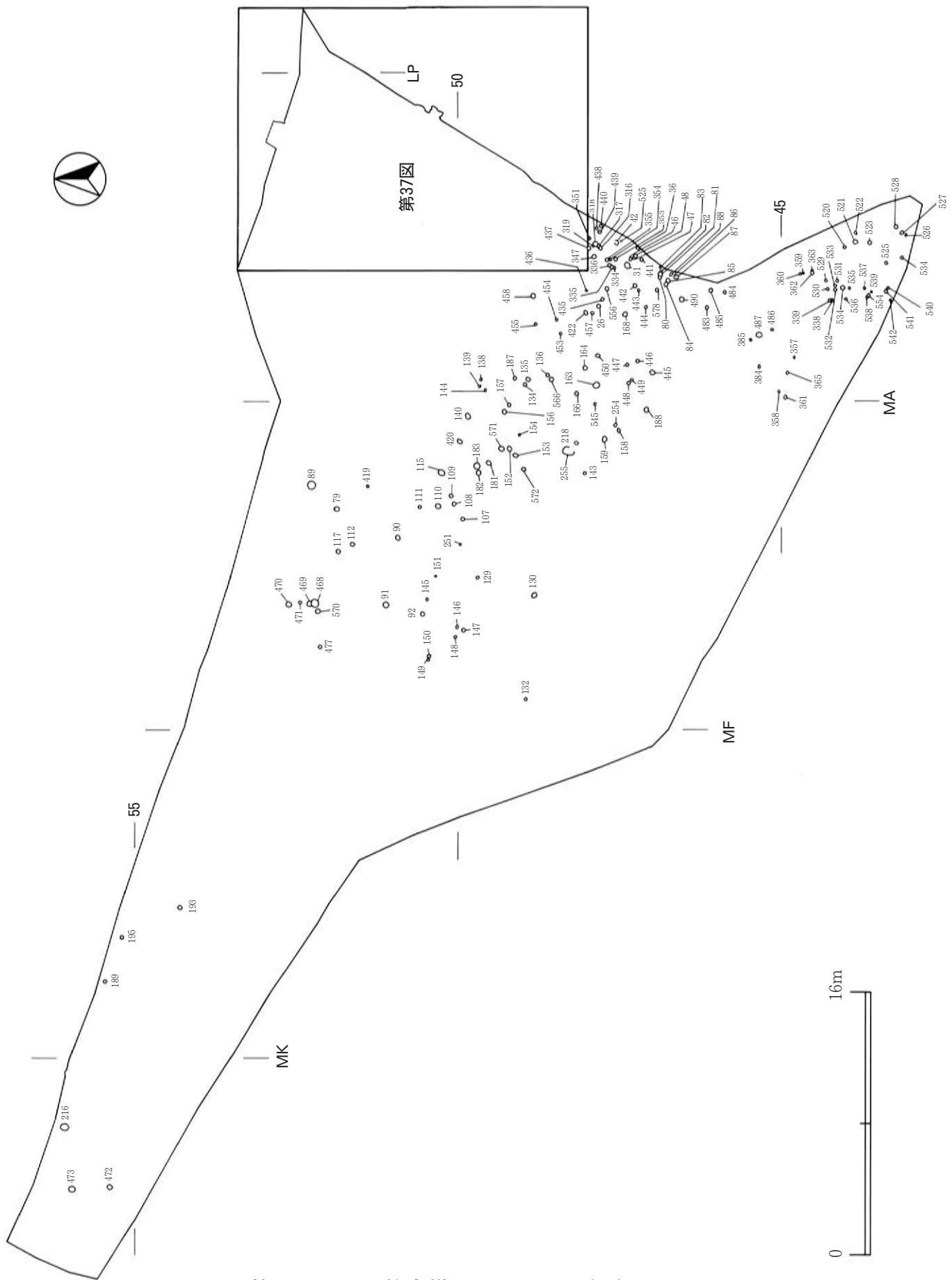
第33図 溝跡(5)



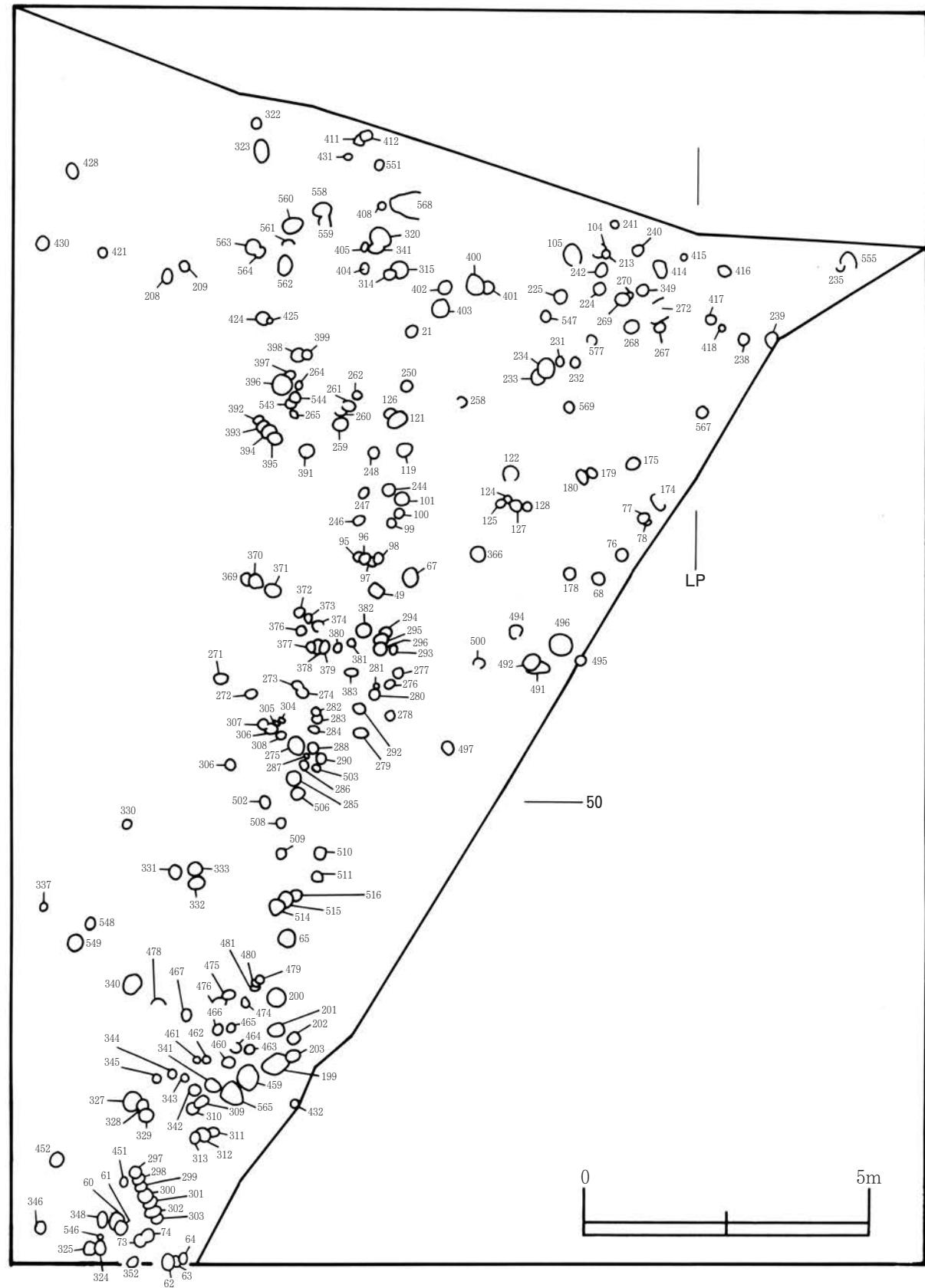
第34図 溝跡(6)



第35図 井戸跡(2)



第36図 C区柱穴様ピット配置図(1)



第37図 C区柱穴様ピット配置図(2)

開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
21	LQ52	円形	0.29	0.29	0.23	SK20を切る
26	LS47	隅丸方形	0.18	0.18	0.23	土師器出土
31	LR47	楕円形	0.43	0.25	0.33	
36	LR47	円形	0.17	0.17	0.10	
42	LR47	隅丸方形	0.22	0.20	0.06	SK30を切る 須恵器出土
46	LR47	円形	0.20	0.19	0.08	土師器出土
47	LR47	不整楕円形	0.21	0.15	0.15	SKP48に切られる
48	LR47	不整円形	0.25	0.23	0.21	SKP47を切る
49	LQ50	方形	0.20	0.20	0.28	
60	LR48	不整楕円形	0.32	0.22	0.21	SKP61に切られる
61	LR48	不整円形	0.24	0.23	0.32	SKP60を切る
62	LR48	楕円形	0.26	0.19	0.03	SKP63を切る 土師器出土
63	LR48	楕円形	0.20	0.11	0.15	SKP62・64に切られる 土師器出土
64	LR48	楕円形	0.22	0.13	0.12	SKP63を切る 土師器出土
65	LQ49	不整円形	0.35	0.30	0.17	SK32を切る
67	LQ50	円形	0.27	0.27	0.33	
68	LP50	円形	0.23	0.22	0.22	
73	LR48	円形	0.20	0.18	0.30	SKP74と切り合い関係
74	LR48	円形	0.22	0.20	0.17	SKP73と切り合い関係
76	LP51	円形	0.22	0.22	0.25	
77	LP51	不整楕円形	0.22	0.13	0.10	SKP78を切る
78	LP51	不整円形	0.12	0.12	0.10	SKP77に切られる
79	MB51	円形	0.25	0.25	0.07	
80	LS46	不整円形	0.22	0.24	0.10	SKP81を切る
81	LS46	不整楕円形	0.25	0.15	0.11	SKP80・82に切られる
82	LS46	不整円形	0.16	0.16	0.08	SK81に切られる
83	LS46	円形	0.12	0.12	0.16	
84	LS46	不整楕円形	0.26	0.22	0.11	SKP85を切る
85	LS46	隅丸方形	0.24	0.22	0.09	SKP84に切られる
86	LS46	不整円形	0.22	0.20	0.10	SKP87と切り合い関係
87	LS46	不整円形	0.24	0.20	0.11	SKP86と切り合い関係
88	LS46	楕円形	0.16	0.11	0.04	
89	MB52	不整円形	0.49	0.47	0.45	
90	MC50	不整楕円形	0.30	0.25	0.38	
91	MD51	円形	0.31	0.31	0.37	
92	MD50	不整楕円形	0.28	0.24	0.18	
95	LQ51	不整楕円形	0.25	0.15	0.18	SKP96に切られる
96	LQ51	不整楕円形	0.24	0.15	0.21	SKP95・97を切る
97	LQ51	不整楕円形	0.13	0.10	0.06	SKP96・98に切られる
98	LQ51	不整楕円形	0.21	0.15	0.07	SKP97を切る
99	LQ51	円形	0.15	0.15	0.13	
100	LQ51	不整円形	0.16	0.15	0.18	須恵器出土
101	LQ51	不整円形	0.24	0.23	0.19	土師器出土
104	LP52	不整楕円形	0.24	0.20	0.17	SK43、SKP213に切られる 鉄滓出土
105	LP52	不整楕円形	0.35	0.32	0.44	SK43を切る
107	MB49	不整円形	0.20	0.19	0.07	
108	MB50	円形	0.23	0.21	0.08	
109	MB50	円形	0.24	0.23	0.16	
110	MB50	不整楕円形	0.29	0.24	0.21	
111	MB50	不整楕円形	0.20	0.17	0.15	
112	MC51	円形	0.28	0.27	0.09	
115	MB50	不整円形	0.34	0.32	0.19	
117	MC51	楕円形	0.29	0.24	0.12	
119	LQ51	不整楕円形	0.26	0.22	0.19	
121	LQ51	不整楕円形	0.38	0.22	0.21	SKP126を切る 土師器出土
122	LP51	不整円形	0.26	0.26	0.43	SB581P13と切り合い関係
124	LP51	不整円形	0.15	0.15	0.23	SKP125に切られる
125	LP51	不整円形	0.16	0.15	0.21	SKP124を切る
126	LQ51	不整楕円形	0.21	0.17	0.13	SKP121に切られる
127	LP51	不整円形	0.21	0.18	0.23	
128	LP51	円形	0.17	0.16	0.12	土師器出土
129	MC49	楕円形	0.20	0.17	0.17	
130	MC48	楕円形	0.35	0.25	0.08	
132	ME48	円形	0.16	0.15	0.15	
134	LT48	円形	0.17	0.16	0.10	

第3表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(1)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
135	LT48	不整円形	0.24	0.23	0.11	
136	LT48	不整楕円形	0.22	0.20	0.13	
138	LT49	円形	0.14	0.14	0.05	
139	LT49	楕円形	0.18	0.14	0.11	
140	MC50	楕円形	0.41	0.30	0.15	
143	MB48	不整円形	0.16	0.15	0.09	
144	LT49	円形	0.20	0.19	0.38	
145	MD50	不整楕円形	0.22	0.18	0.19	
146	MD50	不整楕円形	0.22	0.19	0.17	
147	MD49	円形	0.18	0.17	0.17	SK192を切る
148	MD50	円形	0.15	0.15	0.30	
149	MD50	楕円形	0.19	0.16	0.20	
150	MD50	円形	0.10	0.10	0.11	
151	MC50	不整円形	0.32	0.31	0.14	
152	MA49	不整楕円形	0.30	0.25	0.25	土師器出土
153	MA49	円形	0.12	0.11	0.16	
154	MA49	不整楕円形	0.29	0.20	0.08	
156	MA49	不整楕円形	0.19	0.15	0.33	
157	MA47	楕円形	0.25	0.18	0.23	
158	MA47	不整円形	0.34	0.33	0.33	
159	MA47	円形	0.34	0.32	0.33	
163	LT47	不整円形	0.31	0.30	0.26	
164	LT48	不整楕円形	0.24	0.20	0.07	
166	LT48	不整楕円形	0.21	0.17	0.11	
168	LS47	不整楕円形	0.30	0.20	0.11	
174	LP51	不整楕円形	0.30	0.17	0.19	
175	LP51	不整円形	0.23	0.23	0.28	
178	LP50	円形	0.22	0.21	0.22	土師器出土
179	LP51	楕円形	0.23	0.16	0.08	
180	LP51	楕円形	0.26	0.17	0.08	
181	MA49	円形	0.25	0.25	0.14	土師器出土
182	MB49	隅丸方形	0.35	0.31	0.41	土師器出土
183	MA49	隅丸方形	0.38	0.34	0.31	
187	LT49	円形	0.18	0.17	0.17	
188	MA47	円形	0.28	0.27	0.21	
189	MI55	円形	0.24	0.24	0.15	
193	MH54	不整楕円形	0.25	0.25	0.12	
195	MI55	楕円形	0.24	0.22	0.12	
200	LQ49	不整楕円形	0.31	0.29	0.33	土師器出土
201	LQ49	不整楕円形	0.48	0.34	0.19	SK198を切る 土師器出土
202	LQ48	不整円形	0.27	0.22	0.08	SK197・198を切る 土師器出土
203	LQ48	円形	0.18	0.17	0.14	SK197を切る 土師器出土
208	LR52	不整楕円形	0.25	0.20	0.56	
209	LR52	円形	0.19	0.19	0.17	
213	LP52	円形	0.15	0.14	0.32	SKP104を切る
216	ML56	楕円形	0.53	0.39	0.11	
218	MA48	楕円形	0.29	0.22	0.28	SD160を切る
224	LP52	円形	0.21	0.21	0.13	土師器出土
225	LP52	円形	0.25	0.24	0.22	
227	LP52	不整楕円形	0.44	0.31	0.43	
231	LP51	隅丸方形	0.16	0.12	0.14	SK35に切られる
232	LP51	隅丸方形	0.18	0.16	0.09	SK35に切られる
233	LP51	楕円形	0.30	0.24	0.19	SKP234に切られる
234	LP51	円形	0.30	0.30	0.24	SK35、SKP233を切る
235	LO52	円形	0.16	0.16	0.38	SK33に切られる 土師器出土
238	LO52	楕円形	0.23	0.20	0.21	
239	LO48	不整楕円形	0.27	0.21	0.32	
240	LP52	不整楕円形	0.20	0.15	0.21	
241	LP52	円形	0.16	0.16	0.16	
242	LP52	不整楕円形	0.26	0.21	0.32	土師器出土
244	LQ51	不整円形	0.21	0.20	0.11	
246	LQ51	方形	0.21	0.16	0.12	
247	LQ51	方形	0.22	0.14	0.18	
248	LQ51	円形	0.18	0.18	0.26	
250	LQ51	不整円形	0.18	0.18	0.17	

第4表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(2)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
251	MC49	楕円形	0.14	0.10	0.13	
254	MA47	不整円形	0.19	0.19	0.09	
255	MA48	不整楕円形	0.74	0.48	0.25	土師器・内黒土師器出土
258	LQ51	不整円形	0.18	0.17	0.12	SB581P10に切られる
259	LQ51	不整円形	0.26	0.24	0.30	
260	LQ51	不整楕円形	0.28	0.24	0.15	SKP261、SB581P5に切られる
261	LQ51	不整楕円形	0.23	0.18	0.22	SKP260を切る SB581P5と切り合い関係
262	LQ51	不整円形	0.17	0.16	0.20	
264	LQ51	不整楕円形	0.17	0.14	0.17	
265	LQ51	不整楕円形	0.19	0.14	0.14	
267	LP52	円形	0.20	0.18	0.23	
268	LP52	楕円形	0.28	0.23	0.24	
269	LP52	不整円形	0.20	0.18	0.32	SKP270を切る
270	LP52	不整円形	0.15	0.15	0.06	SKP269に切られる
271	LR50	隅丸方形	0.24	0.17	0.17	
272	LQ50	楕円形	0.20	0.18	0.14	
273	LQ50	不整楕円形	0.17	0.15	0.12	
274	LQ50	不整円形	0.18	0.18	0.15	
275	LQ50	不整楕円形	0.35	0.28	0.37	土師器・鉄滓出土
276	LQ50	楕円形	0.22	0.17	0.07	
277	LQ50	不整円形	0.20	0.19	0.14	
278	LQ50	円形	0.19	0.16	0.14	
279	LQ50	楕円形	0.28	0.19	0.39	
280	LQ50	不整円形	0.20	0.17	0.14	
281	LQ50	円形	0.08	0.08	—	
282	LQ50	不整円形	0.17	0.17	0.34	SKP283を切る
283	LQ50	不整円形	0.18	0.17	0.21	SKP282に切られる
284	LQ50	楕円形	0.18	0.12	0.22	
285	LQ50	円形	0.25	0.25	0.40	土師器出土
286	LQ50	楕円形	0.17	0.15	0.14	
287	LQ50	不整楕円形	0.12	0.09	0.16	
288	LQ50	円形	0.22	0.20	0.22	
290	LQ50	隅丸方形	0.17	0.16	0.30	SKP503・SB581P1と切り合い関係
292	LQ50	楕円形	0.24	0.18	0.14	
293	LQ50	楕円形	0.18	0.12	0.06	土師器出土
294	LQ50	不整楕円形	0.24	0.20	0.39	SKP295に切られる
295	LQ50	不整楕円形	0.25	0.20	0.20	SKP296に切られ、SKP294を切る
296	LQ50	不整楕円形	0.24	0.20	0.28	SKP295を切る
297	LR48	不整円形	0.22	0.21	0.18	SKP298を切る 土師器出土
298	LR48	不整楕円形	0.25	0.20	0.06	SKP297に切られ、SKP299を切る
299	LR48	不整円形	0.25	0.24	0.06	SKP299に切られ、SKP300を切る
300	LR48	不整楕円形	0.25	0.15	0.15	SKP299に切られ、SKP301を切る
301	LR48	不整楕円形	0.21	0.10	0.05	SKP300に切られ、SKP302を切る
302	LR48	不整楕円形	0.30	0.20	0.12	SKP301に切られ、SKP303を切る
303	LR48	不整楕円形	0.35	0.31	0.11	SKP302に切られる
304	LQ50	楕円形	0.15	0.08	0.12	
305	LQ50	楕円形	0.12	0.09	0.08	
306	LQ50	隅丸方形	0.22	0.17	0.19	
307	LQ50	隅丸方形	0.18	0.16	0.14	
308	LQ50	円形	0.18	0.17	0.18	
309	LR48	不整楕円形	0.27	0.20	0.13	SKP310を切る
310	LR48	不整楕円形	0.25	0.18	0.14	SKP309に切られる
311	LR48	不整楕円形	0.25	0.12	0.16	SKP312を切る
312	LR48	不整楕円形	0.28	0.20	0.16	SKP311に切られ、SKP313を切る 土師器出土
313	LR48	不整楕円形	0.18	0.13	0.23	SKP312に切られる
314	LQ52	楕円形	0.23	0.18	0.19	SKP315を切る
315	LQ52	不整楕円形	0.32	0.26	0.39	SKP314に切られる 土師器出土
316	LR47	不整円形	0.25	0.25	0.12	SKP317に切られる
317	LR47	不整円形	0.28	0.28	0.17	SKP318に切られ、SKP316を切る
318	LR47	不整円形	0.22	0.22	0.30	SKP317・319を切る
319	LR47	隅丸方形	0.13	0.10	0.10	SKP318に切られる 土師器出土
320	LQ52	不整楕円形	0.38	0.32	0.12	SKP321を切る
321	LQ52	不整楕円形	0.25	0.20	0.16	SKP320に切られる
322	LQ52	円形	0.19	0.19	0.12	
323	LQ52	隅丸方形	0.40	0.25	0.43	

第5表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(3)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
324	LR48	不整楕円形	0.25	0.22	0.25	SKP325を切る
325	LR48	不整円形	0.20	0.20	0.11	SKP324に切られる
326	LR50	不整円形	0.17	0.17	0.21	SKP328に切られる
327	LR48	不整円形	0.40	0.40	0.16	SKP328に切られる
328	LR48	不整楕円形	0.30	0.25	0.26	SKP329に切られ、SKP327を切る 須恵器出土
329	LR48	不整楕円形	0.30	0.25	0.15	SKP328を切る
330	LR48	円形	0.15	0.15	0.13	
331	LR49	円形	0.25	0.25	0.08	
332	LR49	不整楕円形	0.28	0.20	0.21	
333	LR49	円形	0.25	0.24	0.20	
334	LS48	不整円形	0.22	0.20	0.12	SKP335に切られる
335	LS48	不整円形	0.30	0.30	0.23	SKP336に切られ、SKP334を切る
336	LS48	不整楕円形	0.21	0.20	0.12	SKP335を切る
337	LR49	円形	0.12	0.12	0.16	
338	LS44	隅丸方形	0.20	0.14	0.08	SKP339と切り合い関係
339	LS44	隅丸方形	0.18	0.17	0.15	SKP338と切り合い関係
340	LR49	不整円形	0.35	0.33	0.29	土師器出土
341	LR48	円形	0.13	0.12	0.09	土師器出土
342	LR48	円形	0.20	0.20	0.25	土師器出土
343	LR48	円形	0.15	0.15	0.15	
344	LR48	不整楕円形	0.15	0.13	0.09	
345	LR44	不整円形	0.16	0.15	0.10	
346	LR48	不整円形	0.20	0.20	0.18	内黒土師器出土
347	LR47	不整楕円形	0.18	0.14	0.16	
348	LR48	楕円形	0.26	0.16	0.19	
349	LP52	不整円形	0.21	0.19	0.18	SK222に切られる
351	LR47	楕円形	0.11	0.09	0.08	
352	LR48	不整楕円形	0.23	0.16	0.17	
353	LR48	円形	0.21	0.21	0.20	土師器出土
354	LS48	楕円形	0.16	0.12	0.15	
355	LS48	不整円形	0.18	0.17	0.13	
357	LT44	楕円形	0.15	0.08	0.17	
358	LT45	不整楕円形	0.12	0.10	0.10	
359	LS44	不整楕円形	0.15	0.10	0.11	
360	LS44	不整楕円形	0.22	0.14	0.10	
361	LT44	不整楕円形	0.24	0.16	0.15	
362	LS44	不整楕円形	0.21	0.20	0.22	SKP363を切る
363	LS44	不整楕円形	0.14	0.13	0.09	SKP362に切られる
364	LP51	円形	0.27	0.24	0.29	
365	LT44	不整円形	0.14	0.14	0.09	
369	LQ50	不整楕円形	0.23	0.17	0.07	SKP370に切られる
370	LQ50	不整円形	0.26	0.25	0.23	SKP369を切る
371	LQ50	楕円形	0.30	0.24	0.12	
372	LQ50	円形	0.19	0.18	0.27	
373	LQ50	楕円形	0.17	0.14	0.16	
374	LQ50	不整円形	0.20	0.20	0.22	SB581P2と切り合い関係
376	LQ50	円形	0.18	0.17	0.22	
377	LQ50	不整円形	0.21	0.20	0.30	SKP378を切る
378	LQ50	不整楕円形	0.22	0.20	0.19	SKP377・379に切られる
379	LQ50	不整楕円形	0.25	0.13	0.21	SKP378を切る
380	LQ50	円形	0.14	0.13	0.20	
381	LQ50	円形	0.16	0.15	0.11	
382	LQ50	隅丸方形	0.26	0.26	0.14	
383	LQ50	楕円形	0.22	0.14	0.24	
384	LT45	隅丸方形	0.17	0.17	0.21	
385	LT45	不整円形	0.14	0.12	0.05	土錐出土
391	LQ51	円形	0.25	0.25	0.28	
392	LQ51	不整円形	0.15	0.15	0.25	SKP393に切られる
393	LQ51	不整楕円形	0.24	0.23	0.21	SKP394に切られ、SKP392を切る
394	LQ51	不整楕円形	0.30	0.25	0.21	SKP395に切られ、SKP393を切る
395	LQ51	不整楕円形	0.28	0.21	0.31	SKP394を切る
396	LQ51	不整円形	0.38	0.33	0.24	SKP397を切る
397	LQ51	不整楕円形	0.22	0.20	0.22	SKP396に切られる
398	LQ51	不整円形	0.25	0.23	0.37	SKP399に切られる
399	LQ51	不整楕円形	0.20	0.18	0.22	SKP398を切る

第6表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(4)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
400	LP52	不整橢円形	0.29	0.27	0.31	SKP401を切る 須恵器出土
401	LP52	不整円形	0.20	0.19	0.10	SKP400に切られる
402	LQ52	不整円形	0.23	0.22	0.22	土師器出土 根固石あり
403	LQ52	円形	0.33	0.30	0.26	須恵器出土
404	LQ52	不整円形	0.17	0.16	0.19	
405	LQ52	不整橢円形	0.16	0.14	0.11	
408	LQ52	不整円形	0.13	0.12	0.15	土師器出土
411	LQ52	不整橢円形	0.22	0.20	0.19	
412	LQ52	不整橢円形	0.22	0.20	0.22	土師器出土
414	LP52	不整橢円形	0.32	0.20	0.22	
415	LP52	不整円形	0.12	0.12	0.09	
416	LO52	橢円形	0.24	0.20	0.12	
417	LO52	隅丸方形	0.18	0.17	0.08	土師器出土
418	LO52	円形	0.14	0.14	0.08	
419	MB51	隅丸方形	0.25	0.22	0.21	
420	MA49	隅丸方形	0.23	0.15	0.16	土師器出土
421	LR52	不整円形	0.15	0.15	0.13	
422	LS48	不整橢円形	0.26	0.21	0.13	
424	LQ52	不整円形	0.24	0.23	0.37	SKP424に切られる 土師器出土
425	LQ52	不整橢円形	0.10	0.07	0.06	SKP425を切る
428	LR52	隅丸方形	0.26	0.21	0.18	
430	LR52	不整橢円形	0.23	0.21	0.18	
431	LQ52	隅丸方形	0.15	0.10	0.11	
432	LQ49	円形	0.15	0.15	0.25	
435	LS47	橢円形	0.20	0.15	0.14	
436	LS47	橢円形	0.20	0.15	0.16	
437	LR47	橢円形	0.18	0.15	0.13	
438	LR47	隅丸方形	0.18	0.14	0.07	
439	LR47	橢円形	0.16	0.14	0.12	
440	LR47	隅丸方形	0.20	0.17	0.24	土師器出土
441	LR44	隅丸方形	0.22	0.15	0.18	
442	LS47	橢円形	0.24	0.19	0.15	
443	LS47	隅丸方形	0.17	0.11	0.13	
444	LS47	隅丸方形	0.16	0.15	0.16	
445	LT46	隅丸方形	0.24	0.22	0.22	
446	LT47	隅丸方形	0.20	0.19	0.19	
447	LT47	橢円形	0.18	0.14	0.11	
448	LT47	方形	0.21	0.20	0.17	
449	LT47	円形	0.15	0.15	0.15	
450	LT47	隅丸方形	0.16	0.14	0.14	
451	LR48	円形	0.15	0.14	0.10	
452	LR48	隅丸方形	0.22	0.22	0.20	
453	LS48	隅丸方形	0.12	0.11	0.12	
454	LS48	隅丸方形	0.12	0.16	0.13	
455	LS46	円形	0.10	0.10	0.10	
457	LS47	不整橢円形	0.16	0.16	0.14	
458	LS48	隅丸方形	0.21	0.18	0.12	
459	LQ48	不整橢円形	0.44	0.37	0.07	土師器出土
460	LR48	隅丸方形	0.22	0.20	0.10	
461	LR48	隅丸方形	0.15	0.12	0.09	
462	LR48	橢円形	0.14	0.12	0.08	
463	LQ48	隅丸方形	0.18	0.15	0.16	
464	LR48	不整円形	0.16	0.15	0.15	土師器出土
465	LR49	円形	0.17	0.15	0.07	
466	LR49	円形	0.19	0.18	0.08	
467	LR49	隅丸方形	0.19	0.19	0.10	土師器出土
468	MD52	不整円形	0.50	0.50	0.47	SKP469を切る
469	MD52	方形	0.40	0.30	0.27	SKP468に切られる
470	MD52	不整橢円形	0.40	0.35	0.23	
471	MD52	不整橢円形	0.22	0.20	0.14	
472	ML55	隅丸方形	0.39	0.33	0.34	
473	ML55	不整円形	0.36	0.36	0.20	
474	LQ49	隅丸方形	0.18	0.08	0.14	土師器出土
475	LR49	不整橢円形	0.20	0.17	0.24	SKP476を切る 土師器・炉壁・鉄滓出土
476	LR49	不整円形	0.23	0.22	0.19	SKP475に切られる 土師器出土

第7表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(5)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
477	MD52	不整円形	0.25	0.25	0.16	
478	LR49	不整楕円形	0.35	0.25	0.21	
479	LQ49	隅丸方形	0.15	0.11	0.19	SKP480を切る 土師器・鉄滓出土
480	LQ49	円形	0.13	0.13	0.19	SKP479に切られ、SKP481を切る
481	LQ49	隅丸方形	0.16	0.14	0.13	SKP480に切られる 土師器出土
483	LS46	不整円形	0.20	0.20	0.33	土師器出土
484	LS45	隅丸方形	0.16	0.15	0.33	土師器出土
485	LS46	隅丸方形	0.24	0.16	0.23	
486	LS45	隅丸方形	0.18	0.17	0.15	
487	LS45	不整円形	0.38	0.30	0.27	
490	LS46	隅丸方形	0.26	0.25	0.18	
491	LP50	不整円形	0.37	0.30	0.09	SKP492、SS18に切られる
492	LP50	不整円形	0.30	0.26	0.27	SKP491を切る
494	LP50	楕円形	0.27	0.24	0.23	SB580P4と切り合い関係 土師器・鉄滓出土
495	LP50	楕円形	0.20	0.17	0.24	
496	LP50	隅丸方形	0.44	0.36	0.24	
497	LQ50	隅丸方形	0.25	0.18	0.25	
500	LP50	不整円形	0.20	0.20	0.19	
502	LQ50	隅丸方形	0.18	0.15	0.21	
503	LQ50	円形	0.16	0.16	0.16	SKP290と切り合い関係
506	LQ50	円形	0.24	0.23	0.28	土師器・鉄滓出土
508	LQ49	隅丸方形	0.17	0.16	0.23	
509	LQ49	隅丸方形	0.16	0.16	0.30	土師器・鉄滓出土
510	LQ49	隅丸方形	0.18	0.18	0.18	土師器出土
511	LQ49	隅丸方形	0.18	0.16	0.26	土師器・鉄滓出土
514	LQ49	隅丸方形	0.22	0.21	0.32	SKP515を切る 炉壁・鉄滓出土
515	LQ49	隅丸方形	0.24	0.22	0.19	SKP514に切られ、SKP516を切る 鉄滓出土
516	LQ49	隅丸方形	0.27	0.27	0.13	SKP515に切られる 鉄滓出土
520	LR44	方形	0.15	0.15	0.21	
521	LR43	楕円形	0.30	0.18	0.18	
522	LR43	不整円形	0.16	0.16	0.12	
523	LR43	円形	0.18	0.17	0.11	
524	LR43	隅丸方形	0.18	0.15	0.13	
525	LR43	方形	0.15	0.15	0.15	
526	LR43	楕円形	0.15	0.10	0.10	
527	LR43	楕円形	0.20	0.16	0.17	
528	LR43	方形	0.17	0.17	0.05	
529	LS44	楕円形	0.15	0.11	0.12	
530	LS44	楕円形	0.17	0.15	0.13	
531	LS44	隅丸方形	0.14	0.14	0.22	
532	LS44	不整楕円形	0.25	0.23	0.17	
533	LS44	隅丸方形	0.17	0.17	0.12	
534	LS44	隅丸方形	0.25	0.21	0.22	
535	LS43	楕円形	0.16	0.15	0.15	
536	LS44	楕円形	0.16	0.13	0.15	
537	LS43	楕円形	0.17	0.13	0.20	
538	LS43	不整楕円形	0.20	0.13	0.16	SKP554と切り合い関係
539	LS43	円形	0.10	0.09	0.07	
540	LS43	不整円形	0.14	0.14	0.12	
541	LS43	不整円形	0.25	0.25	0.20	
542	LS43	楕円形	0.18	0.15	0.23	
543	LQ51	不整楕円形	0.25	0.20	0.29	SKP544に切られる
544	LQ51	不整楕円形	0.25	0.18	0.30	SKP543を切る
545	MA47	不整楕円形	0.15	0.12	0.07	
546	LR48	円形	0.12	0.12	0.08	
547	LP52	楕円形	0.18	0.15	0.25	
548	LR49	楕円形	0.21	0.15	0.18	
549	LR49	円形	0.28	0.27	0.36	
551	LQ52	不整楕円形	0.20	0.16	0.12	
552	LR47	不整円形	0.13	0.12	0.18	SK29に切られる
554	LS43	不整円形	0.21	0.21	0.18	SKP538と切り合い関係
555	LO52	隅丸方形	0.32	0.26	0.27	SK33に切られる SKP235と切り合い関係
556	LS47	円形	0.26	0.25	0.15	SK22と切り合い関係
557	LQ52	円形	0.16	0.14	0.42	SK19と切り合い関係
558	LQ52	隅丸方形	0.30	0.23	0.25	SKP559と切り合い関係

第8表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(6)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
559	LQ52	方形	0.20	0.20	0.19	SK3に切られる SKP558と切り合い関係
560	LQ52	不整円形	0.37	0.30	0.25	
561	LQ52	楕円形	0.20	0.15	0.07	
562	LQ52	楕円形	0.36	0.25	0.15	SK38と切り合い関係
563	LQ52	円形	0.26	0.25	0.13	SKP564と切り合い関係
564	LQ52	不整円形	0.22	0.18	0.15	SKP563と切り合い関係
565	LR48	不整円形	0.45	0.42	0.24	
566	LT48	不整円形	0.24	0.18	0.27	
567	LO51	円形	0.20	0.20	0.20	
568	LQ52	不整楕円形	0.52	0.32	0.31	
569	LP51	円形	0.20	0.14	0.14	
570	MD52	楕円形	0.26	0.21	0.14	
571	MA49	円形	0.32	0.30	0.24	
572	MB48・49	不整円形	0.24	0.21	0.13	
577	LP51	円形	0.28	0.24	0.13	SK35に切られる
578	LS46	円形	0.24	0.24	0.20	SK58を切る

第9表 開防遺跡C区柱穴様ピット一覧(7)

出土しなかった。

(10)柱穴様ピット(第36・37図、第3~9表)

調査区の東側に集中しているが、特にD区と隣接する区域に目立って検出された。出土遺物や覆土の特徴から平安時代もしくはそれ以前と考えられる。

2 中世以降

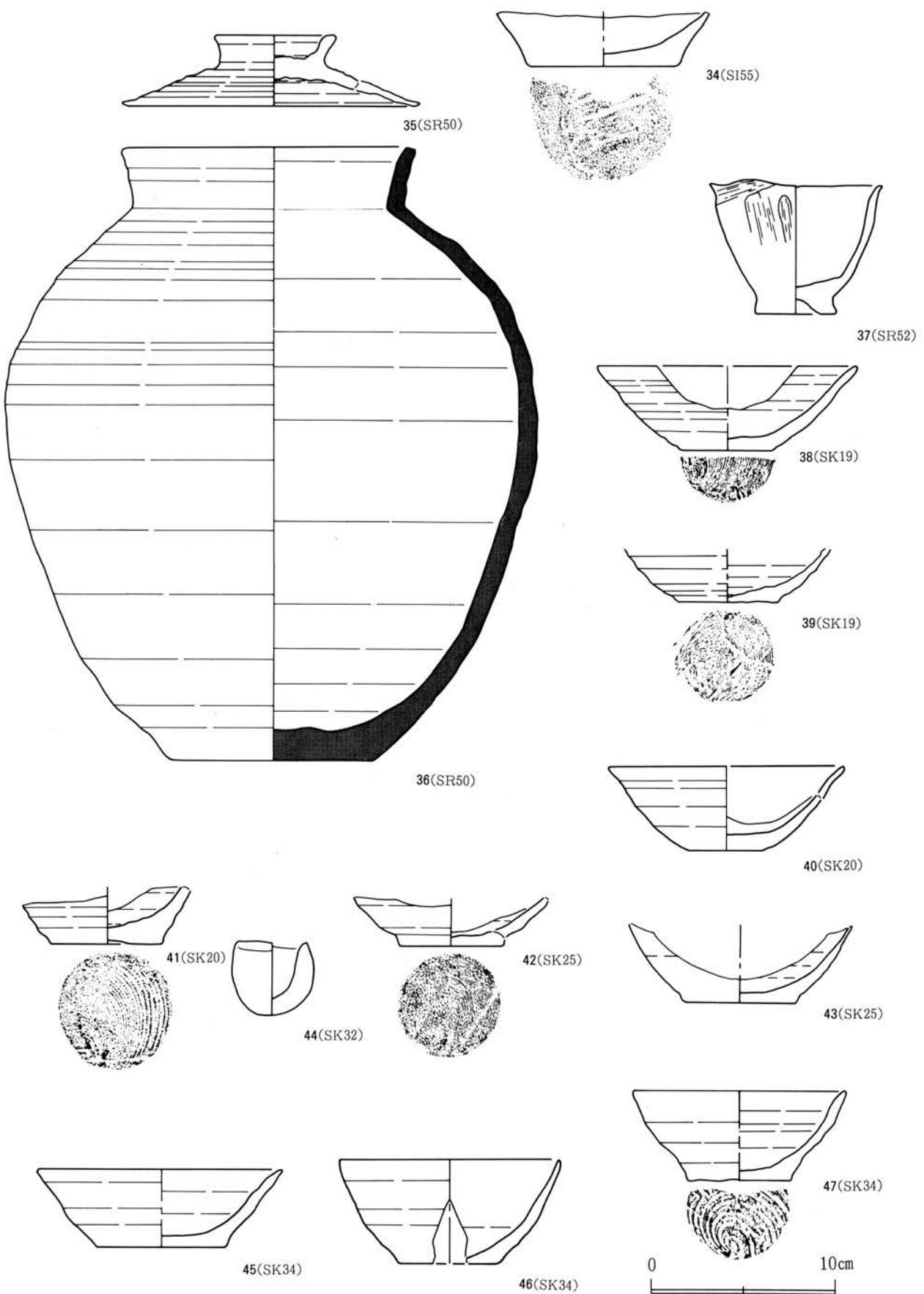
(1)井戸跡

S E 102(第35図、図版11-7・8)

南東側のL S 44・45、L T 44グリッドに位置する。確認面は層で褐色・暗褐色土が円形に広がる。掘り方の上面形は長軸2.65m、短軸2.55mの略円形で、深さは1.75mである。断面形状は上位が湾曲した壁をなし、中位から下位が柱状を呈する。掘り形の中位上端には、筒形の壁に沿って竹をタガ状にはめ込む。遺物は土師器が数多く出土した他、須恵器11点、陶磁器6点、鉄製品2点、箸等の木製品30点が出土した。

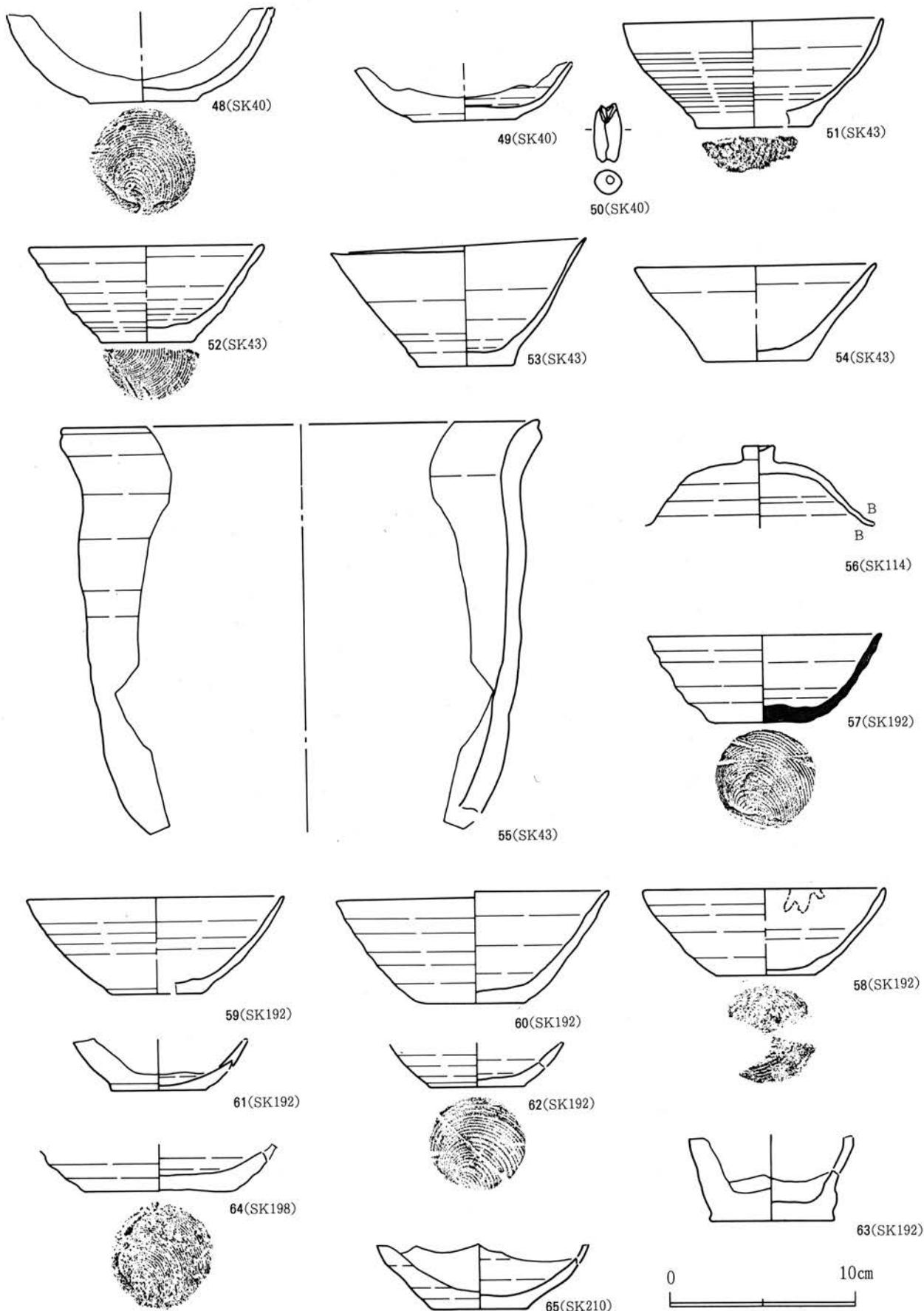
## 第2節 遺構外出土遺物(第41図)

遺物は全域から出土したが、主なものを掲載した。78は須恵器、79~97は土師器、98は土錘である。78は長頸瓶の頸部で口縁端部が外傾する。81は有台坏で低い高台が付く。底面の切り離しは静止糸切りと考えられる。79・80・82~94は坏で、いずれも内湾もしくは直線的に立ち上がる。切り離しは、79・80、82~92は右回転クロクロの糸切りである。95~97は甌の底部で、95・96は底面付近が張り出している。96は砂底土器である。97の切り離しは、右回転クロクロの糸切りである。

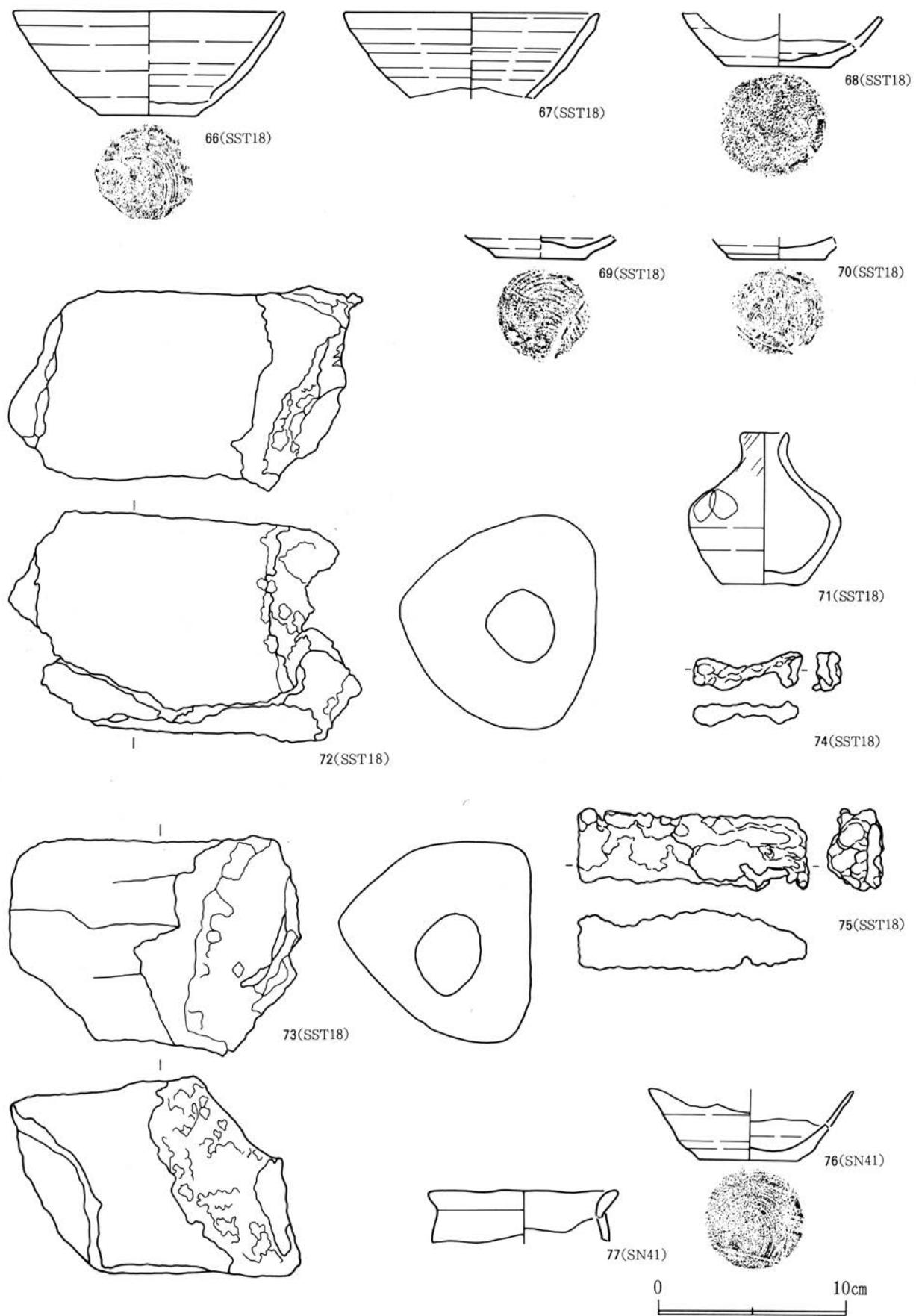


第38図 遺構内出土遺物(3)

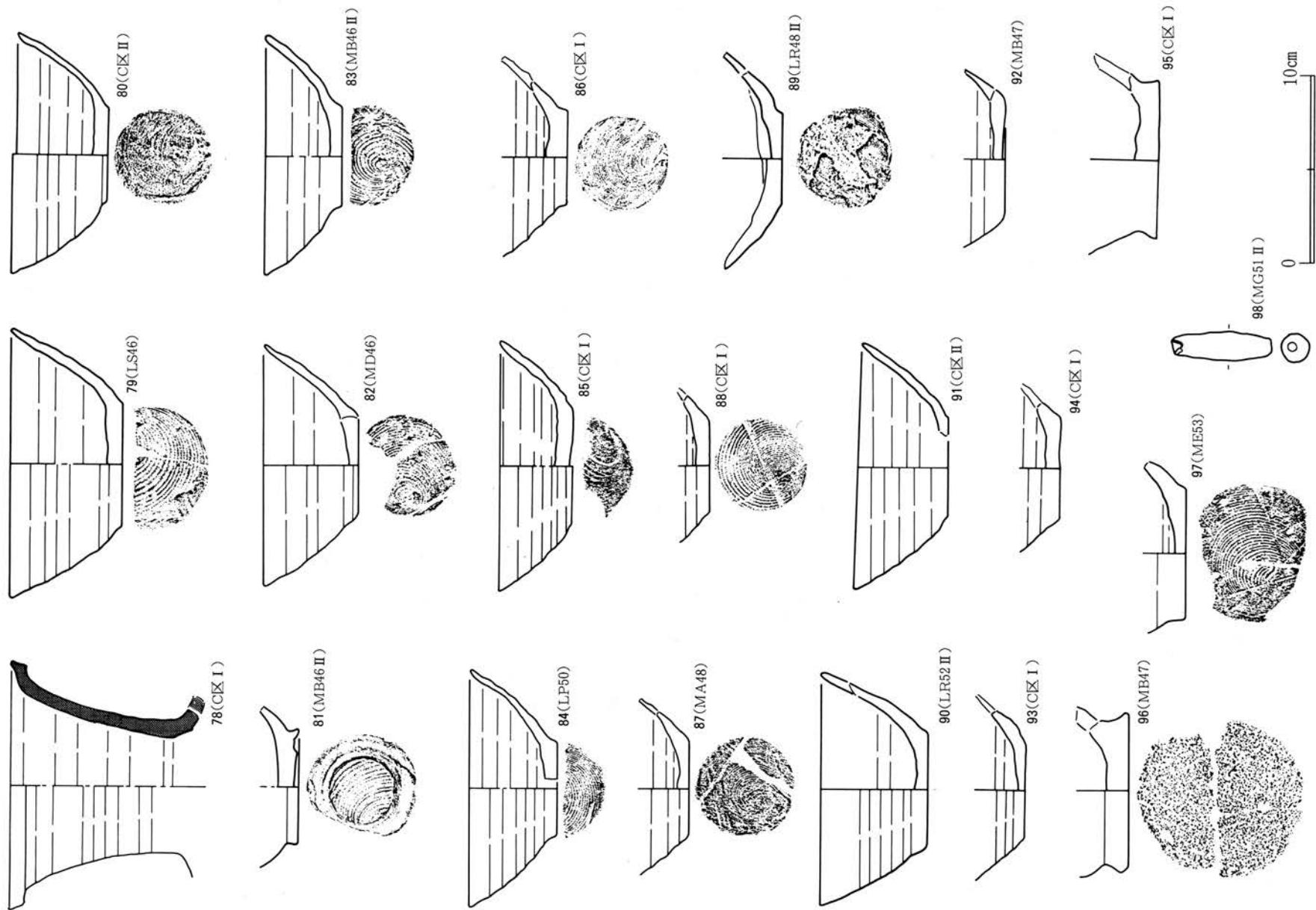
開防遺跡



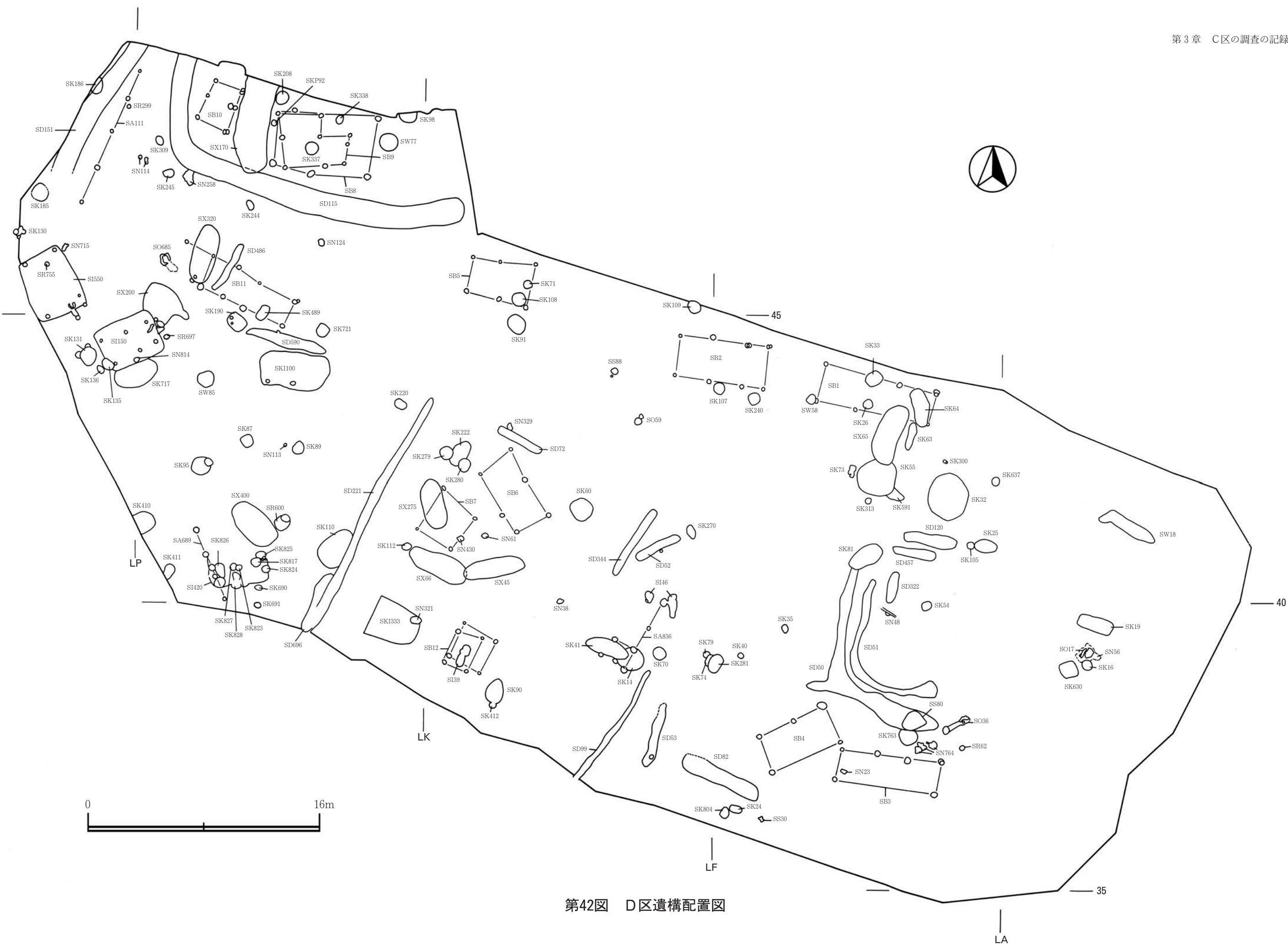
第39図 遺構内出土遺物(4)



第40図 遺構内出土遺物(5)



第41図 遺構外出土遺物(2)



第42図 D区遺構配置図

## 第4章 D区の調査の記録

### 第1節 検出遺構と出土遺物

D区から検出された遺構は堅穴住居跡5軒、堅穴状遺構2基、掘立柱建物跡12棟、柱穴列3列、土器埋設遺構5基、土坑78基、鍛冶炉3基、炭焼成遺構4基、カマド状遺構4基、焼土遺構15基、溝跡17条、柱穴様ピット521基、性格不明遺構8基である。

#### 1 古代

##### (1) 堅穴住居跡

S I 39(第43・79図、図版12-1)

中央やや南西側のL J 38・39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で当初はカマドのみを検出し、その後柱穴を検出した。著しい削平のため残存状況は悪いが、住居跡と関連すると考えられる柱穴4基を検出した。S B 12と重複するが新旧関係は不明である。カマドは長軸1.6m、短軸0.65mで、煙道部分は長さ0.85m、幅0.5mである。火床面は強く焼けていた。最も大きなP 1は長軸0.35m、短軸0.3m、深さは0.3mである。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器が3点出土した。99・100は須恵器の壺、101～103は土師器の壺(101)と甕(102・103)である。99・100は底径が大きく、内湾もしくは直線的に立ち上がる。切り離しは回転ヘラ切りである。101は非ロクロである。底部は平底風の丸底で、中央に稜をもち、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。全体に焼成が不良で、内面はヘラミガキ、外面底部にはヘラケズリを施す。推定口径15.2cm、器高6.4cmである。102は口縁部が短く外傾しロクロで調整する。103は外面に縦位のカキ目を施す。

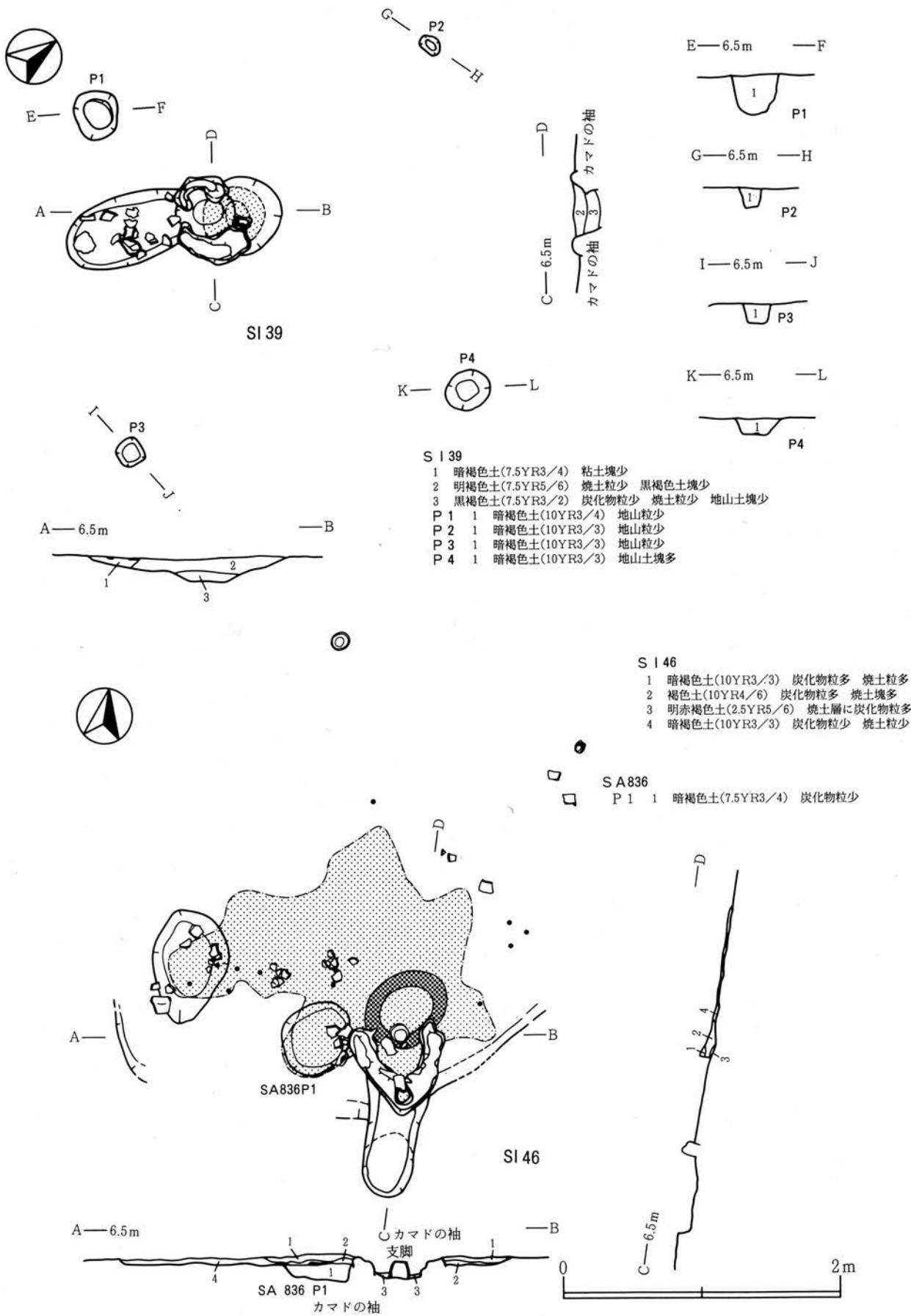
S I 46(第43・79図、図版12-2)

中央のL F 39・40、L G 39・40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で焼土混じりの暗褐色土が、煙道と推定された溝状プランとその南西隅の三角形状のプランとして広がる。著しい削平のため残存状況は悪いが、カマドと焼土の分布範囲を検出した。S A 836と重複しそれより古い。カマドは長軸1.65m、短軸0.65mで、煙道部分は長さ0.6m、幅0.4mである。火床面は強く焼けており支脚が設置されていた。カマドに接した焼土の広がりは、長軸2.4m、短軸1.8mである。遺物は須恵器7点、土師器38点、土製品1点が出土した。104～107は須恵器の有台壺(104)と壺、108・109は土師器の甕である。壺は内湾もしくは直線的に立ち上がる。切り離しは104・105が右回転ロクロの糸切り、106・107がヘラ切りである。108は完形だが雑な作りで、胴部には粗い縦位のヘラケズリを施す。口径12.8cm、底径9.8cm、器高12.6cmである。

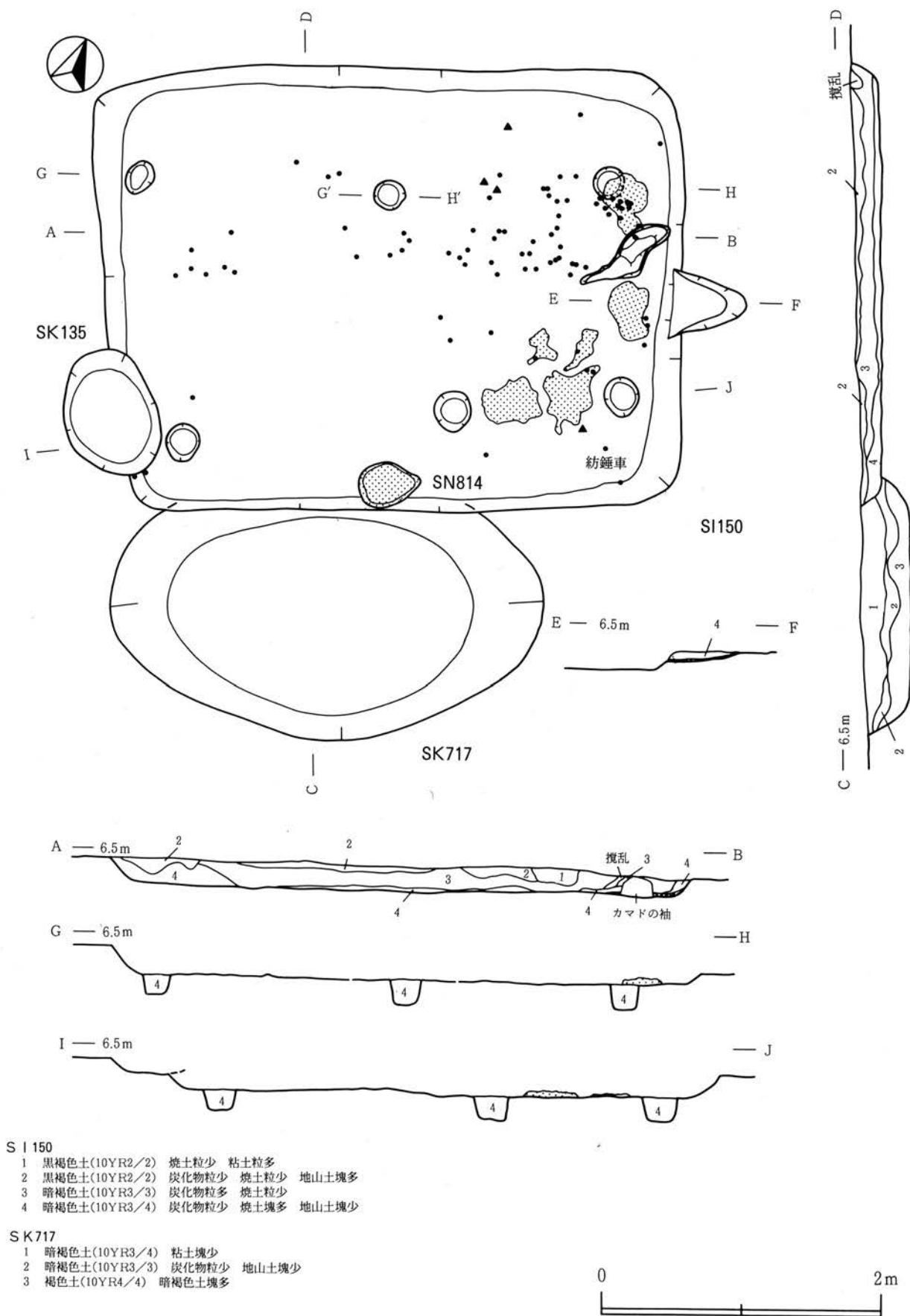
S I 150(第44・79図、12-3・4)

西側のL O 44・45、L P 44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が方形に広がる。S K 135・S K 717・S N 814・S X 200と重複し、S K 717・S X 200より新しくS K 135より古い。上面形は長辺4.1m、短辺2.8mの隅丸長方形で、深さは0.2mである。東壁の中央に、長さ0.5m、幅0.4mの煙道をもつカマドが付設する。柱穴は6基存在し、住居の長辺やや内側に沿って3基ずつ直線上に並ぶ。床面はほぼ平坦で壁はやや急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器4点、土製品1点、礫1点が出土した。110～115は土師器の壺と甕(115)、116は土製の紡錘車、117は砥石である。壺は内湾して立ち上

開防遺跡



第43図 竪穴住居跡(2)



第44図 積穴住居跡(3)

## 開防遺跡

がり、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。紡錘車は直径7.7cm、厚さ1.5cm、穿孔部径1cmである。117には3つの砥面がある。

### S I 420(第45・80図、図版12-5)

南西側のLM・LN40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が多くピットや土坑等と重複する。SK815・SK817・SK827・SK828と重複し、SK828より新しくSK815・SK827・SK817・SX400等よりも古い。削平が著しく残存状況は悪い。上面形は1辺3.8mの方形と推測され、深さは0.2mである。南側壁の中央付近に煙道の短いカマドが付設する。南側隅とカマド付近に柱穴が認められた。床面に緩い凹凸があり壁はやや急傾斜で立ち上がる。床面には焼土ブロックがほぼ全体に広がる。遺物は土師器が多量に出土した。118～128は土師器で118～127が壊、128が甕である。壊は内湾ぎみに立ち上がり、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。甕はロクロで仕上げてある。

### S I 550(第46・80・81図、図版12-6)

西側のLP45、LQ44～46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐・暗褐色土が方形に広がる。SR755・SKP756・SKP757と重複し、SR755・SKP756より古くSKP758よりも新しい。上面形は長辺4.5m、短辺3.2mの隅丸長方形で、深さは0.2mである。南東壁の東寄りに長さ0.8m、幅0.3mの長い煙道をもつカマドが付設する。住居跡の4隅の近くにそれぞれ柱穴がある。カマド付近が一部貼床になっていた。床面は北西から南東にかけて緩く傾斜し、壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器7点、土師器38点、土錐14点が出土した。129～137は土師器で129～133は壊、134が羽釜、135～137が甕、138～151は土錐である。壊の切り離しは、右回転ロクロの糸切りである。羽釜は小型でロクロで仕上げてある。136の甕は粗い作りで135・137はロクロで仕上げてある。土錐は長さ2.8～3.8cm、穿孔部の径は0.2～0.4cmである。いずれも両端に比べて中央部がやや膨らむ。

### (2) 積穴状遺構

#### SK I 100(第47・81図、図版12-7)

西側のLL43・44、LM43・44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が橢円形に広がる。上面形は長軸4.7m、短軸2.6mの不整橢円形で、深さは0.25mである。中央南側の壁際にP1・P2のピットがある。P1は長軸0.34m、短軸0.26m、深さ0.25mの橢円形、P2は長軸0.18m、短軸0.17m、深さ0.09mの円形である。床面の中央部が最も深く壁まで緩く傾斜し、壁はやや急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器3点、土錐1点が出土した。152は土錐で両端が僅かに欠損する。

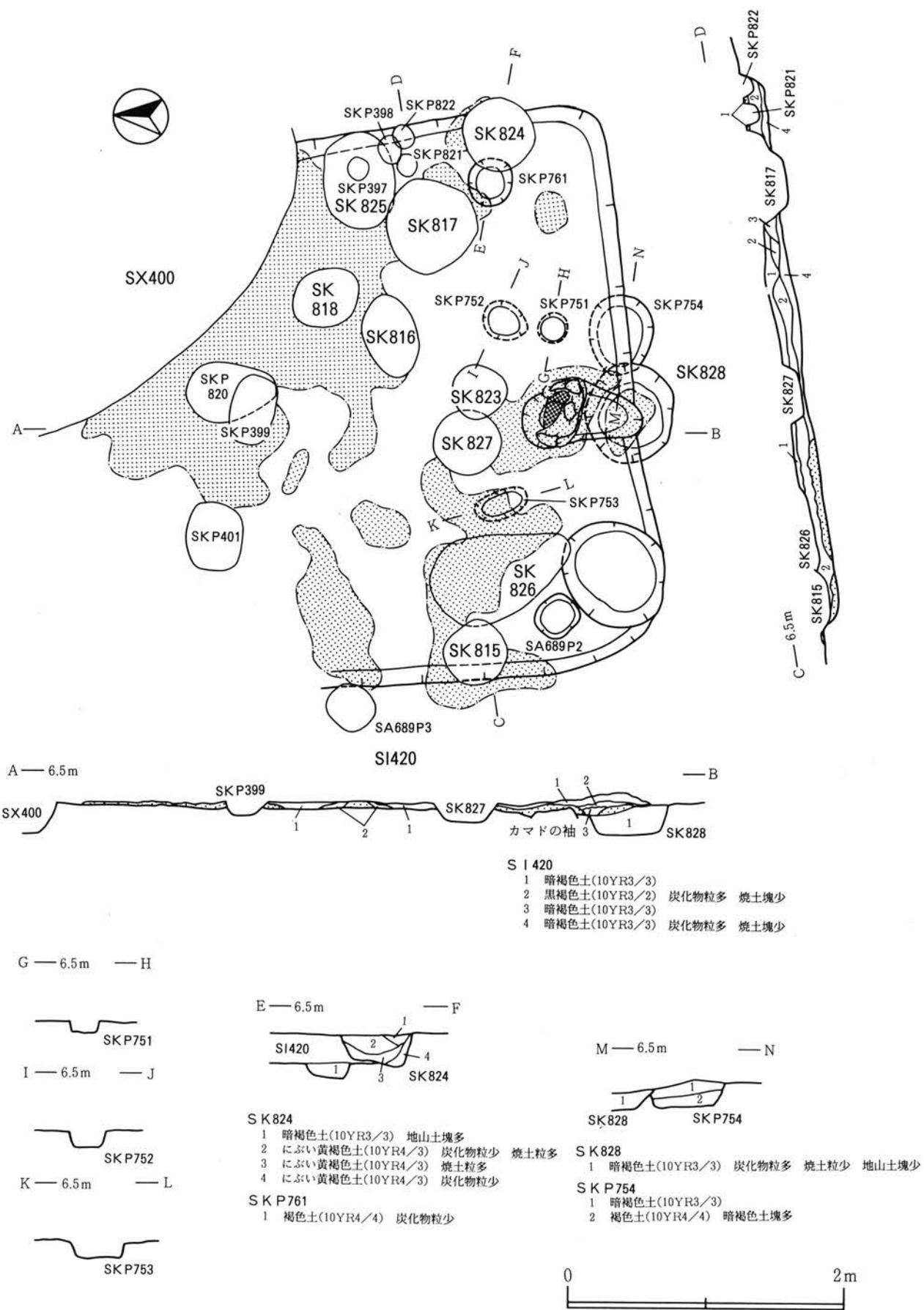
#### SK I 333(第47図、図版12-8)

南西側のLK39・40、LL39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が半橢円形に広がる。西側は搅乱を受けて失われる。SN321と重複しそれより古い。床面に焼土ブロックを検出したが、カマドは確認できなかった。上面形は長軸3.3m以上、短軸2.9m以上の半橢円形で、深さは0.25mである。底面は凹凸があり壁に向かって緩く傾斜し、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器が3点出土した。

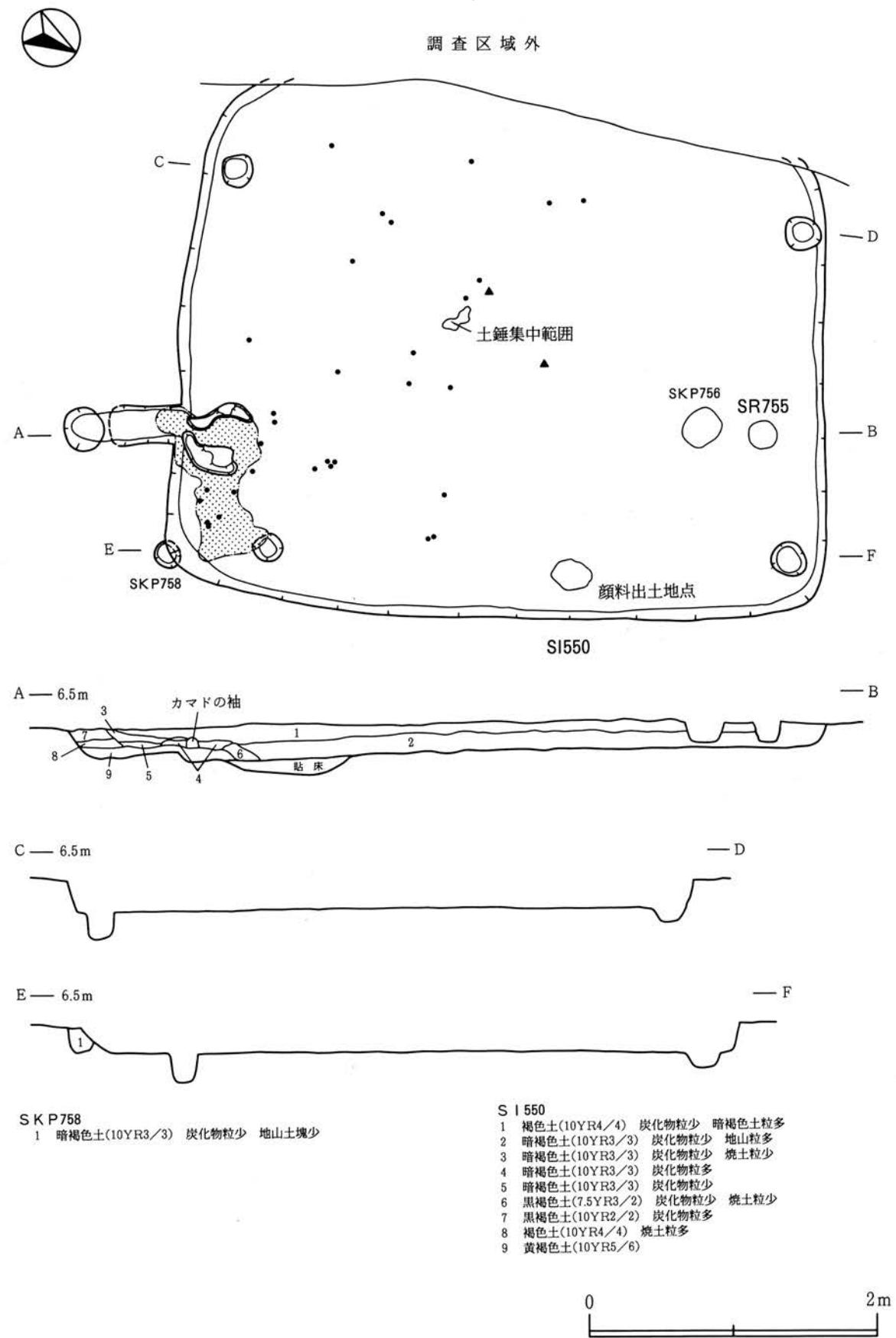
### (3)掘立柱建物跡

#### SB 1(第48図、図版13-1・2)

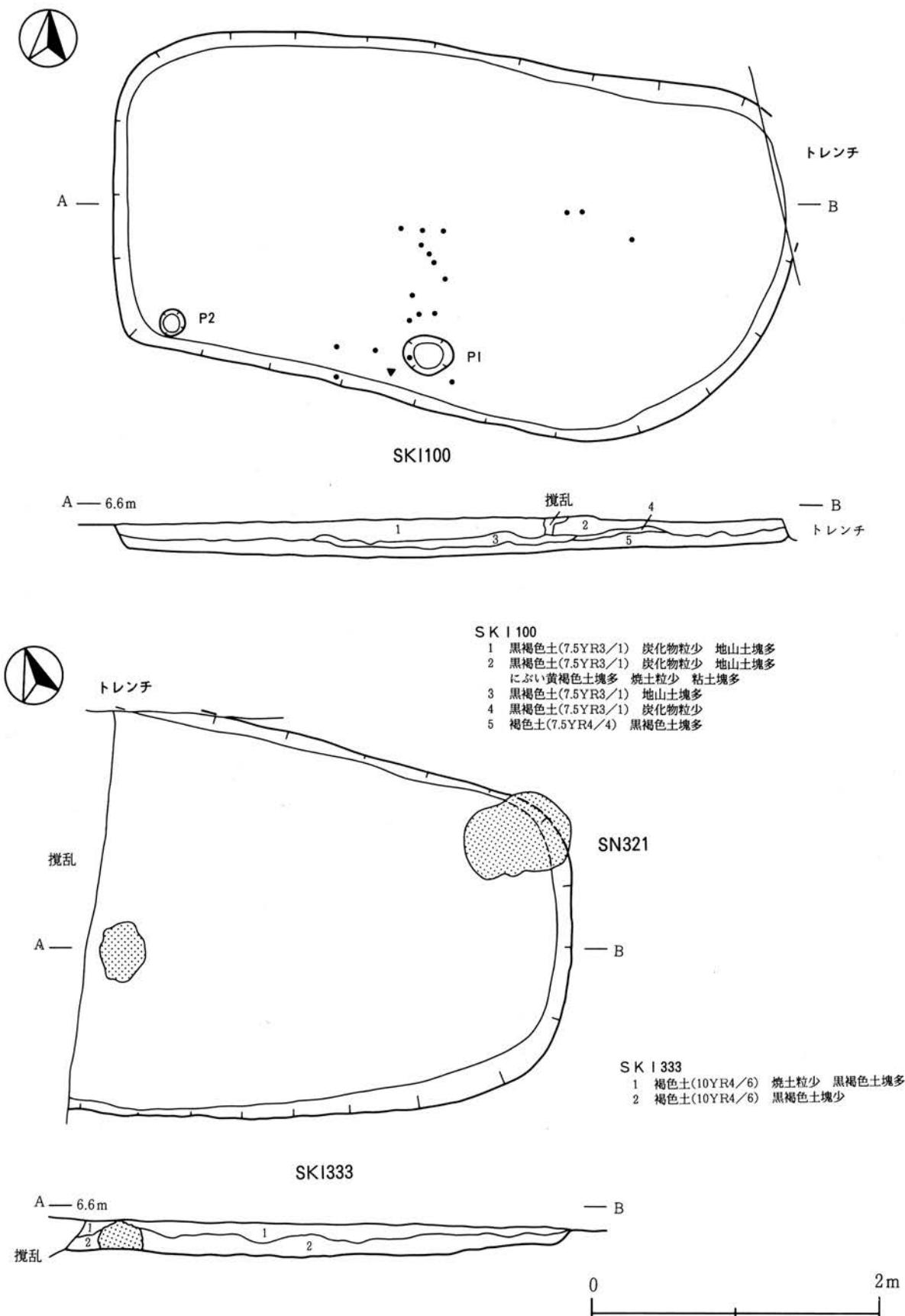
東側のLB43、LC43・44、LD43・44グリッドに位置する。確認面はⅢ層でそれぞれ黒褐色土が円形に広がる。SK64・SW58・SKP68と重複し、SK64よりも古い。桁行3間×梁行1間の建物はP1～



第45図 竪穴住居跡(4)



第46図 竪穴住居跡(5)



第47図 壇穴状遺構(1)

## 開防遺跡

P 6 で構成される。桁行総間7.85m(P 1-P 3)×梁行2.3m(P 3-P 4)で、長軸方向はN-77°-Wである。柱穴の上面形は楕円形と隅丸方形。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.32 \times 0.28 \times 0.4\text{m}$ 、P 2 が $0.4 \times 0.35 \times 0.15\text{m}$ 、P 3 が $0.4 \times 0.32 \times 0.18\text{m}$ 、P 4 が $0.2 \times 0.18 \times 0.1\text{m}$ 、P 5 が $0.3 \times 0.24 \times 0.1\text{m}$ 、P 6 が $0.31 \times 0.27 \times 0.39\text{m}$ である。遺物はP 1 から土師器2点、P 4 から土師器4点が出土した。

### S B 2 (第48図)

中央やや北側のL E 43・44、L F 43・44グリッドに位置する。確認面はⅢ層でそれぞれ暗褐色土が円形に広がる。S K P 133・S K P 141と重複するがそれより新しい。桁行3間×梁行1間の建物はP 1～P 8 で構成される。桁行総間6.25m(P 1-P 4)×梁行3m(P 4-P 5)で、長軸方向はN-82°-Wである。柱穴の上面形は楕円形もしくは隅丸方形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.22 \times 0.2 \times 0.25\text{m}$ 、P 2 が $0.39 \times 0.36 \times 0.4\text{m}$ 、P 3 が $0.3 \times 0.22 \times 0.16\text{m}$ 、P 4 が $0.2 \times 0.18 \times 0.12\text{m}$ 、P 5 が $0.25 \times 0.2 \times 0.7\text{m}$ 、P 6 が $0.31 \times 0.28 \times 0.15\text{m}$ 、P 7 が $0.3 \times 0.26 \times 0.2\text{m}$ 、P 8 が $0.22 \times 0.2 \times 0.1\text{m}$ である。遺物は出土しなかった。

### S B 3 (第48図、図版13-3～5)

南東側のL B 36・37、L C 36・37グリッドに位置する。確認面はⅢ層でそれぞれ褐・にぶい黄褐色土が円形に広がる。S K 15・S N 23と重複しS K 15より新しい。桁行3間×梁行1間の建物はP 1～P 6 で構成される。桁行総間7m(P 1-P 4)×梁行2.26m(P 4-P 5)で、長軸方向はN-82°-Wである。柱穴の上面形は楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.28 \times 0.25 \times 0.12\text{m}$ 、P 2 が $0.4 \times 0.38 \times 0.4\text{m}$ 、P 3 が $0.5 \times 0.4 \times 0.12\text{m}$ 、P 4 が $0.35 \times 0.25 \times 0.24\text{m}$ 、P 5 が $0.46 \times 0.38 \times 0.32\text{m}$ 、P 6 が $0.3 \times 0.27 \times 0.28\text{m}$ である。遺物は出土しなかった。

### S B 4 (第49図、図版13-6)

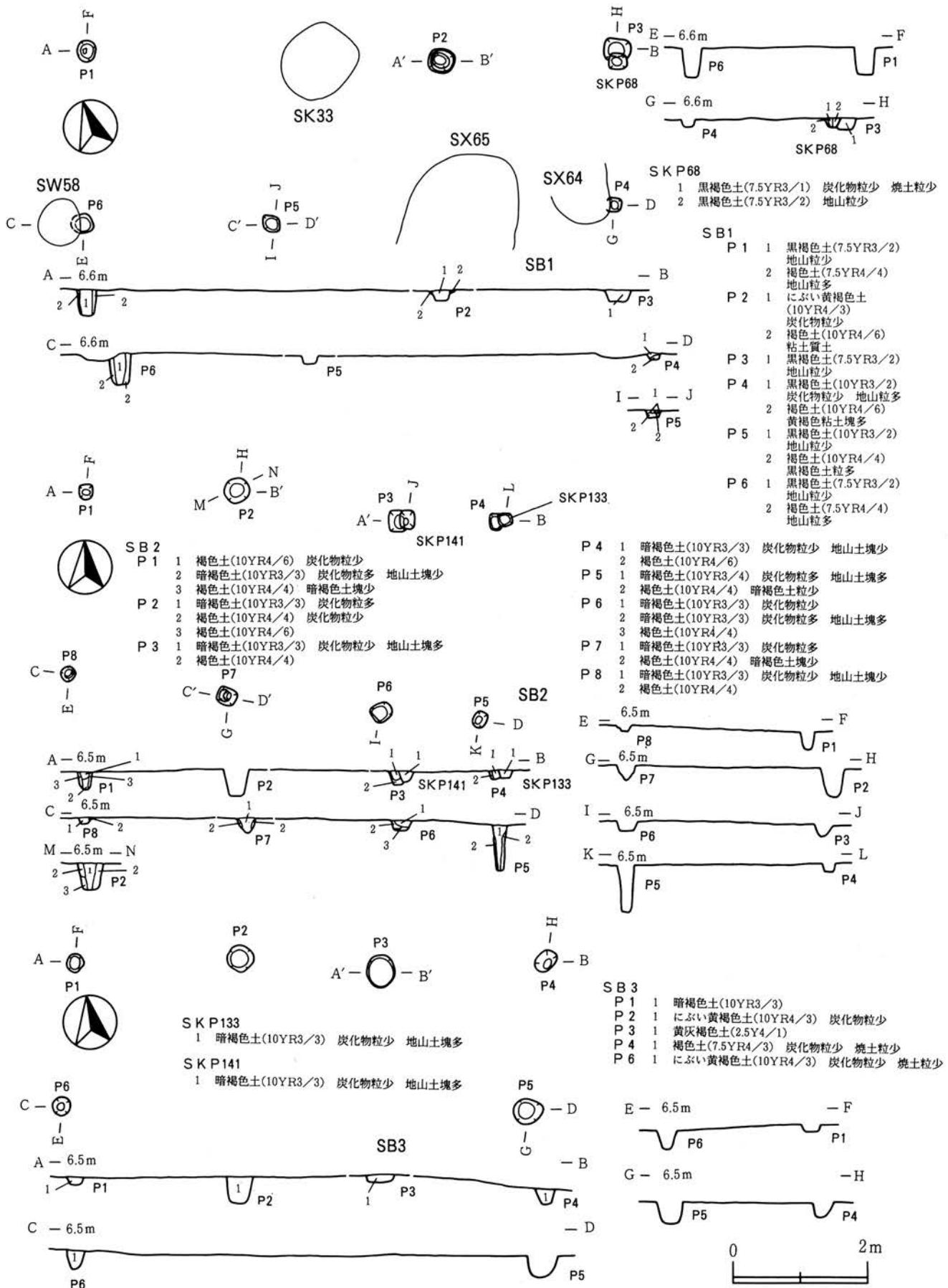
中央やや南東側のL C 37、L D 37・38、L E 37グリッドに位置する。確認面はⅢ層でそれぞれ暗褐色土が円形に広がる。桁行2間×梁行1間の建物はP 1～P 5 で構成される。桁行総間4.82m(P 1-P 3)×梁行総間2.82m(P 3-P 4)で、長軸方向はN-65°-Wである。柱穴の上面形は楕円形や隅丸方形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.34 \times 0.33 \times 0.14\text{m}$ 、P 2 が $0.35 \times 0.33 \times 0.27\text{m}$ 、P 3 が $0.67 \times 0.5 \times 0.1\text{m}$ 、P 4 が $0.22 \times 0.2 \times 0.1\text{m}$ 、P 5 が $0.36 \times 0.34 \times 0.1\text{m}$ である。遺物は出土しなかった。

### S B 5 (第49図)

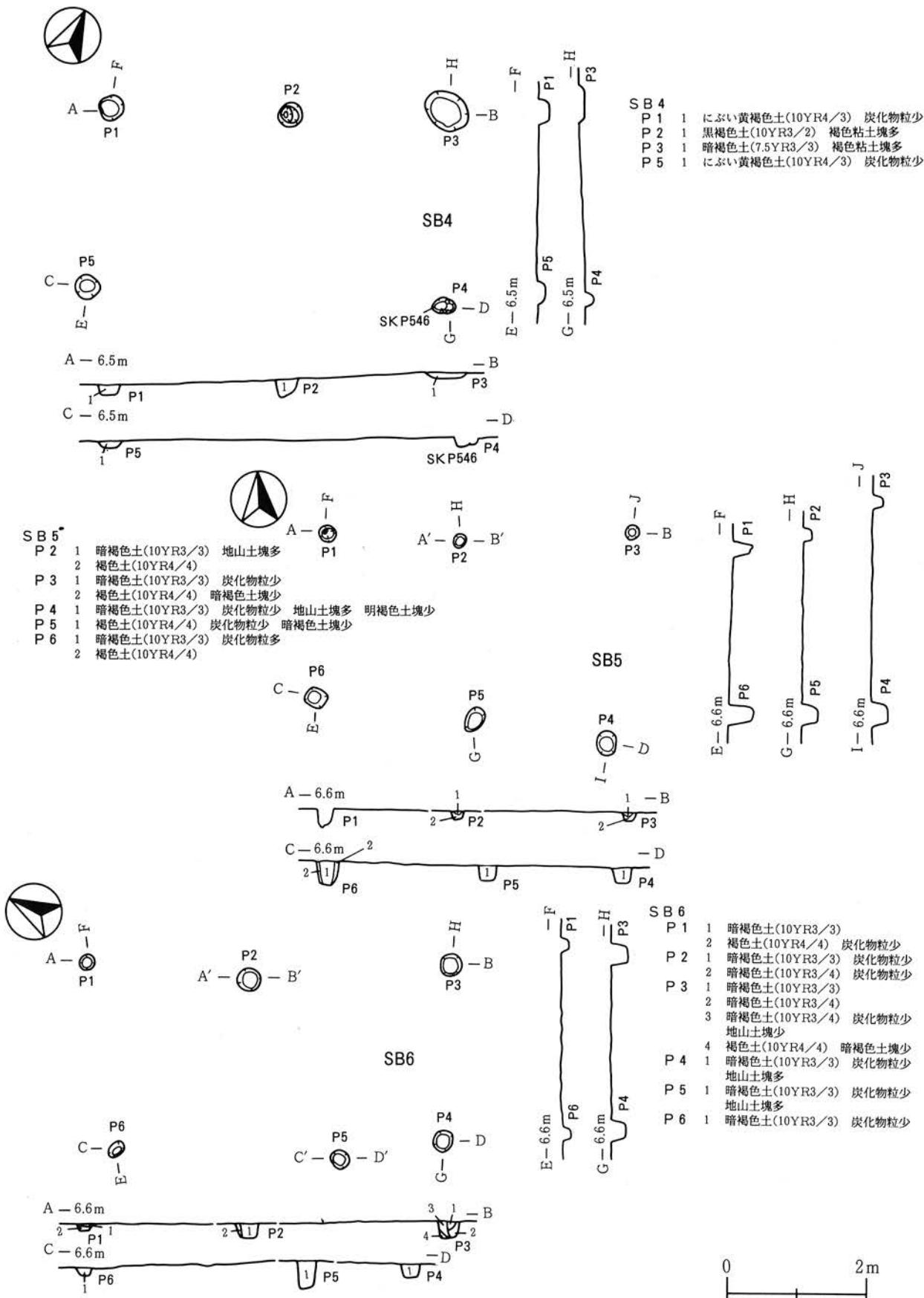
中央やや北側のL I 45・L J 45・46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ暗褐色土が円形に広がる。S K 71・S K 108と重複するが新旧関係は不明である。桁行2間×梁行1間の建物はP 1～P 6 で構成される。桁行総間4.38m(P 1-P 3)×梁行総間3.05m(P 3-P 4)で、長軸方向はN-79°-Wである。柱穴の上面形は楕円形や隅丸方形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.25 \times 0.24 \times 0.25\text{m}$ 、P 2 が $0.2 \times 0.18 \times 0.14\text{m}$ 、P 3 が $0.22 \times 0.2 \times 0.14\text{m}$ 、P 4 が $0.35 \times 0.29 \times 0.24\text{m}$ 、P 5 が $0.38 \times 0.25 \times 0.22\text{m}$ 、P 6 が $0.3 \times 0.27 \times 0.35\text{m}$ である。遺物はP 4 から土師器1点、P 6 から土師器2点が出土した。

### S B 6 (第49図)

中央のL H 41、L I 41・42、L J 42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ暗褐色土が円形に広がる。桁行2間×梁行1間の建物はP 1～P 6 で構成される。桁行総間5.23m(P 1-P 3)×梁行総間2.53m(P 3-P 4)で、長軸方向はN-32°-Wである。柱穴の上面形は円形や楕円形である。規模(長



#### 第48図 掘立柱建物跡(7)



第49図 掘立柱建物跡(8)

軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.23 \times 0.22 \times 0.1\text{m}$ 、P 2 が $0.34 \times 0.33 \times 0.22\text{m}$ 、P 3 が $0.34 \times 0.3 \times 0.25\text{m}$ 、P 4 が $0.3 \times 0.28 \times 0.2\text{m}$ 、P 5 が $0.28 \times 0.26 \times 0.4\text{m}$ 、P 6 が $0.27 \times 0.18 \times 0.1\text{m}$ である。遺物は出土しなかった。

#### S B 7(第50図)

中央やや西側の L J 40～42、L K 41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ暗褐色土が円形に広がる。桁行1間×梁行1間の建物はP 1～P 4で構成される。桁行3.4m(P 1～P 4)×梁行3m(P 1～P 2)で、長軸方向はN-35°-Eである。柱穴の上面形は円形や楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.34 \times 0.2 \times 0.22\text{m}$ 、P 2 が $0.26 \times 0.21 \times 0.25\text{m}$ 、P 3 は $0.25 \times 0.24 \times 0.24\text{m}$ 、P 4 は $0.2 \times 0.18 \times 0.14\text{m}$ である。遺物は出土しなかった。

#### S B 8(第50図)

北西側の L K～L M 47・48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ黒褐～暗褐色土が円形に広がる。S B 9・S K 337・S K 338と重複するが新旧関係は不明である。桁行2間×梁行1間の建物はP 1～P 6で構成される。桁行総間7m(P 1～P 3)×梁行4.2m(P 3～P 4)で、長軸方向はN-85°-Wである。柱穴の上面形は円形や楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.3 \times 0.25 \times 0.15\text{m}$ 、P 2 が $0.4 \times 0.25 \times 0.2\text{m}$ 、P 3 が $0.4 \times 0.35 \times 0.25\text{m}$ 、P 4 が $0.42 \times 0.4 \times 0.25\text{m}$ 、P 5 が $0.45 \times 0.4 \times 0.2\text{m}$ 、P 6 が $0.5 \times 0.45 \times 0.55\text{m}$ である。遺物はP 3から土師器3点、P 4から土師器10点、P 6から土師器11点が出土した。

#### S B 9(第51図)

北西側の L L 47・48、L M 47・48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ黒褐色土が円形に広がる。S B 8・S K 337と重複するが新旧関係は不明である。P 2 と P 5 が付随した桁行2間×梁行2間の建物と考えられ、P 1～P 10で構成される。桁行総間4.7m(P 9～P 4)×梁行総間3.85m(P 1～P 8)で、長軸方向はN-7°-Eである。柱穴の上面形は楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.3 \times 0.25 \times 0.2\text{m}$ 、P 2 が $0.35 \times 0.3 \times 0.3\text{m}$ 、P 3 が $0.35 \times 0.25 \times 0.22\text{m}$ 、P 4 が $0.3 \times 0.23 \times 0.2\text{m}$ 、P 5 が $0.25 \times 0.22 \times 0.23\text{m}$ 、P 6 が $0.23 \times 0.17 \times 0.15\text{m}$ 、P 7 が $0.35 \times 0.33 \times 0.3\text{m}$ 、P 8 が $0.3 \times 0.28 \times 0.15\text{m}$ 、P 9 が $0.35 \times 0.3 \times 0.25\text{m}$ 、P 10 が $0.26 \times 0.25 \times 0.17\text{m}$ である。遺物はP 2から土師器3点、P 3から土師器8点、P 6から土師器3点、P 7から鉄滓1点が出土した。

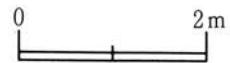
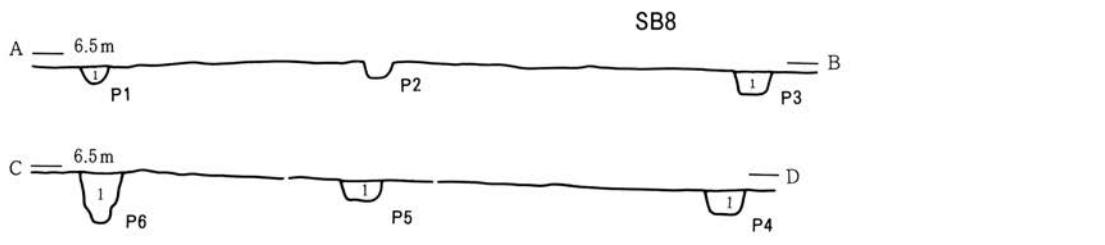
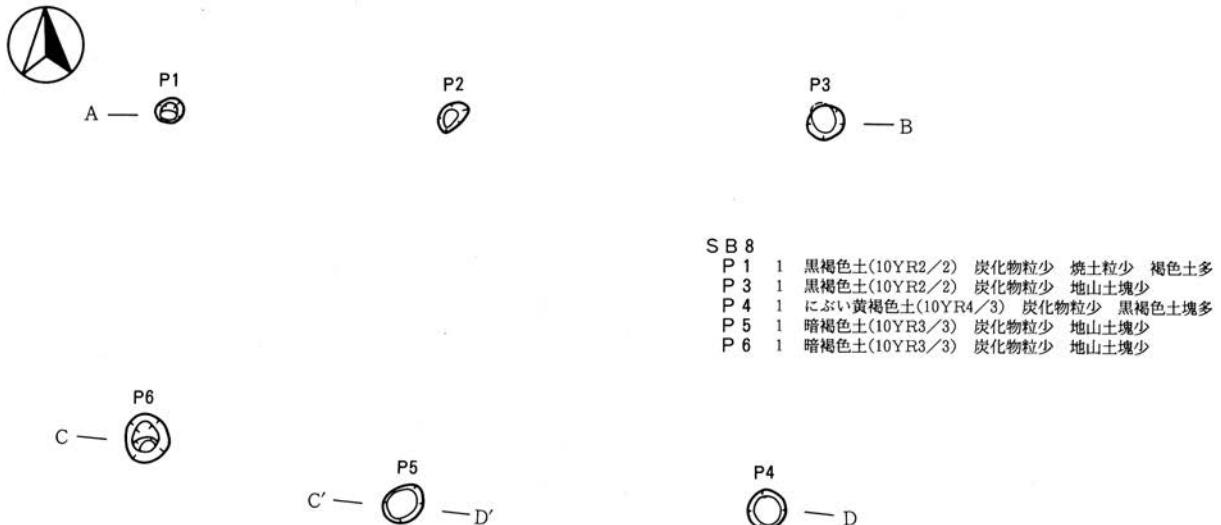
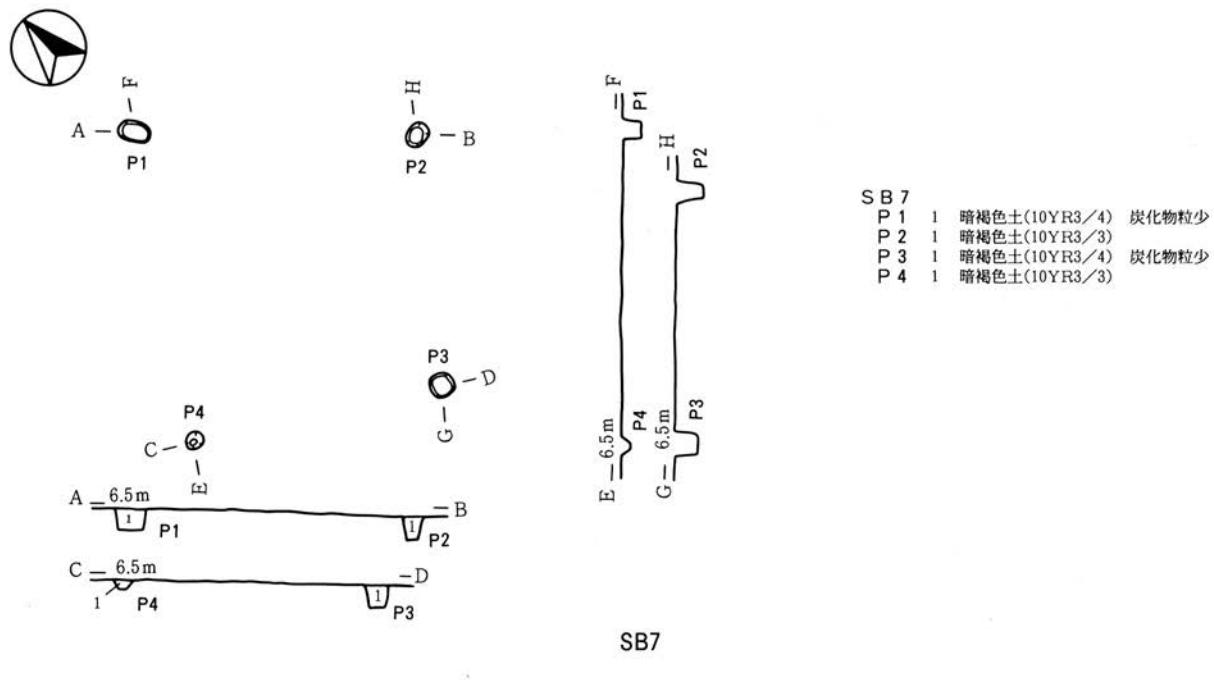
#### S B 10(第51図)

北西側の L N 48・49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、それぞれ暗褐色土が円形に広がる。S K P 49・S K P 93・S K P 44と重複しそれらより新しい。桁行2間×梁行1間の建物はP 1～P 6で構成される。桁行総間2.9m(P 1～P 3)×梁行2m(P 3～P 4)で、長軸方向はN-30°-Eである。柱穴の上面形は楕円形や隅丸方形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1 が $0.35 \times 0.3 \times 0.15\text{m}$ 、P 2 が $0.25 \times 0.2 \times 0.2\text{m}$ 、P 3 が $0.34 \times 0.25 \times 0.25\text{m}$ 、P 4 が $0.27 \times 0.25 \times 0.15\text{m}$ 、P 5 が $0.3 \times 0.28 \times 0.25\text{m}$ 、P 6 が $0.28 \times 0.2 \times 0.35\text{m}$ である。遺物はP 2で土師器6点、P 3で土師器2点、P 4で土師器7点が出土した。

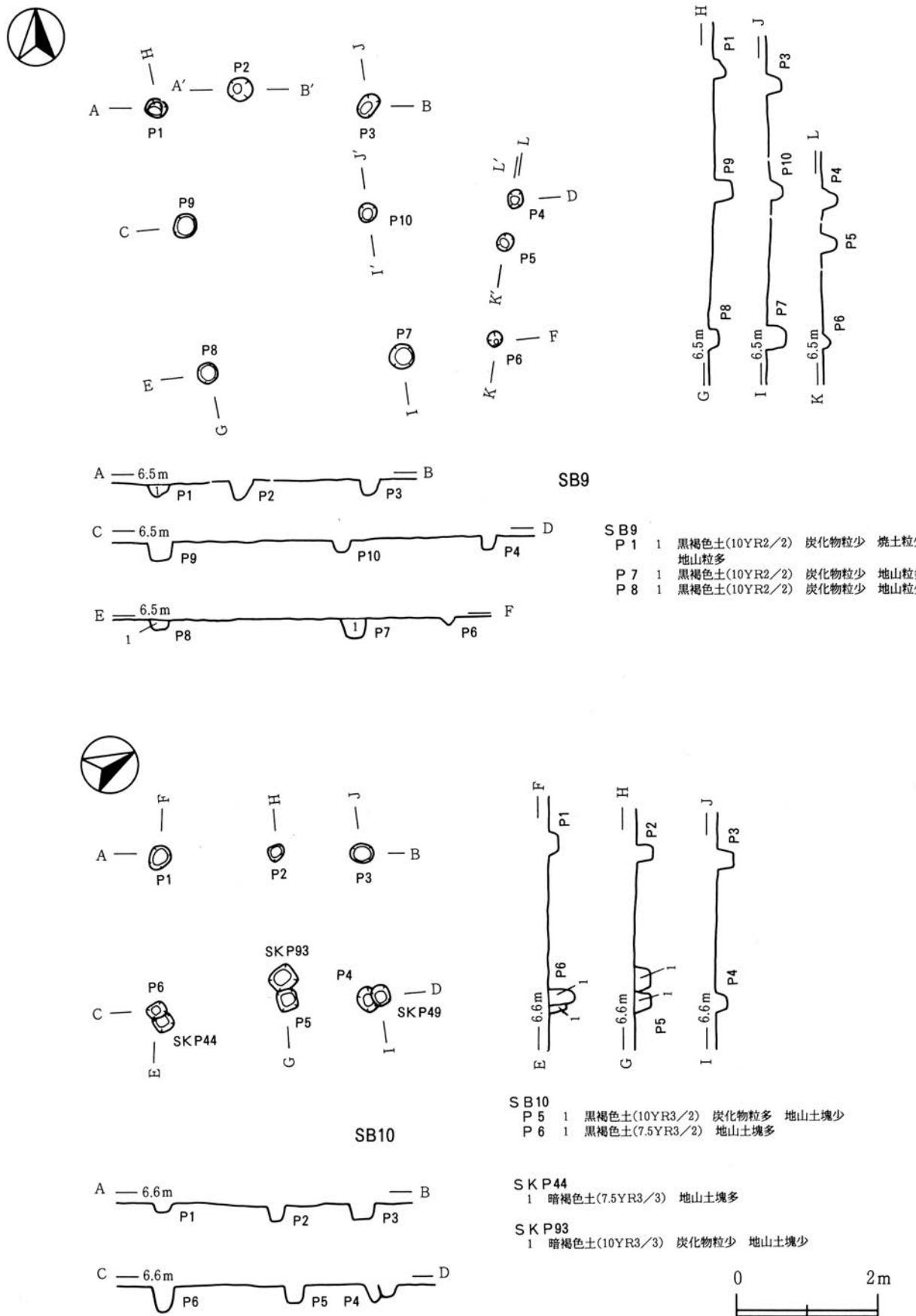
#### S B 11(第52図)

調査区西側の L M 44・45、L N 45・46、L O 46グリッドに位置する。確認面はⅢ層でそれぞれ暗褐色土が円形に広がる。S K 418・S D 486・S K P 569・S X 320と重複し、S K P 569より新しく S X 320よりも古

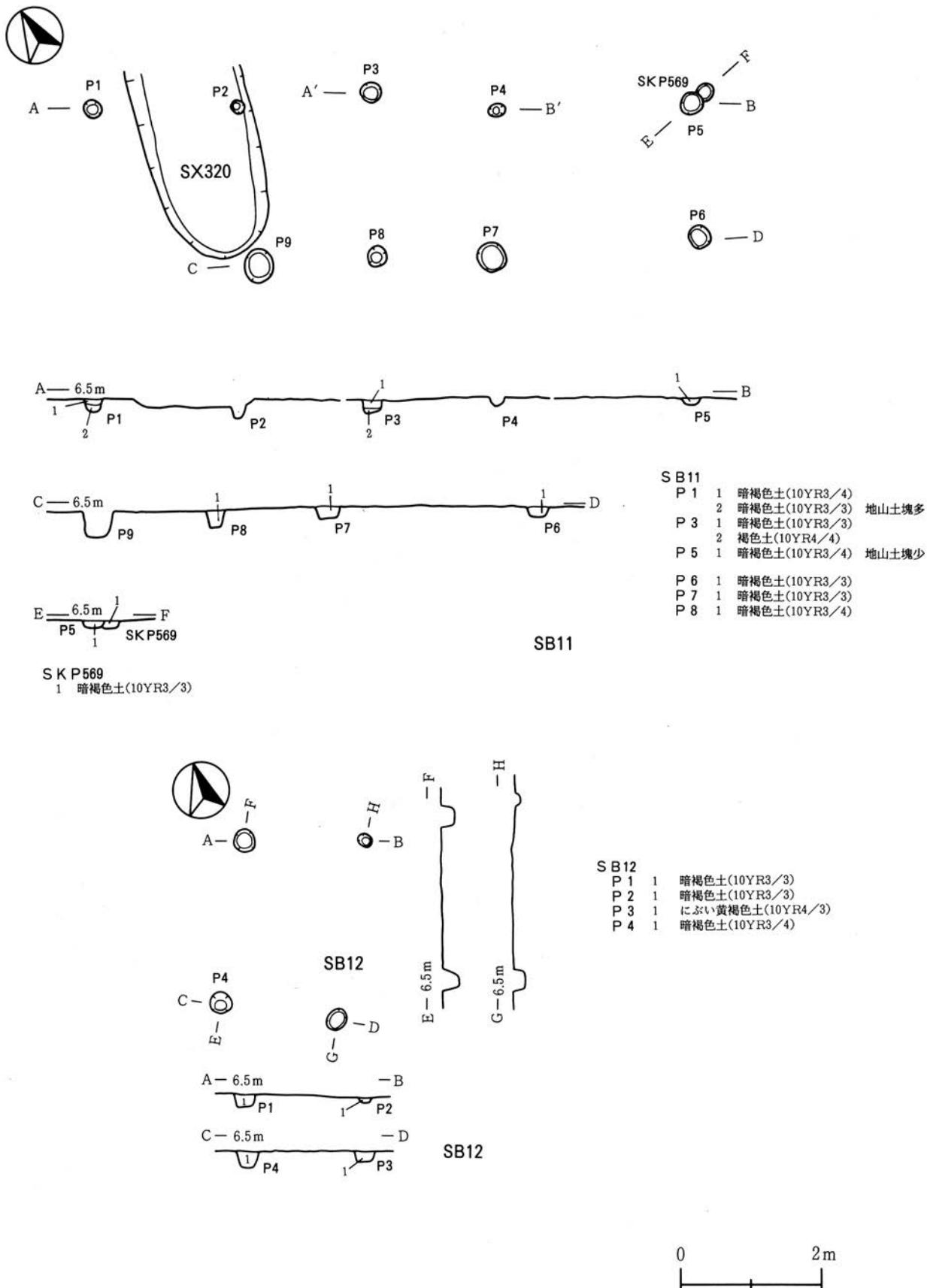
開防遺跡



第50図 掘立柱建物跡(9)



第51図 掘立柱建物跡(10)



第52図 掘立柱建物跡(11)

い。桁行4間×梁行1間の建物はP 1～P 9で構成される。桁行総間8.5m(P 1-P 5)×梁行1.9m(P 5-P 6)で、長軸方向はN-63°-Wである。柱穴の上面形は楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が0.27×0.25×0.2m、P 2が0.2×0.19×0.2m、P 3が0.3×0.27×0.2m、P 4が0.24×0.19×0.15m、P 5が0.35×0.3×0.1m、P 6が0.33×0.29×0.15m、P 7が0.42×0.38×0.15m、P 8が0.31×0.25×0.18m、P 9が0.5×0.42×0.35mである。遺物はP 3から土師器1点、P 6から土師器2点、P 8から土師器2点が出土した。

#### S B12(第52・81図)

中央やや南西側のL J38・39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土がそれぞれ円形に広がる。桁行1間×梁行1間の建物はP 1～P 4で構成される。桁行2.6m(P 2-P 3)×梁行1.72m(P 1-P 2)で、長軸方向はN-26°-Eである。柱穴の上面形は楕円形や不整楕円形である。規模(長軸×短軸×深さ)は、P 1が0.32×0.3×0.2m、P 2が0.2×0.18×0.08m、P 3が0.32×0.26×0.16m、P 4が0.32×0.3×0.24mである。遺物はP 1から土師器6点、P 3から土師器2点が出土した。153はP 3で出土した把手付き甕の把手部である。

#### (4)柱穴列

#### S A111(第53図)

北西側のL O46～48、L P49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色がそれぞれ円形に広がる。P 1～P 5で構成されN-25°-Eの方向性がある。P 1の上面形は1辺0.2mの隅丸方形で、深さは0.1mである。底面は湾曲し壁は急傾斜に立ち上がる。P 2は長軸0.26m、短軸0.22mの隅丸長方形状で、深さは0.2mである。底面は平坦で壁は急傾に立ち上がる。P 3は1辺0.2mの方形で、深さは0.08mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。P 4は長軸0.36m、短軸0.32mの不整楕円形で、深さは0.15mである。底面に凹凸があり壁は急傾斜に立ち上がる。P 5は長軸0.25m、短軸0.22mの楕円形で、深さは0.25mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。芯々距離はP 1-P 2が2.1m、P 2-P 3が2.5m、P 3-P 4が2.7m、P 4-P 5が2.64mである。遺物はP 1で土師器1点が出土した。

#### S A689(第53図)

南西側のL N39～41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土がそれぞれ円形に広がる。S I 420と重複しそれより新しい。P 1～P 4で構成されN-24°-Wの方向性がある。P 1の上面形は長軸0.4m、短軸0.37mの不整形で、深さは0.15mである。底面が緩く傾斜し壁は急傾斜に立ち上がる。P 2は長軸0.35m、短軸0.31mの隅丸長方形で、深さは0.14mである。底面は僅かに湾曲し壁は急傾斜に立ち上がる。P 3は長軸0.3m、短軸0.28mの隅丸長方形で、深さは0.22mである。底面は湾曲し壁は急傾斜に立ち上がる。P 4は長軸0.3m、短軸0.26mの楕円形で、深さは0.16mである。底面は平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。芯々距離はP 1-P 2が1.8m、P 2-P 3が1.64m、P 3-P 4が1.7mである。遺物は出土しなかった。

#### S A836(第53図)

中央のL G38・39、L F39・40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐・暗褐色土がそれぞれ円形に広がる。S I 46・S K14・S K41と重複しそれらより新しい。P 1～P 4で構成されるがP 5も関連すると思われ、N-30°-Eの方向性がある。P 1の上面形は長軸0.56m、短軸0.5mの不整楕円形で、深さは0.12mである。底面は南西から北東に緩く傾斜し、壁は急傾斜に立ち上がる。P 2は長辺0.24m、短辺

## 開防遺跡

0.22mの隅丸長方形で、深さは0.13mである。底面は平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。P 3 は長軸0.46m、短軸0.42mの楕円形で、深さは0.6mである。断面形は摺鉢状を呈する。P 4 は長軸0.48m、短軸0.45mの不整楕円形で、深さは0.25mである。底面は僅かに湾曲し壁は急傾斜に立ち上がる。P 5 は長軸0.38m、短軸0.37mの略円形で、深さは0.1mである。芯々距離はP 1 – P 2 が2.1m、P 2 – P 3 が1.8m、P 3 – P 4 が1.5m、P 3 – P 5 が1.5mである。遺物は出土しなかった。

### (5) 土器埋設遺構

S R 62(第53・81図、図版13-7)

南東側のL A37グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土が円形に広がり土師器の羽釜底部が確認できた。掘り方の平面形は長軸0.32m、短軸0.28mの不整楕円形で、深さは0.1mである。羽釜は伏せた状態でやや傾いて出土した。154は土師器の羽釜である。ロクロで仕上げてあるが、全体に焼成は不良である。鍔部は短く口縁部は内傾する。切り離しは不明である。推定口径9.2cm、底径6cm、器高11.3cmである。

S R 299(第53・81図、図版13-8)

北西側のL P48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土が円形に広がり土師器と礫が確認できた。掘り方の平面形は径0.28mの不整円形で、深さは0.18mである。壊の破片が大きく傾いた状態で出土した。155は内外面を黒色処理した土師器の有台壠である。高台は外に張り出し、体部は内湾して立ち上がる。切り離しは回転糸切りである。底部外面を除いてミガキを施す。胎土・焼成・色調・技法の類似から、C区SK114出土の蓋と本来セット関係と考えられる。

S R 600(第53・81図、図版14-1)

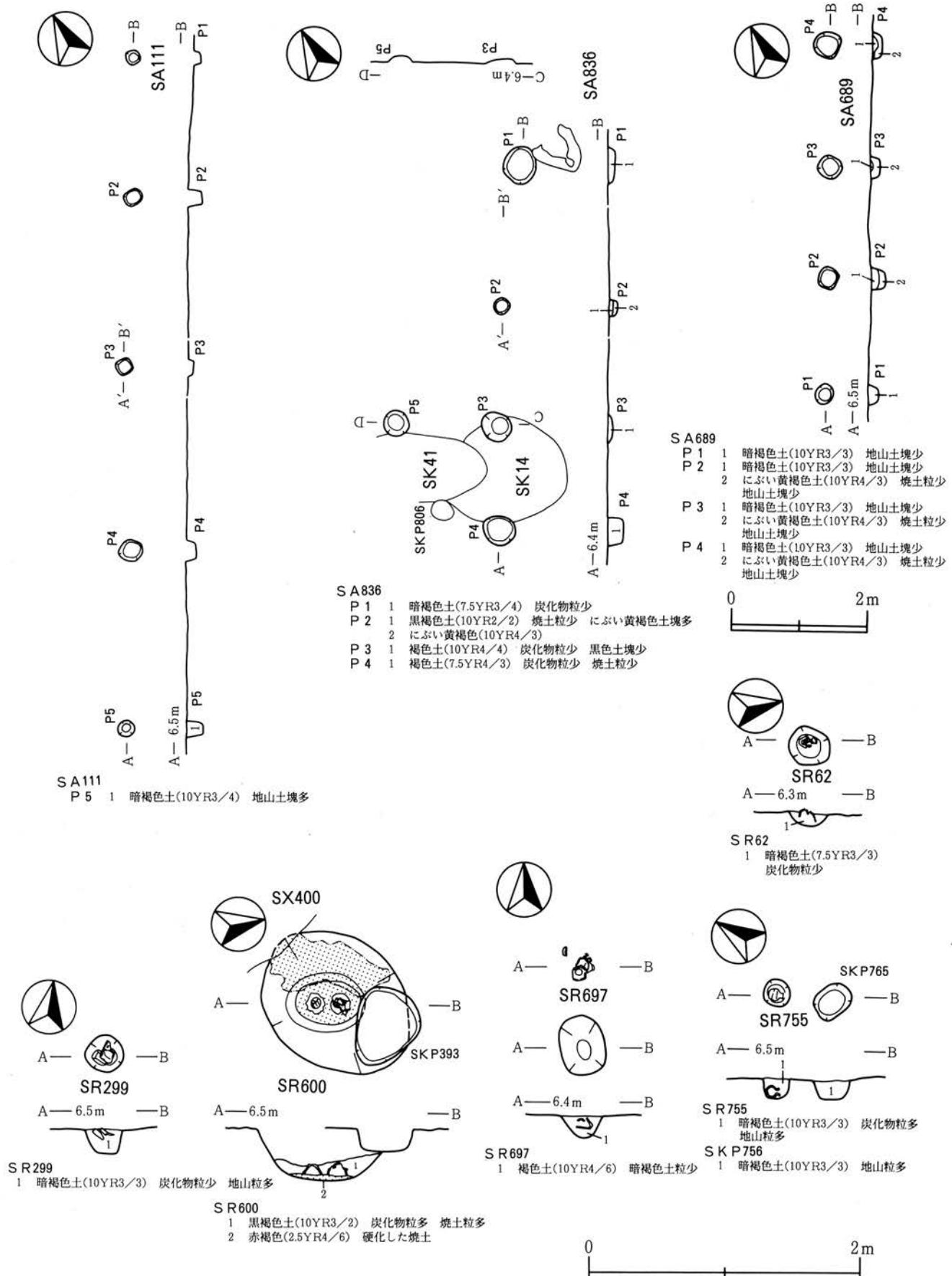
南西側のLM41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。SKP393・SX400と重複しそれらより古い。掘り方の平面形は長軸1.2m、短軸0.97mの楕円形で、深さは0.4mである。掘り方の底面中央に、2個体の土師器甕が伏せた状態で出土した。掘り方の底面中央は火熱で硬化していた。156・157は底部がやや突出した土師器の長胴甕で、156は底に木葉文が、157には下敷きの痕跡が認められる。いずれも外面に縦位のにカキ目を施す。

S R 697(第53・81図、図版14-2)

東側のLO44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が楕円形に広がる。掘り方の平面形は長軸0.45m、短軸0.33mの楕円形で、深さは0.15mである。覆土中から椀は伏せて、甕は45°ほど傾いて出土した。158は須恵器の蓋、159・160は土師器の椀と長胴甕である。158はリング状のつまみが付き、天井部は平坦である。159は内外面に丁寧なミガキを施す。推定口径9.7cm、器高6.3cmである。157は底部が僅かに突出し、底面に直線的な下敷きの痕跡を残す。

S R 755(第53・81図、図版14-3)

西側のLQ45グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。SI550と重複しそれより新しい。掘り方の平面形は径0.2mの円形で、深さは0.15mである。掘り方の底面に、横倒しの状態で須恵器の壺(161)が出土した。161は頸が短く口縁部が外反する。低い高台が付きロクロで仕上げている。底部から胴部下端にかけて分厚い作りである。切り離しは不明である。推定口径4.3cm、胴部最大径9.2cm、底径5.6cm、器高10.5cmである。



第53図 柱穴列跡(3)、土器埋設構造(2)

## 開防遺跡

### (6) 土坑

#### S K14(第54図)

中央南側のL G38・39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S A836・S K41と重複しそれらよりも古い。上面形は長軸1.85m、短軸1.5mの不整円形で、深さは0.28mである。底面は北側が摺鉢状で、南側がやや急な傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が4点出土した。

#### S K15(第54図、図版13-4)

南東側のL A・L B37グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐・暗褐色土が半円状に広がる。S B3と重複しそれより古い。上面形は長軸0.35m以上、短軸0.34mの楕円形と考えられ、深さは0.22mである。底面中央が湾曲し、北側の壁が急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が5点出土した。

#### S K16(第55図)

東側のK S38グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S N56と重複しそれより古い。上面形は長軸0.75m、短軸0.68mの略円形で、深さは0.24mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多数出土した。162～164は土師器の壊で、いずれも内湾ぎみに立ち上がる。切り離しは回転糸切りである。

#### S K19(第54・81図、図版14-4)

東側のK S39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸2.45m、短軸1mの隅丸長方形で、深さは0.8mである。底面は南東から北西に緩く傾斜し、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器28点、鉄滓3点、礫29点が出土した。礫のいくつかは火熱していた。165は土師器で把手付き甕である。把手の断面は長方形状を呈する。

#### S K22(第55図)

南東側のL D38グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.66m、短軸0.5mの不整楕円形で、深さは0.1mである。底面中央が最も低く壁は緩傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K24(第55・81・82図、図版14-5)

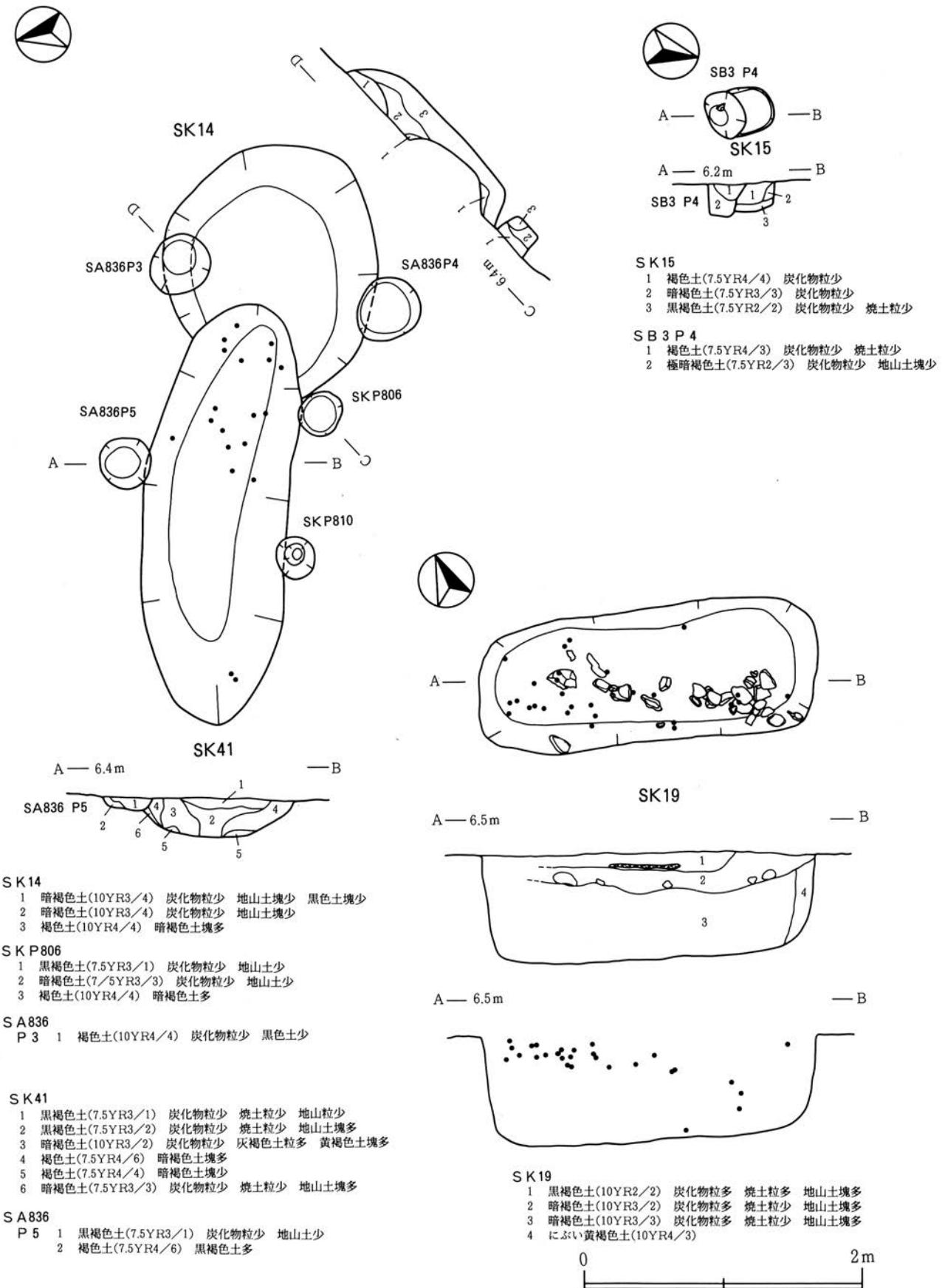
南側のL E36グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S K P805と重複しそれより新しい。上面形は長軸0.9m、短軸0.5mの不整楕円形で、深さは0.1mである。底面に緩い凹凸があり、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が30点出土した。166～169は土師器で166は壊、167～169は甕である。166・169の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。169の口縁部は短く外傾し、胴部はロクロで仕上げる。口縁部の内側に煤が付着する。口径13cm、底径6cm、器高13.7cmである。

#### S K25(第56図、図版14-6)

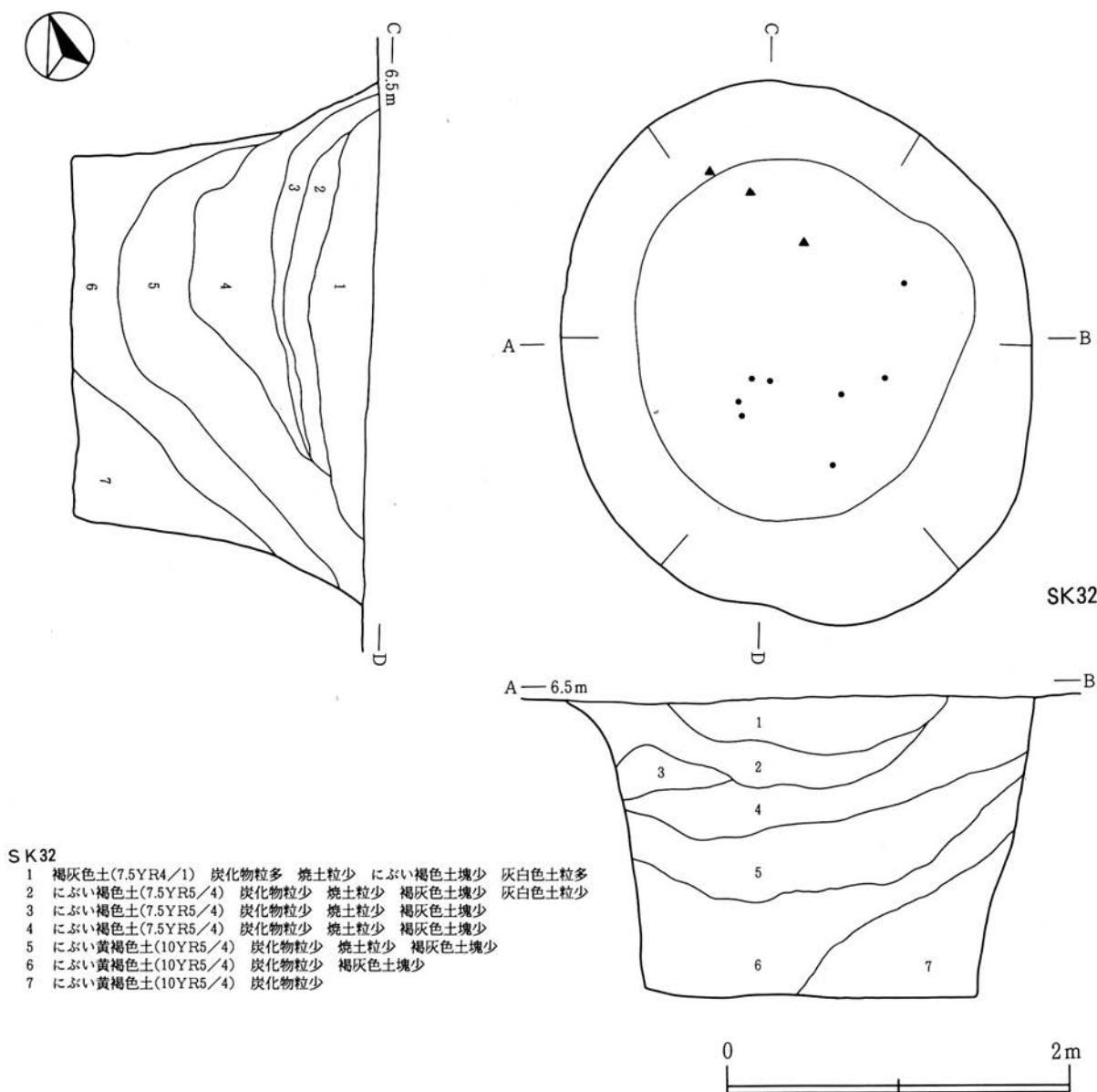
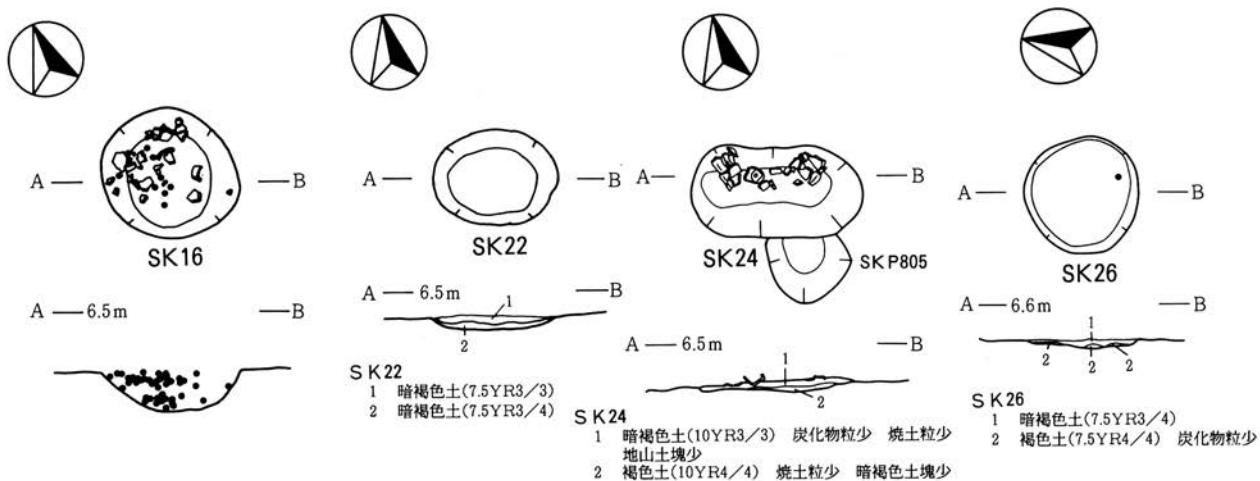
東側のL A40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐灰色が楕円形に広がる。上面形は長軸1.58m、短軸0.9mの楕円形で、深さは0.15mである。底面が東から西に緩く傾斜し壁は緩傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が6点出土した。

#### S K26(第55図、図版14-7)

東側のL C43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S B1と重複するが新旧関係は不明である。上面形は長軸0.64m、短軸0.6mの円形で、深さは0.05mである。底面に凹凸があり壁は殆ど残っていない。遺物は土師器が1点出土した。



第54図 土坑(10)



第55図 土坑(11)

## S K31(第56図、図版14-8)

南東側のL B37グリッドに位置する。確認面はⅡ層で黄灰褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.48m、短軸0.4mの楕円形で、深さは0.12mである。断面形は、底面が平坦で壁は垂直に近く立ち上がる。遺物は土師器が1点出土した。

## S K32(第55図、図版15-1・2)

東側のL A41・42、L B41・42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐灰色土が隅丸方形に広がる。上面形は長軸3.2m、短軸2.8mの楕円形で、深さは1.75mである。底面がほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器・礫が多量に出土した他、須恵器4点、鉄滓2点が出土した。

## S K33(第56図、図版15-3)

東側のL C43・44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S B1と重複するが新旧関係は不明である。上面形は長軸1.15m、短軸1mの不整形で、深さは0.16mである。底面に凹凸があり壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が11点出土した。

## S K35(第56図)

東側のL D39グリッドに位置する。確認面はⅡ層で黒褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.55m、短軸0.4mの楕円形で、深さは0.1mである。底面中央が窪んで壁は摺鉢状に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

## S K40(第56図、図版15-4)

東側のL E39グリッドに位置する。確認面はⅡ層で黒褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.43m、短軸0.4mの隅丸長方形で、深さは0.16mである。底面がほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が4点が出土した。

## S K41(第54・82図)

中央南側のL G・L H39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。S K14と重複しそれより新しい。上面形は長軸3.05m、短軸1.1mの不整楕円形で、深さは0.28mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器1点、フイゴの羽口1点が出土した。170～172は土師器で甕である。170・171は非ロクロ、172はロクロ仕上げである。170は砂底土器で171は下敷きを用いる。171の胎土には3～8mmの白色の小礫が多量に含む。

## S K54(第56図、図版15-5)

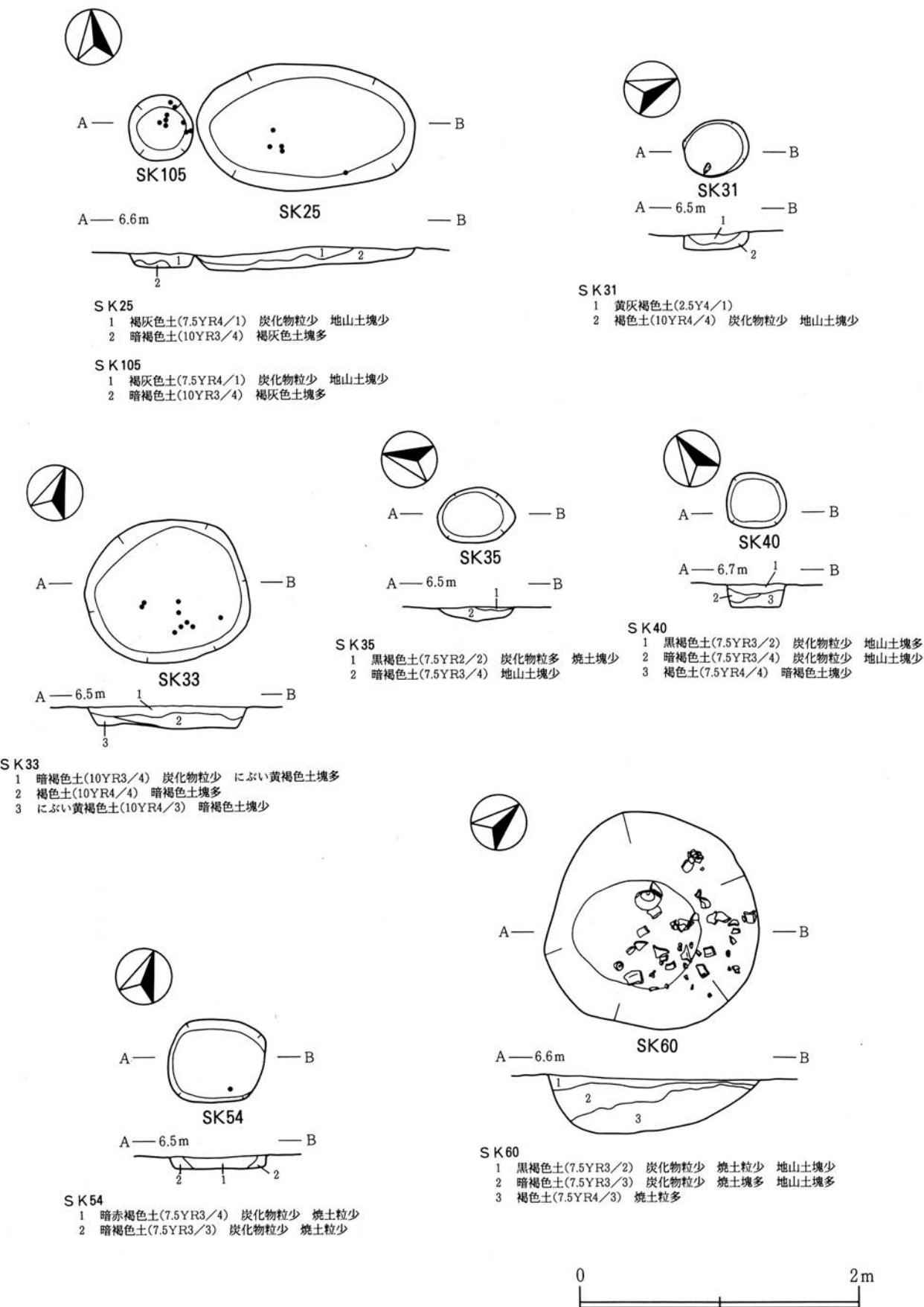
東側のL B39・40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が方形状に広がる。上面形は長軸0.68m、短軸0.6mの隅丸長方形で、深さは0.1mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が1点出土した。

## S K55(第57図、図版15-6)

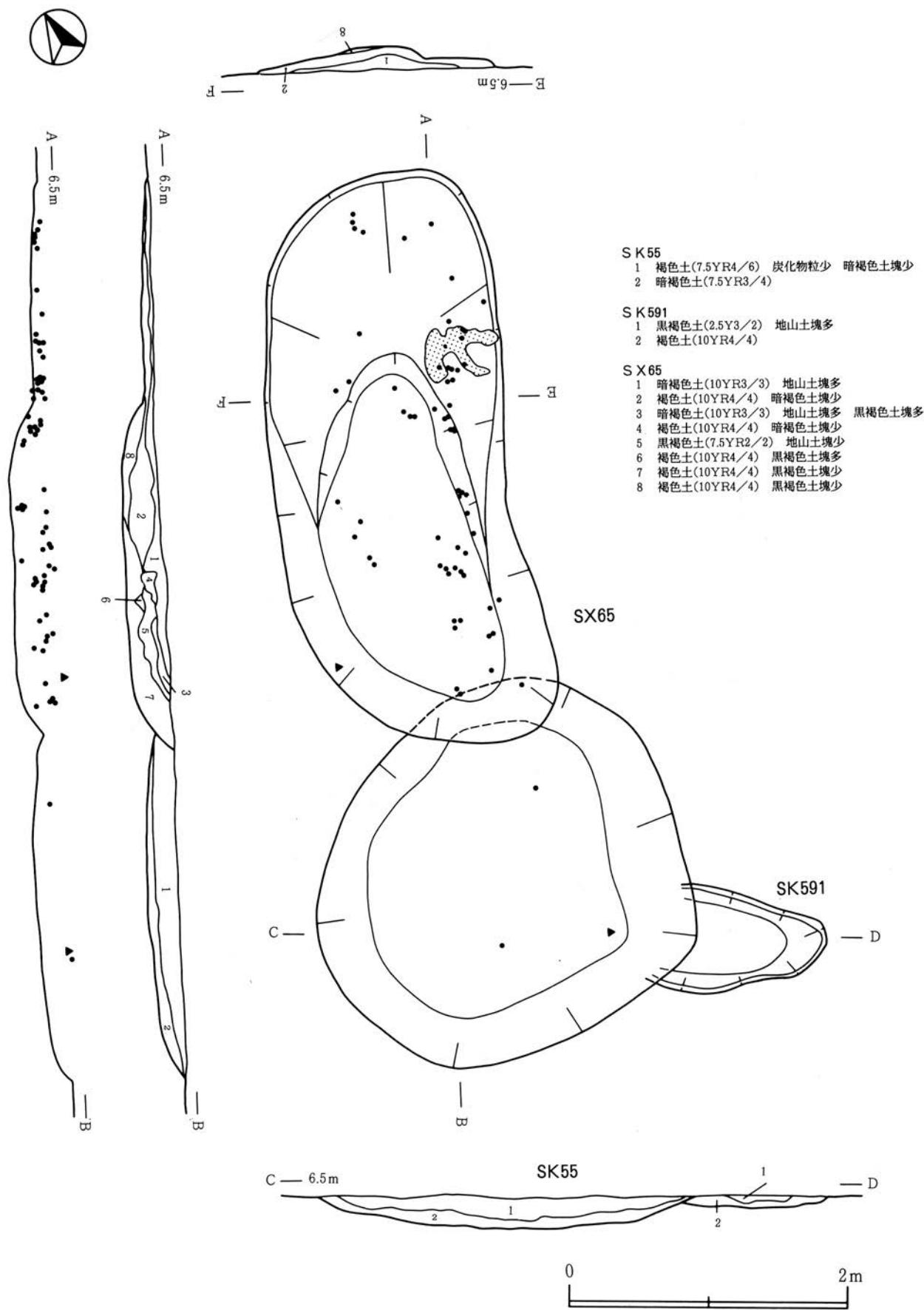
東側のL B41・42、L C41・42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が円形に広がる。S K591・S X65と重複し、S K591より新しくS X65より古い。上面形は長軸2.85m、短軸2.6mの不整形で、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は須恵器が1点、土師器が12点出土した。

## S K60(第56・82図、図版15-7)

中央のL H41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、焼土混じりの黒褐色土が円形に広がる。上面形は径1.5mの不整円形で、深さは0.4mである。底面は北東から南西に緩く傾斜し、壁は緩い傾斜で立ち上



第56図 土坑(12)



第57図 土坑(13)

## 開防遺跡

がる。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器が4点出土した。173～178は土師器で、173・174は壺、175～178は甕である。175・177の口縁部はロクロを使用し、口縁部は僅かに外反する。非ロクロの176・178の口縁部は外反する。

### S K63(第58・82図)

東側のL B 42・43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸1.94m、短軸0.54mの楕円形で、深さは0.14mである。底面は短軸方向で「U」字状を呈する。遺物は須恵器が2点、土師器が18点出土した。179は土師器壺で、切り離しは静止糸切りである。

### S K64(第58図)

東側のL B 43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。S B 1と重複するがそれよりも新しい。上面形は長軸2.7m、短軸1.1mの不整楕円形で、深さは0.1mである。底面は短軸方向が平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が18点出土した。

### S K70(第58図、図版15-8)

中央南東側のL F 39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で灰褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.9m、短軸0.8mの不整形で、深さは0.45mである。底面が段状を形成し壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は鉄製品が4点出土した。

### S K71(第58図、図版16-1)

中央北側のL I 45グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が方形に広がる。S B 5と重複するが新旧関係は不明である。上面形は1辺が0.6mの隅丸方形で、深さは0.1mである。底面の中央が最も低く、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が1点出土した。

### S K74(第58図、図版16-2)

中央やや南東側のL F 38・39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円状に広がる。S K79・S K281と重複し、S K79より新しくS K281よりも古い。上面形は長軸0.88m、短軸0.4m以上の楕円形と考えられ、深さは0.24mである。断面形は摺鉢状呈すると考えられる。遺物は土師器が10点出土した。

### S K79(第58図、図版16-2)

中央やや南東側のL F 39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形状に広がる。S K74と重複しそれより古い。上面形は推定長軸0.5m、短軸0.4mの楕円形で、深さは0.1mである。底面が南東から北西に緩く傾斜し、壁は北西側で急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が13点出土した。

### S K81(第59・70図、図版16-3)

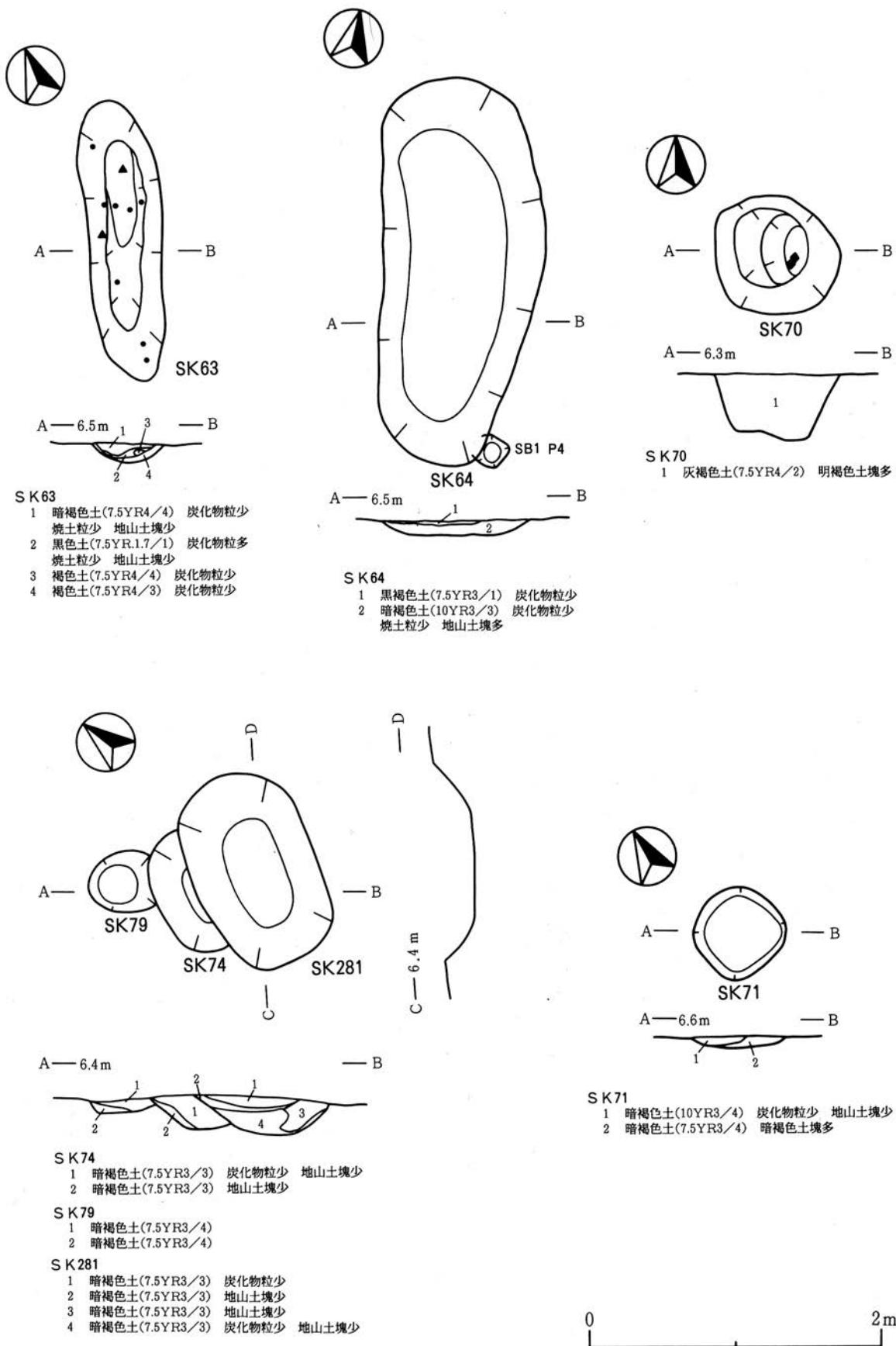
東側のL C 40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S D50と重複しそれより新しい。上面形は長軸2.55m、短軸1.35mの不整楕円形で、深さは0.33mである。底面は北西から南東に緩く傾斜し、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が23点出土した。

### S K87(第59図、図版16-4)

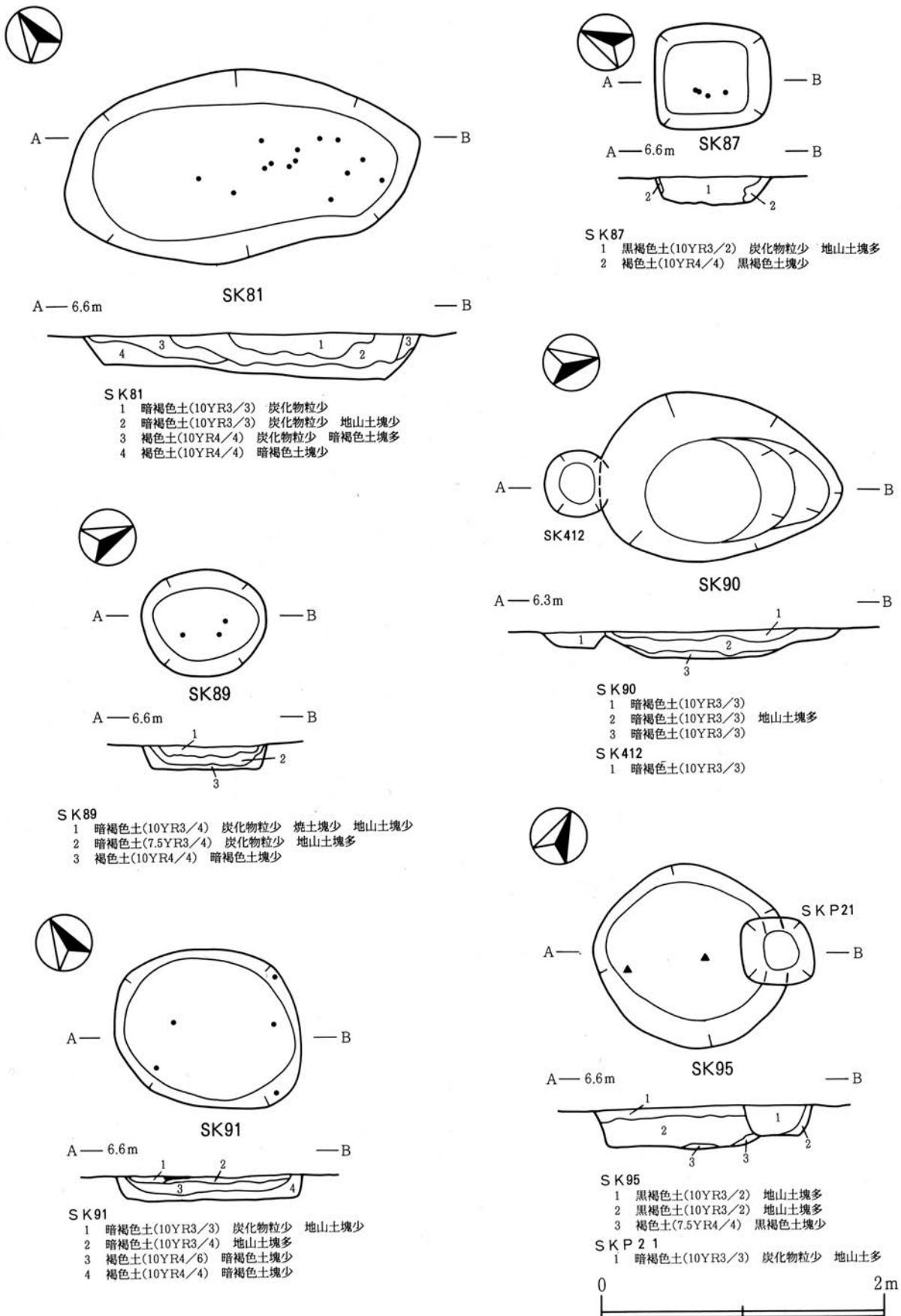
西側のL M・L N 42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が隅丸方形に広がる。上面形は長辺0.8m、短辺0.75mの隅丸長方形で、深さは0.2mである。底面が凹凸を呈し壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が4点出土した。

### S K89(第59図、図版16-5)

西側のL M 42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.9m、



第58図 土坑(14)



第59図 土坑(15)

短軸0.76mの楕円形で、深さは0.18mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が3点出土した。

#### S K90(第59図)

中央やや南側のL I 38グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S K412と重複するが新旧関係は不明である。上面形は長軸1.7m、短軸1.2mの北側が窄まる不整楕円形で、深さは0.2mである。底面は平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がり北側に段を形成する。遺物は土師器が1点、鉄滓が1点出土した。

#### S K91(第59図、図版16-6)

中央やや北側のL I 44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸1.4m、短軸1.2mの不整楕円形で、深さは0.16mである。底面がほぼ平坦で壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が5点出土した。

#### S K95(第59図)

西側のL N42、L O42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S K P21と重複しそれより古い。上面形は長軸1.4m、短軸1.25mの円形で、深さは0.3mである。底面に緩い凹凸があり、壁は東側は緩く他は急傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器が1点出土した。

#### S K98(第60図、図版16-7)

北西のL K48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が半円状に広がる。上面形は長軸1.23m以上、短軸0.72m以上で、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が36点出土した。

#### S K105(第56・82図、図版14-6)

東側のL A40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐灰色土が円形に広がる。上面形は径0.48mの略円形で、深さは0.1mである。底面が平坦で壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が10点出土した。180は土師器の坏で、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。

#### S K107(第60図、図版16-8)

中央やや北東側のL E43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が円形に広がる。上面形は径0.8mの略円形で、深さは0.4mである。底面の北側に不明瞭な段があり、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が5点出土した。

#### S K108(第60図、図版16-6)

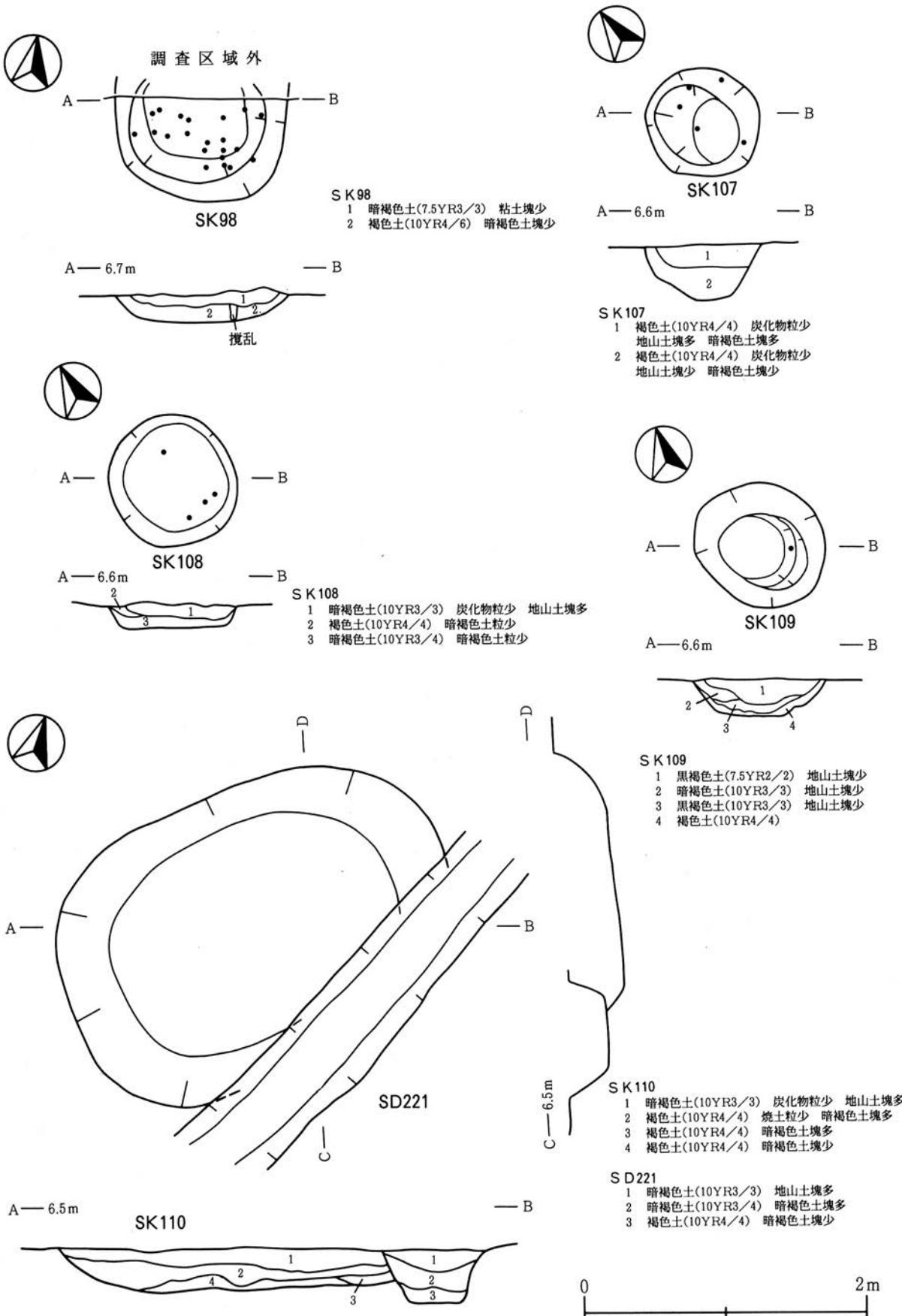
中央やや北側のL I 45グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S B 5と重複するが新旧関係は不明である。上面形は長軸0.95m、短軸0.9mの略円形で、深さは0.2mである。底面が南東から北西に緩く傾斜し、壁はやや急な傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が4点出土した。

#### S K109(第60図、図版17-1)

中央やや北側のL F45グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。上面形は長軸1m、短軸0.85mの不整楕円形で、深さは0.25mである。断面形は摺鉢状を呈し、南東側に段を形成する。遺物は土師器が1点出土した。

#### S K110(第60・73図)

中央やや西側のL L40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S D221と重複しそれより古い。上面形状は長軸2.9m、短軸1.9mの楕円形で、深さは0.6mである。底面が北東か



第60図 土坑(16)

ら南西に緩く傾斜し、壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器2点、鉄滓3点が出土した。

#### S K112(第61図、図版17-2)

中央やや西側のL K40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.66m、短軸0.5mの楕円形で、深さは0.15mである。底面がほぼ平坦で壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K130(第61図)

北西のL Q・L R46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S K P37・S K P614・S K P615と重複し、S K P37より古いがS K P614・S K P615よりも新しい。上面形は長軸0.8m、短軸0.5mの楕円形で、深さは0.24mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が1点、鉄滓が1点出土した。

#### S K131(第61・82図、図版17-3)

西側のL P44グリッドに位置する。確認面はⅢ層でぶい黄褐色土が楕円形に広がる。S K P719・S K P720と重複し、それよりも新しい。上面形は長軸1.3m、短軸1.1mの楕円形で、深さは0.15mである。底面が中央から緩やかに立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した。181～185は土師器の壊で、いずれも内湾して立ち上がる。181の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。185は内黒である。

#### S K135(第44・61図)

西側のL P44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S I 150と重複しそれより新しい。上面形は長軸0.9m、短軸0.65mの不整楕円形で、深さは0.12mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は須恵器が1点、土師器が1点出土した。

#### S K136(第61図)

西側のL P44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.62m、短軸0.4mの不整楕円形で、深さは0.1mである。断面形は摺鉢状に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

#### S K185(第61図、図版17-4)

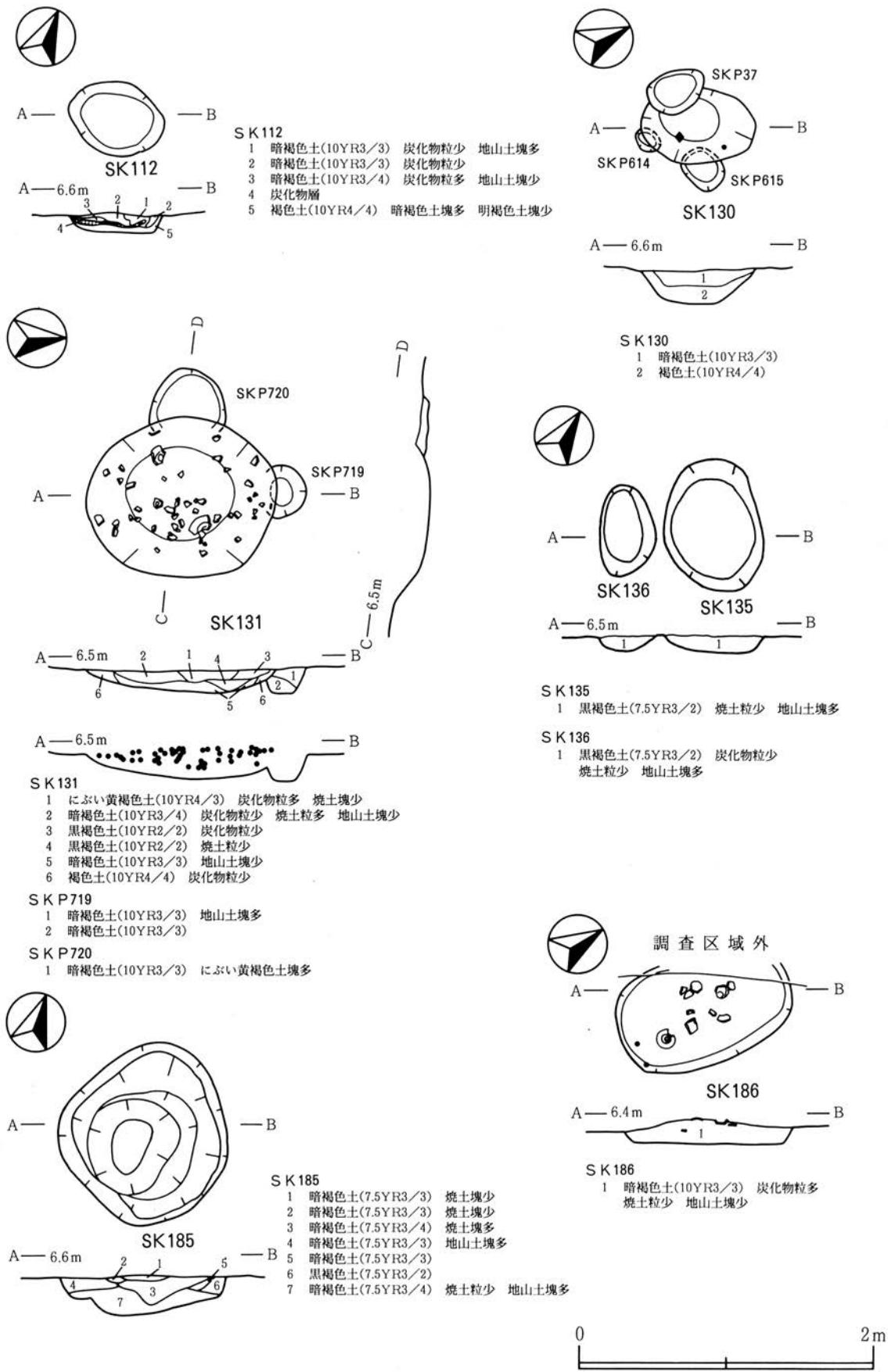
北西のL Q46・47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸1.3m、短軸1.15mの不整形で、深さは0.28mである。底面が東から西に緩く傾斜し西側で段を形成する。壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が12点出土した。

#### S K186(第61・83図)

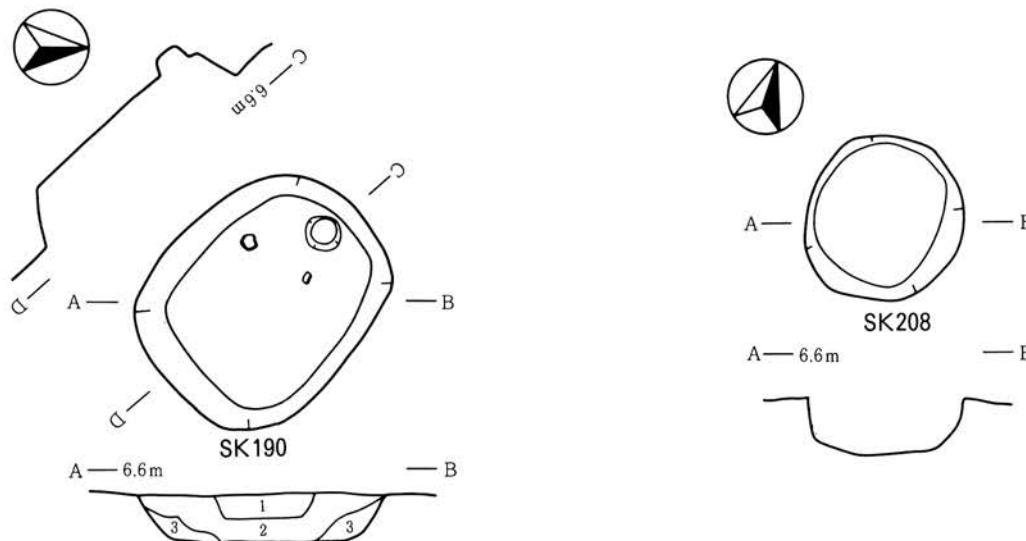
北西側のL P48・49グリッドに位置する。確認面はS D151の底面で暗褐色土が楕円形に広がる。S D151と重複しそれより古い。上面形は長軸1.2m、短軸0.8mの楕円形で、深さは0.2mである。底面が平坦で壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が16点出土した。186・187は土師器の壊で、内湾して立ち上がる。186の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。187は口径12.2cm、底径5.5cm、器高4.5cmである。

#### S K190(第62図、図版12-7)

西側のL N44・45グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が隅丸方形状に広がる。上面形は長軸1.4m、短軸1.1mの隅丸長方形で、深さは0.25mである。北東の壁際に、長軸0.2m、短軸0.18m、深さ0.1mの柱穴を伴う。底面は平坦で壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が2点出土した。

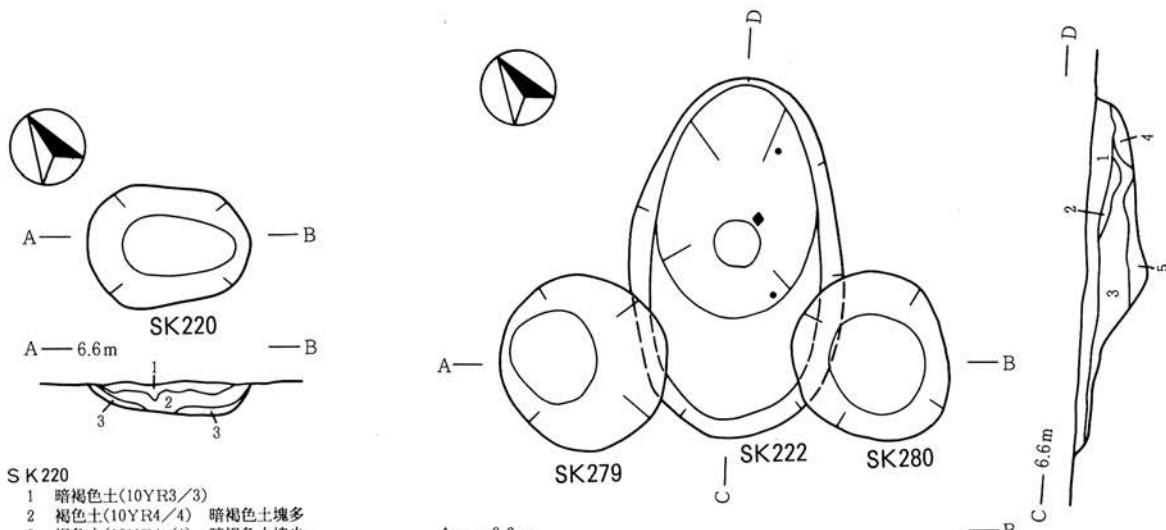


第61図 土坑(17)



**SK190**

- 1 黒褐色土(10YR3/2)
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物粒少 地山土塊多
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 炭化物粒少 暗褐色土塊多
- 4 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土塊少



**SK220**

- 1 暗褐色土(10YR3/3)
- 2 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土塊多
- 3 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土塊少

**SK222**

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物粒少 粘土粒少
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 地山土塊多
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 地山土塊多
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 地山土塊少

**SK279**

- 1 暗褐色土(7.5YR3/3)
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3) 地山土塊多

**SK280**

- 1 暗褐色土(7.5YR3/3)
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3) 地山土塊多



第62図 土坑(18)

## 開防遺跡

### S K 208(第62図)

北西側のLM48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.9m、短軸0.85mの楕円形で、深さは0.35mである。底面が中央で最も深く湾曲し、壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が13点出土した。

### S K 220(第62図、図版17-5)

中央やや西側のLK43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.88m、短軸0.66mの不整楕円形で、深さは0.16mである。底面が北西から南西に緩く傾斜し、壁は北西側が緩く南東側が急傾斜で立ち上がる。遺物は鉄滓が多数出土した。

### S K 222(第62図、図版17-6)

中央のLJ42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。SK279・SK280と重複しそれらより古い。上面形は長軸1.9m、短軸1.15mの楕円形で、深さは0.1mである。北東側が長軸1.3m、短軸0.8mの楕円形に落ち込む。底面の中央が最も深く南西側に段を形成している。壁は北東側が急傾斜で、南西側は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が3点、鉄滓が1点出土した。

### S K 240(第63図)

中央のLE43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.85m、短軸0.78mの略円形で、深さは0.15mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が5点出土した。

### S K 244(第63図)

北西側のLM・LN46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.66m、短軸0.46mの隅丸長方形で、深さは0.26mである。南東側に長軸0.14m、短軸0.12m、深さ0.05mのピットがある。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が6点出土した。

### S K 245(第63図)

北東側のLO47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.75m、短軸0.54mの不整形で、深さは0.18mである。底面に凹凸があり急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が2点出土した。

### S K 270(第63図、図版17-7)

中央のLF41グリッドに位置する。確認面はⅡ層で黒褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸1m、短軸0.6mの不整楕円形で、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が4点、礫10点が出土した。

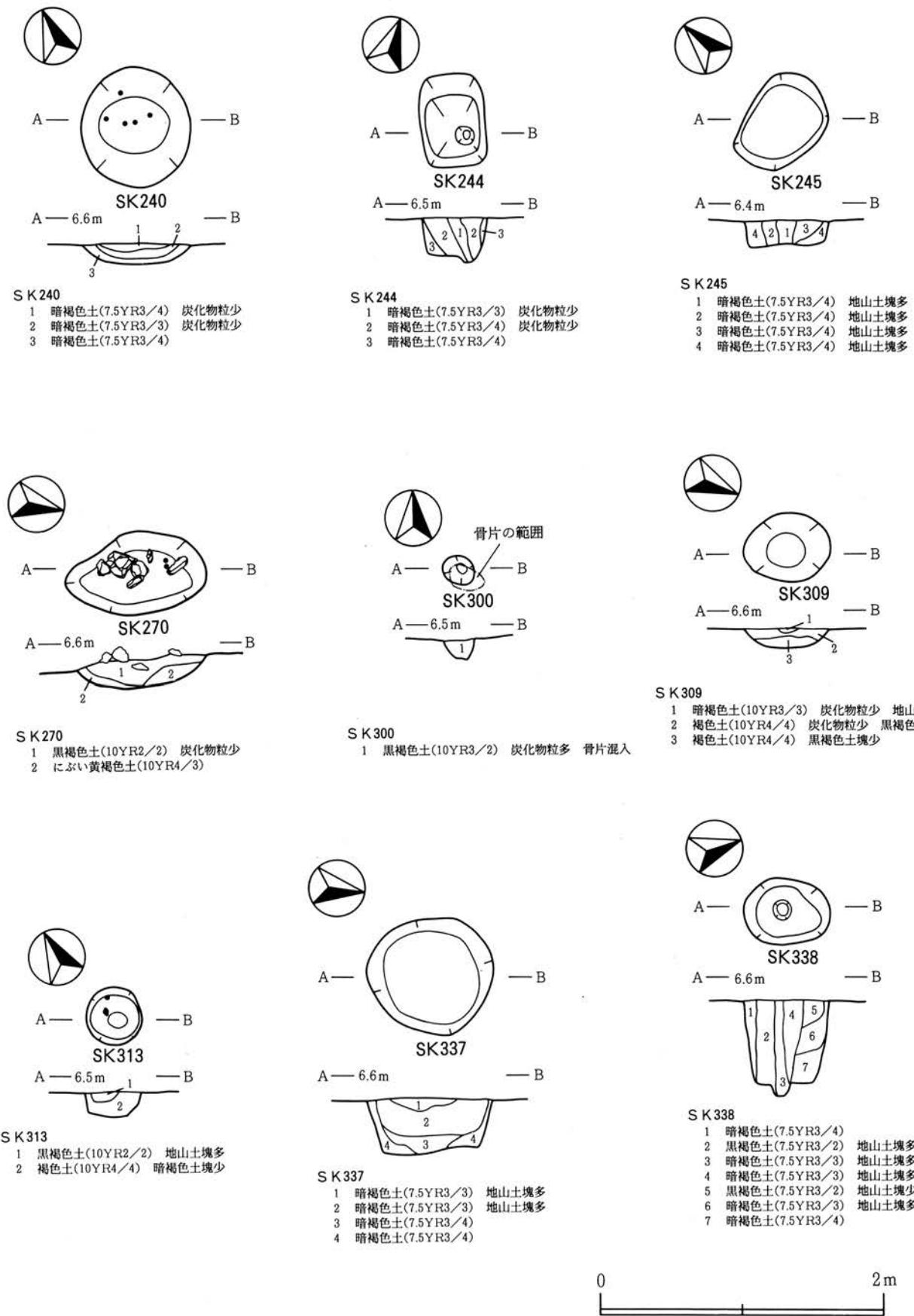
### S K 279(第62図、図版17-8)

中央のLJ42グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が円形に広がる。SK222と重複しそれより新しい。上面形は長軸0.95m、短軸0.9mの略円形で、深さは0.15mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S K 280(第62図、図版18-1)

中央のLJ42グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が円形に広がる。SK222と重複しそれより新しい。上面形は長軸0.9m、短軸0.86mの不整楕円形で、深さは0.24mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S K 281(第58図、図版16-2)



第63図 土坑(19)

## 開防遺跡

中央やや南東の L E 38・39、L F 38・39 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S K 74 と重複しそれより新しい。上面形は長軸 1.38m、短軸 0.86m の楕円形で、深さは 0.28m である。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が 22 点、フィゴの羽口が 1 点、鉄滓が 1 点出土した。

### S K 300(第63図)

東側の L A 42 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で青灰色の骨粉が楕円形に広がる。上面形は長軸 0.24m、短軸 0.2m の楕円形で、深さは 0.15m である。底面は平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。

### S K 309(第63図)

北西側の L O 47・48 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸 0.62m、短軸 0.5m の楕円形で、深さは 0.14m である。断面形状は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S K 313(第63図)

東側の L C 41 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。上面形は径 0.4m の略円形で、深さは 0.2m である。底面が緩く窪み壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が 3 点出土した。

### S K 337(第63図)

北西の L L・LM 47 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S B 8・9 と重複するが新旧関係は不明である。上面形状は長軸 0.9m、短軸 0.84m の略円形で、深さは 0.4m である。底面に凹凸があり北から南に緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が 7 点出土した。

### S K 338(第63図)

北西の L L 48 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S B 8 と重複するが新旧関係は不明である。上面形状は長軸 0.6m、短軸 0.48m の楕円形で、深さは 0.6m である。中央に長軸 0.14m、短軸 0.12m、深さ 0.1m のピットが伴う。底面が平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が数多く出土した。

### S K 410(第64図、図版18-2)

南西の L O 41 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が半円状に広がる。上面形状は残存長軸 1.3m、短軸 1.45m の楕円形と考えられ、深さは 0.45m である。底面が平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が 7 点出土した。

### S K 411(第64図)

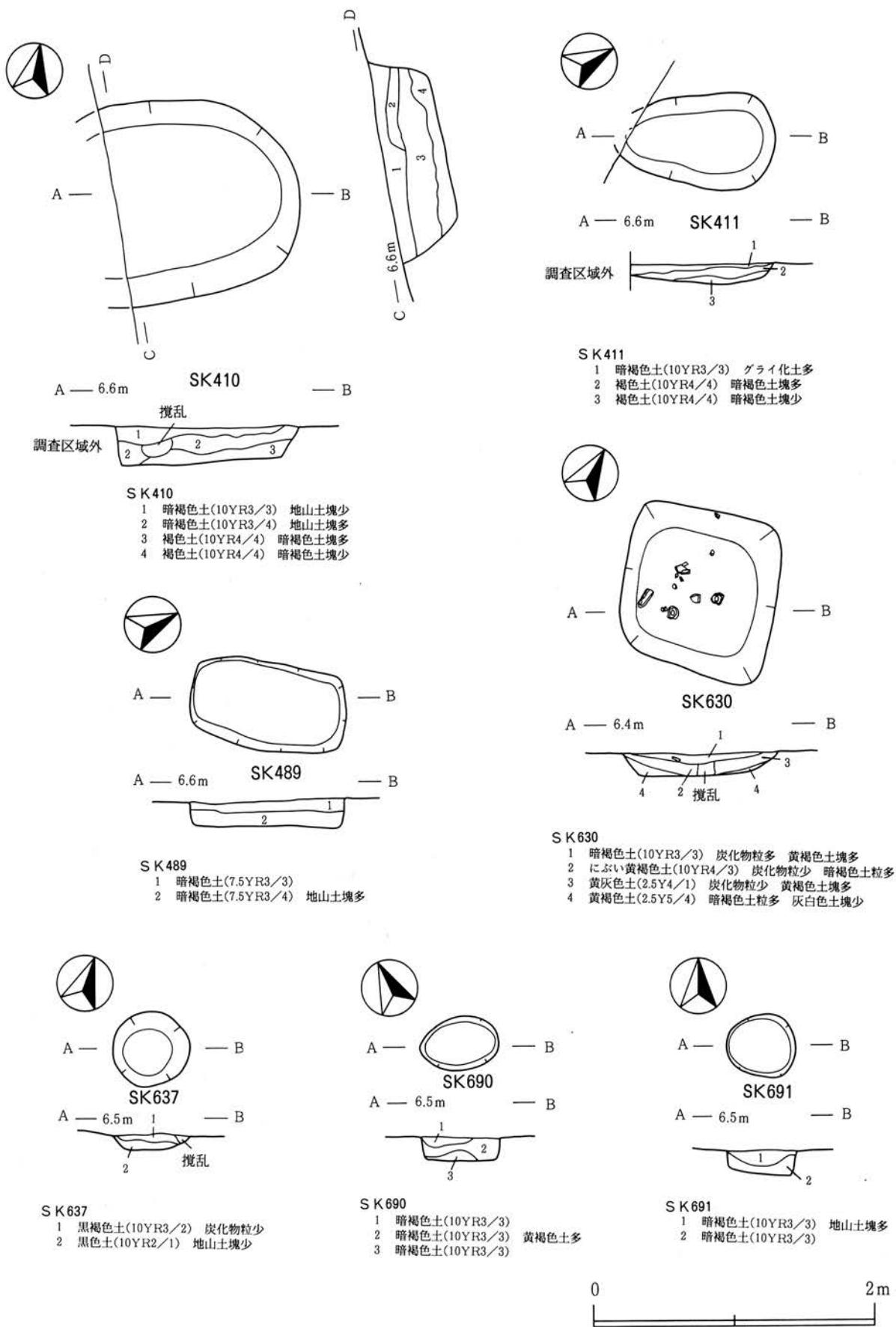
西側の L O 40 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形状は推定長軸 1.1m、短軸 0.7m の不整楕円形で、深さは 0.15m である。底面が南西から北東に緩く傾斜し壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は鉄製品が 1 点出土した。

### S K 412(第59図)

中央やや南側の L I 38 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S K 90 と重複するが前後関係は不明である。上面形状は直径 0.45m の円形と考えられ、深さは 0.1m である。底面が南から北に緩く傾斜し、壁は北側が急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が 1 点出土した。

### S K 489(第64図、図版12-7・18-3)

西側の LM 44・45 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が長方形状に広がる。S B 11 と重複するが新旧関係は不明である。上面形状は長軸 1.1m、短軸 0.64m の隅丸長方形状で、深さは 0.2m であ



第64図 土坑(20)

## 開防遺跡

る。底面に緩い凹凸があり壁は垂直ぎみに立ち上がる。遺物は土師器が7点出土した。

### S K591(第57図)

東側のL B41・42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形状に広がる。S K55と重複しそれより古い。上面形状は長軸0.12m以上、短軸0.8mの楕円形と考えられ、深さは0.1mである。断面形状は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S K630(第64・83図、図版18-4)

東側のK S38グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が方形状に広がる。上面形状は一辺約1mの隅丸菱形状で、深さは0.16mである。底面はほぼ平坦で、壁は南西側が急傾斜で北東側が緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器1点が出土した。188は須恵器の有台皿と考えられる。189～191は土師器で189は有台壺、90・191は壺である。いずれも切り離しは、回転ロクロによる糸切りである。189の内面は黒色処理され、底面の周辺には短く放射状痕跡が見られる。

### S K637(第64図)

東側のL A42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。上面形は径0.55mの略円形で、深さは0.1mである。底面は平坦で、壁は東側が緩く西側が急傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

### S K690(第64図)

南西側のL M40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸0.56m、短軸0.38mの北西側が尖った楕円形で、深さは0.18mである。底面は平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器5点、鉄滓1点が出土した。

### S K691(第64図)

南西側のL M39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.5m、短軸0.44mの不整楕円形で、深さは0.2mである。底面が西側から東側に緩い傾斜で、壁は垂直ぎみに立ち上がる。遺物は土師器が10点出土した。

### S K717(第44図、図版12-4・18-5)

西側のL O43・44、L P43・44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S I 150・S N814と重複しそれらより古い。上面形は長軸3.1m、短軸1.8m以上の楕円形で、深さは0.38mである。底面は平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器が6点出土した。

### S K721(第65図、図版18-6)

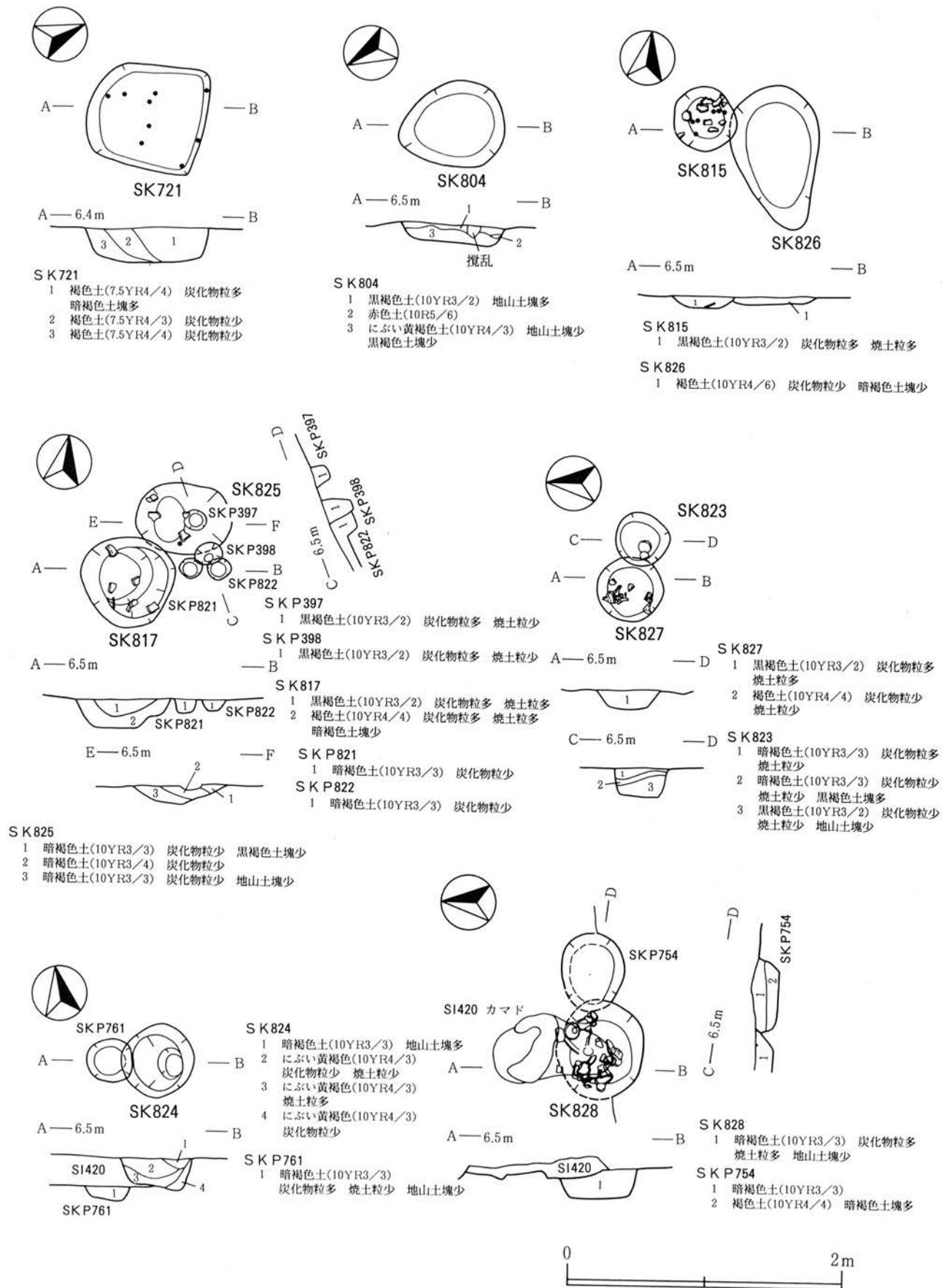
西側のL L44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が方形に広がる。上面形は長軸0.85m、短軸0.78mの不整方形で、深さは0.25mである。底面が緩く窪んで壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が8点出土した。

### S K763(第66・70図)

南東側のL B37グリッドに位置する。確認面はS S80の下で暗褐色土が円形に広がる。S S80・S D 50と重複しそれらより古い。上面形は径1.25mの略円形で深さは0.43mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S K804(第65図)

中央南側のL E36グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。上面形は長軸0.8



### 第65図 土坑(21)

## 開防遺跡

m、短軸0.65mの北側がやや尖った不整橢円形で、深さは0.15mである。底面が北東側から南西側に緩く傾斜し、壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が10点出土した。

### S K815(第65図、図版18-7)

南西側のLN40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S I 420・S K826と重複しそれらより新しい。上面形は径0.45mの略円形で、深さは0.1mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が17点出土した。

### S K817(第65図)

南西側のLM40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S I 420・S K825と重複しそれらより新しい。上面形は長軸0.66m、短軸0.58mの不整円形で、深さは0.2mである。底面がほぼ平坦で南東側に段を形成し、壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が7点出土した。

### S K823(第65図)

南西側のLN40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S I 420・S K827と重複しそれらより新しい。上面形は径0.4mの不整円形で、深さは0.2mである。断面形は北側から南側に緩く傾斜し、壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が2点出土した。

### S K824(第65図)

南西側のLM40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。SK P761と重複しそれよりも新しい。上面形は径0.54mの略円形で、深さは0.2mである。東側壁際に長軸0.22m、短軸0.18mのピットがある。底面は平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

### S K825(第65図)

南西側のLM40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が橢円形に広がる。SK 817・SK P397・SK P398と重複しそれらより古い。上面形は長軸0.7m、短軸0.5mの橢円形で、深さは0.14mである。底面の中央部が最も低く全体に摺鉢状を呈する。遺物は土師器が7点出土した。

### S K826(第65・83図)

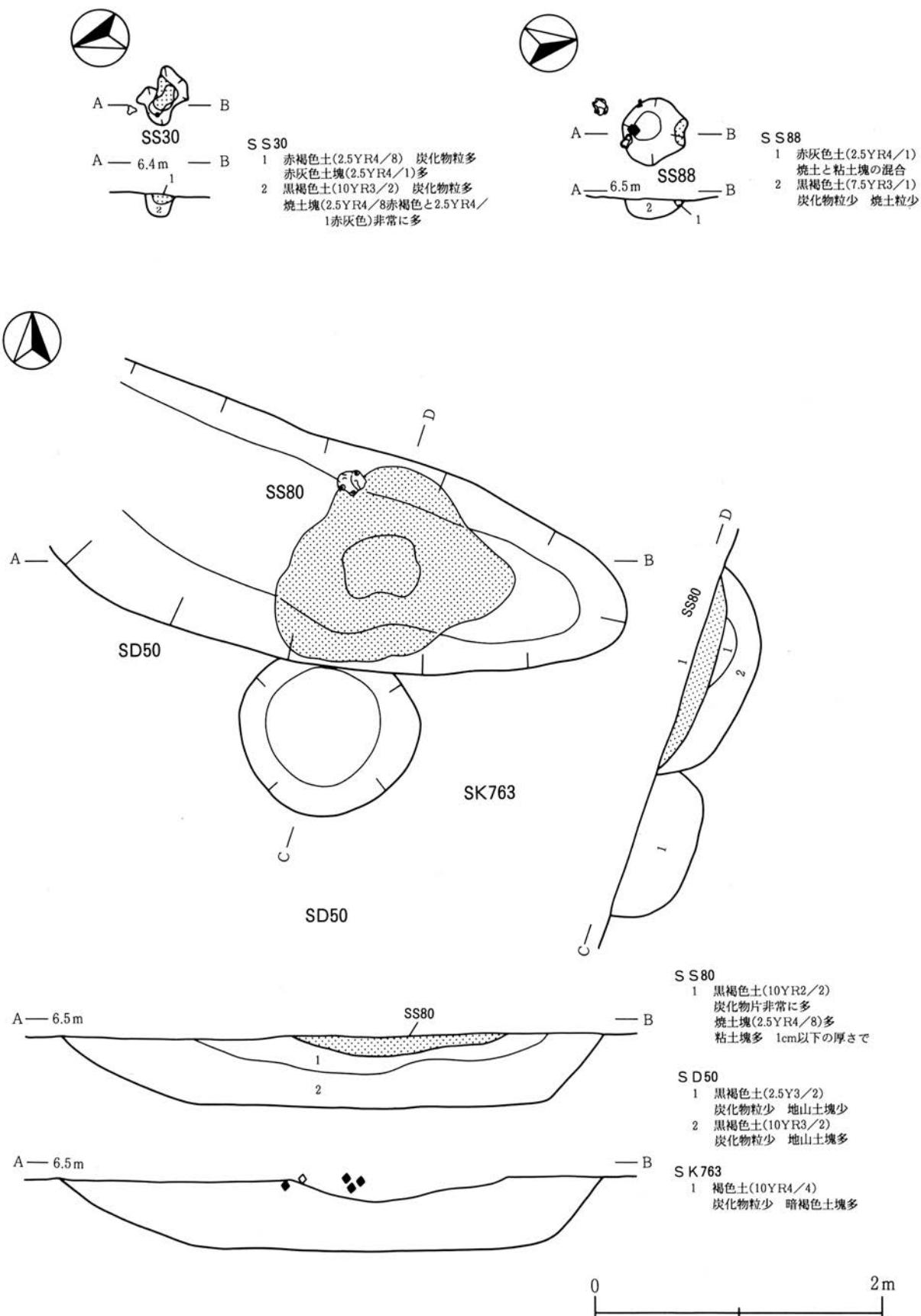
南西側のLN40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が橢円形に広がる。SK 815と重複しそれより古い。上面形は南側が窄まる橢円形で、深さは0.08mである。底面が東側から西側に緩く傾斜し、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が11点出土した。192は土師器の壊である。内湾して立ち上がり、切り離しは右ロクロ回転の糸切りである。

### S K827(第65図)

南西側のLN40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S I 420・S K823と重複しS I 420より新しくSK 823よりも古い。上面形は径0.5mの円形で、深さは0.15mである。底面はほぼ平坦で壁はやや急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が10点出土した。

### S K828(第65・83図、図版18-8)

南西側のLN40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。S I 420と重複しそれより古い。上面形は長軸0.7m、0.65mの橢円形で、深さは0.2mである。底面は平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が36点出土した。193～195は土師器で193は球胴甕、194・195は長胴甕である。193の胴部にはカキ目の後ヘラケズリを施す。195の胴部はヘラで撫で、194はロクロで仕上げてある。



第66図 鍛冶炉(2)

## 開防遺跡

### (7) 鍛冶炉

#### S S 30(第66・83図)

中央やや南東側の L E 36 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が不整形に広がり、その周囲を還元色の焼土が廻っていた。掘り方の上面形は長軸0.4m、短軸0.3mの不整形で、深さは0.15mである。断面形は摺鉢状を呈する。上面に厚さ0.06mの焼土が見られた。遺物は土師器が多く出土した他、土錘が1点、鉄滓が1点出土した。196は土錘の破片で直径1.7cm、穿孔部径0.5cmである。

#### S S 80(第66・70図、図版19-1)

南東側の L B 37 グリッドに位置する。確認面はⅡ層で、暗橙色の焼土が不整形に広がった上に鉄塊系遺物が確認された。S D 50と重複しそれより新しい。焼土の上面形は、長軸1.6m、短軸1.25mの不整な二等辺三角形である。焼土は摺鉢状を呈し中央の最大厚は0.15mである。掘り方は見られない。遺物はフイゴの羽口1点、鉄塊1点、鉄滓が7点出土した。

#### S S 88(第66図)

中央やや北側の L G 43・44 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が広がり、その周りを還元色の焼土が取り囲んでいた。掘り方の上面形は長軸0.48m、短軸0.44mの歪な円形で、深さは0.14mである。断面形は摺鉢状を呈する。上面の一部に焼土の小さな塊が見られた。遺物は炉壁2点、鉄塊1点、鉄滓2点が出土した。

### (8) 炭焼成遺構

#### S W18(第67図)

東側の K R ・ K S 41 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。上面形は長軸3.8m、短軸0.9mの溝状を呈し、北西側に張り出し部分がある。断面形は底面が南東側緩く窪んで北西側で緩く、壁も緩い傾斜で立ち上がる。底面には僅かに硬化面が見られ、炭層が明瞭に認められた。また覆土に焼土塊が多量に認められた。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器1点が出土した。

#### S W58(第67図、図版19-2)

中央やや北側の L D 43 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がる。S B 1と重複しそれより新しい。上面形は長軸0.7m、短軸0.6mの橈円形で、深さは0.12mである。断面形は摺鉢状を呈する。底面には多量の炭層が広範に認められた。遺物は土師器4点が出土した。

#### S W77(第67図、図版19-3)

南西側の L K 47・48 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が円形に広がる。上面形は長軸1.15m、短軸1.3mの橈円形で、深さは0.1mである。底面には凹凸があり摺鉢状を呈する。覆土には多量の炭層が広範に認められた。遺物は土師器15点、フイゴの羽口2点が出土した。

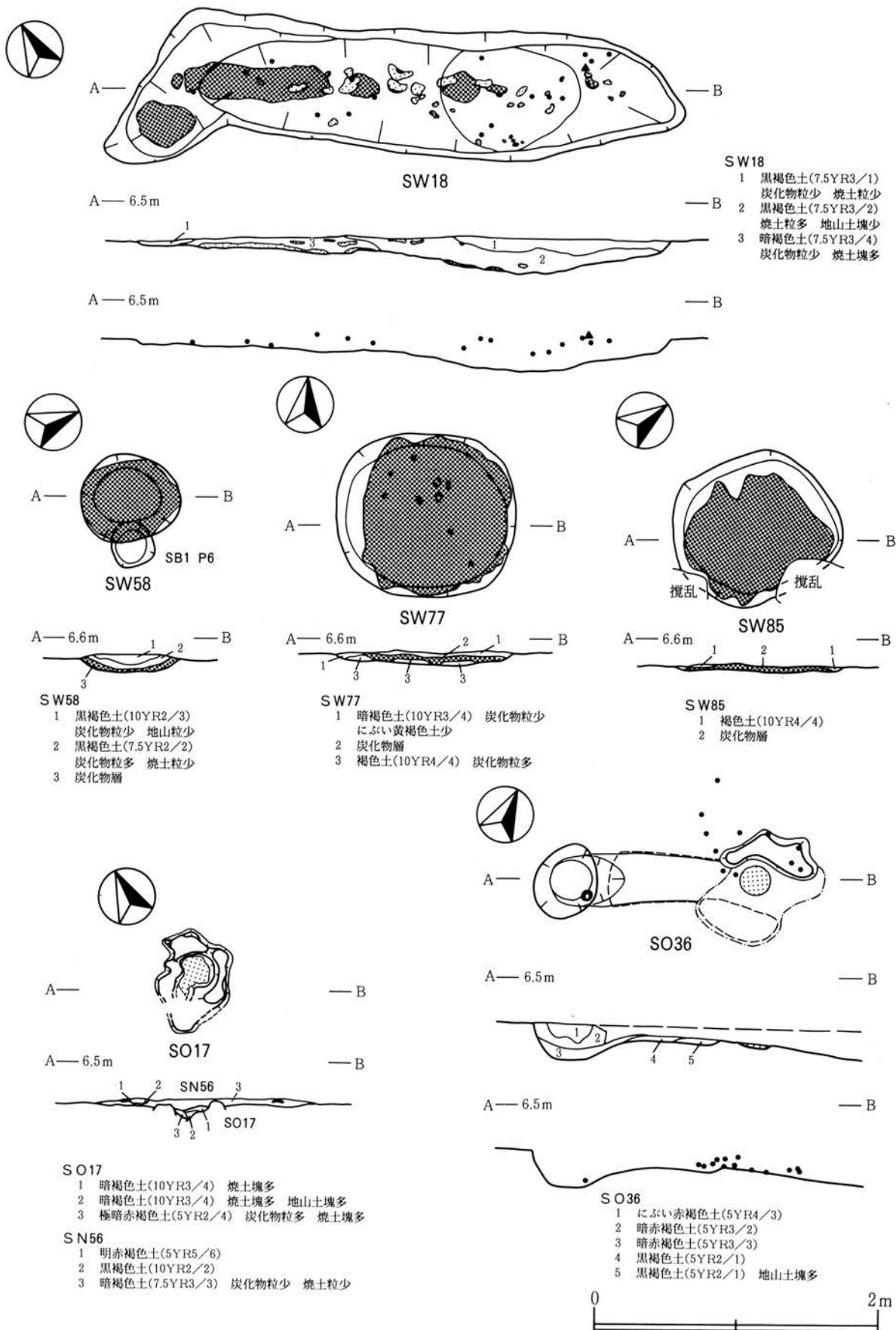
#### S W85(第67図、図版19-4)

西側の L N 43・44 グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が円形に広がる。東と南側の一部が搅乱を受けていた。上面形は長軸1.2m、短軸1mの不整橈円形で、深さは0.05mである。底面には凹凸があり、壁は緩い傾斜で立ち上がる。覆土には多量の炭層が広範に認められた。遺物は出土しなかった。

### (9) カマド状遺構

#### S O17(第67図)

東側の K S 39 グリッドに位置する。確認面は S N 56 の下で焼土混じりの暗褐色土が円形に広がる。上



第67図 炭焼成遺構(3)、カマド状遺構(1)

## 開防遺跡

面形は長軸0.7m、短軸0.5mの不整形で、周囲が粘土で構築され中央に火床面がある。遺物は出土しなかった。

### S O36(第67・83図、図版19-5)

東側のL A37・38、L B37グリッドに位置する。確認面はⅢ層でぶい赤褐色土が不整形に広がる。規模は長軸2m、短軸0.8mで、両袖が粘土で構築されたカマド状遺構である。長さ1.2m、短軸0.35mの煙道が付く。竪穴住居跡のカマドと考えられたが住居の痕跡は見られなかった。遺物は土師器が14点出土した。197～202は土師器で197・199・202は壊、198・201は甕、200はミニチュアの甕である。197・198・199の切り離しは、右回転ロクロの糸切りである。200は完形で内面には煤状炭化物が広く認められる。口径6.1cm、底径4cm、器高4.8cmである。

### S O59(第68・83図)

中央やや北側のL G43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で明赤褐色土が楕円形に広がる。上面形は径0.8mの不整形で、2カ所に粘土の塊が見られ、底面には火熱の影響が認められた。遺物は土師器が35点出土した。203は土師器で球胴の甕と考えられる。口縁部に浅い沈線状の痕跡が認められる。

### S O685(第68・84図、図版19-6)

西側のL O45・46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で橙色土が円形に広がる。上面形は長軸0.8m、短軸0.7mの不整形で、一部を除いた周囲が粘土で構築されていた。中央部の火床面は強く焼け、内面の開口部近くに支脚が据えてあった。竪穴住居跡のカマドと考えられたが、それに伴う掘り方や柱穴は見られない。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器が7点出土した。204～206は土師器の甕で、205は長胴甕である。204は砂底土器である。206は胴部にナデ、口縁部にヨコナデを施す。ほぼ完形で口径15.1cm、底径8.8cm、器高12.6cmである。

## (10) 焼土遺構

### S N23(第68図)

南東側のL C37グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。S B3と重複するが新旧関係は不明である。上面形は長軸0.4m、短軸0.3mの不整形で、焼土の厚さは0.04mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N38(第68図)

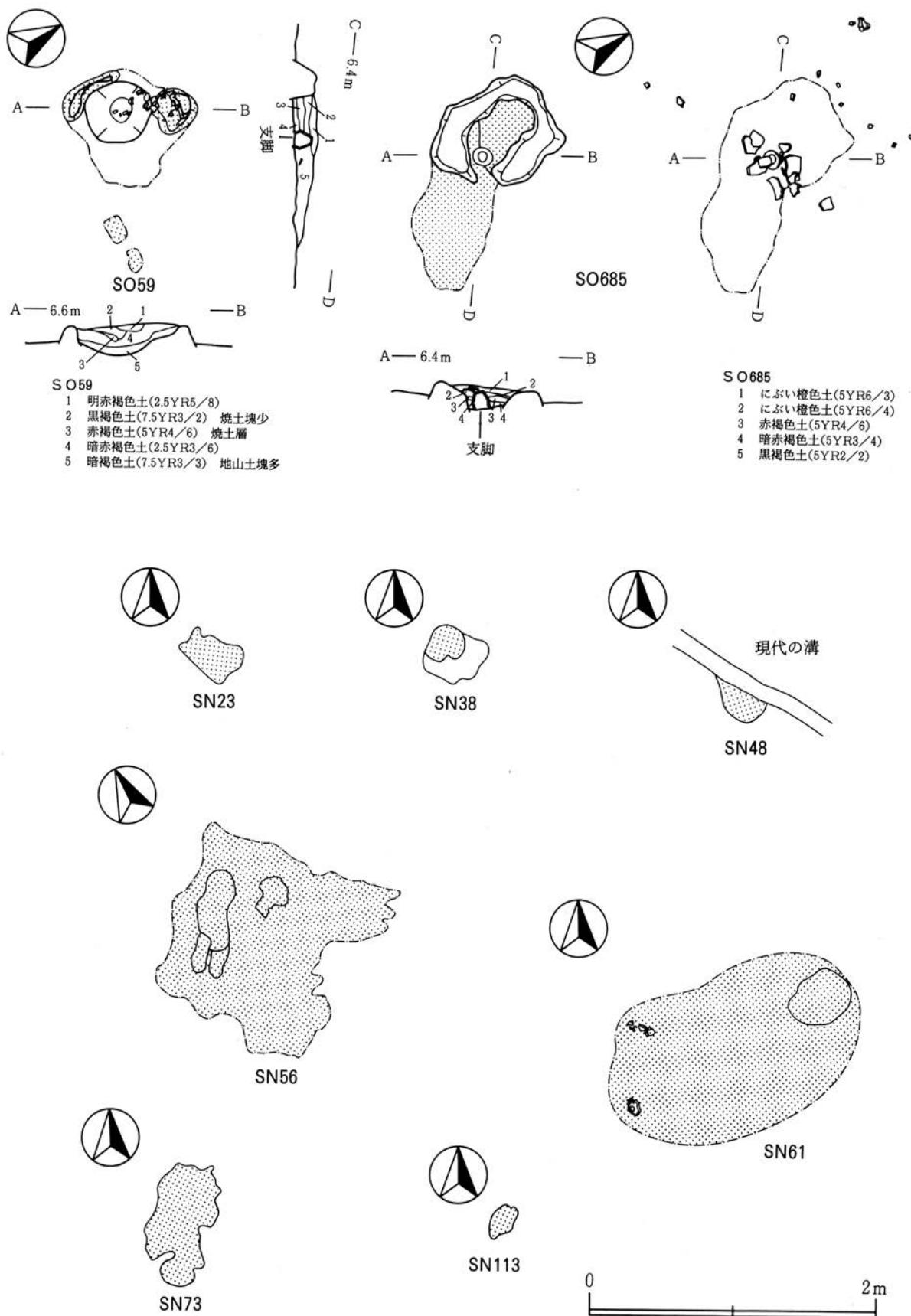
中央のL H39・40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸0.5m、短軸0.4mの不整形で、焼土の厚さは0.03～0.05mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器が3点出土した。

### S N48(第68図)

東側のL B39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。北側が搅乱を受けている。上面形は長軸0.4m以上、短軸0.3m以上の不整形と考えられ、焼土の厚さは0.08mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N56(第68・84図、図版19-7)

東側のK S39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で明赤褐色の焼土が広がる。S K16・S N17と重複しそれらより新しい。上面形は長軸1.8m、短軸1.7mの不整形を呈し、焼土の厚さは0.1mである。掘り込みは見られず全体に平坦である。遺物は土師器を多数出土した他、須恵器3点、鉄滓1点が出土した。207



第68図 カマド状遺構(2)、焼土遺構(3)

## 開防遺跡

～209は土師器の甕である。207・209はロクロで仕上げる。207は頸部が「く」の字状で、口縁部は内湾する。口径26.6cm、底径10.4cm、器高34.9cmである。

### S N61(第68・84図)

中央やや西側のL I 41、L J 40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。範囲は長軸1.85m、短軸1.15mの不整橢円形で、厚さは0.03mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器9点が出土した。210は土師器で、底部がやや突出した甕である。口縁部は薄く外傾する。

### S N73(第68図)

東側のL C 42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸0.85m、短軸0.5mの不整形で、焼土の厚さは0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N113(第68図)

西側のL M42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸0.26m、短軸0.16mの不整形で、焼土の厚さは0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N114(第69図)

北西側のL O47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。その広がりは長軸0.8m、短軸0.4mで、焼土の厚さは0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N124(第69図)

北西側のL L46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸0.5m、短軸0.45mの不整形で、焼土の厚さは～0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器が8点出土した。

### S N258(第69・84図)

北西側のL O47グリッドに位置する。確認面はⅢ層で橙色焼土混じりの極暗赤褐色が広がる。S D115と重複しそれより古い。上面形は長軸1.1m、短軸0.7mの不整形で、焼土の厚さは0.1mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器が20点出土した。211～215は土師器で211～214は壺、215は羽釜である。壺は内湾して立ち上がり、214を除いた切り離しは右回転ロクロの糸切りである。羽釜の鍔部は先端がやや下降する。

### S N321(第47図)

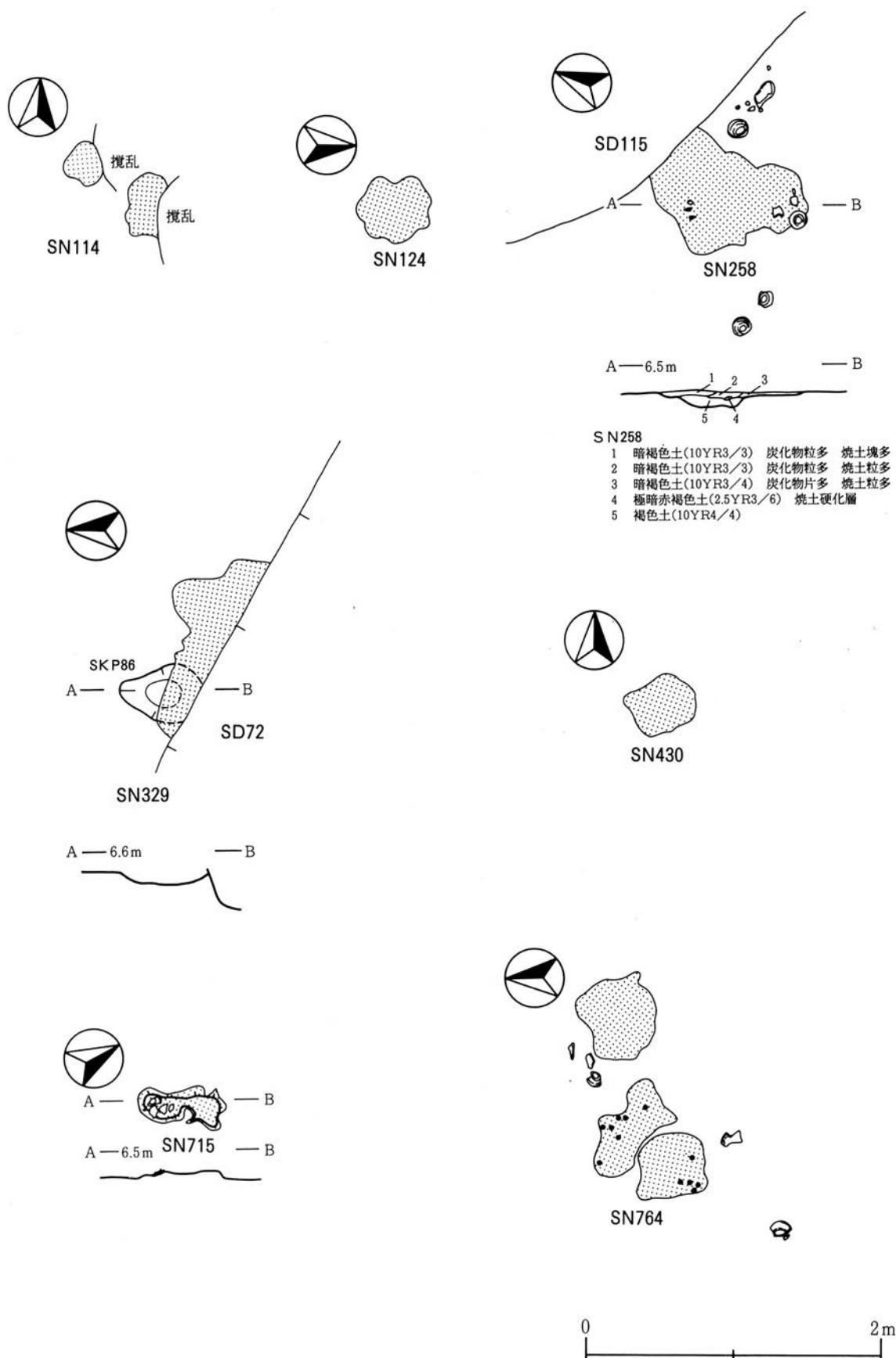
中央やや南西側のL K39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で赤褐色の焼土が広がる。S K I 333と重複しそれより新しい。上面形は長軸0.75m、短軸0.55mの不整橢円形で、焼土の厚さは0.04～0.07mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N329(第69図)

中央のL I 42・43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で赤褐色の焼土が広がる。S D72・S K P 86と重複し、S D72より古くS K P 86よりも新しい。長軸1.4m以上、短軸0.5m以上の不整形と考えられ、焼土の厚さは0.02mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。

### S N430(第69図)

中央やや西よりのL J 41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸0.45m、短軸0.4mの不整長方形で、焼土の厚さは0.06mである。掘り込みは見られない。遺物は出土しなかった。



第69図 焼土遺構(4)

## 開防遺跡

### S N 715(第69図、図版19-8)

北西側のL Q46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がる。上面形は長軸0.6m、短軸0.3mの不整形で、焼土の厚さは0.07mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器が7点出土した。

### S N 764(第69・85図)

南東側のL B37グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色の焼土が広がり3つのブロックを形成する。上面形は長軸1.55m、短軸0.6mで、焼土の厚さは0.05mである。掘り込みは見られない。遺物は土師器が17点出土した。216～219は土師器で216・217が壊、218・219が甕である。219は胴部に縦位のヘラケズリを施す。粘土紐の痕跡が明瞭に残る。

### S N 814(第44図)

西側のL O・L P44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗赤褐色土が広がる。S I 150・S K717と重複しそれらより新しい。上面形は長軸0.44m、短軸0.3mの不整形で、焼土の厚さは0.08～0.1mである。遺物は土師器が4点出土した。

#### (11)溝跡

### S D 50(第66・70図、図版20-1)

東側のL B37・38、L C38～40、L D38グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が「L」字形の溝状に広がり、S D50に平行する。S K81・S K763・S S80と重複しS K81・S S80より古くS K763よりも新しい。北一南の方向から東の方向に湾曲しながら直角に延びる。屈曲部分で西に小さい溝が張り出しが、重複の可能性がある。長さは15.5m以上、最大幅1.65m、深さは0.26mである。遺物は土師器が多量に出土した他、フイゴの羽口1点、鉄滓2点が出土した。

### S D 51(第70図、図版20-1)

東側のL B38・L C39～40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が「L」の字形の溝状に広がり、S D51に平行する。北一南の方向から東の方向に湾曲しながら直角に延びる。全長12.3m、最大幅1.2m、深さは12.3mである。底面が平坦で壁は急傾に立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した。

### S D 52(第70図、図版20-2)

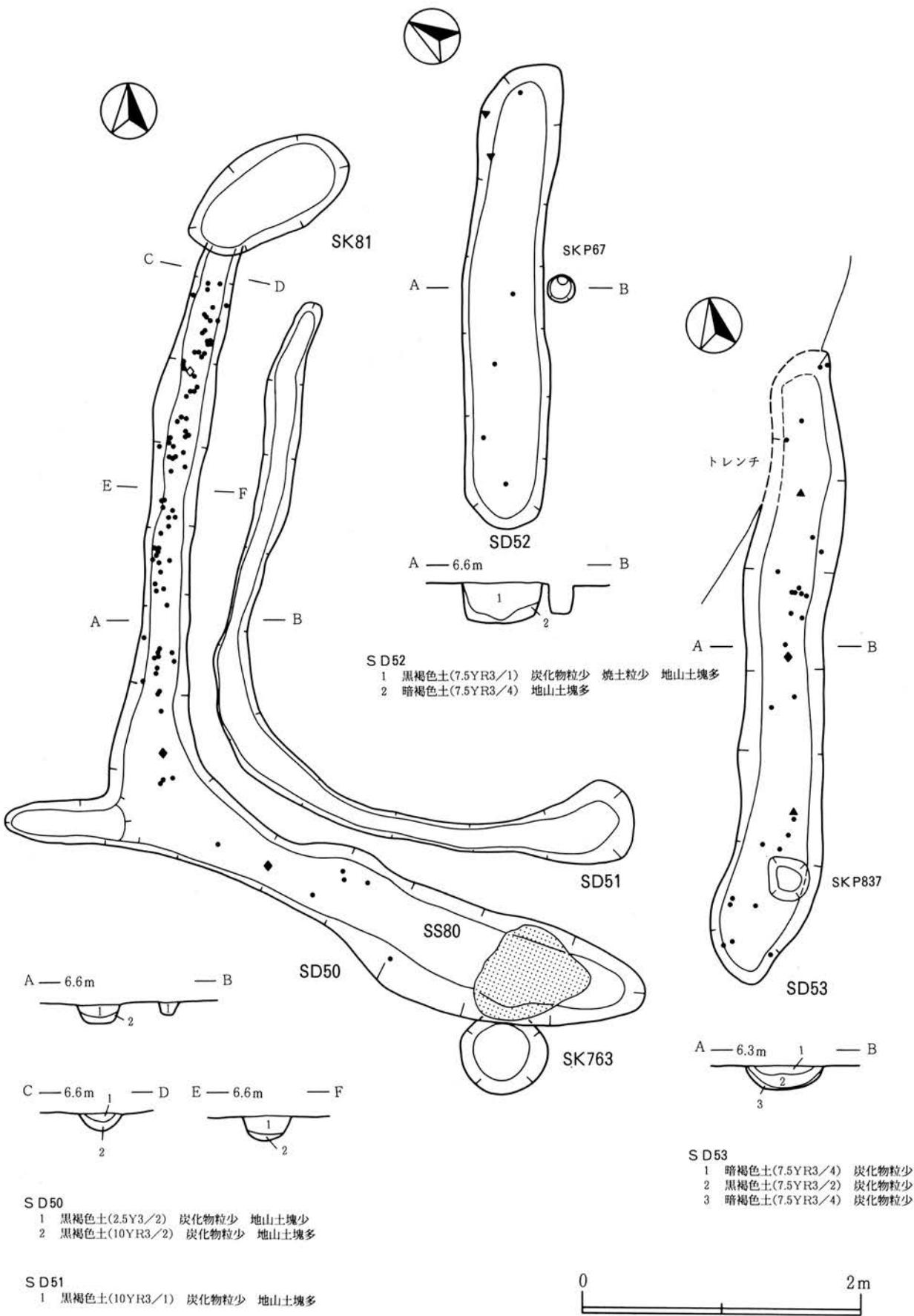
中央のL F40・41、L G40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。北東一南西の方向に直線的に延びる。全長3.35m以上、最大幅0.64mで、深さは0.3mである。底面はやや湾曲し壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は須恵器2点、土師器5点が出土した。

### S D 53(第70・85図、図版20-3)

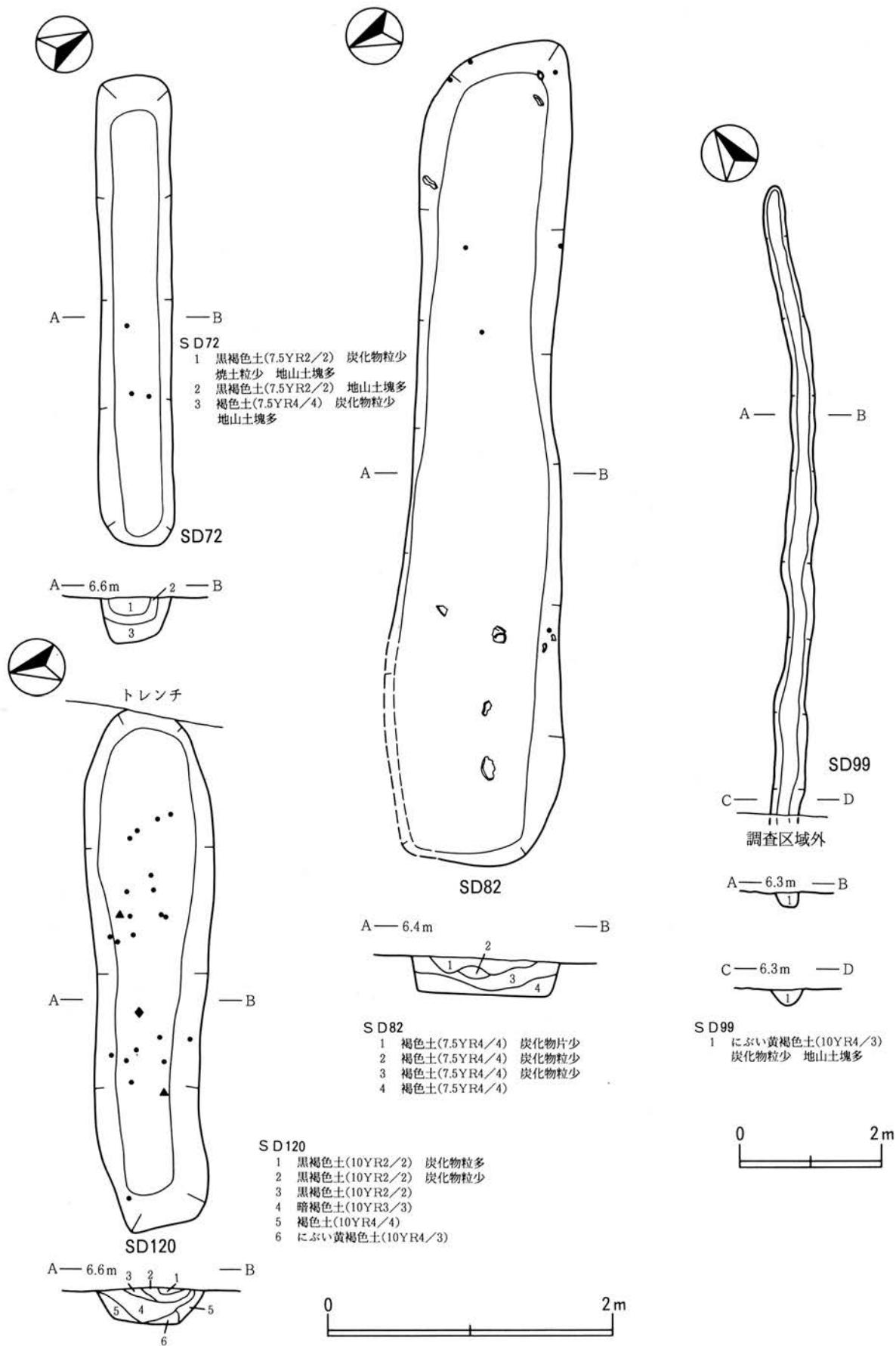
南側のL F37・38、L G37グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北一南の方向へやや蛇行しながら直線的に延びる。S K P837と重複しそれより古い。全長4.6m以上、最大幅0.7m、深さは0.18mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多数出土した他、須恵器2点、土錘3点、鉄滓1点が出土した。220～222は土錘で221の両端は平坦である。220は長さ5.5cm、幅1.8cm、穿孔部径は0.6cmである。221の長さは4.6cm、幅1.9cm、穿孔部径は0.3cmである。

### S D 72(第71図、図版20-4)

中央のL I42・43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。北西一南東方向へ直線的に延びる。S D72と重複しそれより新しい。全長3.3m以上、最大幅0.54mで、深さは0.3mである。



第70図 溝跡(7)



第71図 溝跡(8)

底面が東から西に緩く傾斜し、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器7点が出土した。

S D82(第71・85図、図版21-1)

南側のL E36・37、L F36・37グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が溝状に広がる。北西-南東の方向へ直線的に延びる。全長5.9m以上、最大幅1.2mで、深さは0.25mである。底面が北東から南西へ緩く傾斜し、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器15点が出土した。223～225は土師器で223・224は壺、225は甕である。壺は内湾して立ち上がる。甕の胴部には縦位のヘラケズリを施す。

S D99(第71・85図)

中央南側のL G37・38、L H36・37グリッドに位置する。確認面はⅢ層でぶい黄褐色土が溝状に広がる。北東-南西の方向にやや蛇行しながら直線的に延びる。全長9m以上、最大幅0.45mで、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。出土遺物は土師器2点、鉄滓2点が出土した。226は底部側縁が突出した甕である。

S D115(第72・85図、図版20-5)

北西側のL J～L M46・47、L K46、L L～L O46・47、L M46・47、L N47、L O48・49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で灰黄褐色土が溝状に広がる。S N258・S X170と重複し、S N258より新しくS X170よりも古い。北-南の方向から東の方向に湾曲しながら直角に延びる。全長27m以上、最大幅1.8m、深さは0.6mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器と鉄滓が多量に出土した他フイゴの羽口、炉壁35点が出土した。227～235は土師器、236は土錘である。227～231は壺、232は鉢、233は鍋、234・235は甕である。壺は内湾して立ち上がり、切り離しは回転糸切りである。232は器肉が厚く、底部から胴部にかけて粗いヘラケズリを施す。内面には木口状のナデを施す。233はロクロで仕上げており、色調は明橙色を呈する。234はロクロによる口縁部、235は非ロクロの底部である。

S D120(第71図、図版21-2)

東側のL A40・41、L B40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。西-東の方向に直線的に延びる。全長3.7m以上、最大幅0.8m、深さは0.26mである。底面が北から南に僅かに傾斜し、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器38点、鉄滓1点が出土した。

S D151(第72図、図版20-5)

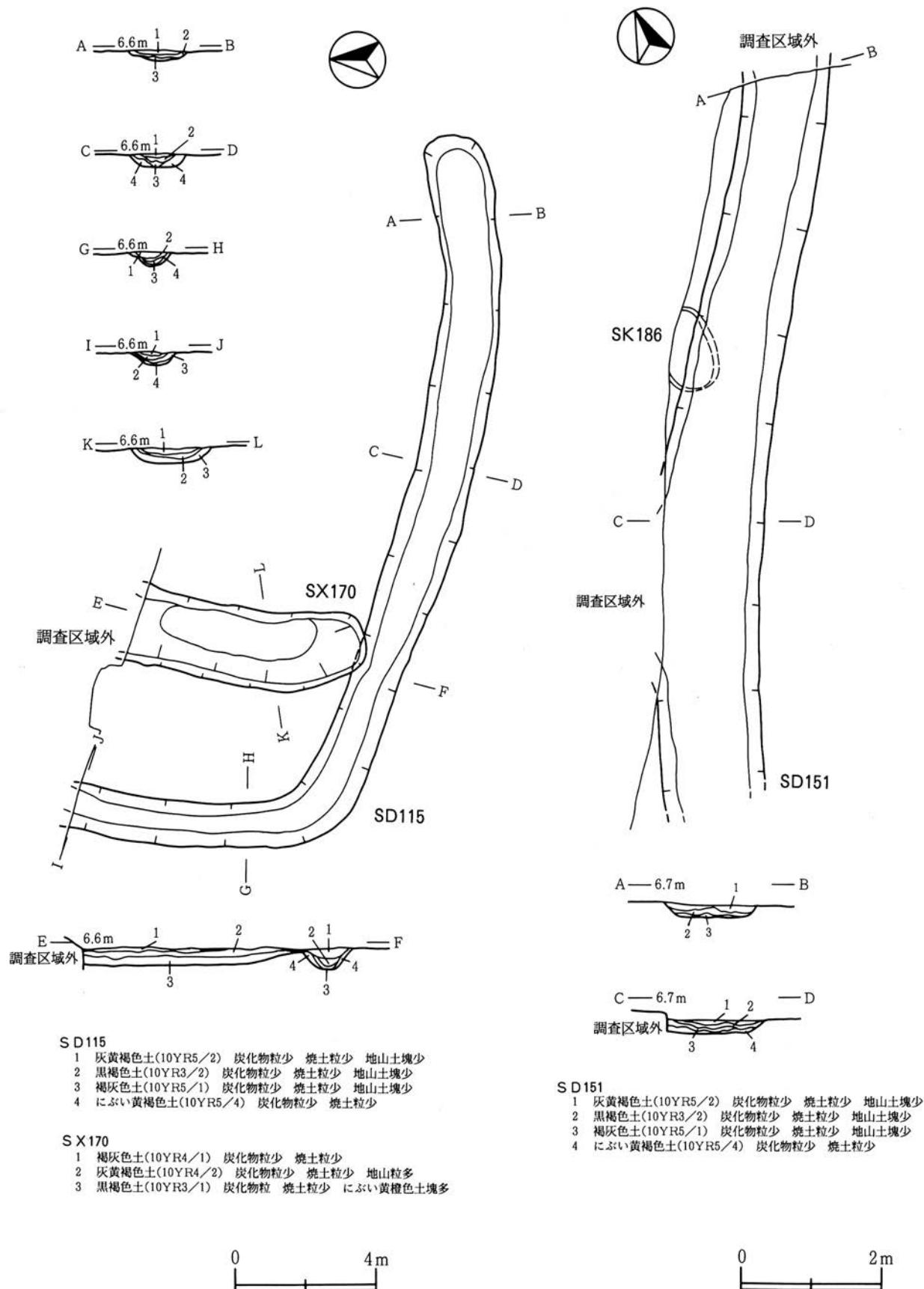
北西側のL O49、L P47～49、L Q47・48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で灰黄褐色土が溝状に広がる。北東-南西方向にやや湾曲して延びる。S K186と重複しそれより新しい。全長10.5m以上、最大幅は1.5m、深さは0.2mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は須恵器2点、土師器12点が出土した。

S D221(第60・73図)

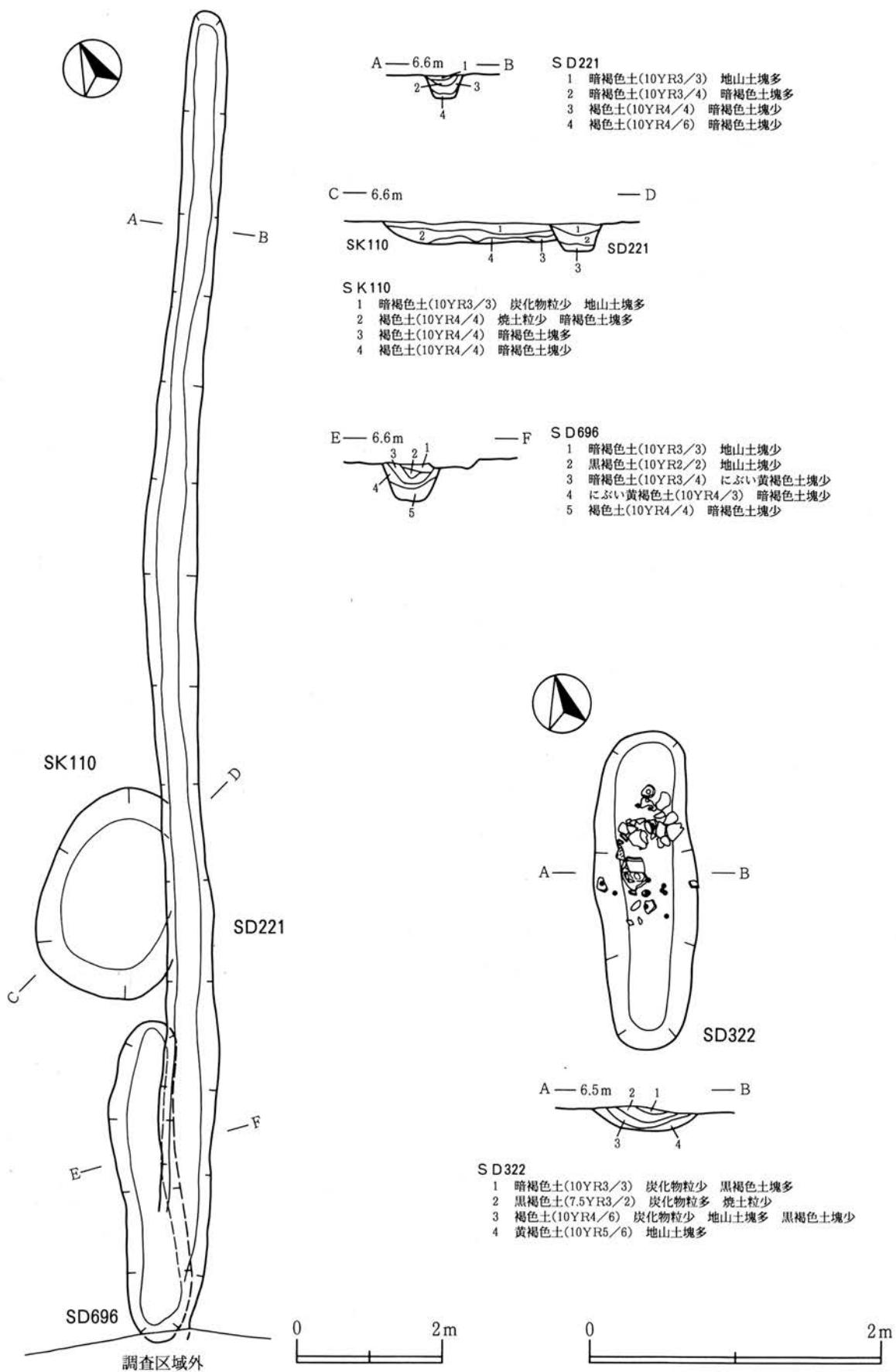
中央西側のL J43、L K41～43、L L39～41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北東-南西方向直線的に延びる。S K110・S D696と重複しそれらより新しい。全長18.3m以上、最大幅0.7m、深さは0.4mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が多く出土した他、須恵器4点、鉄滓8点が出土した。

S D322(第73・85・86図、図版21-3)

東側のL B40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北-南方向に直線的に延びる。全長2.2m以上、最大幅0.7mで、深さは0.16mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が



第72図 溝跡(9)



第73図 溝跡(10)

## 開防遺跡

多数出土した。237～242は土師器で237が坏、238・239が高坏、240が球胴甕、241・242は同一個体の長胴甕である。237は平らな底部より内湾ぎみに立ち上がり、口縁端部で鋭く立ち上がる。底面に簾状の痕跡が残る。推定口径20.5cm、底径8.6cm、器高6.9cmである。238・239はいずれも内面を黒色処理している。238は内湾して立ち上がり、体部に浅い沈線状の痕跡がある。焼成は不良だが、脚部にはヘラミガキが認められる。口径17.7cm、器高8cm以上である。239は脚柱部に膨らみがある。240の底部は突出し、口縁部は内湾ぎみになる。外面には縦位のカキ目を施す。推定口径14.7cm、胴部最大幅21.6cm、底径8.1cm、器高25.5cmである。242は底部が突出し、241の口縁部は緩く外反するが口縁端部で鋭く立ち上がる。底面に簾状の痕跡を僅かに留める。237～242の土器には細かい黒雲母を含んでいる。

### S D 344(第74図)

中央のL F 41、L G 40・41グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北東－南西方向へ直線的に延びる。全長5.3m以上、最大幅0.6m、深さは0.2mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は出土しなかった。

### S D 457(第74図、図版21－2)

東側のL B 40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が溝状に広がる。西－東の方向へ直線的に延びる。全長0.3m以上、最大幅0.7m、深さは0.18mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多数出土した。

### S D 486(第74図)

西側のL N 45・46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北東－南西方向へやや蛇行して延びる。S B 11と重複するが新旧関係は不明である。全長3.7m以上、最大幅0.5m、深さは0.12mである。底面が平坦で壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

### S D 590(第74図、図版12－7)

西側のL L～LM 44グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐色土が溝状に広がる。北西－南東方向へ直線的に延びる。S K P 850と重複するが新旧関係は不明である。全長5.7m以上、最大幅0.9m、深さは0.3mである。断面形は摺鉢状を呈する。遺物は土師器が多数出土した。

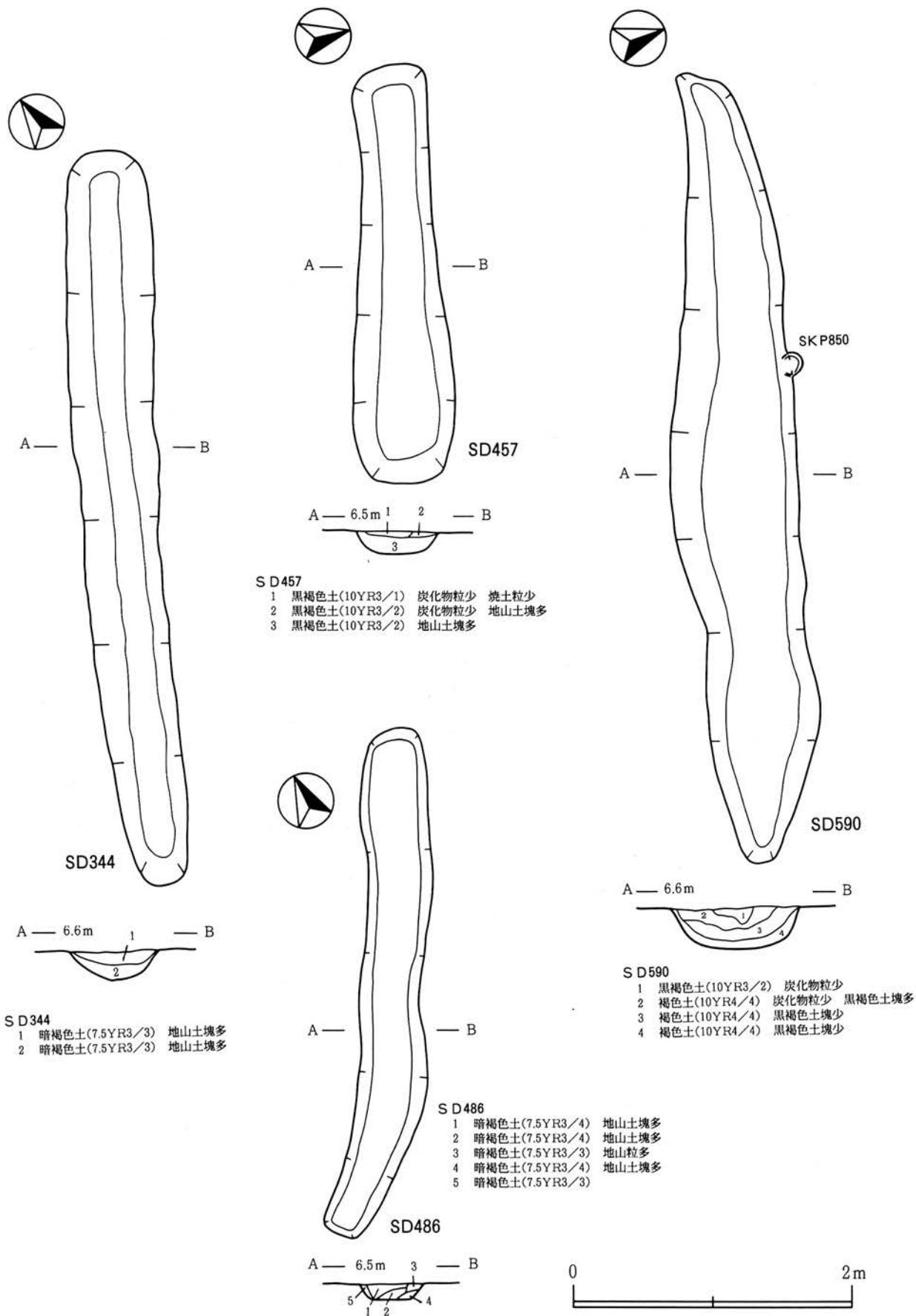
### S D 696(第73図)

南西側のL L 39・40、LM 39グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が溝状に広がる。北東－南西の方向にやや蛇行して直線的に延びる。S D 221と重複しそれより古い。全長4.4m以上、最大幅0.9m、深さは0.5mである。底面が平坦で壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が20点出土した。

## (12)柱穴様ピット

調査区の東端を除いた全域より多数検出した。出土遺物や覆土の特徴から、平安時代もしくはそれ以前と考えられる。以下に図示した遺物を説明する。

S K P 201の243は土師器の坏で、切り離しは右回転ロクロの糸切りである。S K P 355の244は土錘で、長さ4.3cm、幅1.8cm、穿孔部径は5mmである。S K P 392の245は土師器の長胴甕で、頸部に4条の沈線が確認できる。胴部外面はカキ目を施した後に撫でているようである。内面はヘラ状工具のナデを施す。器肉は薄く均一に仕上げている。胴部最大径15.7cm、器高20.6cmである。S K P 450の246は土錘で、長さ3.5cm、幅1.1cm、穿孔部径は6mmである。S K P 490の248は須恵器の甕、247・249は土師器の坏と甕である。248の外面は平行タタキ目を、内面には同心円のアテ目を施す。247は内湾して立ち上がり、切



第74図 溝跡(11)

## 開防遺跡

り離しは回転糸切りである。249は胴部に縦位のヘラケズリを施す。S K P 601の250は土錐で片側を欠損する。長さ3.7cm以上、幅1.4cm、穿孔部径5mmである。

### (13) 性格不明遺構

S X 45(第75図、図版21-4)

中央のL I・L J 40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が楕円形に広がる。S X 66と重複しそれを切り込んでいる。上面形は長軸4.25m、短軸1.25mの不整楕円形で、深さは0.34mである。底面は中央で緩い段を形成し全体に摺鉢状を呈する。遺物は須恵器2点、土師器37点、フイゴの羽口1点、鉄滓1点が出土した。

S X 65(第57・87図、図版21-5)

東側のL B 42・43、L C 42・43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S B 1・S K 55と重複しS K 55を切り込む。上面形は長軸4.2m、短軸1.7mの不整楕円形で、深さは0.18mである。南西側が一段楕円形状に窪んでいる。長軸方向の断面形は、中央北側で段を形成し摺鉢状を呈する。遺物は土師器が数多く出土した他、須恵器1点が出土した。251は長胴甕の底部で、底面に直線的な沈線がいくつか認められる。

S X 66(第75・87図、図版21-4)

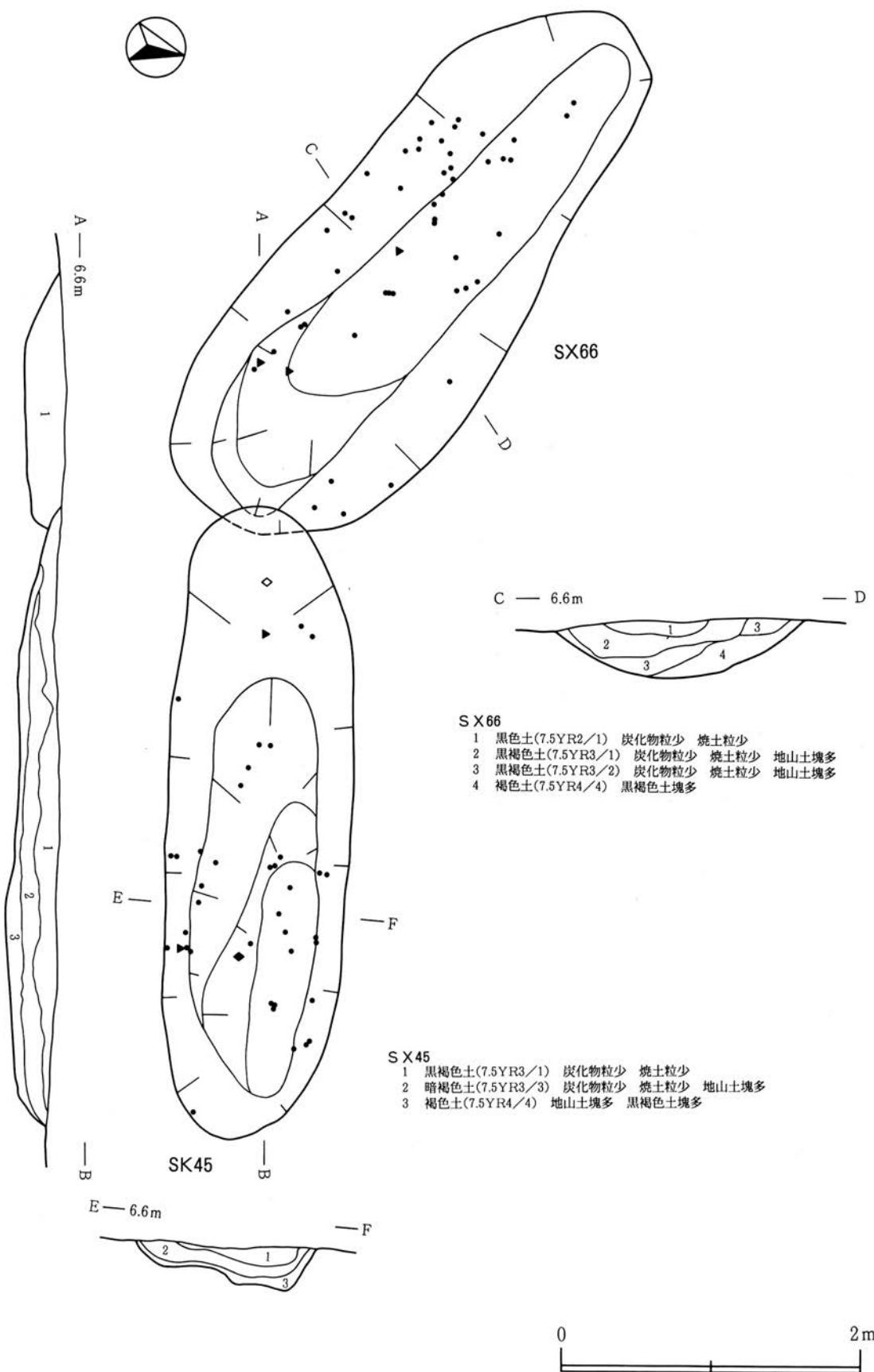
中央やや西側のL J・L K 40グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒色土が楕円形に広がる。S X 45と重複しそれより古い。上面形は長軸4.25m、短軸1.7mの不整楕円形で、深さは0.43mである。底面は緩く湾曲し、壁は北西側がやや急傾斜で、南東側は非常に緩い傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器1点、土師器46点が出土した。252～254は土師器の坏で、内湾してから口縁部が僅かに外反する。切り離しは回転糸切りである。

S X 170(第72・87図、図版20-5)

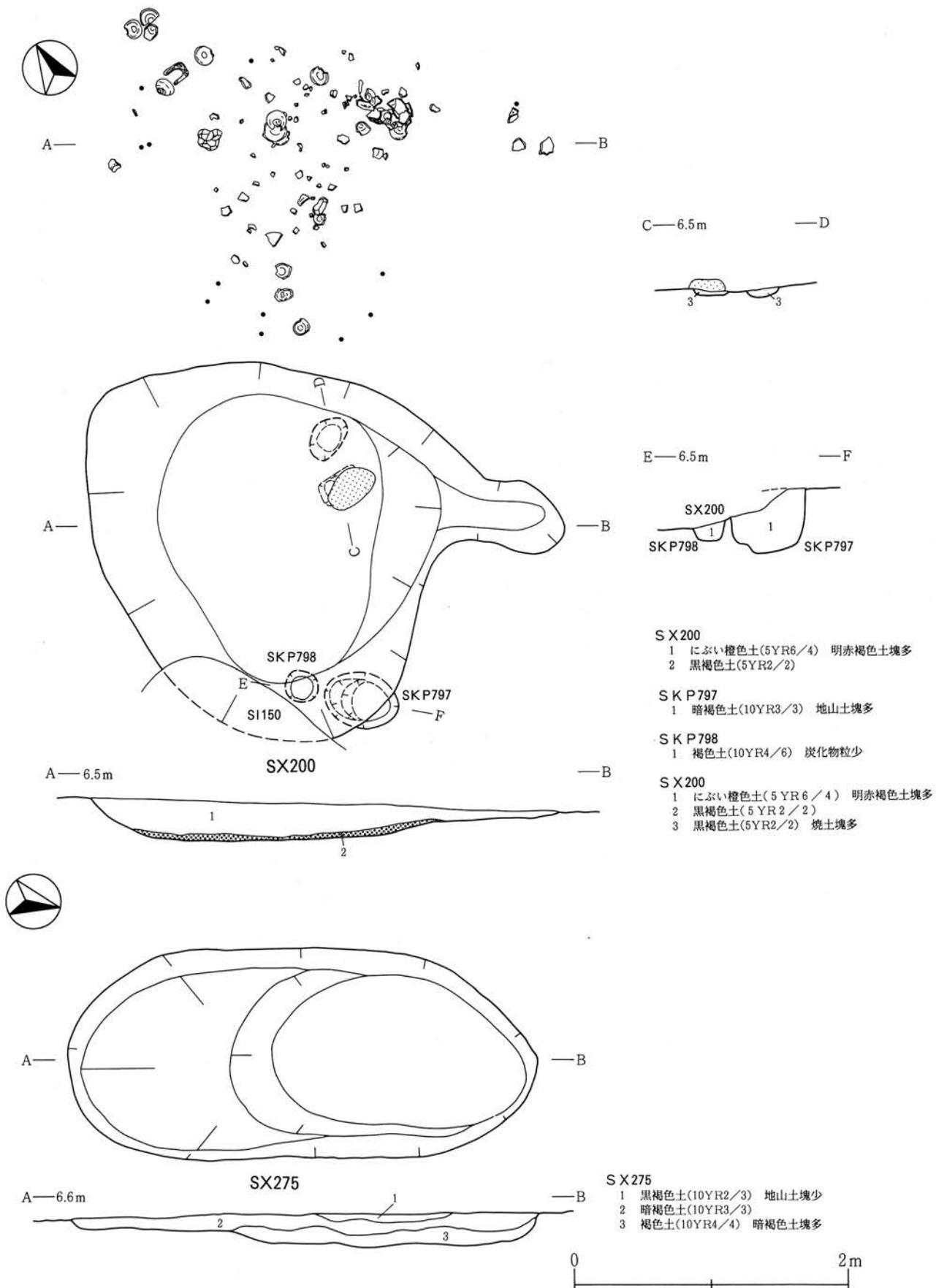
北西側のL N・L M 47～49グリッドに位置する。確認面はⅢ層で褐灰色土が不整楕円形に広がる。S D 115と重複しそれより新しい。上面形は残存長軸3.3m、短軸1.1mの不整楕円形と考えられ、深さは0.25mである。遺物は土師器が多く出土した他須恵器が1点、鉄滓が10点出土した。255～257は土師器で255・256は坏、257は甕である。坏の切り離しは右回転ロクロの糸切りである。甕は底部が僅かに突出した粗い作りである。砂底土器で内面には木口のカキ目を施す。

S X 200(第76・87・88図、図版21-6、22-1・2)

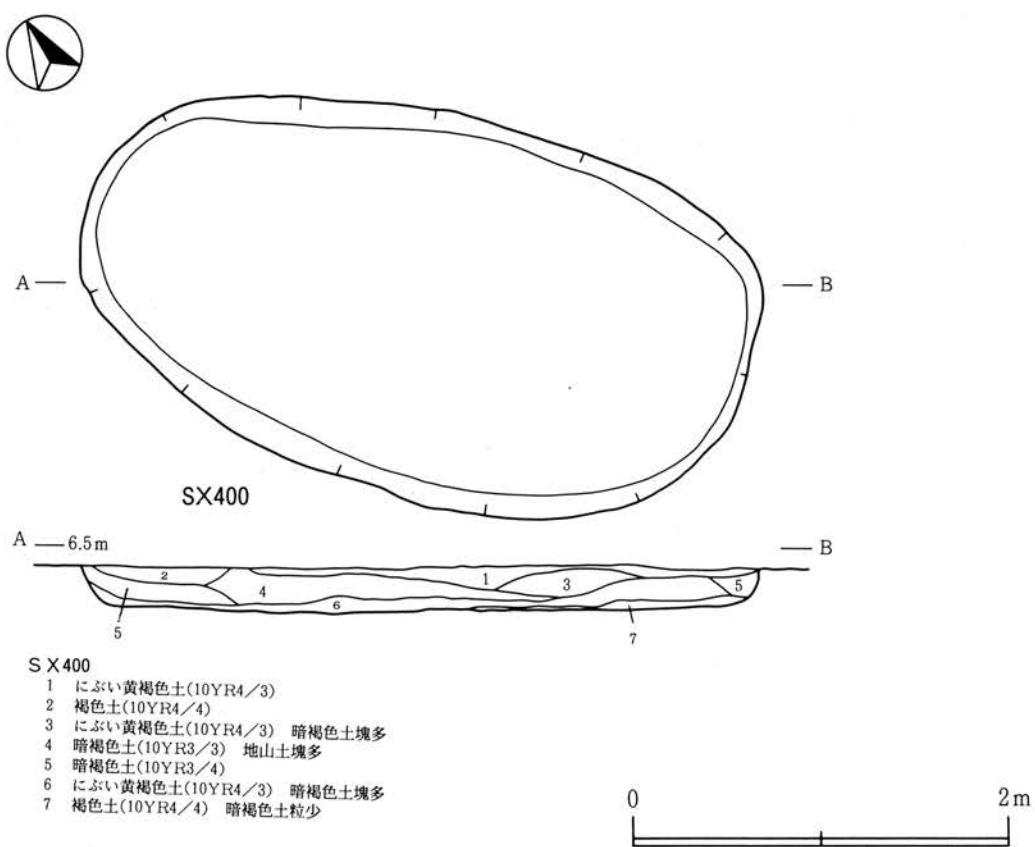
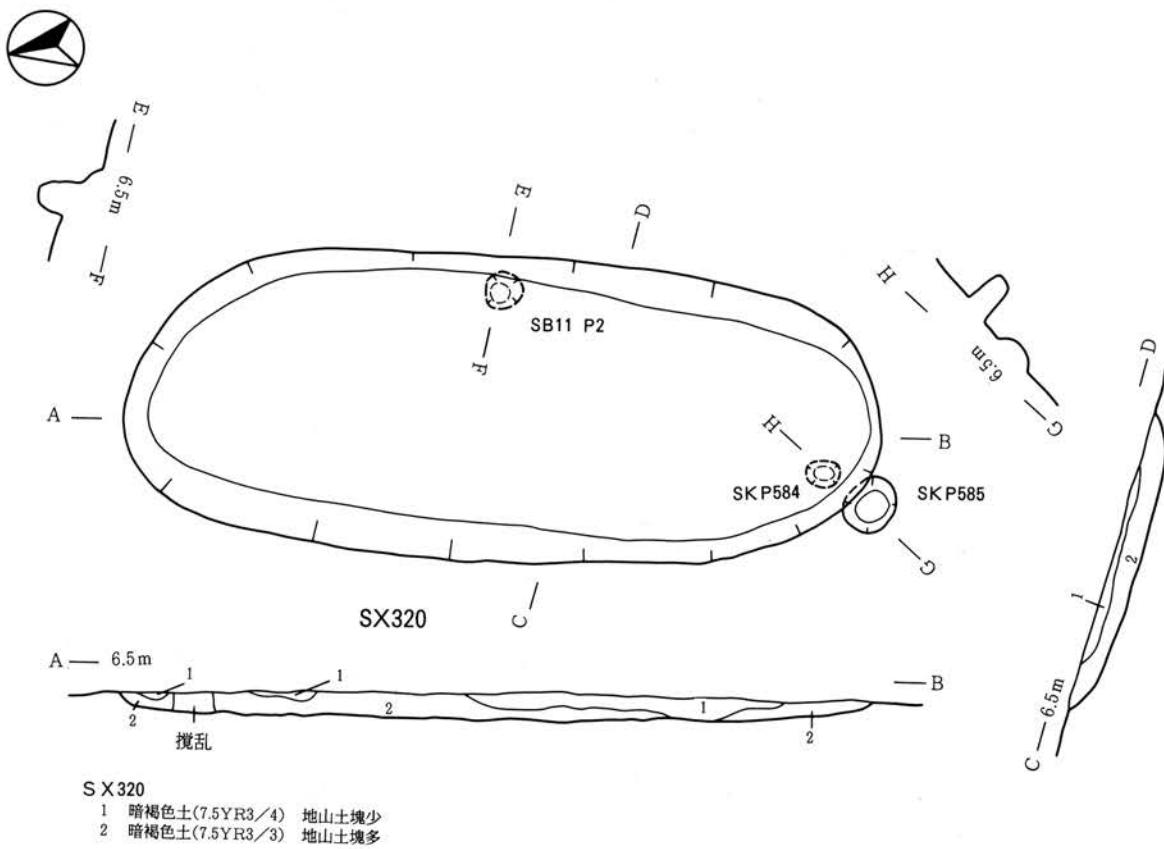
西側のL O 44・45グリッドに位置する。確認面はⅢ層でふい橙色土が円形に広がる。S I 150・S K P 797・S K P 798と重複しS I 150より古い。上面形は長軸3m、短軸2.6mの隅丸三角形状に溝が取り付く形状で、深さは0.3mである。底面が東側から西側へ緩く傾斜し、壁は西側で緩い傾斜で立ち上がる。底面には硬化した部分も認められた。遺物は土師器が多量に出土した他、須恵器2点、鉄製品3点が出土した。土師器焼成遺構の可能性がある。258～275は土師器276は鉄製の鋤先である。258は皿、259～272は坏、273は有台坏、274・275は甕である。258は大きく外反し259～272は内湾して立ち上がる。267・269～271を除いた底面の切り離しは、右回転ロクロの糸切りである。265の底部は柱状を呈す。273の高台は柱状を呈して、底面には糸切りの痕跡を残す。275はロクロ仕上げ、275は非ロクロ仕上げで胴部下端にヘラケズリを施す。鋤先は「U」字状を呈し中央部が最も幅広で、先端部は裏側に向かって僅かに湾曲する。内側の縁沿いには断面「V」字状の溝が巡る。長さ16.7cm、幅15.5cm、重さ149.7gである。



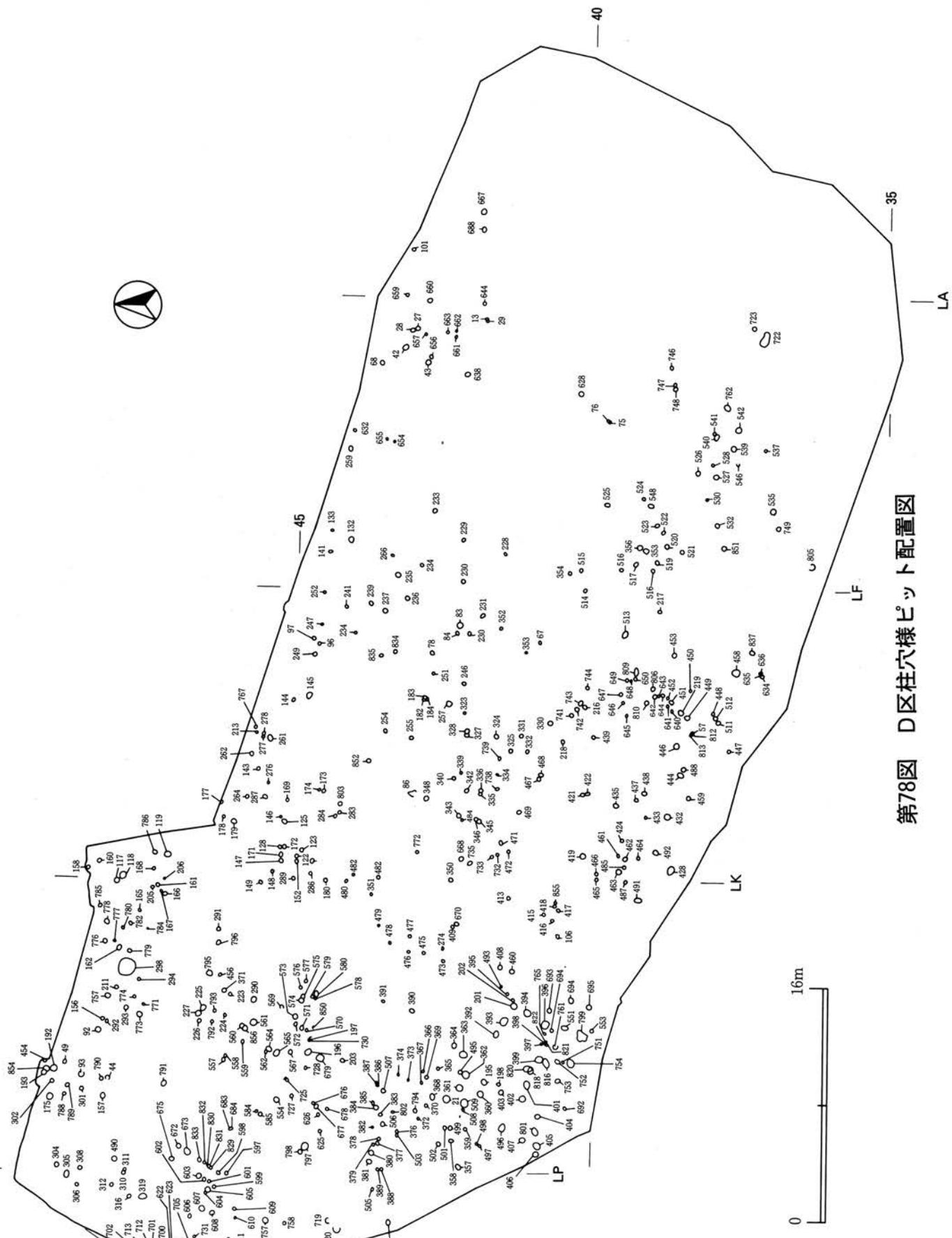
第75図 性格不明遺構(2)



第76図 性格不明遺構(3)



第77図 性格不明遺構(4)



第78図 D区柱穴様ピット配置図

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
13	LA41	不整円形	0.22	0.18	0.06	SKP29を切る
21	LN42	方形	0.50	0.50	0.22	SK95を切る
27	LA43	円形	0.25	0.23	0.22	
28	LA43	隅丸方形	0.36	0.25	0.45	土師器出土
29	LA41	楕円形	0.38	0.30	0.14	SKP13に切られる
37	LR46	楕円形	0.42	0.28	0.48	SK130を切る
42	LA43	方形	0.31	0.30	0.20	土師器出土
43	LB42	不整楕円	0.39	0.31	0.11	土師器出土
44	LN48	隅丸方形	0.34	0.25	0.24	SB10P6に切られる
49	LN48	円形	0.34	0.21	0.26	SB10P4に切られる
57	LH38	円形	0.20	0.12	0.05	SKP812に切られる
67	LF40	円形	0.20	0.19	0.21	
68	LB43	隅丸方形	0.28	0.23	0.14	SB1P3に切られる
75	LC39	方形	0.20	0.20	0.08	SKP76に切られる
76	LC39	方形	0.20	0.10	0.03	SKP75を切る
78	LG42	円形	0.28	0.26	0.14	土師器出土
83	LF42	円形	0.20	0.18	0.18	
84	LF42	隅丸方形	0.26	0.24	0.22	土師器出土
86	LI43	不整楕円形	0.50	0.40	0.10	SN329に切られる
92	LM48	隅丸方形	0.65	0.64	0.40	土師器出土
93	LN48	隅丸方形	0.35	0.32	0.22	SB10P5に切られる 土師器出土
96	LF44	隅丸方形	0.24	0.20	0.11	須恵器出土
97	LF44	楕円形	0.23	0.22	0.12	
101	KT43	隅丸方形	0.24	0.23	0.16	土師器出土
106	LL40	不整円形	0.23	0.19	0.07	
116	—	円形	0.20	0.19	0.12	SKP853を切る
117	LK48	円形	0.41	0.38	0.46	土師器出土
118	LJ47	円形	0.48	0.43	0.33	土師器出土
119	LJ47	楕円形	0.46	0.38	0.42	土師器出土
122	LJ44	不整円形	0.23	0.20	0.18	
123	LJ44	円形	0.23	0.22	0.21	
125	LJ45	方形	0.33	0.29	0.22	土師器出土
128	LJ45	不整隅丸方形	0.24	0.22	0.26	土師器出土
132	LE44	楕円形	0.35	0.34	0.28	
133	LE44	方形	0.24	0.19	0.14	SB2P4を切る
141	LE44	円形	0.30	0.25	0.22	SB2P3を切る
143	LI45	楕円形	0.23	0.15	0.11	
144	LG45	円形	0.18	0.17	0.12	
145	LG44	不整円形	0.42	0.38	0.26	
146	LI45	方形	0.16	0.15	0.19	
147	LJ45	方形	0.15	0.13	0.17	
148	LJ45	不整楕円形	0.22	0.19	0.12	
149	LK45	円形	0.21	0.18	0.15	土師器出土
152	LJ44	円形	0.24	0.21	0.08	
156	LM48	円形	0.25	0.20	0.14	
157	LN48	円形	0.36	0.31	0.28	土師器出土
158	LJ48	円形	0.31	0.28	0.12	土師器出土
160	LJ48	円形	0.23	0.22	0.13	
161	LK47	円形	0.32	0.28	0.31	
162	LL48	不整楕円	0.37	0.22	0.18	土師器出土
165	LK47	不整円形	0.22	0.21	0.34	土師器出土
166	LK47	不整円形	0.33	0.29	0.32	土師器・須恵器(長頸瓶)出土
167	LK47	楕円形	0.17	0.11	0.14	土師器出土
168	LJ47	円形	0.22	0.19	0.37	土師器・内黒土師器出土
169	LI45	方形	0.20	0.18	0.12	土師器出土
171	LJ45	楕円形	0.32	0.25	0.19	土師器出土
172	LJ45	円形	0.26	0.25	0.25	
173	LI44	円形	0.29	0.25	0.23	
174	LI44	円形	0.19	0.16	0.10	
175	LN49	楕円形	0.44	0.32	0.29	土師器出土
177	LI46	円形	0.22	0.18	0.14	土師器出土
178	LI46	円形	0.20	0.19	0.16	
179	LI46	円形	0.37	0.33	0.34	土師器出土
180	LK44	方形	0.20	0.17	0.14	土師器出土
182	LG42	楕円形	0.20	0.16	0.18	SKP183に切られ、SKP184を切る
183	LG42	楕円形	0.21	0.14	0.07	SKP182・184を切る
184	LG42	楕円形	0.32	0.25	0.09	SKP182・183に切られる
192	LN49	不整楕円形	0.50	0.48	0.20	土師器出土

第10表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(1)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
193	LN49	方形	0.34	0.30	0.08	SKP854を切る 土師器・須恵器・内黒土師器出土
195	LN41	方形	0.37	0.31	0.19	土師器出土
196	LM44	不整楕円形	0.44	0.41	0.14	土師器出土
197	LM44	不整円形	0.22	0.22	0.09	土師器出土
198	LN41	円形	0.24	0.22	0.21	土師器出土
201	LM41	方形	0.44	0.42	0.24	
202	LM41	円形	0.26	0.21	0.21	
203	LN44	円形	0.32	0.29	0.11	
205	LK47	方形	0.24	0.20	0.12	土師器出土
206	LK47	円形	0.14	0.13	0.08	
211	LL48	不整楕円形	0.36	0.24	0.20	
213	LH45	円形	0.18	0.16	0.15	
216	LG40	隅丸方形	0.31	0.25	0.14	土師器出土
217	LF38	楕円形	0.32	0.24	0.19	土師器出土
218	LH40	円形	0.31	0.26	0.25	土師器出土
219	LH38	不整楕円形	0.38	0.32	0.13	土師器・鉄滓出土
223	LL46	円形	0.28	0.26	0.25	土師器・内黒土師器出土
224	LM46	隅丸方形	0.20	0.19	0.40	土師器出土
225	LM46	円形	0.44	0.40	0.11	土師器出土
226	LM46	隅丸方形	0.31	0.28	0.06	土師器出土
227	LM46	円形	0.43	0.41	0.28	
228	LE41	隅丸方形	0.16	0.16	0.06	
229	LE42	円形	0.22	0.21	0.15	
230	LE42	円形	0.29	0.27	0.13	
231	LF41	円形	0.35	0.24	0.17	
232	LF42	円形	0.22	0.22	0.16	土師器出土
233	LD42	方形	0.34	0.22	0.14	
234	LE42	円形	0.22	0.22	0.23	
235	LE43	円形	0.32	0.28	0.19	
236	LF43	隅丸方形	0.30	0.30	0.24	
237	LF43	隅丸方形	0.28	0.24	0.16	
239	LF43	不整楕円形	0.30	0.24	0.09	
241	LF44	円形	0.19	0.19	0.18	
243	LF44	隅丸方形	0.20	0.19	0.23	
246	LG42	隅丸方形	0.24	0.22	0.12	
247	LF44	円形	0.17	0.17	0.17	
249	LG44	円形	0.27	0.26	0.21	
251	LG42	隅丸方形	0.24	0.24	0.19	
252	LF44	円形	0.20	0.19	0.08	
254	LH43	方形	0.21	0.20	0.11	
255	LH43	不整楕円形	0.25	0.22	0.17	
257	LG42	不整楕円形	0.36	0.30	0.20	
259	LC44	方形	0.21	0.20	0.12	
261	LH45	不整楕円形	0.42	0.30	0.32	
262	LH45	不整楕円形	0.19	0.14	0.14	
264	LI45	隅丸方形	0.22	0.20	0.15	須恵器出土
266	LE43	円形	0.15	0.15	0.05	
274	LL42	楕円形	0.29	0.28	0.09	
276	LI45	円形	0.15	0.15	0.11	
277	LH45	不整方形	0.15	0.15	0.13	
278	LH45	楕円形	0.25	0.21	0.16	
283	LI44	不整円形	0.12	0.12	0.08	
284	LI44	不整円形	0.25	0.22	0.17	
285	LJ44	円形	0.25	0.24	0.19	土師器出土
286	LJ44	隅丸方形	0.22	0.18	0.12	
287	LI45	円形	0.19	0.19	0.14	
289	LJ45	不整楕円形	0.16	0.16	0.14	土師器出土
290	LM45	方形	0.33	0.25	0.10	土師器出土
291	LK46	円形	0.28	0.21	0.10	
292	LM48	隅丸方形	0.22	0.22	0.16	土師器・内黒土師器出土
293	LM47	隅丸方形	0.25	0.20	0.15	土師器出土
294	LL47	方形	0.18	0.15	0.08	
298	LL47	不整円形	1.22	1.10	0.31	土師器・内黒土師器出土
301	LN48	方形	0.18	0.18	0.19	土師器出土
302	LN49	隅丸方形	0.21	0.19	0.23	土師器出土
304	LO49	不整楕円形	0.29	0.28	0.17	
305	LP48	楕円形	0.40	0.34	0.27	
306	LP48	楕円形	0.24	0.22	0.18	

第11表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(2)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
308	LO48	楕円形	0.25	0.21	0.13	
310	LP47	隅丸方形	0.24	0.20	0.18	
311	LO47	不整円形	0.25	0.20	0.11	
312	LP48	不整楕円形	0.20	0.18	0.19	
316	LP47	隅丸方形	0.20	0.19	0.10	
319	LP47	楕円形	0.50	0.35	0.19	
323	LH42	円形	0.15	0.14	0.12	
324	LH41	方形	0.27	0.22	0.36	
325	LH41	円形	0.28	0.25	0.12	
327	LH42	円形	0.28	0.24	0.12	
328	LH42	円形	0.38	0.37	0.29	
330	LH40	方形	0.30	0.27	0.24	
331	LH41	不整方形	0.20	0.18	0.20	
332	LH41	楕円形	0.28	0.21	0.17	
334	LI41	楕円形	0.18	0.16	0.11	
335	LI41	楕円形	0.24	0.21	0.24	
336	LI41	楕円形	0.24	0.22	0.20	
339	LI42	楕円形	0.22	0.18	0.03	
340	LI42	楕円形	0.27	0.21	0.02	
342	LI42	円形	0.27	0.25	0.16	
343	LI42	不整円形	0.31	0.29	0.26	
345	LI41	不整円形	0.30	0.29	0.10	
346	LI41	不整円形	0.28	0.27	0.09	
348	LI42	不整楕円形	0.31	0.24	0.28	
350	LJ42	不整円形	0.28	0.26	0.14	土師器出土
351	LK43	円形	0.20	0.18	0.24	
352	LF41	方形	0.25	0.23	0.20	
353	LG41	不整円形	0.17	0.16	0.07	
354	LE40	不整楕円形	0.32	0.24	0.11	土師器出土
355	LE39	楕円形	0.34	0.33	0.16	土師器・土錐出土
356	LL47	不整楕円形	0.39	0.36	0.15	
357	LO47	円形	0.38	0.36	0.19	土師器出土
358	LO42	楕円形	0.26	0.18	0.09	
359	LO42	不整円形	0.18	0.17	0.14	
360	LN41	不整円形	0.48	0.45	0.25	
361	LN42	楕円形	0.50	0.48	0.09	土師器出土
362	LN42	不整円形	0.55	0.53	0.18	
363	LN42	不整楕円形	0.42	0.36	0.36	
364	LM42	不整円形	0.33	0.30	0.33	
365	LN42	円形	0.15	0.14	0.13	
366	LN42	不整円形	0.16	0.16	0.13	
367	LN42	不整円形	0.15	0.14	0.08	
368	LN42	楕円形	0.36	0.23	0.10	
369	LN42	不整楕円形	0.24	0.20	0.13	
370	LN42	不整円形	0.22	0.17	0.14	
371	LL46	不整円形	0.25	0.18	0.18	
372	LO42	隅丸方形	0.15	0.14	0.08	
373	LN43	不整円形	0.16	0.12	0.16	
374	LN43	円形	0.16	0.15	0.38	
376	LO43	楕円形	0.23	0.21	0.20	
377	LO43	円形	0.22	0.22	0.23	
378	LO43	不整楕円形	0.24	0.20	0.15	
379	LO43	不整楕円形	0.18	0.16	0.20	
380	LO43	不整楕円形	0.28	0.24	0.19	土師器・内黒土師器出土
381	LO43	不整楕円形	0.28	0.24	0.14	
382	LO43	不整楕円形	0.10	0.10	0.14	
383	LO43	不整楕円形	0.22	0.21	0.28	
384	LN43	不整円形	0.25	0.24	0.28	
385	LN43	不整楕円形	0.20	0.20	0.29	
386	LN43	不整円形	0.14	0.13	0.11	土師器出土
387	LN43	不整円形	0.11	0.10	0.10	
388	LO43	不整楕円形	0.20	0.18	0.15	
389	LO43	不整楕円形	0.17	0.17	0.18	
390	LM43	楕円形	0.21	0.19	0.14	
391	LM43	不整円形	0.17	0.14	0.12	
392	LM41	不整楕円形	0.41	0.30	0.08	土師器甕出土
393	LM41	不整楕円形	0.59	0.50	0.20	土師器出土
394	LM41	不整円形	0.43	0.40	0.11	土師器出土

第12表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(3)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
395	LL41	円形	0.16	0.16	0.18	
396	LM40	不整楕円形	0.48	0.46	0.21	土師器出土
397	LM40	円形	0.15	0.15	0.14	
398	LM40	楕円形	0.15	0.15	0.21	土師器出土
399	LN41	不整楕円形	0.55	0.48	0.18	土師器出土
401	LN41	不整楕円形	0.50	0.42	0.15	土師器出土
402	LN41	楕円形	0.43	0.38	0.15	
403	LN41	不整楕円形	0.34	0.30	0.08	
404	LO40	不整楕円形	0.36	0.34	0.11	
405	LO40	楕円形	0.56	0.40	0.16	
406	LO40	隅丸方形	0.43	0.43	0.14	
407	LO41	不整楕円形	0.42	0.42	0.14	
408	LL41	円形	0.24	0.23	0.19	土師器出土
409	LK42	楕円形	0.17	0.16	0.13	土師器出土
413	LK41	円形	0.18	0.18	0.10	
415	LK40	不整楕円形	0.19	0.17	0.20	
416	LK40	楕円形	0.20	0.18	0.16	土師器出土
417	LK40	不整方形	0.25	0.15	0.27	
418	LK40	不整楕円形	0.44	0.31	0.25	
419	LJ40	円形	0.31	0.31	0.29	
421	LI40	不整円形	0.23	0.23	0.22	土師器出土
422	LI40	不整楕円形	0.29	0.23	0.08	
424	LJ39	不整円形	0.24	0.23	0.20	
428	LJ38	楕円形	0.53	0.40	0.12	
432	LI38	不整円形	0.33	0.33	0.37	
433	LI39	円形	0.18	0.18	0.12	
435	LI39	不整円形	0.21	0.18	0.15	
437	LI39	円形	0.23	0.22	0.13	
438	LI39	不整円形	0.21	0.19	0.23	
439	LH40	円形	0.28	0.26	0.14	
446	LH38	不整楕円形	0.34	0.40	0.14	土師器出土
447	LH37	円形	0.19	0.16	0.17	
448	LH37	方形	0.23	0.11	0.09	
449	LH38	不整楕円形	0.27	0.20	0.09	
450	LG38	楕円形	0.18	0.16	0.08	土錐出土
451	LG38	方形	0.30	0.20	0.11	
452	LG38	円形	0.18	0.18	0.06	
453	LG38	円形	0.23	0.18	0.13	
454	LN49	円形	0.20	0.20	0.20	
456	LL46	楕円形	0.20	0.20	0.18	
458	LG37	不整楕円形	0.35	0.33	0.11	
459	LI38	円形	0.22	0.22	0.19	
460	LL41	不整楕円形	0.44	0.32	0.11	
461	LJ39	不整円形	0.18	0.16	0.07	
462	LJ39	不整楕円形	0.27	0.23	0.11	
463	LJ39	楕円形	0.36	0.27	0.10	
464	LJ39	楕円形	0.38	0.27	0.10	
465	LJ39	円形	0.23	0.20	0.18	
466	LJ39	円形	0.20	0.17	0.12	
467	LI40	不整方形	0.28	0.24	0.11	
468	LI40	楕円形	0.27	0.25	0.29	土師器出土
469	LI41	不整方形	0.23	0.20	0.24	
471	LJ41	楕円形	0.30	0.27	0.30	
472	LJ41	円形	0.15	0.13	0.22	
473	LL42	不整円形	0.21	0.20	0.28	土師器出土
475	LL42	方形	0.20	0.16	0.05	土師器出土
476	LL43	円形	0.17	0.17	0.13	土師器出土
477	LK43	不整円形	0.18	0.17	0.11	
478	LL43	方形	0.19	0.18	0.12	須恵器出土
479	LK43	円形	0.18	0.15	0.16	
480	LK44	不整方形	0.18	0.14	0.06	
481	LJ44	円形	0.15	0.13	0.13	
482	LJ43	円形	0.15	0.14	0.11	
484	LI42	円形	0.15	0.13	0.13	
485	LJ39	円形	0.17	0.15	0.05	
487	LJ39	楕円形	0.25	0.20	0.07	
488	LI38	楕円形	0.30	0.25	0.24	土師器出土
490	LO48	不整楕円形	0.39	0.33	0.52	

第13表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(4)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
491	LK39	不整橢円形	0.35	0.35	0.18	土師器出土
492	LJ38	橢円形	0.27	0.21	0.38	
493	LL41	円形	0.14	0.13	0.16	
494	LM40	橢円形	0.20	0.20	0.17	
495	LN42	橢円形	0.27	0.22	0.24	
496	LO41	方形	0.38	0.27	0.09	土師器出土
497	LO41	円形	0.13	0.12	0.15	
498	LO41	橢円形	0.14	0.13	0.12	
499	LO42	円形	0.31	0.30	0.16	
501	LO42	橢円形	0.36	0.30	0.14	
502	LO42	円形	0.30	0.28	0.21	
503	LO43	円形	0.20	0.20	0.10	
504	LP43	円形	0.36	0.32	0.11	
505	LP43	橢円形	0.24	0.21	0.18	
506	LO43	不整方形	0.30	0.25	0.10	
507	LN43	不整円形	0.31	0.30	0.10	
508	LN42	橢円形	0.14	0.13	0.06	鉄滓出土
509	LN42	橢円形	0.69	0.53	0.27	
511	LH37	橢円形	0.32	0.28	0.09	
512	LH37	橢円形	0.34	0.31	0.13	
513	LF39	橢円形	0.53	0.31	0.20	
514	LF40	不整橢円形	0.28	0.23	0.12	
515	LE40	不整円形	0.23	0.21	0.12	
516	LE39	橢円形	0.33	0.24	0.09	
517	LE39	橢円形	0.30	0.20	0.13	土師器出土
518	LE39	不整円形	0.19	0.16	0.26	
519	LE38	不整円形	0.28	0.26	0.53	土師器・鉄滓出土
520	LE38	橢円形	0.36	0.30	0.26	
521	LE38	橢円形	0.28	0.26	0.32	
522	LD38	円形	0.22	0.20	0.17	
523	LD38	橢円形	0.28	0.25	0.10	
524	LD39	橢円形	0.26	0.21	0.21	
525	LD39	橢円形	0.40	0.23	0.16	
526	LC38	円形	0.27	0.25	0.16	
527	LD37	円形	0.35	0.35	0.25	
528	LC37	円形	0.35	0.32	0.30	
530	LD38	円形	0.22	0.20	0.15	
532	LD37	不整橢円形	0.33	0.30	0.18	
535	LD36	円形	0.36	0.35	0.16	
537	LC37	橢円形	0.24	0.18	0.20	
539	LC37	橢円形	0.36	0.33	0.17	
540	LC37	橢円形	0.58	0.37	0.12	
541	LC37	橢円形	0.26	0.21	0.11	
542	LC37	円形	0.39	0.38	0.26	
546	LC37	不整円形	0.25	0.20	0.15	SB4P5と切り合い関係
548	LD39	橢円形	0.39	0.28	0.10	
551	LM40	不整橢円形	0.40	0.34	0.14	土師器出土
553	LM39	橢円形	0.19	0.16	0.11	
554	LN45	円形	0.30	0.27	0.28	
557	LN46	円形	0.21	0.20	0.13	土師器出土
558	LN46	円形	0.15	0.14	0.14	
560	LM45	不整橢円形	0.65	0.50	0.12	SKP856に切られる
559	LM45	橢円形	0.25	0.21	0.29	
561	LM45	円形	0.40	0.39	0.15	土師器出土
562	LM45	橢円形	0.21	0.18	0.24	
564	LM45	方形	0.14	0.14	0.29	土師器出土
565	LM45	方形	0.44	0.33	0.12	
567	LM45	円形	0.25	0.22	0.20	土師器出土
569	LM45	橢円形	0.25	0.22	0.11	SB11P5と切り合い関係
570	LM44	円形	0.27	0.26	0.20	
571	LM44	円形	0.30	0.28	0.20	
572	LM45	橢円形	0.23	0.20	0.15	土師器出土
573	LM45	橢円形	0.40	0.33	0.16	
574	LM44	円形	0.35	0.35	0.20	SKP575を切る
575	LM44	円形	0.30	0.30	0.18	SKP574に切られる
576	LL44	方形	0.24	0.23	0.23	土師器出土
577	LL44	円形	0.26	0.26	0.16	
578	LM44	橢円形	0.16	0.13	0.11	

第14表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(5)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
579	LM44	方形	0.21	0.20	0.11	
580	LL44	楕円形	0.31	0.25	0.15	
584	LN45	円形	0.18	0.17	0.23	
585	LO45	円形	0.23	0.20	0.12	
597	LP46	円形	0.27	0.26	0.23	
598	LP46	円形	0.23	0.23	0.24	
599	LP46	円形	0.22	0.20	0.17	土師器出土
601	LP46	不整円形	0.28	0.26	0.26	土錘出土
602	LP46	楕円形	0.26	0.18	0.20	
603	LP46	円形	0.36	0.33	0.14	
604	LP46	円形	0.18	0.18	0.26	
605	LP46	楕円形	0.34	0.29	0.25	
606	LP46	円形	0.24	0.24	0.27	土師器出土
607	LP46	楕円形	0.39	0.36	0.27	
608	LP46	円形	0.31	0.30	0.22	
609	LP46	楕円形	0.23	0.15	0.15	
610	LP46	円形	0.15	0.15	0.14	
611	LQ46	円形	0.26	0.25	0.26	土師器出土
613	LQ46	不整円形	0.24	0.20	0.24	
614	LQ46	楕円形	0.18	0.15	0.09	SK130に切られる
615	LQ46	楕円形	0.30	0.25	0.16	SK130に切られる
616	LQ46	楕円形	0.25	0.21	0.12	
617	LQ46	楕円形	0.40	0.30	0.06	
618	LQ46	方形	0.14	0.14	0.20	
619	LQ46	楕円形	0.30	0.23	0.17	土師器出土
620	LQ46	円形	0.47	0.45	0.12	
621	LQ46	楕円形	0.36	0.30	0.07	
622	LQ47	楕円形	0.25	0.14	0.18	
623	LQ47	円形	0.18	0.16	0.12	
625	LO44	円形	0.22	0.21	0.19	
626	LO44	不整円形	0.23	0.22	0.12	
628	LB40	円形	0.31	0.30	0.15	
632	LC44	楕円形	0.14	0.12	0.08	
634	LG37	不整円形	0.31	0.24	0.15	SKP635・636を切る
635	LG37	不整楕円形	0.25	0.09	0.16	SKP634に切られ、SKP636を切る
636	LG37	不整楕円形	0.29	0.10	0.07	SKP635に切られる
638	LB42	楕円形	0.31	0.27	0.20	
640	LH38	円形	0.16	0.14	0.23	
641	LG38	円形	0.18	0.18	0.11	
642	LG38	円形	0.28	0.28	0.17	
643	LG38	円形	0.18	0.18	0.22	
644	LG38	円形	0.27	0.25	0.12	
645	LH39	楕円形	0.17	0.13	0.05	
646	LG39	円形	0.20	0.18	0.09	
647	LG39	不整円形	0.26	0.26	0.10	
648	LG39	円形	0.21	0.20	0.15	
649	LG39	円形	0.25	0.22	0.09	
650	LG39	円形	0.25	0.24	0.13	
654	LC43	円形	0.18	0.18	0.20	
655	LC43	不整円形	0.16	0.15	0.21	
656	LB42	楕円形	0.25	0.18	0.19	
657	LA42	不整円形	0.14	0.12	0.05	
659	KT43	不整円形	0.21	0.21	0.08	
660	LA42	楕円形	0.30	0.26	0.09	
661	LA42	円形	0.19	0.18	0.06	
662	LA42	円形	0.16	0.16	0.10	土師器出土
663	LA42	楕円形	0.21	0.18	0.18	
664	LA41	楕円形	0.22	0.22	0.11	
667	KS41	楕円形	0.39	0.34	0.23	
668	LJ42	楕円形	0.33	0.28	0.18	
670	LK42	楕円形	0.24	0.22	0.06	須恵器出土
672	LO46	不整円形	0.33	0.28	0.09	
673	LO46	円形	0.50	0.48	0.08	土師器出土
675	LO47	不整楕円形	0.26	0.12	0.07	
676	LN44	楕円形	0.24	0.21	0.08	土師器出土
677	LN44	円形	0.34	0.30	0.13	土師器出土
678	LN44	楕円形	0.23	0.20	0.17	土師器出土
679	LN44	不整方形	0.40	0.36	0.14	

第15表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(6)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
683	LO46	不整円形	0.25	0.16	0.20	SKP684と切り合い関係
684	LO46	不整楕円形	0.22	0.19	0.19	SKP683と切り合い関係
688	KS41	楕円形	0.36	0.30	0.13	
692	LN40	不整楕円形	0.25	0.23	0.09	
693	LM40	楕円形	0.40	0.38	0.09	土師器・須恵器出土
694	LM40	楕円形	0.35	0.32	0.08	土師器・須恵器出土
695	LM40	楕円形	0.36	0.32	0.10	土師器出土
698	LQ46	不整円形	0.20	0.18	0.19	
699	LQ46	隅丸方形	0.21	0.21	0.13	
700	LQ47	不整楕円形	0.15	0.13	0.16	SKP701を切る
701	LQ47	円形	0.17	0.17	0.18	SKP700を切る
702	LQ47	楕円形	0.18	0.15	0.15	
703	LQ47	不整楕円形	0.30	0.23	0.28	SKP704を切る
704	LQ47	不整楕円形	0.26	0.19	0.28	SKP703に切られる
705	LQ46	楕円形	0.21	0.19	0.22	
706	LQ46	円形	0.17	0.17	0.10	
707	LQ46	円形	0.15	0.15	0.08	
708	LQ46	円形	0.20	0.20	0.13	
709	LQ47	楕円形	0.20	0.17	0.14	
710	LQ47	円形	0.23	0.22	0.19	
711	LQ47	不整円形	0.20	0.10	0.14	
712	LQ47	楕円形	0.18	0.13	0.21	
713	LQ47	円形	0.23	0.22	0.14	
714	LQ47	円形	0.22	0.21	0.17	
718	LQ46	楕円形	0.24	0.17	0.07	
719	LP44	不整円形	0.37	0.31	0.16	SK130に切られる 土師器出土
720	LP44	不整円形	0.53	0.51	0.05	SK130に切られる
722	LA37	不整楕円形	1.22	0.73	0.08	
723	LA37	楕円形	0.68	0.60	0.14	
724	LN45	楕円形	0.18	0.13	0.06	SKP725に切られる
725	LN45	楕円形	0.17	0.14	0.06	SKP724を切る
727	LN45	隅丸方形	0.22	0.22	0.10	
728	LN44	隅丸方形	0.17	0.15	0.06	
730	LM44	円形	0.23	0.21	0.11	
731	LQ46	不整円形	0.18	0.16	0.11	
732	LJ41	円形	0.16	0.16	0.06	
733	LJ41	円形	0.18	0.17	0.10	
735	LJ42	円形	0.26	0.24	0.22	
738	LI41	隅丸方形	0.19	0.17	0.19	
739	LH41	円形	0.21	0.20	0.10	
741	LH40	楕円形	0.34	0.30	0.18	
742	LH40	楕円形	0.34	0.30	0.25	
743	LG40	隅丸方形	0.30	0.30	0.19	
744	LG40	円形	0.30	0.30	0.12	
746	LB38	楕円形	0.25	0.20	0.07	
747	LB38	楕円形	0.28	0.26	0.16	
748	LB38	楕円形	0.25	0.23	0.10	
749	LD36	隅丸方形	0.25	0.25	0.15	
751	LN40	円形	0.22	0.22	0.08	SI420に切られる 土師器出土
752	LN40	不整楕円形	0.36	0.30	0.11	SI420に切られる 土師器出土
753	LN40	楕円形	0.36	0.20	0.08	SI420に切られる
754	LN40	楕円形	0.54	0.46	0.17	SI420に切られる 土師器出土
756	LQ45	楕円形	0.32	0.26	0.14	SI550を切る
757	LP45	円形	0.26	0.24	0.20	
758	LP45	楕円形	0.16	0.13	0.14	
761	LM40	楕円形	0.32	0.30	0.18	SI420・SK824に切られる
762	LB37	楕円形	0.36	0.36	0.19	
765	LM40	円形	0.20	0.20	0.17	
767	LH45	不整楕円形	0.27	0.20	0.34	
771	LM47	方形	0.22	0.21	0.14	
772	LJ42	円形	0.22	0.20	0.22	
773	LM47	円形	0.38	0.38	0.24	土師器出土
774	LM47	隅丸方形	0.23	0.22	0.10	
775	LM48	円形	0.32	0.32	0.22	
776	LL48	楕円形	0.38	0.26	0.28	土師器出土
777	LL48	隅丸方形	0.15	0.15	0.26	土師器出土
778	LK48	円形	0.31	0.31	0.39	土師器出土
779	LL47	円形	0.20	0.20	0.17	土師器出土

第16表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(7)

## 開防遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
780	LK47	方形	0.18	0.18	0.12	
782	LK47	円形	0.24	0.24	0.21	
784	LK47	円形	0.18	0.14	0.10	
785	LK48	隅丸方形	0.24	0.20	0.18	
786	LJ47	円形	0.30	0.30	0.16	
788	LN48	不整円形	0.17	0.17	0.14	
789	LN48	円形	0.27	0.27	0.19	土師器出土
790	LN48	不整円形	0.24	0.22	0.16	
791	LN47	楕円形	0.36	0.30	0.21	
792	LM46	円形	0.22	0.20	0.22	
793	LM46	円形	0.19	0.19	0.09	土師器出土
794	LN42	円形	0.28	0.28	0.16	
795	LL46	楕円形	0.35	0.30	0.17	
796	LL46	円形	0.26	0.26	0.22	
797	LO44	楕円形	0.54	0.44	0.20	
798	LO44	楕円形	0.30	0.28	0.07	
799	LM40	不整楕円形	0.72	0.66	0.17	
801	LO40	楕円形	0.56	0.44	0.16	
802	LN43	円形	0.14	0.14	0.28	
803	LI44	円形	0.24	0.24	0.13	
805	LE36	不整円形	0.46	0.42	0.10	SK24に切られる
806	LG38	不整円形	0.34	0.31	0.19	
809	LG39	楕円形	0.53	0.27	0.17	
810	LG39	円形	0.31	0.28	0.14	
812	LH38	楕円形	0.19	0.12	0.04	SKP813に切られ、SKP57を切る
813	LH38	円形	0.16	0.14	0.04	SKP812を切る
816	LN40	楕円形	0.62	0.40	0.25	SI420を切る
818	LM40	楕円形	0.53	0.42	0.08	SI420を切る
820	LN41	不整楕円形	0.66	0.43	0.08	SI420を切る
821	LM41	円形	0.16	0.14	0.10	SI420を切る
822	LM41	円形	0.18	0.15	0.08	SI420を切る
829	LO46	不整円形	0.36	0.26	0.20	SKP831を切る
830	LO46	不整円形	0.24	0.23	0.05	SKP831を切る
831	LO46	不整楕円形	0.28	0.18	0.07	SKP829に切られる
832	LO46	不整楕円形	0.50	0.17	0.06	
833	LO46	方形	0.55	0.25	0.13	
834	LG43	不整円形	0.26	0.24	0.19	
835	LG43	不整円形	0.22	0.20	0.10	
837	LG38	隅丸方形	0.34	0.30	0.27	SD53を切る
850	LM44	円形	0.17	0.15	0.27	SD590と切り合い関係
851	LE37	円形	0.29	0.28	0.23	
852	LH43	円形	0.25	0.24	0.06	
853	—	方形	0.12	0.07	0.11	SKP116に切られる
854	LJ47	円形	0.40	0.39	0.24	SKP193に切られる
855	LK40	楕円形	0.18	0.11	0.30	
856	LM45	不整円形	0.46	0.43	0.31	SKP560を切る

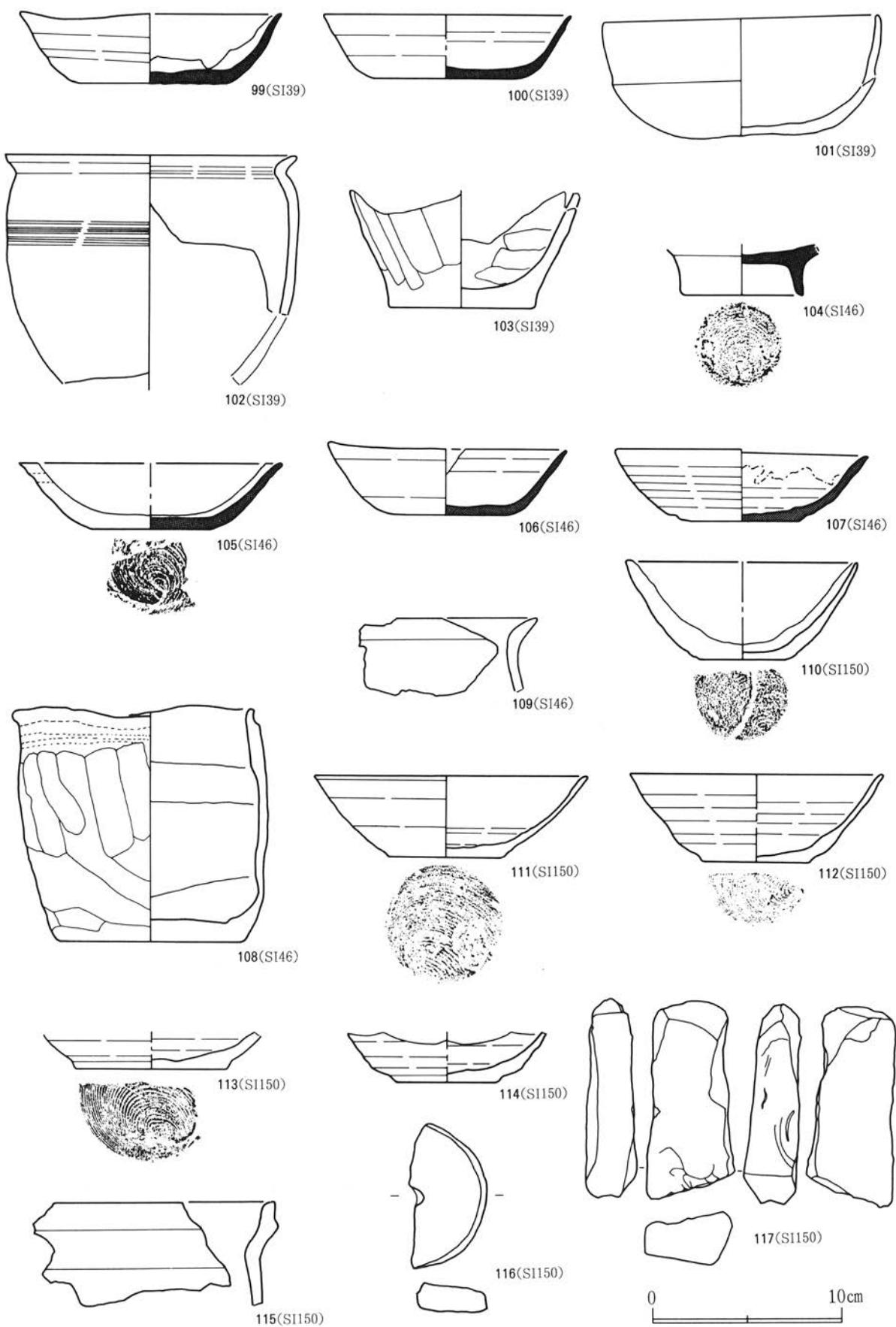
第17表 開防遺跡D区柱穴様ピット一覧(8)

S X275(第76図)

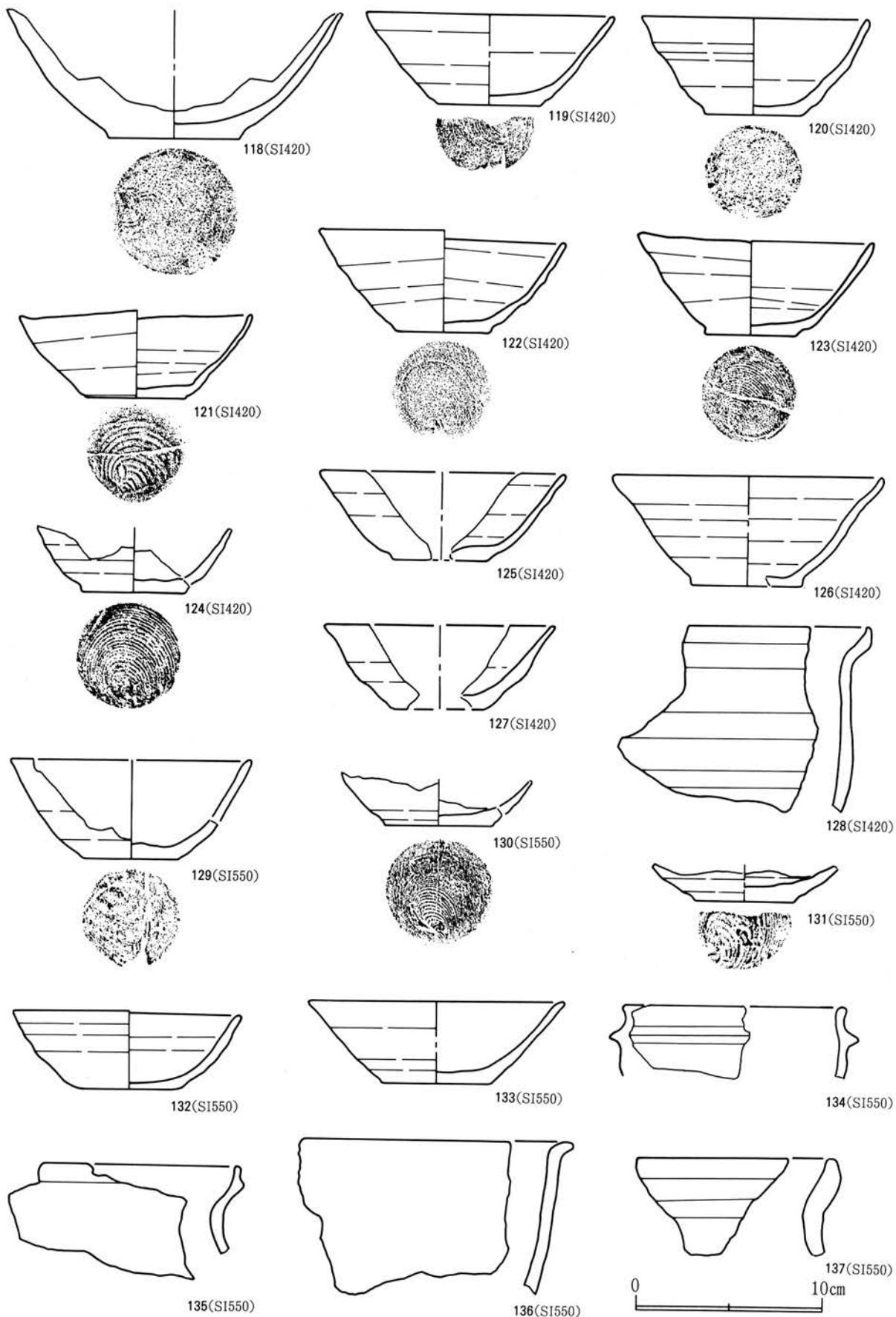
中央西側のL J 41・42、L K 41・42グリッドに位置する。S B 7と重複するが新旧関係は不明である。確認面はⅢ層で暗褐色土が楕円形に広がる。上面形は長軸3.4m、短軸1.55mの不整楕円形で、中央より北側が長軸2.25m、短軸1.1mの楕円形に窪む。深さは南側で0.1m北側で0.2mである。底面は南北側とともに凹凸があり、その境は緩く傾斜する。壁はやや急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が数多く出土した他、須恵器が2点出土した。

S X320(第77図、図版21-7)

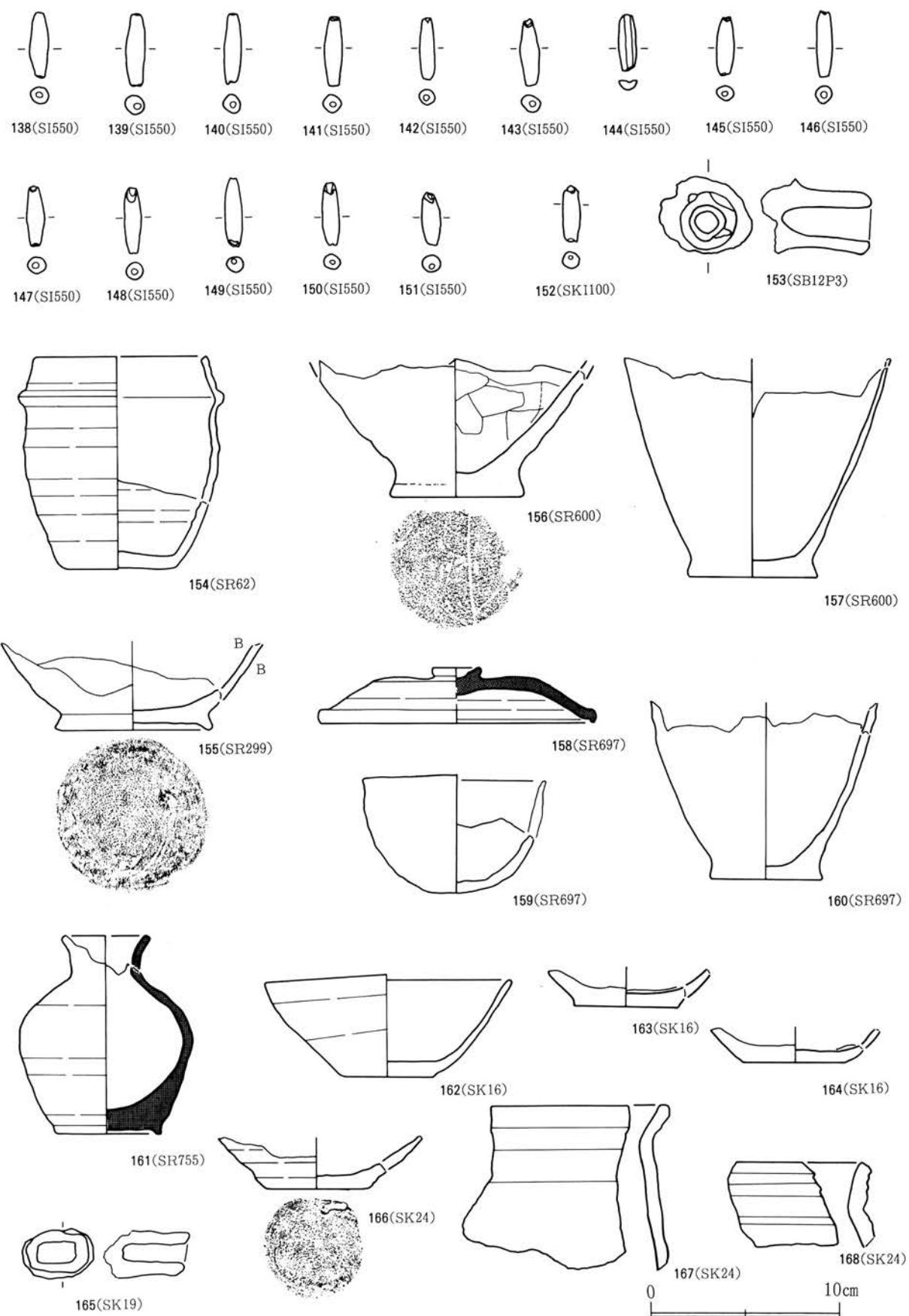
西側のL N 45・46、L O 45・46グリッドに位置する。確認面はⅡ層で暗褐色土が楕円形に広がる。S B 11と重複しそれより新しい。上面形は長軸4.05m、短軸1.64mの不整楕円形で、深さは0.16mである。底面はほぼ平坦で、壁はやや緩い傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が34点出土した。



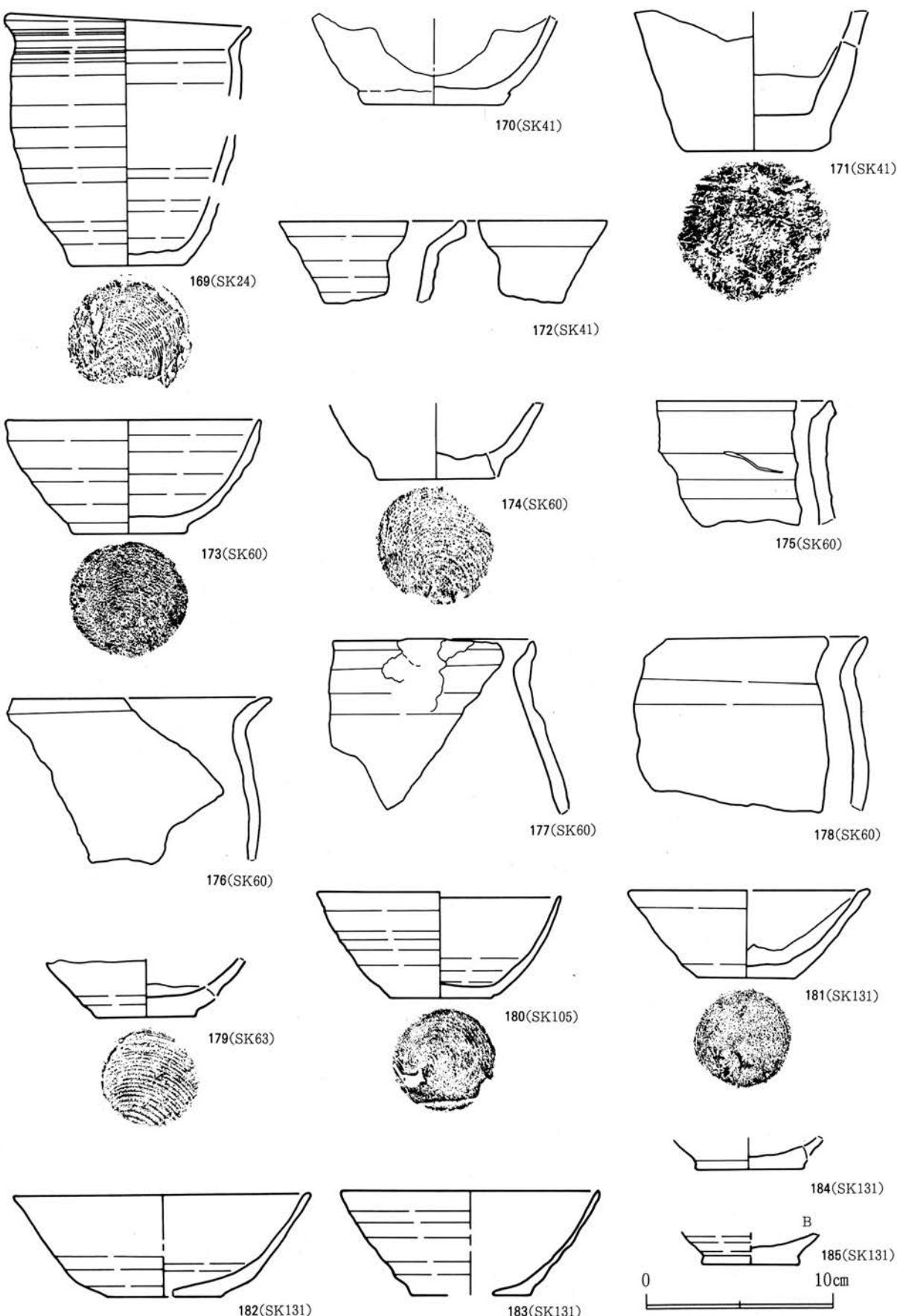
第79図 遺構内出土遺物(6)



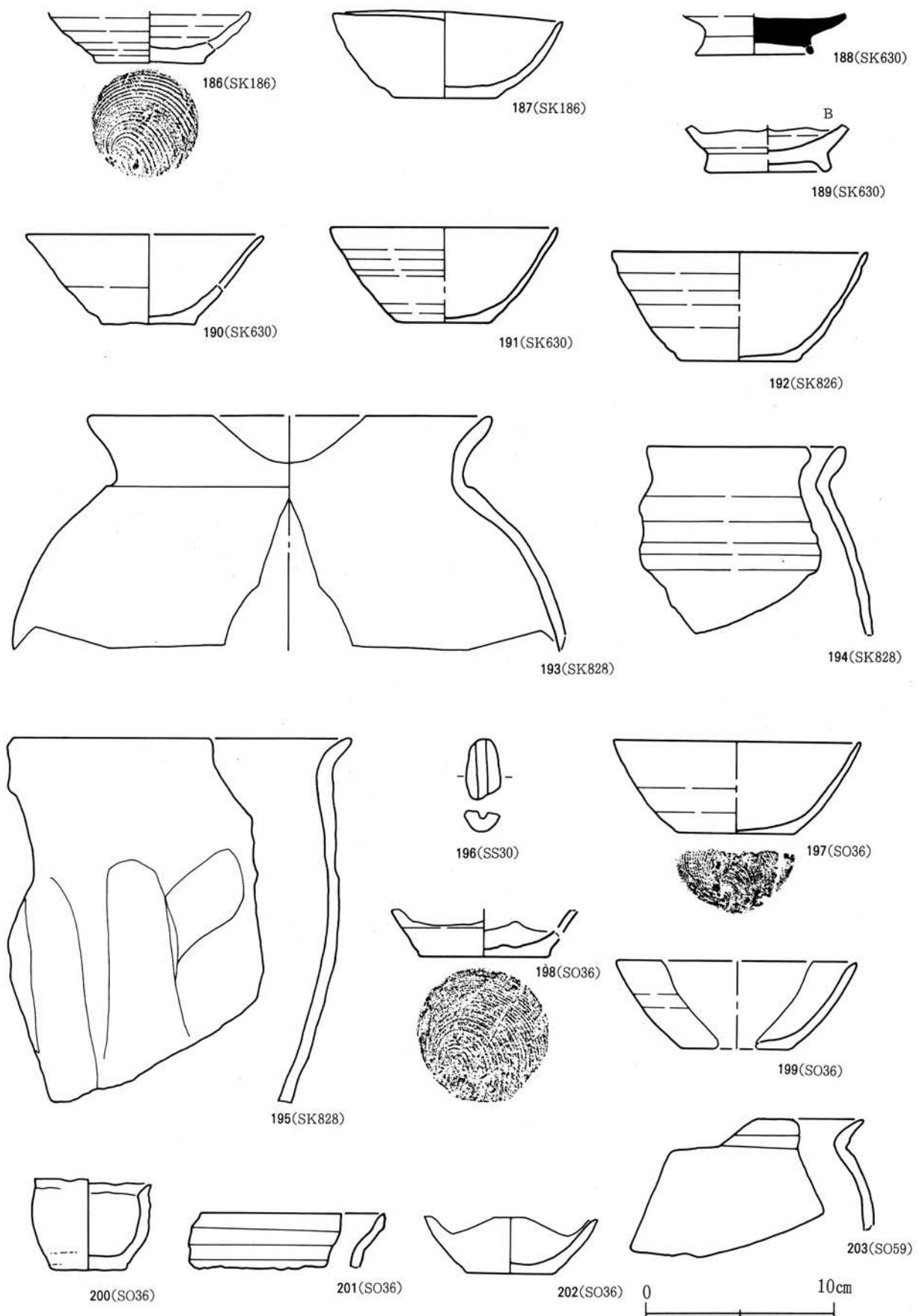
第80図 遺構内出土遺物(7)



第81図 遺構内出土遺物(8)

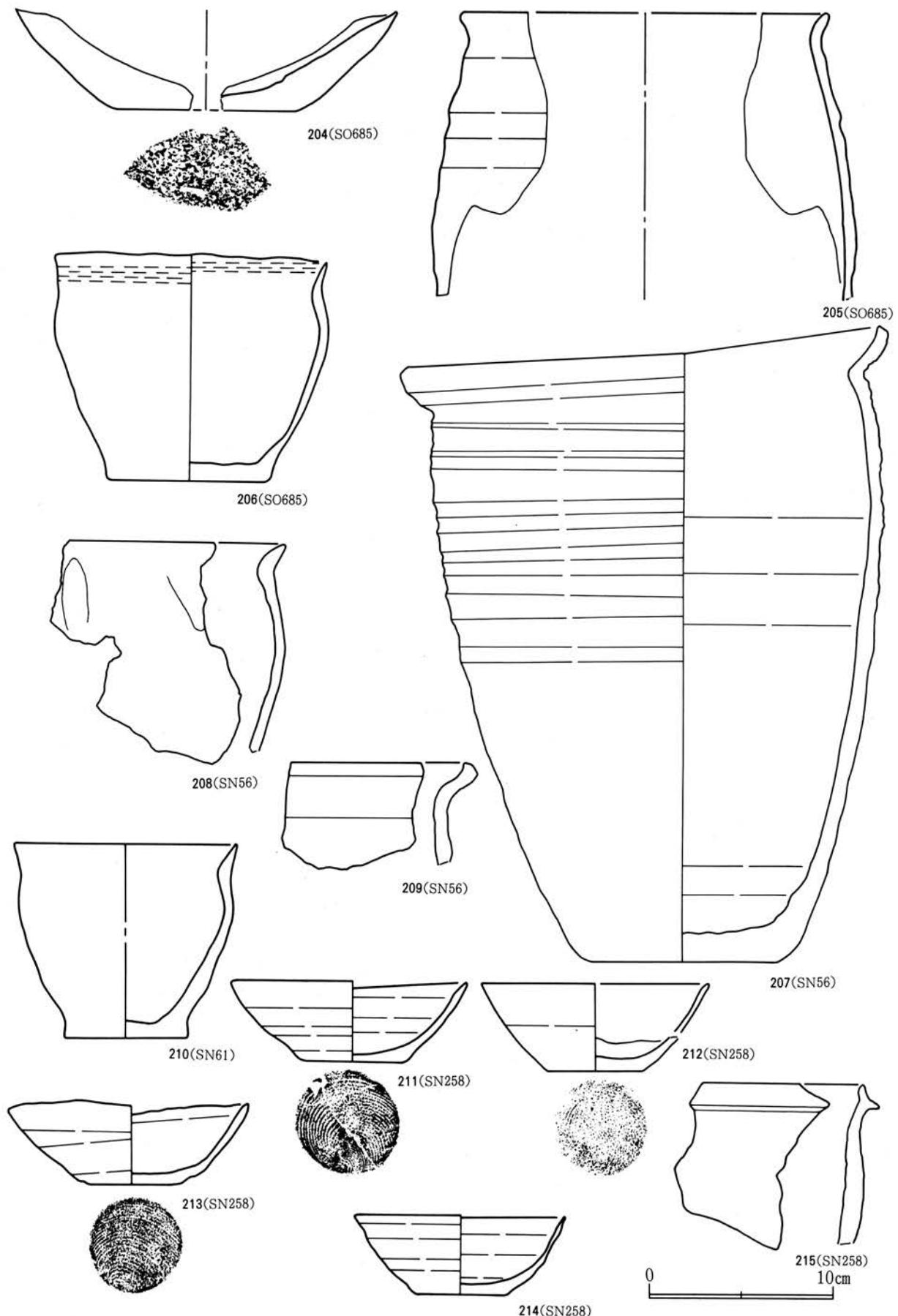


第82図 遺構内出土遺物(9)

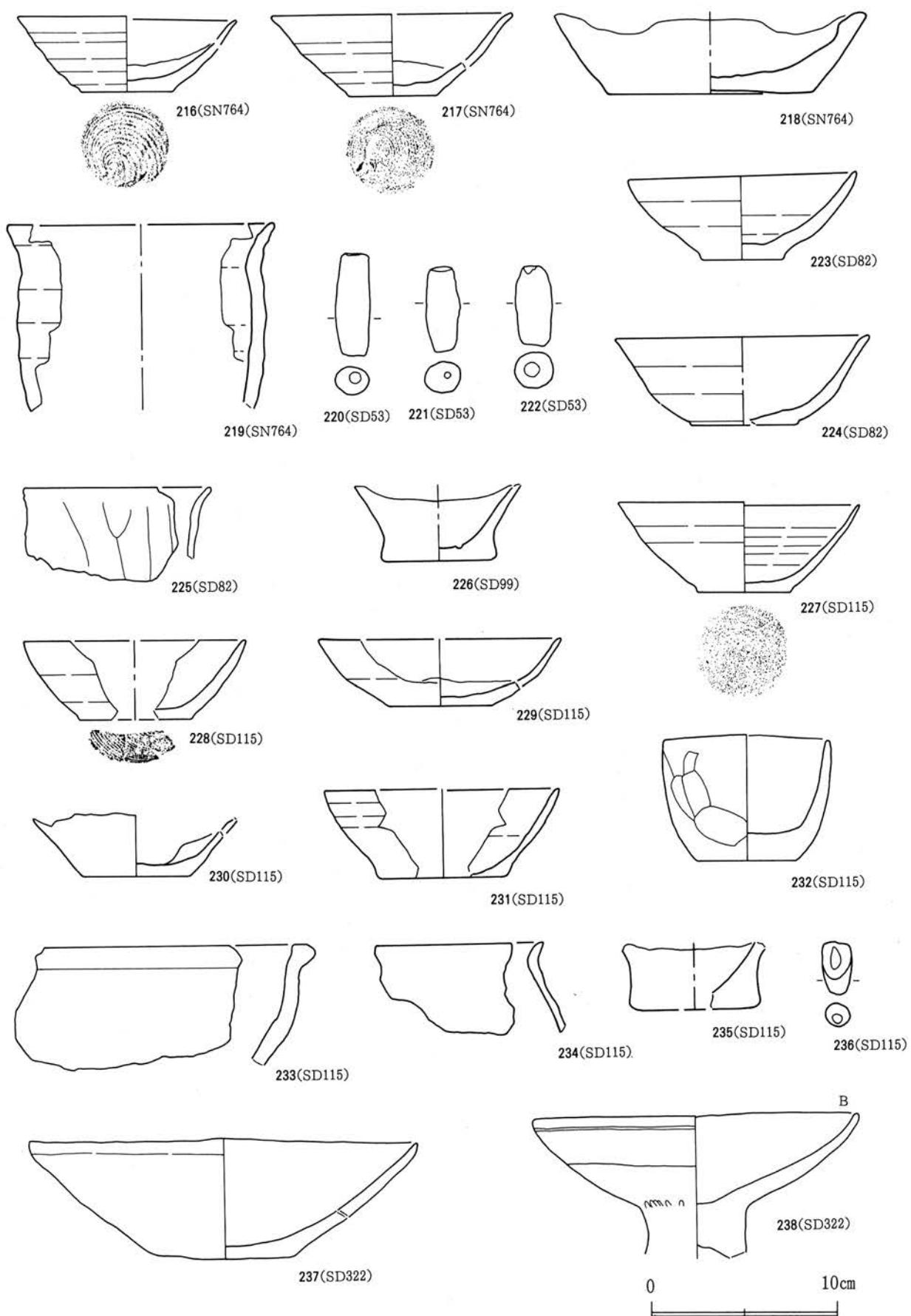


第83図 遺構内出土遺物(10)

開防遺跡

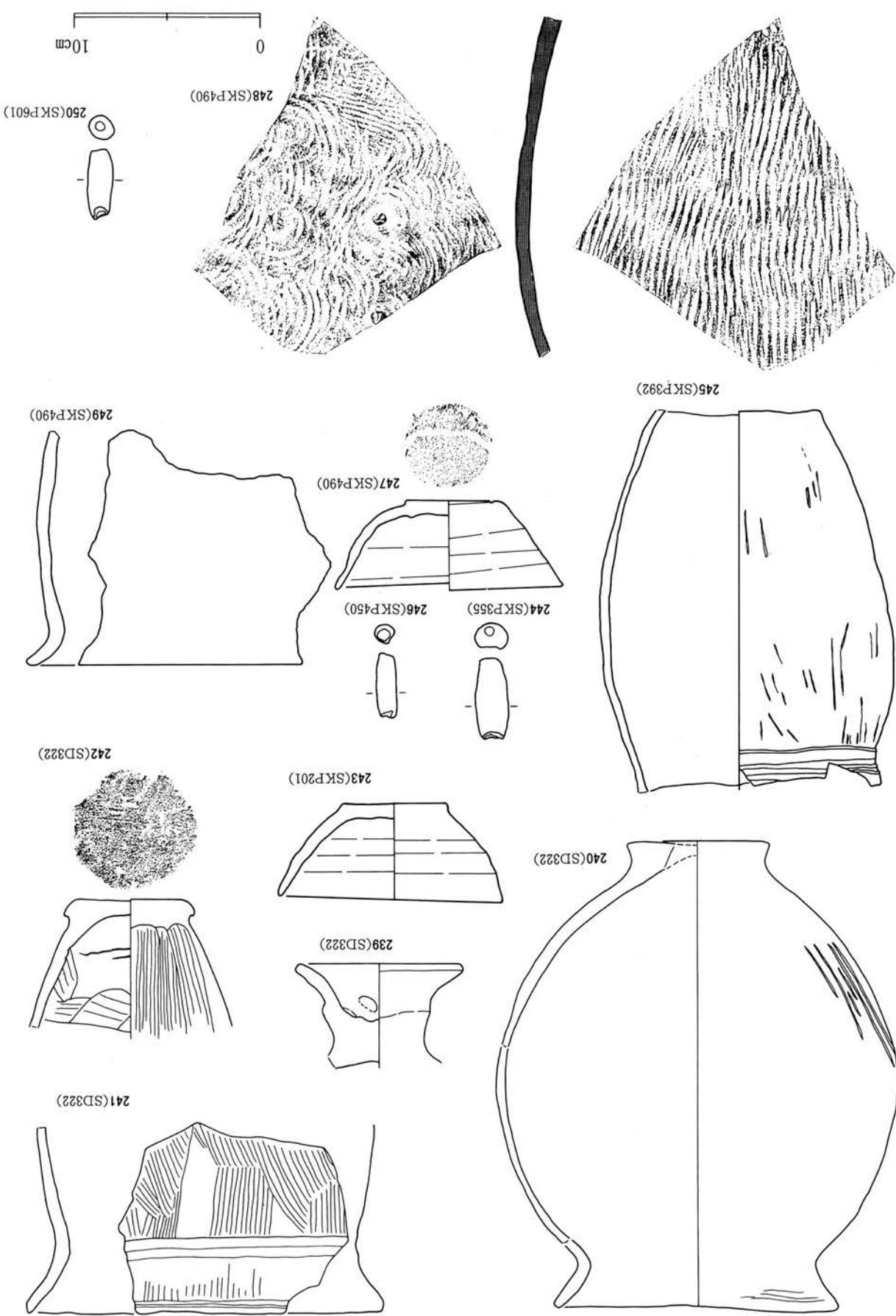


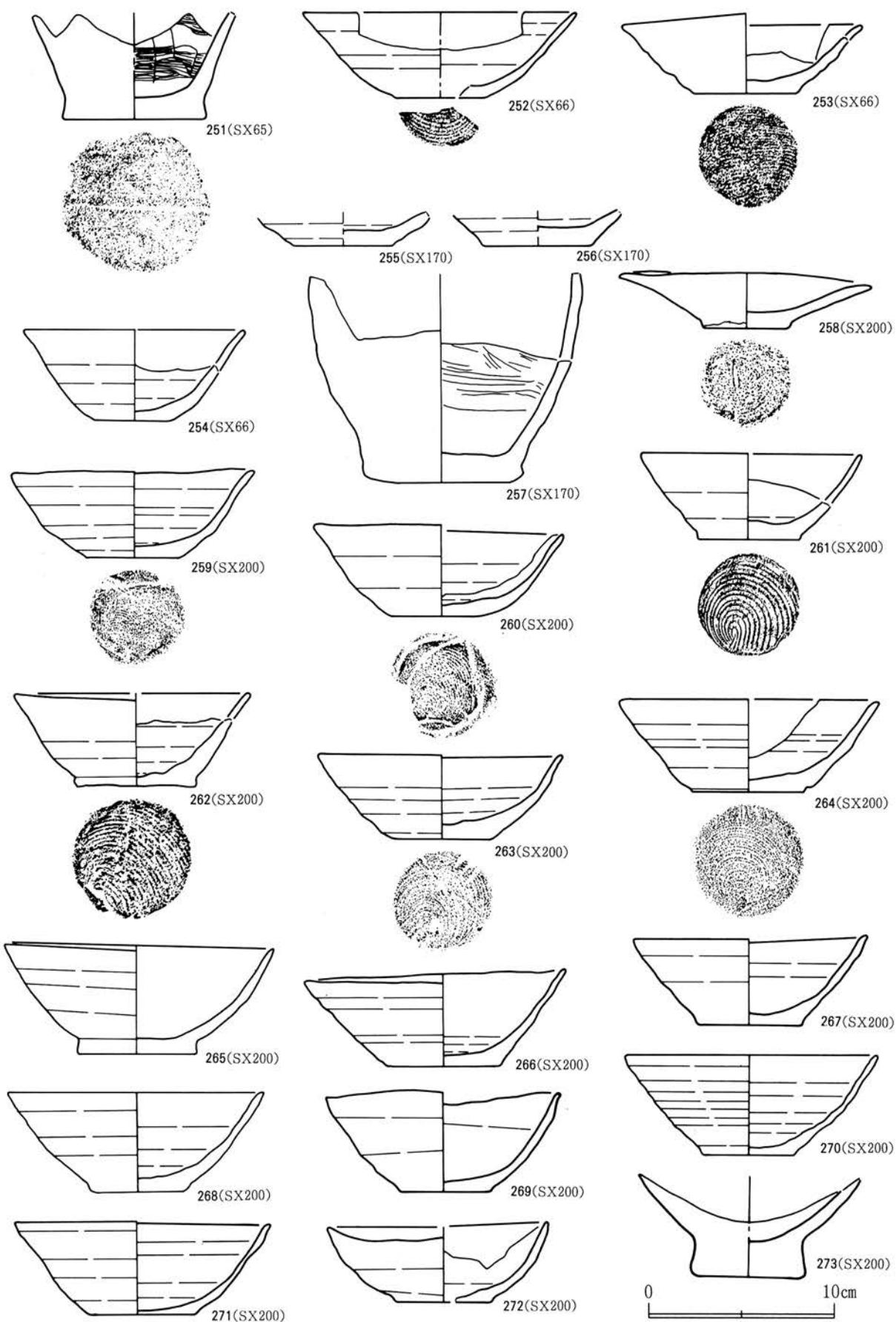
第84図 遺構内出土遺物(11)



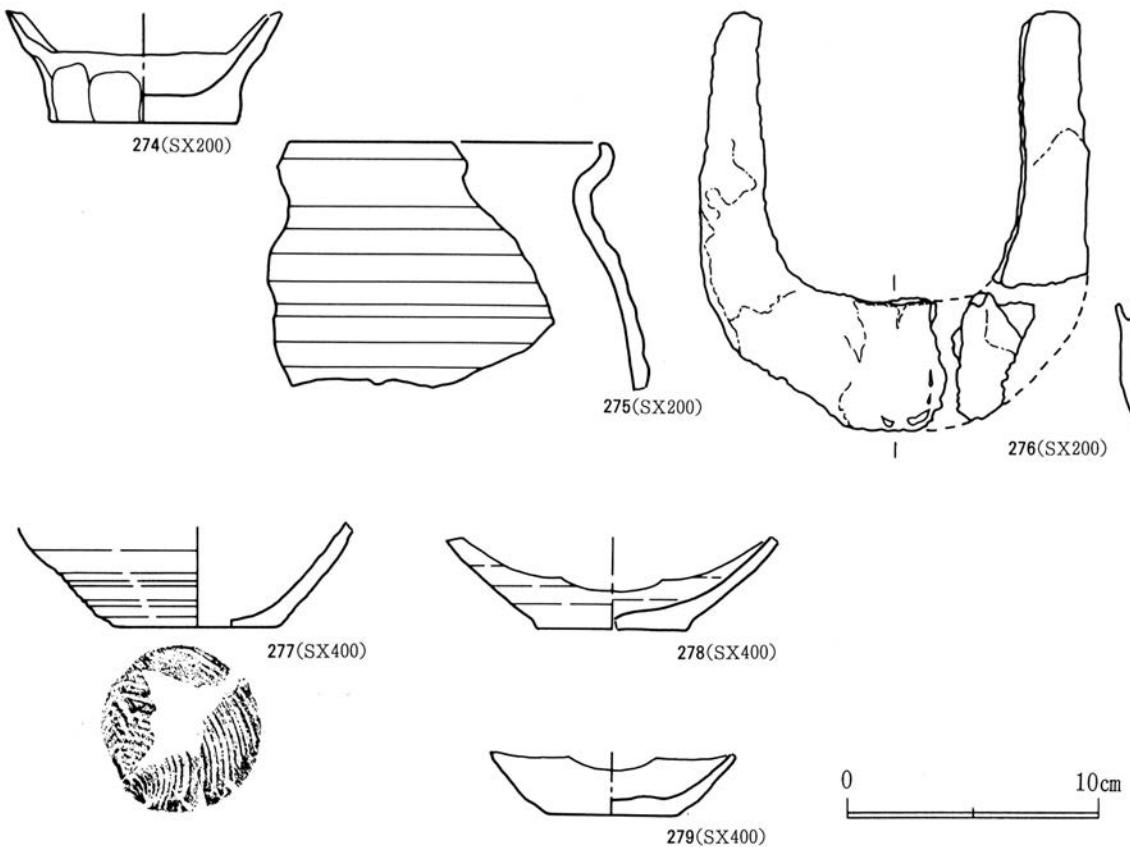
第85図 遺構内出土遺物(12)

第86图 遗墟内出土遗物(13)





第87図 遺構内出土遺物(14)



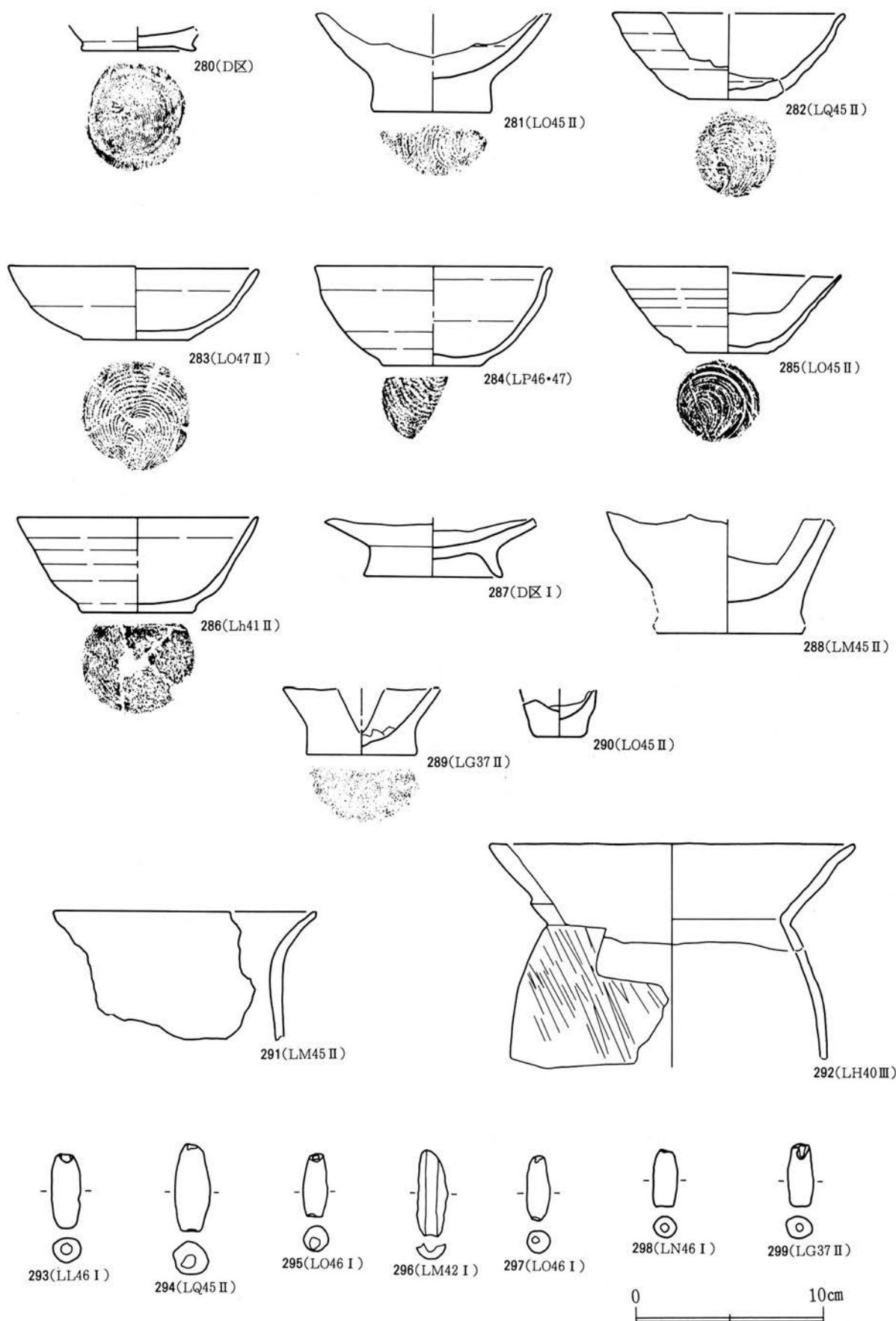
第88図 遺構内出土遺物(15)

S X 400(第77・88図、図版21-8)

西側のLM40・41、LN41グリッドに位置する。確認面はII層でぶい黄褐色土が楕円形に広がる。SI 420・SR 600と重複しそれらより新しい。上面形は長軸3.6m、短軸2mの北西側が窄まる楕円形で、深さは0.25mである。底面はほぼ平坦で壁は急傾いで立ち上がる。遺物は土師器が多数出土した他、鉄滓2点が出土した。277～279は土師器の坏である。いずれも切り離しは回転糸切りである。

## 第2節 遺構外出土遺物(第89図)

遺物は全域から出土しているが、主なものを掲載した。280～292は土師器で、293～299は土錘である。280・281・287是有台坏、282～286は坏、290はミニチュア土器の甕、288・289・291・292は甕である。280の内面は黒色処理され、281には柱状の高台が付く。坏は内湾して立ち上がり、口縁部が僅かに外反するものもある。280～286の切り離しは、右回転ロクロの糸切りである。290の底面には、簾状の下敷きを用いる。288・289は底部が突出する長甕で、289には簾状の痕跡が残り、288は砂底土器である。291・292は土師器長胴甕の口縁部である。291の外面にはミガキを内面にはナデを施す。292は頸部が「く」の字状で口縁部は大きく外傾する。口縁部には強い段と弱い段の2つの段がある。胴部外面にはカキ目を施し、内面にはヘラ状工具のナデを施す。口縁部外面にはカキ目の痕跡が認められる。



第89図 遺構外出土遺物(3)

## 第5章 まとめ

開防遺跡からは、古代の堅穴住居跡6軒、堅穴状遺構2基、掘立柱建物跡22棟、柱列跡4列、土器埋設遺構7基、井戸跡1基、土坑134基、鍛冶炉4基、製鉄関連捨て場1カ所、炭窯7基、カマド状遺構4基、焼土遺構21基、溝跡36条、性格不明遺構9基、柱穴様ピット986基が検出された。これらの遺構には、遺物の伴わないものもあるが、覆土などの特徴から多くは平安時代に帰属すると考えられる。調査区はA～D区と分かれるが、未調査区のA・B区とC・D区の間にあるそれぞれの用水路域を考慮すれば、遺構数は更に増加する。A・B区とC・D区の間には、一段低い沢地が存在するが、A～D区は遺構の種類や出土遺物の年代からそれぞれ関連性があったと考えられる。

平安時代開防遺跡の特徴としては、堅穴住居跡の数に比べて掘立柱建物跡が多く見つかっている点と、鍛冶炉・製鉄関連捨て場・炭窯・カマド状遺構などと共に鉄滓や羽口が出土するなど、生産に関わる遺構・遺物が目に付く点である。柵列跡や溝の一部は、堅穴住居跡と平面的には無関係で、むしろ生産遺構や掘立柱建物跡の区画施設と関連するようである。開防遺跡は、一般的な集落遺跡とは異なり鉄をはじめとする生産遺跡に關係した集落と見なされることや、掘立柱建物跡も整然とした企画性のある配置を示さない点から、掘立柱建物跡の大半は住まいとは考えがたく、生産遺構と関わった倉庫的な役割を担っていたと想定される。またS R 50は、完形の須恵器甕がやや傾くものの正位の状態で土坑の中に埋設され、蓋に転用されたと考えられる土師器有台皿が出土し、墓の存在も確かめられる。以上の平安時代の遺構や遺物は、出土した須恵器や土師器より9世紀初頭から10世紀代の年代が考えられる。

開防遺跡の遺構や遺物の大半は平安時代であるが、平安時代以前の遺物も見つかっている。最も古いのは、S I 39覆土から出土した第79図-10の壺である。中央に明瞭な段が形成され、底部が平底風の丸底で、直立ぎみで口縁部付近が内湾する形態である。いわゆる関東系の土師器壺と形態が類似し、その後出の特徴が想定されることから7世紀前半の年代が考えられる。一方、第85・86図-237～242の壺・高壺・球胴甕・長胴甕は、S D 322から比較的まとまって出土し、焼成・色調の他に胎土に黒雲母が共通して含まれる。黒雲母は他の遺物には認めがたく、これらは一括性の強い土器と考えられる。これらは、高壺の壺部や脚部の形態、口縁部が内湾する甕の特徴から、7世紀末葉から8世紀初頭頃の年代が考えられる。また、第81図-157・160、第86図-245や第89図-292などの、底部が突出したり口縁部から頸部にかけて平行な沈線や段を形成している非ロクロの長胴甕は、奈良時代に相当する可能性がある。いずれも遺構の覆土や遺構外の出土のため、同時代の遺構は特定できていない。

開防遺跡は、今回調査したA～D区にわたる広さと、平成13年に五城目町教育委員会が調査を行った区域を含む広大な広さが想定されている。これら2つの調査区域と未調査区域の採集遺物から、平安時代を主体とする遺跡であることが理解される。開防遺跡の南側には馬場目川があり、この南側には近接して平安時代の官衙的色彩の濃い石崎遺跡や中谷地遺跡が位置している。今回調査した開防遺跡は、古墳時代や奈良時代の在地性の強い集落の跡地に、9世紀初頭頃から計画的に営まれた集落と考えられ、石崎遺跡や中谷地遺跡と強く関連していたと思われる。広範囲の調査にも関わらず、墨書土器が1点も出土していないことは、生産遺跡としての特色を示しているものと考えられる。



1 調査区全景（南東から）



2 調査区全景（西から）



1 B 区 S B128 完掘 (北から)



2 B 区 S E94 木枠確認 (南西から)



3 B 区 S E94 木枠側面 (南から)

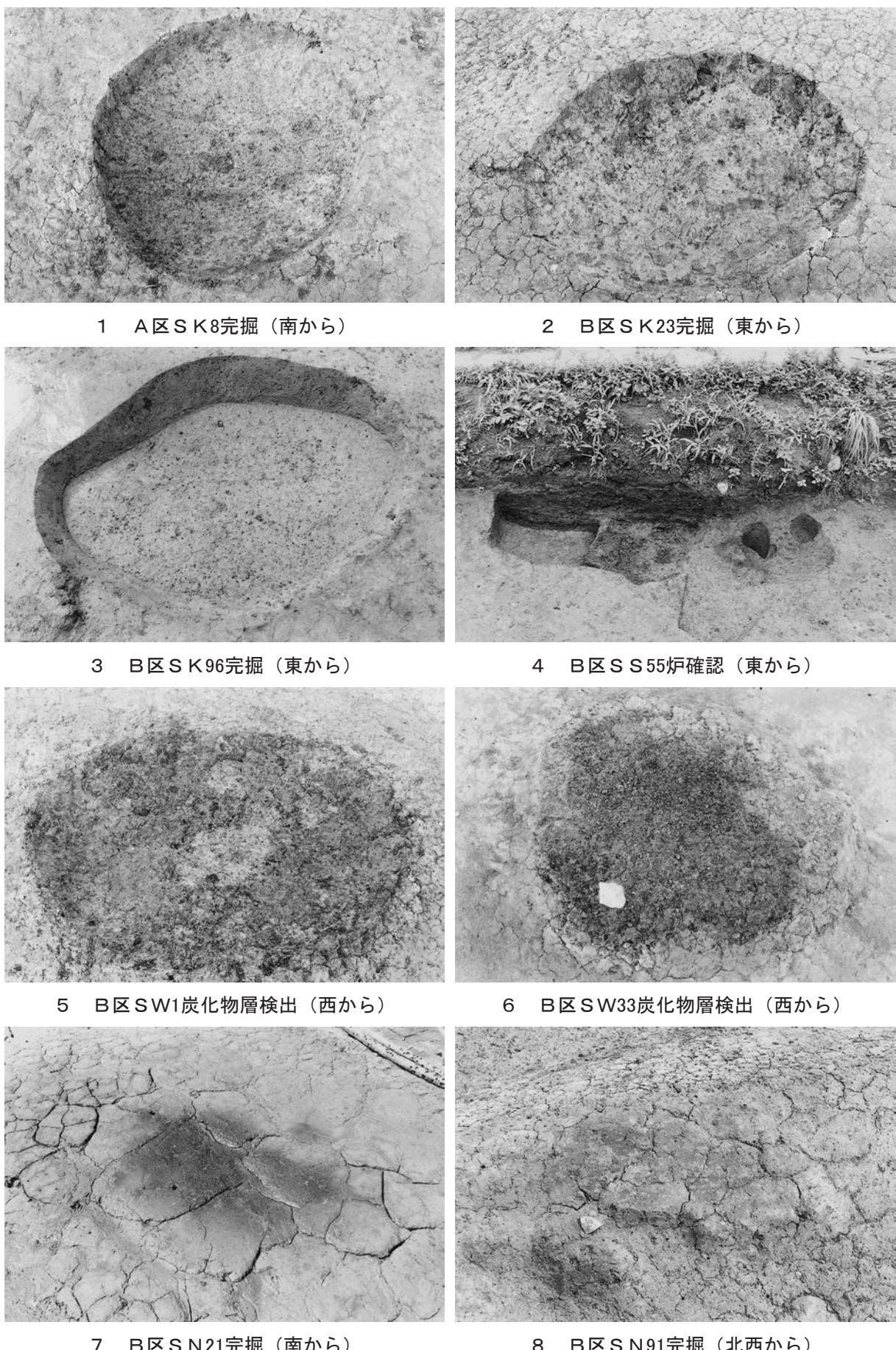


4 B 区 S K2 完掘 (北から)



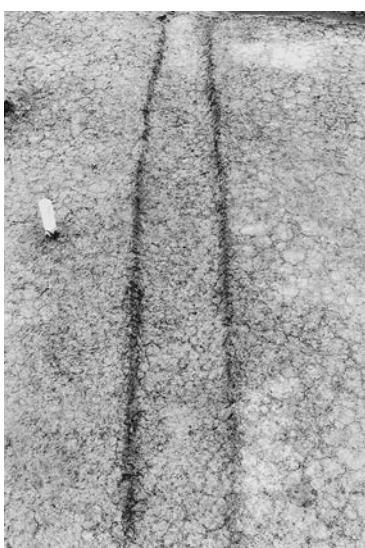
5 B 区 S K3 遺物出土 (南から)

図版3 A区土坑・B区土坑(2)・B区鍛冶炉・B区炭焼成遺構・B区焼土遺構





1 B区 S D 4・22完掘(南から)



2 B区 S D 24完掘(東から)



4 B区 S D 5・54・56完掘(南から)



3 B区 S D 25完掘(北から)



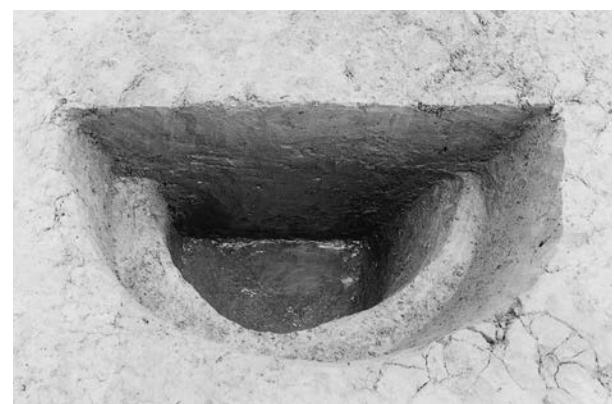
5 B区 S D 26完掘(南西から)



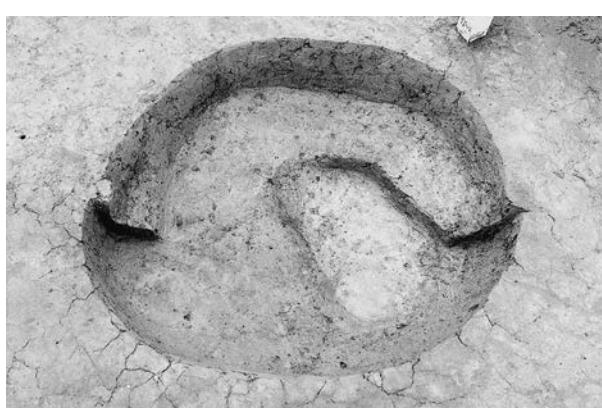
1 B区S D82遺物出土（東から）



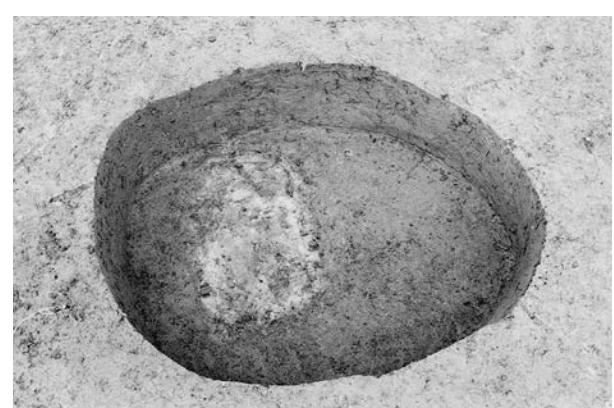
2 B区S A131P1（西から）



3 B区S A131P2土層（北から）



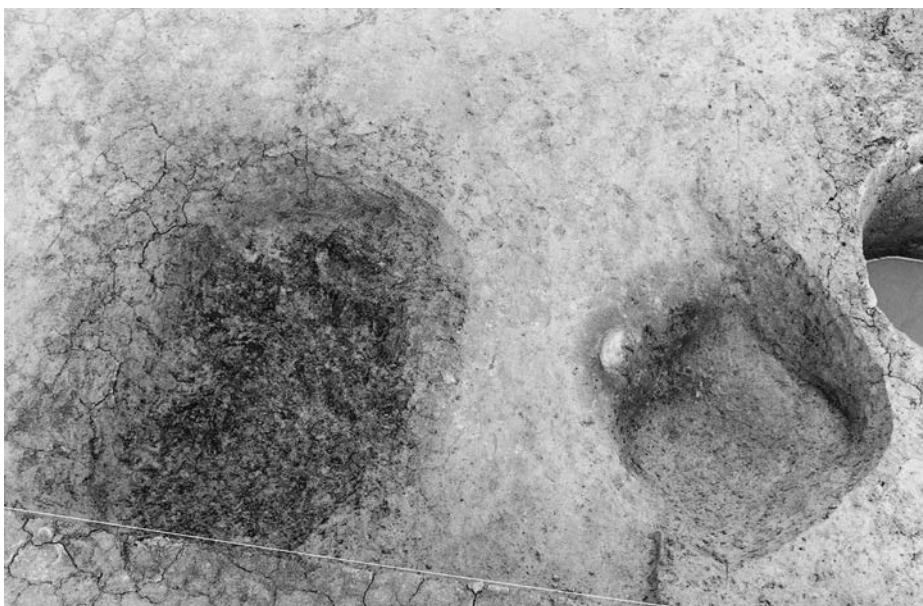
4 B区S A132P1完掘（西から）



5 B区S A132P2完掘（東から）



1 C区  
S I 55完掘 (南から)



2 C区 S I 55内鍛冶  
施設完掘 (南西から)



3 C区  
S B 14完掘 (南から)

図版7 C区掘立柱建物跡(2)・C区柱穴列・C区土器埋設遺構(1)



1 C区S B 15完掘  
(西から)



2 C区S A 160完掘 (南から)



3 C区S R 50確認状況 (南東から)



4 C区S R 50土器埋設状況 (南から)



1 C 区 S R52 土器出土状況 (南から)



2 C 区 SK1 完掘 (西から)



3 C 区 SK2 完掘 (西から)



4 C 区 SK3・SK38 切り合い状況 (南から)



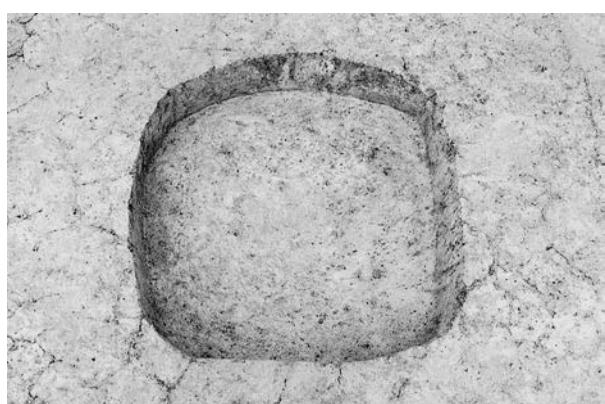
5 C 区 SK19 土層断面 (東から)



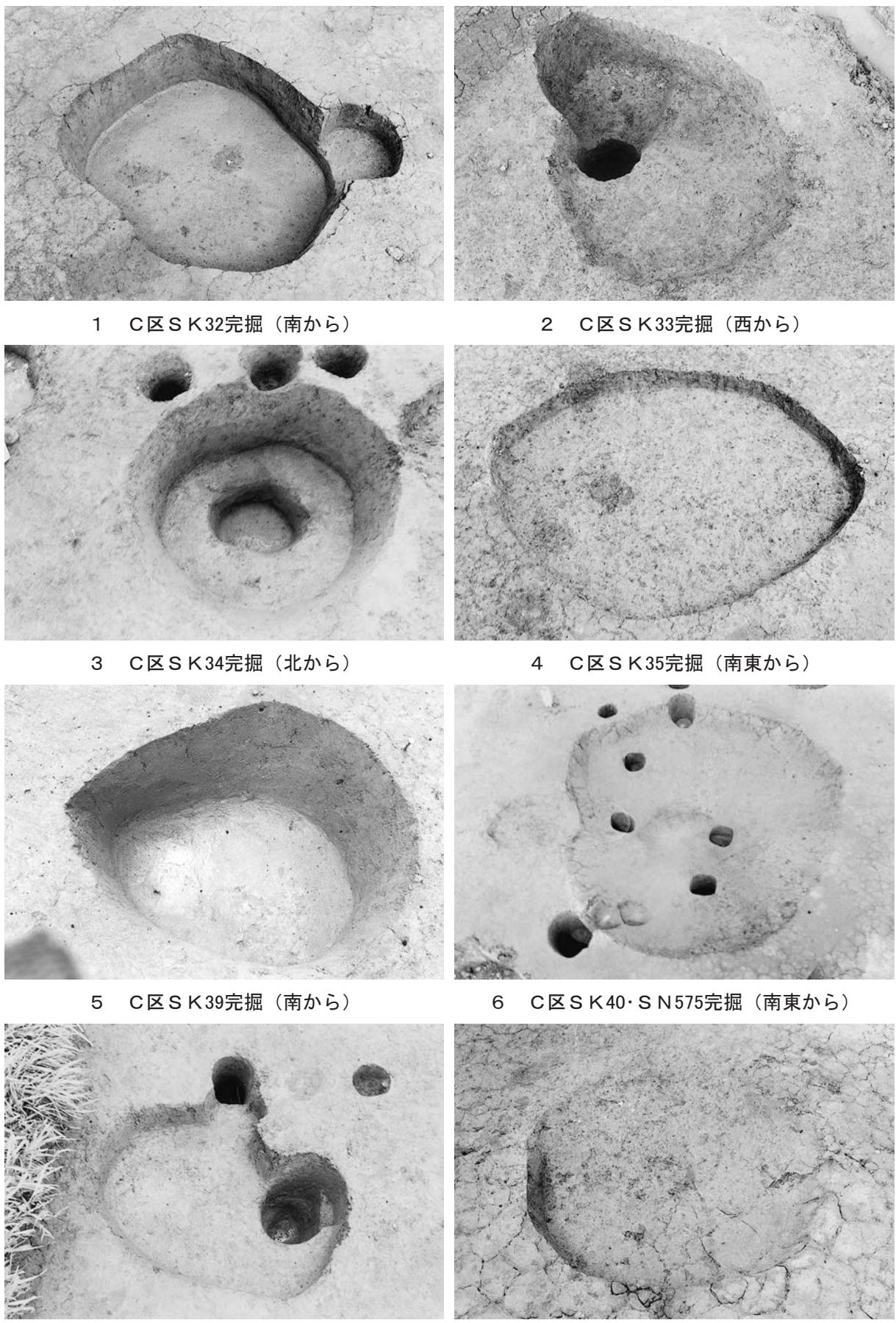
6 C 区 SK22 完掘 (北から)



7 C 区 SK25 完掘 (北西から)



8 C 区 SK28 完掘 (東から)





1 C 区 SST 18  
確認状況（西から）



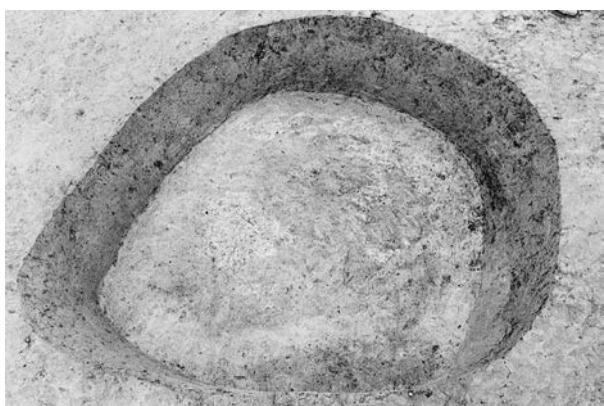
2 C 区 SST 18  
炉壁集中部出土状況  
(西から)



3 C 区 SST 18  
羽口出土状況（北から）



1 C区SK118完掘（東から）



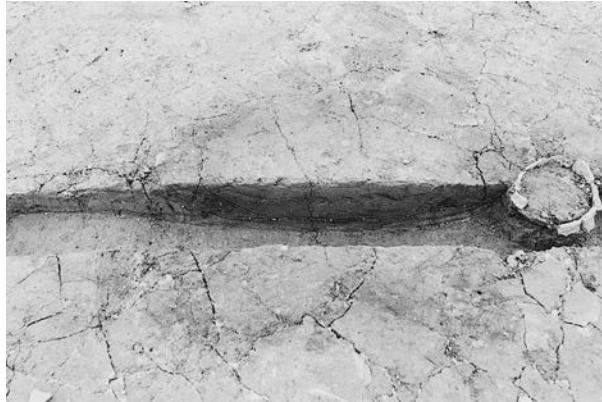
2 C区SK192完掘（東から）



3 C区SK197・SK198・SK199  
確認状況（西から）



4 C区SK118完掘（東から）



5 C区SN41土層断面（南から）



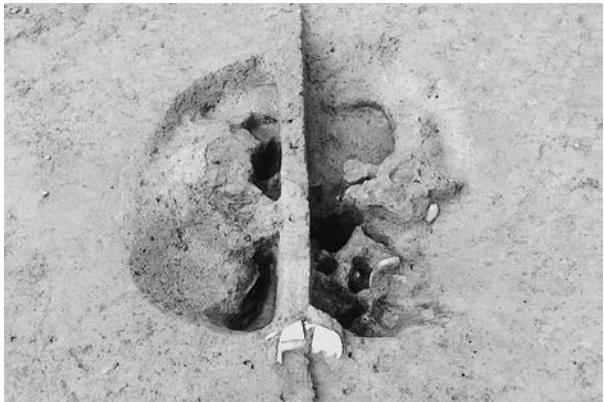
6 C区SD219完掘（南東から）



7 C区SE102完掘（東から）



8 C区SE102木枠検出状況（東から）



1 D区S I 39カマド検出状況（南から）



2 D区S I 46支脚出土状況（北東から）



3 D区S I 150土層断面（東から）



4 D区S I 150・SK717土層断面（南東から）



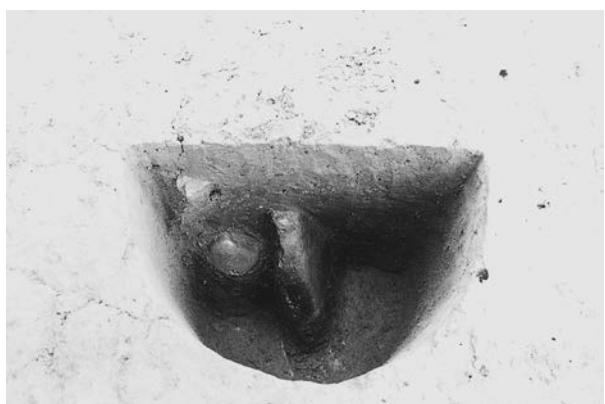
5 D区S I 420遺物出土状況（南から）



6 D区S I 550土層断面（東から）

7 D区SK I 100・SK190  
SK489・SD590完掘（北から）

8 D区SK I 333完掘（南から）



1 D区SB1P1出土状況（南から）



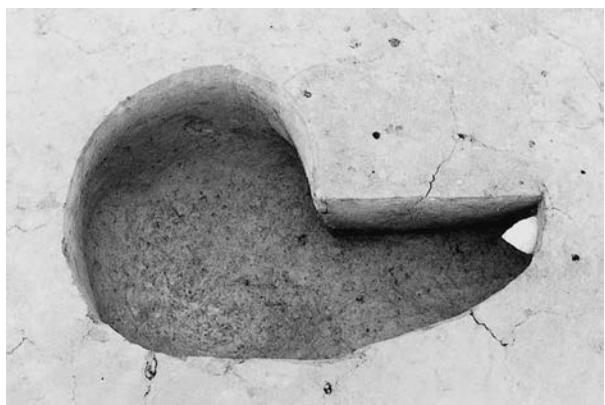
2 D区SB1P2完掘（東から）



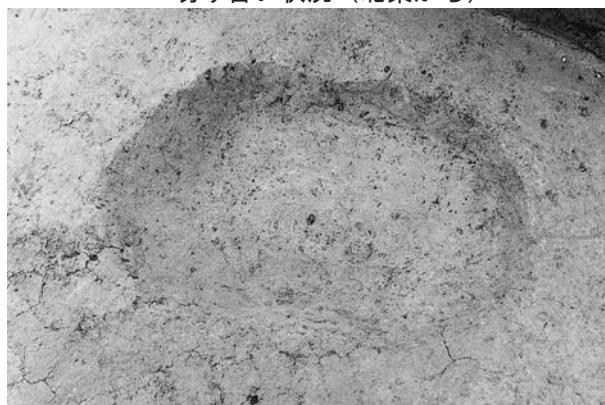
3 D区SB3P3完掘（東から）



4 D区SB3P4・SK15  
切り合い状況（北東から）



5 D区SB3P4完掘（北東から）



6 D区SB4P3完掘（北から）



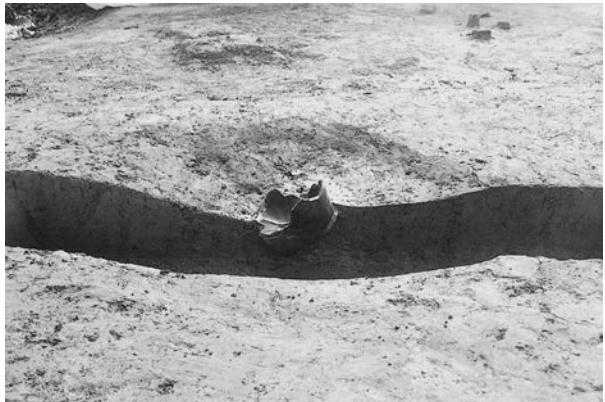
7 D区SR62土器埋設状況（東から）



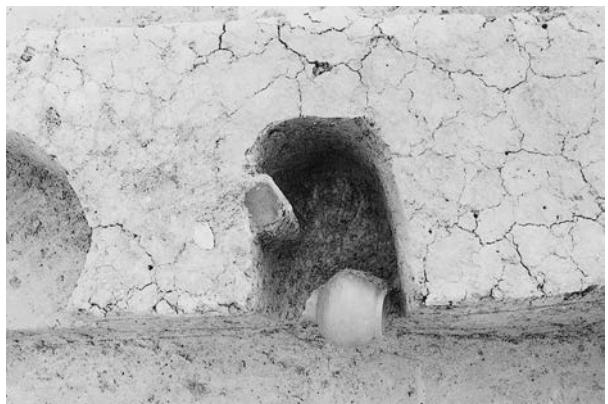
8 D区SR299遺物出土状況（南東から）



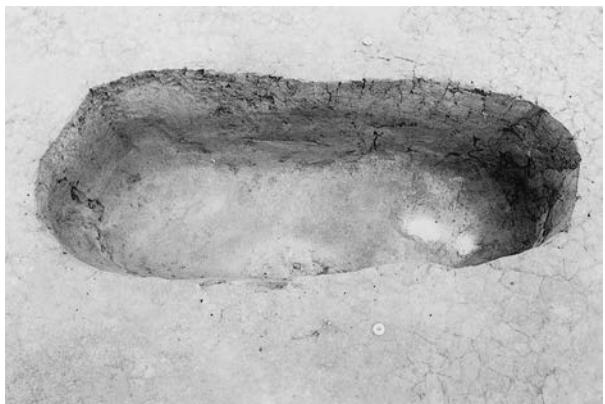
1 D区S R600土器出土状況（西から）



2 D区S R697土器出土状況（東から）



3 D区S R755土器出土状況（東から）



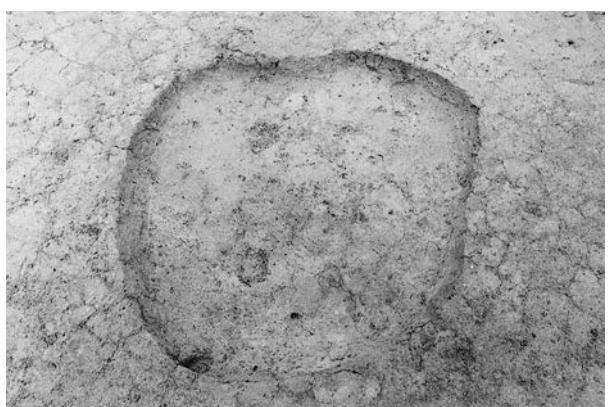
4 D区S K19完掘（南から）



5 D区S K24土器出土状況（南から）



6 D区S K25・S K105土層断面（南から）



7 D区S K26完掘（西から）



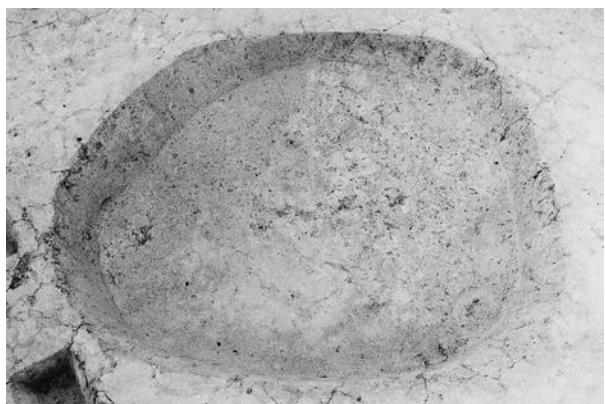
8 D区S K31完掘（東から）



1 D区SK 32作業風景（南から）



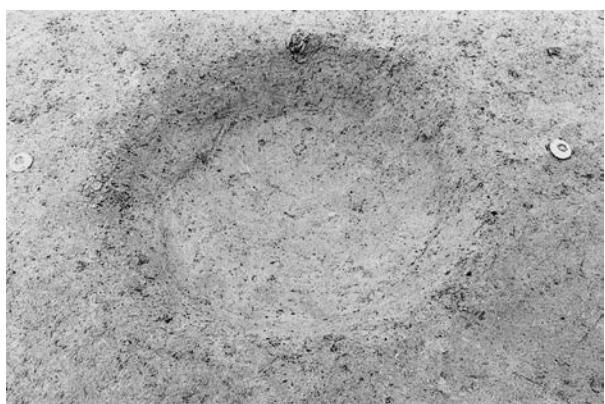
2 D区SK 32完掘（南から）



3 D区SK 33完掘（南から）



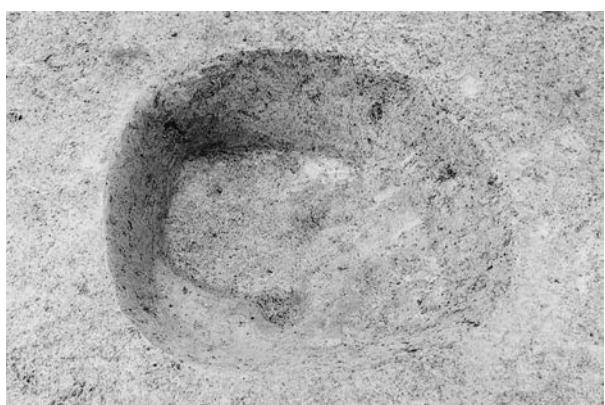
4 D区SK 40土層断面（北から）



5 D区SK 54完掘（南から）



6 D区SK 55土層断面（南から）



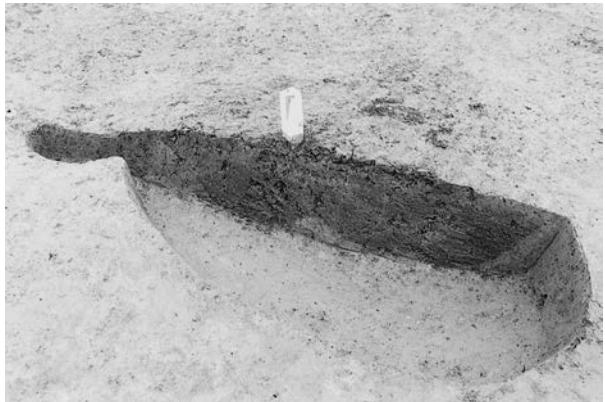
7 D区SK 60完掘（東から）



8 D区SK 70完掘（南東から）



1 D区SK71完掘（南から）



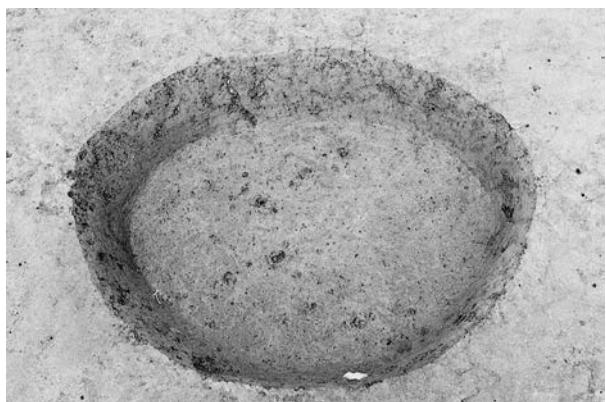
2 D区SK74・SK79・SK281  
切り合ひ状況（南から）



3 D区SK81完掘（北から）



4 D区SK87完掘（北東から）



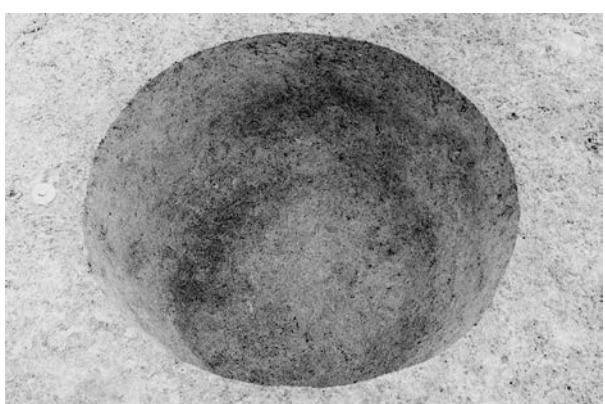
5 D区SK89完掘（東から）



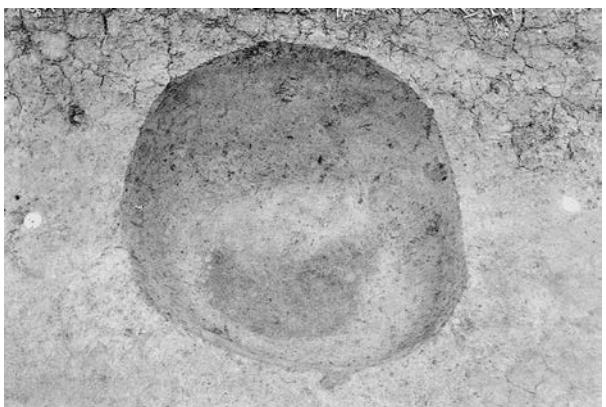
6 D区SK91・SK108完掘（東から）



7 D区SK98完掘（南から）



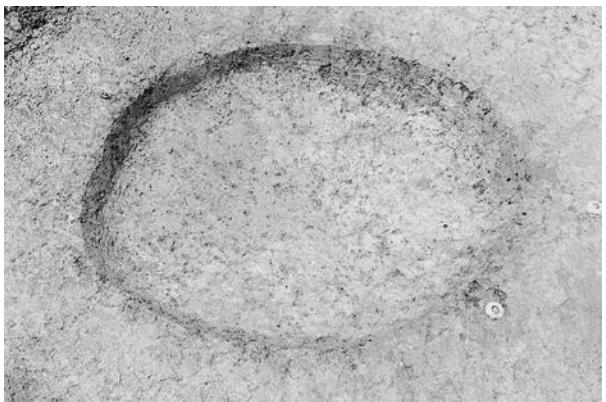
8 D区SK107完掘（南から）



1 D区SK 109完掘（南から）



2 D区SK 112完掘（北西から）



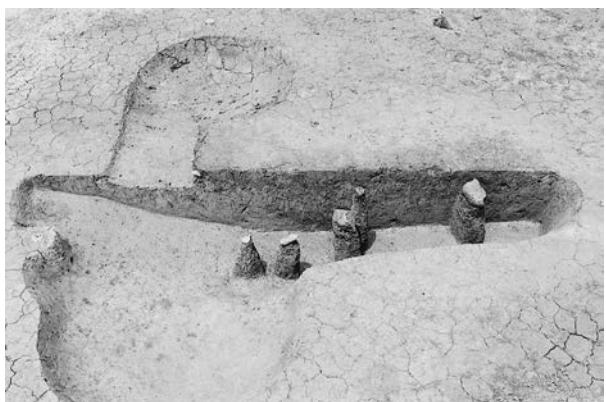
3 D区SK 131完掘（東から）



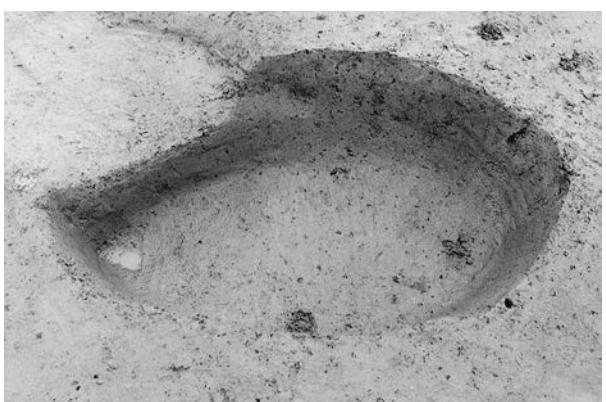
4 D区SK 185完掘（南から）



5 D区SK 220完掘（南から）



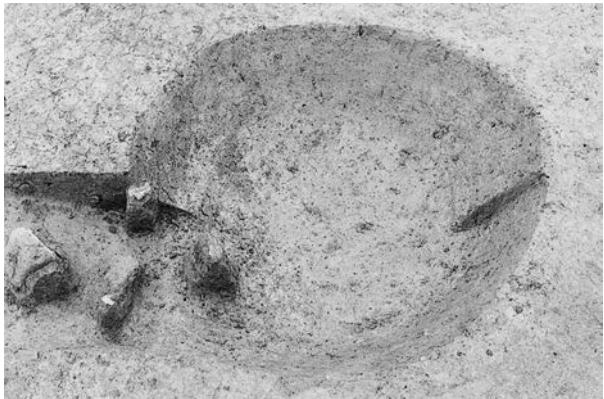
6 D区SK 222土層断面（東から）



7 D区SK 270完掘（北東から）



8 D区SK 279完掘（南から）



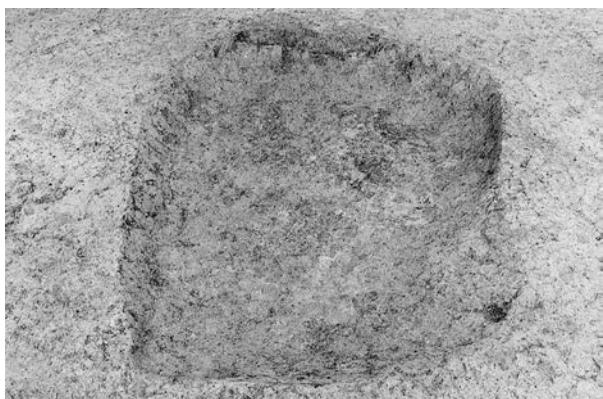
1 D区SK280完掘（南から）



2 D区SK410完掘（南東から）



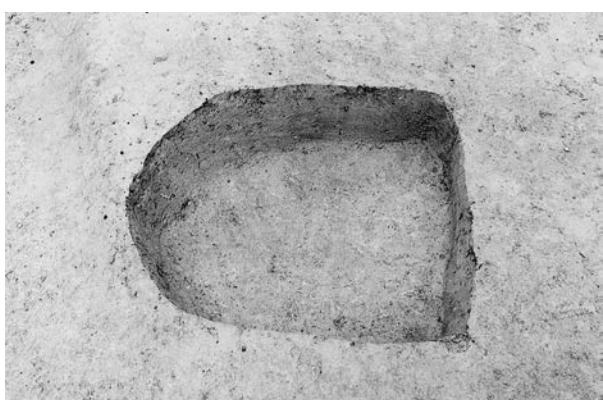
3 D区SK489完掘（西から）



4 D区SK630完掘（南西から）



5 D区SK717土層断面（東から）



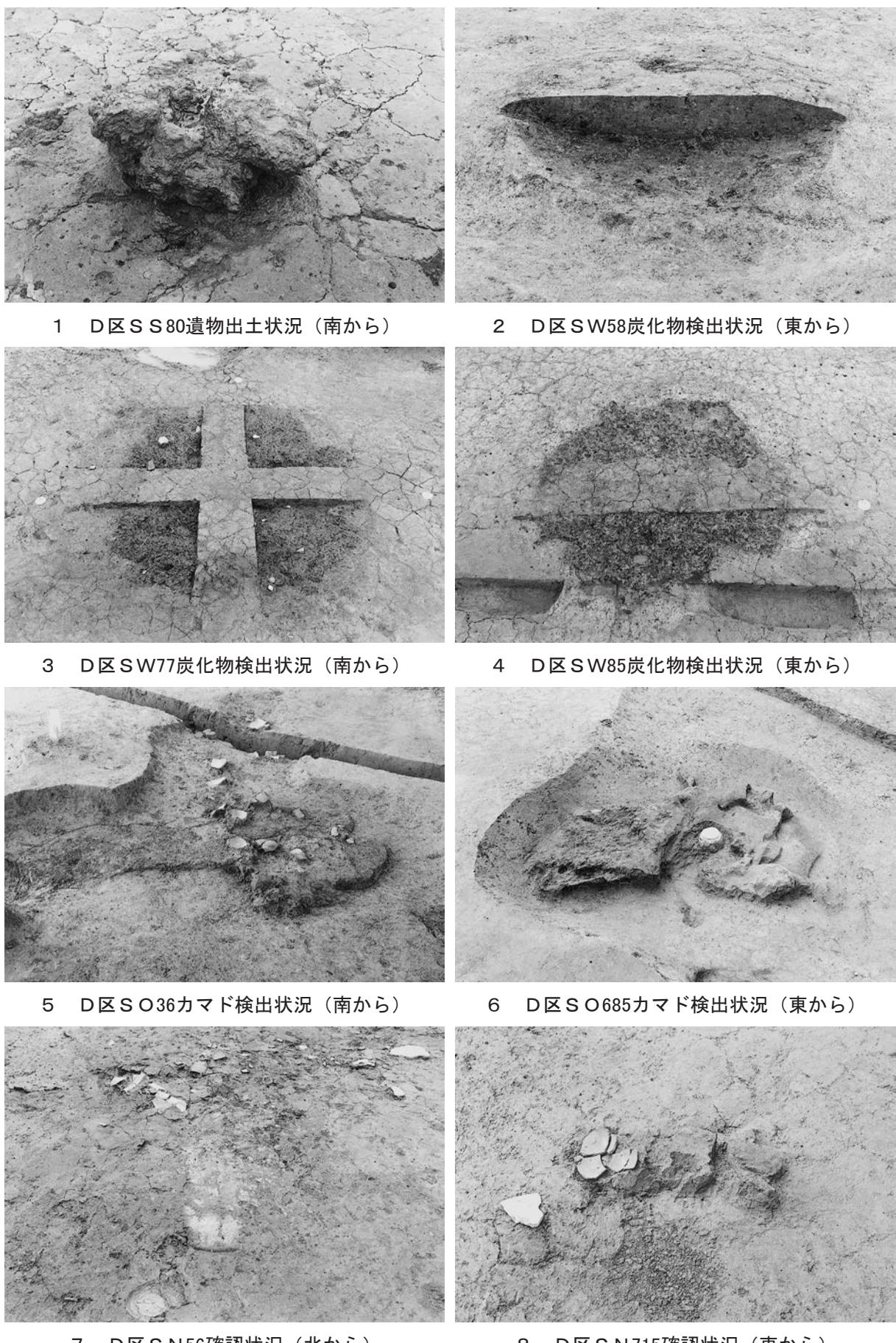
6 D区SK721完掘（東から）



7 D区SK815遺物出土状況（南から）



8 D区SK828遺物出土状況（西から）





1 D区 S D50・S D51確認状況（北から）



2 D区 S D52確認状況（南から）



3 D区 S D53完掘（北から）



4 D区 S D72土層断面（南から）



5 D区 S D115・S D151・S X170完掘（西から）



1 D区 S D 82完掘（西から）



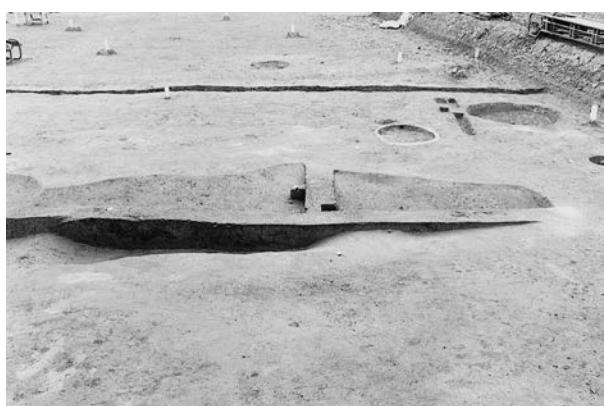
2 D区 S D 120・S D 457完掘（南から）



3 D区 S D 322遺物出土状況（西から）



4 D区 S X 45・S X 66完掘（南から）



5 D区 S X 65土層断面（東から）



6 D区 S X 200土器集中部検出状況（西から）



7 D区 S X 320完掘（東から）



8 D区 S X 400完掘（北から）



1 D区S X200土器出土状況（南東から）



2 D区S X200鉄製鋤出土状況（南から）

貝 保 遺 跡  
( 4 K B )

# 第1章 調査の概要

## 第1節 遺跡の概観

貝保遺跡は、馬場目川右岸の標高約7mの河岸段丘上に位置する。調査区は、東側及び北側を湖東病院とその駐車場用地に取り囲まれるように存在する。調査範囲は宅地及び駐車場用地であったが、湖東病院移設地への資材運搬用進入路確保のため、2カ年に分けて調査を実施することになった。調査は西側を平成13年(1次調査)、東側を平成14年(2次調査)に行った。

貝保遺跡の調査で検出した遺構は、年代不明な遺構を除けば、全て平安時代のものである。調査面積が少ないこともあり、遺跡の詳細な様相を捉えるには不明な点が多い。しかし、今回の調査で検出した大型の溝跡が東西に延びる可能性があることや分布調査の結果等を考慮すれば、調査区は遺跡の一部で、遺跡の規模は広範に及ぶものと考えられる。調査区の北西約400mには、馬場目川の旧河道を挟んで大規模な平安時代の集落である開防遺跡が存在しており、有機的に関連していたと思われる。

なお、1次調査と2次調査の間は未調査区であるが、ここには解体不可能なブロック塀が存在していた。

### 基本層序(第90図)

遺跡の層序は、2次調査のものを採用した。貝保遺跡の調査前の状況は、既述のように宅地・駐車場用地で、上位には現在の宅地造成・駐車場用地造成・道路側溝造成などの盛り土が多く見られるものの、遺物包含層、地山面の遺存状態は調査区全体において比較的に良好であった。なお一部において、宅地・駐車場用地の造成以前に造られていた、水田の水路が地山まで達していた。以下、基本層序について記述する。

最上層を便宜上I層とするが、場所によって、アスファルト・砂利・砂などが堆積し、厚さも土色も著しく異なる。層の層厚は宅地・道路脇部分で100~120cm、駐車場用地で50~60cmとなっている。

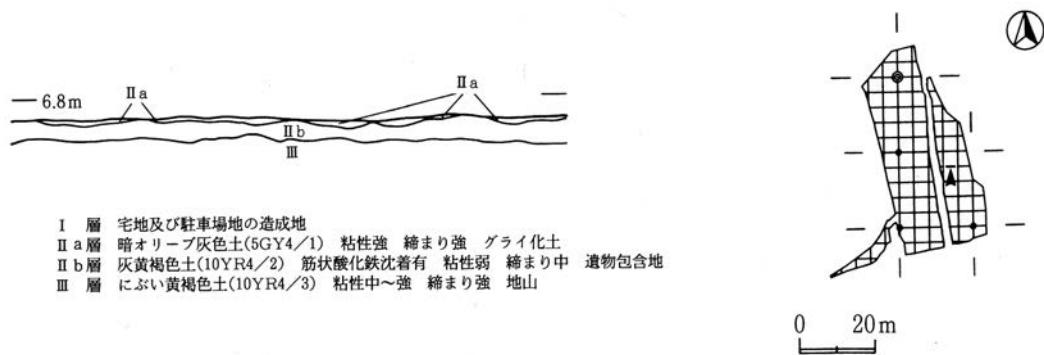
a層は、厚い盛り土や玉砂利土等によって、還元化が進んだと思われる造成前の地層で厚さ10~30cmの青灰色のグライ化層である。本来はIIb層と同一のものと思われ僅かに遺物が混入している。

IIb層は、IIa層から連続する遺物包含層で厚さは約20cmである。上位にはIIa層からの漸移が認められるが明確に漸移層を分けるには至らなかった。下位には、橙色土粒子が混入している。一部の遺構の確認面でもある。

III層は粘土質の無遺物層といわゆる地山層である。大半の遺構はこの面で確認している。調査区内の地山は南側がやや高く、北に向かって極緩やかに傾斜している。

## 第2節 発掘調査の方法

調査はグリット法で行った。調査区全域に国家座標第X計の座標北を基準として(X-6150.124、Y-62099.948)を原点とする各4m間隔の方眼を設置した。方眼の原点を通る南北線をMA、同じく東西線を50とし、南北線は西に向かってアルファベットの符号を昇順、東西線は北に向かって数字の符号を昇



第90図 貝保遺跡の基本層序

順になるようにして付した。なお、南北線に付した2文字のアルファベットはA～Tまでの20文字の繰り返しとなっている。この方眼によって画する4m四方の区画は、その南東隅を通る南北線の符号と、東西線の符号とを組み合わせてMA50グリットのように呼称した。磁北は座標北から西へ7°28'40"偏する(第91図)。

遺構の呼称については、その種類に応じて略号を付し、1次調査においては、1からの通し番号を、2次調査においては、201からの通し番号を付した。なお調査の結果、遺構ではないと判断したものについてはこれを欠番とした。遺構調査は検出した後、原則として2分割法または4分割法による精査を行った。出土遺物は遺構単位又はグリット単位で精査を行い、遺構名又はグリット名、出土層位、出土年月日を記録して取り上げることを原則とした。

記録は、写真と図面に拠った。写真撮影は35mm版カメラでリバーサルフィルム、白黒フィルム、カラーフィルムを使用して行った。遺構の平面図、断面図の原図縮尺は1/20を基本として、遺物出土状況などの細部の表現が必要なところは1/10の計測を行った。この他、必要に応じて野帳に記録を留めた。

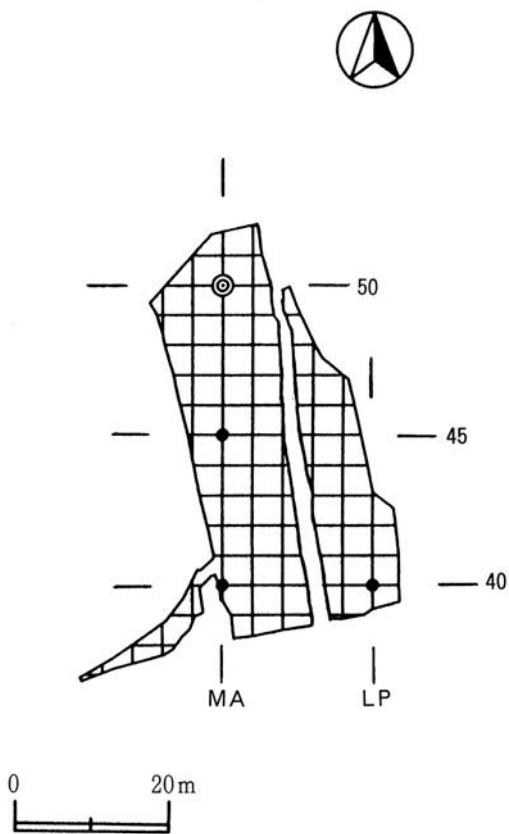
### 第3節 発掘調査の経過

貝保遺跡は、西側の1次調査を平成13年8月27日～9月18日、東側の2次調査を平成14年4月11日～26日に実施した。

1次調査は、重機による表土除去後、8月下旬から人力による遺構の検出作業を開始したが、この時期は、開防遺跡の調査と併行して行った。はじめは作業員数名による小規模な調査を行っていたが、9月初旬より、本格的な調査が始まった。すぐに井戸跡(SE2)を検出、その後、大溝(SD10)を含む溝跡5条、鍛冶炉(SS13)を相次いで検出した。大溝からは完形に近い状態の土師器が数点出土した。9月中旬には掘立柱建物跡(SB160)を検出した。それらの精査を行い9月18日に調査を終了した。

2次調査は、事前に住宅を解体した後、重機による表土除去を行い、同時に、ヤード部分への進入路設置のため、東側の一部を調査し事前に終えた。本格的な調査は4月11日より調査員4名と作業員とで開始した。調査開始後すぐに土坑数基を検出した後、大溝(SD10)が東側に延びることを確認し、それに沿うような柱穴列(SA277・SA278)も検出した。4月の下旬には、北側の柱穴様ピット群の精査を行い、4月26日に調査を終了した。

1次・2次調査期間中に地元の郷土史研究家数名が遺跡の見学に訪れた。



第91図 貝保遺跡の区割図

#### 第4節 整理作業の方法と経過

1次調査では、土師器6箱、須恵器3箱、石器類0.5箱、鉄関連遺物1箱、木製品2箱が出土している。調査終了後、秋田県埋蔵文化財センター中央調査課において出土遺物を洗浄し、遺物の注記を実施した。それと併行して、井戸跡から出土した曲物の保存処理、遺構出土炭化物の科学分析を委託した。

2次調査では、土師器・須恵器・鉄滓を合わせて4箱の遺物が出土している。遺物の洗浄は発掘調査と併行して行い、調査期間中に終了した。調査終了後、秋田県埋蔵文化財センター中央調査課において遺物の注記を行い、1次調査出土分と合わせて、土器の接合復元作業を行った。

この後報告書掲載遺物を選択し、約30点を図化し、必要に応じて採拓も行った。土器の実測図は、残存状況も理解できるような作図を心がけ、残存状況の少ない遺物は180°回転の復元実測を行った。

遺構図については、平成14年度に、1次・2次調査分を合わせて、原図を点検・修正し製図用の第2原図を作成した。遺構配置図は、1次と2次分をグリッドを基に結合させて表現した。その後、直ちに遺構、遺物図面のトレースを行った。

報告書の作成に当たって、1次調査では1から2次調査では201からの通し番号を付した関係から、遺構の記載は、遺構の種類ごとに番号の少ない順に配列してある。また、開防遺跡と合冊の報告のため、両遺跡に関する記述を各遺跡の報告の前段にまとめてある。

以上の経過を経て、原稿を作成し編集作業を行った。

## 第2章 調査の記録

### 第1節 検出遺構と出土遺物

平成13・14年度の貝保遺跡検出遺構は、掘立柱建物跡1棟、柱穴列2列、井戸跡1基、土坑8基、鍛冶炉1基、焼土遺構3基、溝跡4条、柱穴様ピット207基、性格不明遺構1基である。出土遺物は土師器、須恵器、木製品、鉄滓などである。

#### 1 掘立柱建物跡

S B 160(第93図、図版23-3)

西側のMT・LT・LS 42、MA・LT・LS 43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、柱穴8基を確認した。桁行3間×梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行総間6.4m×梁行総間4.6mである。主軸方向は西-東である。柱穴の平面形は、長軸0.2~0.27m、短軸0.18~0.25mの円形で、深さは0.12~0.33mである。遺物は、P 2・4・5より土師器が出土した。

#### 2 柱穴列

S A 277(第93図、図版23-4)

東側のLQ 42、LP 42・43グリッドに位置する。確認面はⅡb層で、柱穴5基を確認した。SD 10と重複し、それより新しい。柱穴の平面形は、長軸0.26~0.35m、短軸0.21~0.27mの楕円形・円形・隅丸方形で、深さは0.12~0.2mである。柱穴列の長さは7.4mであり、柱穴間の距離は1.65~1.9mである。主軸方向は、西南西-東北東である。遺物は土師器、礫が出土した。

S A 278(第93図、図版23-5)

東側のLQ・LP 41、LO 42グリッドに位置する。確認面はⅡb層で、柱穴6基を確認した。SD 10と重複し、それより新しい。柱穴の平面形は、長軸0.22~0.29m、短軸0.20~0.28mの円形及び楕円形で、深さは0.11~0.23mである。柱穴列の長さは9.1mであり、柱穴間の距離は1.4~2mである。主軸方向は、西南西-東北東である。遺物は土師器、礫、炭化物が出土した。

#### 3 井戸跡

S E 2(第94・98図、図版23-6)

西側のMB 39グリッドに位置する。確認面は層で、内側が灰褐色土で外側は黒褐色土が円形に広がっていた。北東側1/3は調査区外である。上面形は、直径1.32m以上の円形と推定され、深さは1.52mである。遺物は、曲げ物、板材、須恵器、土師器が出土した。1・2は曲物で、ほぼ完全な形で出土した。3は土師器坏で、底部から緩やかに立ち上がり、切り離しは回転糸切りである。

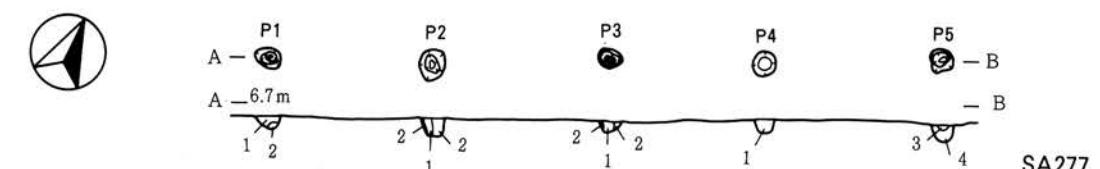
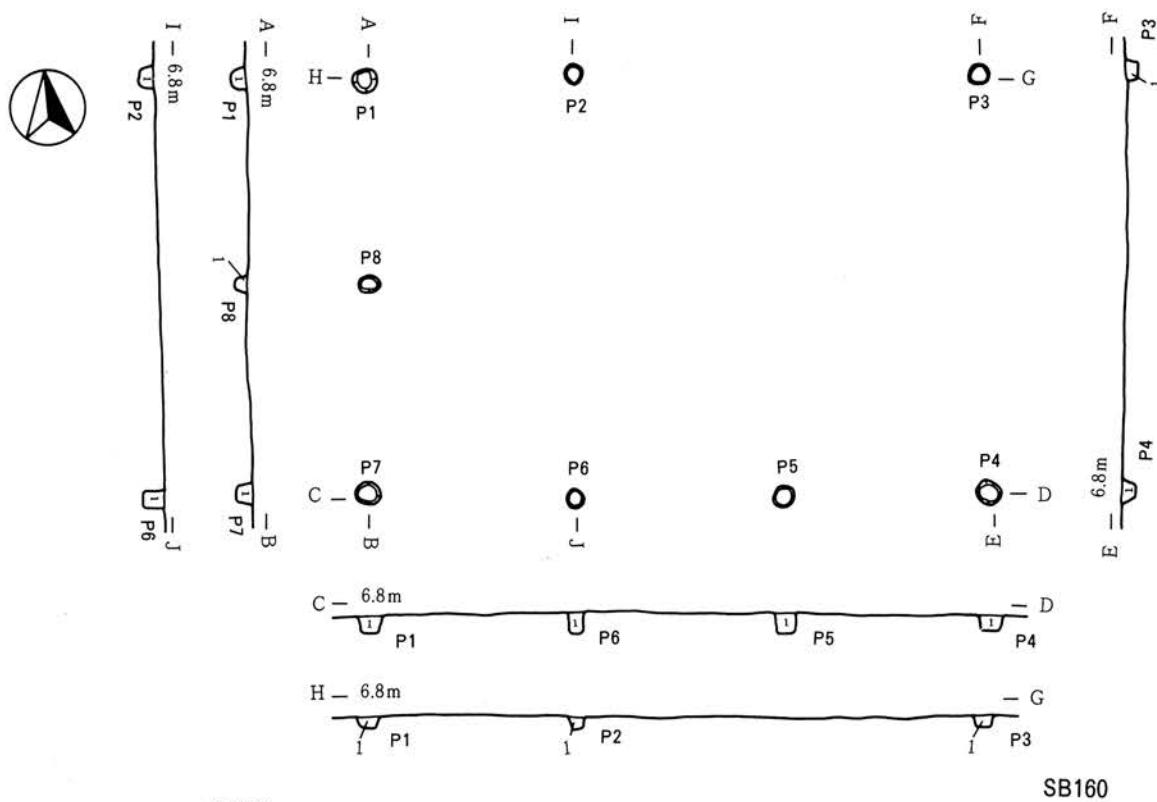
#### 4 土坑

S K 15(第94・98図、図版23-7)

北側のLT 50グリッドに位置する。確認面はⅢ層で黒褐色土が円形に広がっていた。上面形は長軸1.36m、短軸1.3mの円形で、深さは0.13mである。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は、土師器が出土した。4は坏で、底部から丸みをもって立ち上がり、切り離しは回転糸切りである。

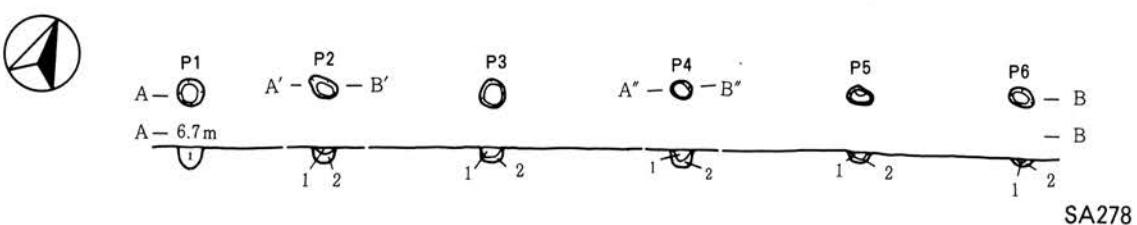


第92図 貝保遺跡遺構配置図



**S A 277**

- 1 暗オリーブ色土(5Y4/3)
- 2 褐灰色土(10YR4/1)
- 3 暗褐色土(10Y3/3) 砂礫多
- 4 暗オリーブ色土(5Y4/4) 橙色粒子多



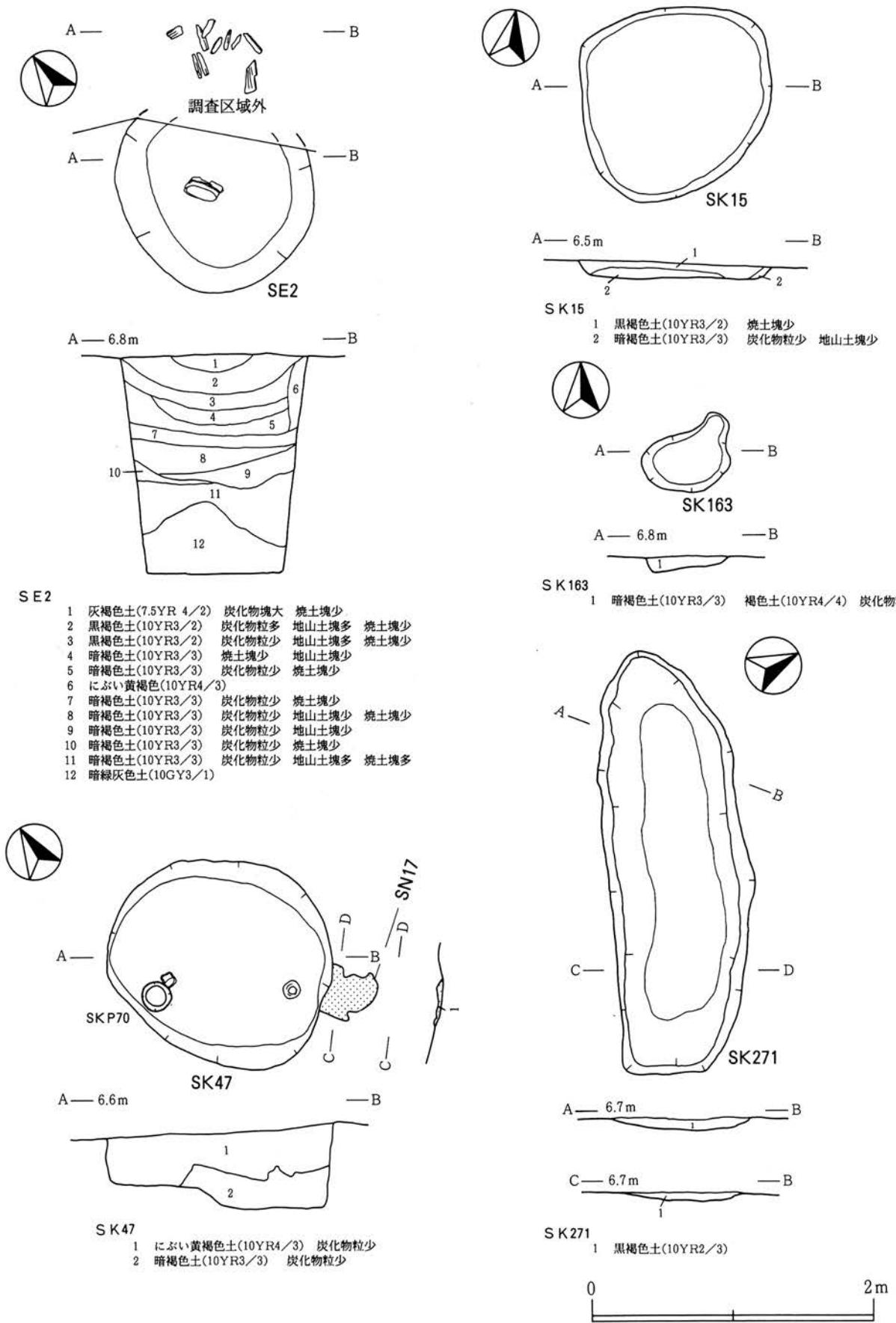
**S A 278**

- 1 オリーブ黒色土(10Y3/2) シルト質 橙色粒子多
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)



第93図 掘立柱建物跡(1)、柱穴列(1)

貝保遺跡



第94図 井戸跡(1)、土坑(1)

## S K 47(第94・98図、図版23-8)

西側のMA46グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、にぶい黄褐色と暗褐色が混じりあった土が円形に広がっていた。SN17と重複し、それよりも新しい。上面形は、長軸1.58m、短軸1.42mの橢円形で、深さは0.55mである。底面は段を形成し、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は須恵器、土師器、礫が出土した。5・6は土師器の壺で、底部から丸みをもって立ち上がり、切り離しは回転糸切りである。

## S K 163(第94図、図版24-1)

中央部のLS45グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土が橢円形に広がっていた。上面形は、長軸0.7m、短軸0.43mの不整形で、深さは0.1mである。底面は西から東へ緩やかに傾斜し、壁は東側が緩く西側は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が出土した。

## S K 271(第94、図版24-2)

南東側のLP・LO42グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、黒褐色土が橢円形に広がっていた。SD10と重複し、それより新しい。上面形は、長軸3m、短軸1mの不整な橢円形で、深さは0.08mである。底面は平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器、土師器、礫が出土した。

## S K 275(第95図、図版24-3)

北東側のLQ47グリッドに位置する。確認面はⅡb層で、暗灰黄褐色土が半円形に広がっていた。北東側は調査区域外である。上面形は長軸1.24m、短軸1.05mの不整な円形と推測され、深さは0.37mである。底面は南から北に緩く傾斜し、壁は北西側が緩く南東側は急傾斜で立ち上がる。遺物は土師器が出土した。

## S K 279(第95図)

中央部のLR43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色土が半円形に広がっていた。上面形は掘りすぎにより半分ほどが確認できなかったが、径0.4mの円形と推定され、深さは0.04mである。底面は平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がる。遺物は出土しなかった。

## S K 280A(第95図、図版24-4)

中央東側のLQ43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、にぶい黄褐色土と暗褐色土がまだら状に混じった土が、不正円形に広がっていた。SK280Bと重複し、それより新しい。上面形は、長軸0.28m、短軸0.26m不整円形で、深さ0.1mである。底面は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がる。遺物は須恵器、土師器が出土した。

## S K 280B(第95図、図版24-4)

中央東側のLQ43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、にぶい黄褐色と暗褐色がまだら状に混じった中に青い粘質土が混入し、不正形に広がっていた。SK280Aと重複しそれより新しい。上面形は、長軸0.42m、短軸0.37mの円形と推測され、深さは0.08mである。底面は平坦で、壁は南西側が急傾斜に立ち上がる。

## S K 281(第95図、図版24-5)

中央部のLR42・43、LQ42・43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、褐色土が半円形に広がっていた。西側約半分は、調査区域外である。上面形は、長軸1.16m、短軸0.4mの円形と推定され、深さは0.19mである。底面は中央から緩やかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

## 5 鍛冶炉

S S 13(第95・98図、図版24-6)

中央部のL T 45グリッドに位置する。確認面はIV層で、暗赤褐色土が不整形に広がっていた。西側半分は壊された状態で検出されたが、本来の炉の規模は、長軸0.52m、短軸0.4mの橢円形と推測され、深さは0.23mである。壁は西側が緩やかに傾斜し、東側で急傾斜で立ち上がる。炉は地面を掘り込み、周囲を礫で囲い粘土で固めて作られている。近くからは、炉に使われたと思われる礫も出土している。また隣接するS D 10からも鍛冶滓が出土しており、この炉のものと大きさが一致する。遺物は須恵器、土師器、炉壁が出土した。7・8は須恵器坏と有台坏で、9・10は土師器坏、11は炉壁である。7は、底部から若干丸みをもって緩やかに立ち上がる。8はやや高い高台が付き、緩く立ち上がる。底部の切り離しは回転糸切りである。9は底部が丸みをもって立ち上がる。10は底部から若干丸みをもって立ち上がり、内面に黒色処理を施している。切り離しは7が回転ヘラ切りで、9・10は回転糸切りと考えられる。11の重量は1,060gである。

## 6 焼土遺構

S N 12(第95図、図版24-7)

中央部のL S 44グリッドに位置する。確認面はIII層で、暗褐色の焼土が不整形に広がっていた。上面形は、長軸1.9m、短軸1.3mの不整形で、掘り込みは見られなかった。遺物は土師器が出土した。12・13は坏で、底部から若干丸みをもって立ち上がり、切り離しは回転糸切りである。14は長胴甕で、口縁部は「く」の字状に外反する。口唇部が平坦に整えられている。

S N 17(第94図、図版24-8)

西側のM A 46グリッドに位置する。確認面はIII層で、明赤褐色と暗赤褐色が混じりあった色の焼土が不整形に広がっていた。S K 47と重複し、それより古い。掘り込みがあり、上面形は長軸0.4m、短軸0.36mの不整形で、焼土の厚さは0.06mである。遺物は土師器が出土した。

S N 46(第96図)

中央部のL T 45・46グリッドに位置する。確認面はIII層で、暗褐色と褐色が混じりあった色の焼土が不整形に広がっていた。掘り込みがあり、上面形は長軸0.6m、短軸0.46mの不整形で、焼土の厚さは0.1mである。遺物は須恵器、土師器が出土した。

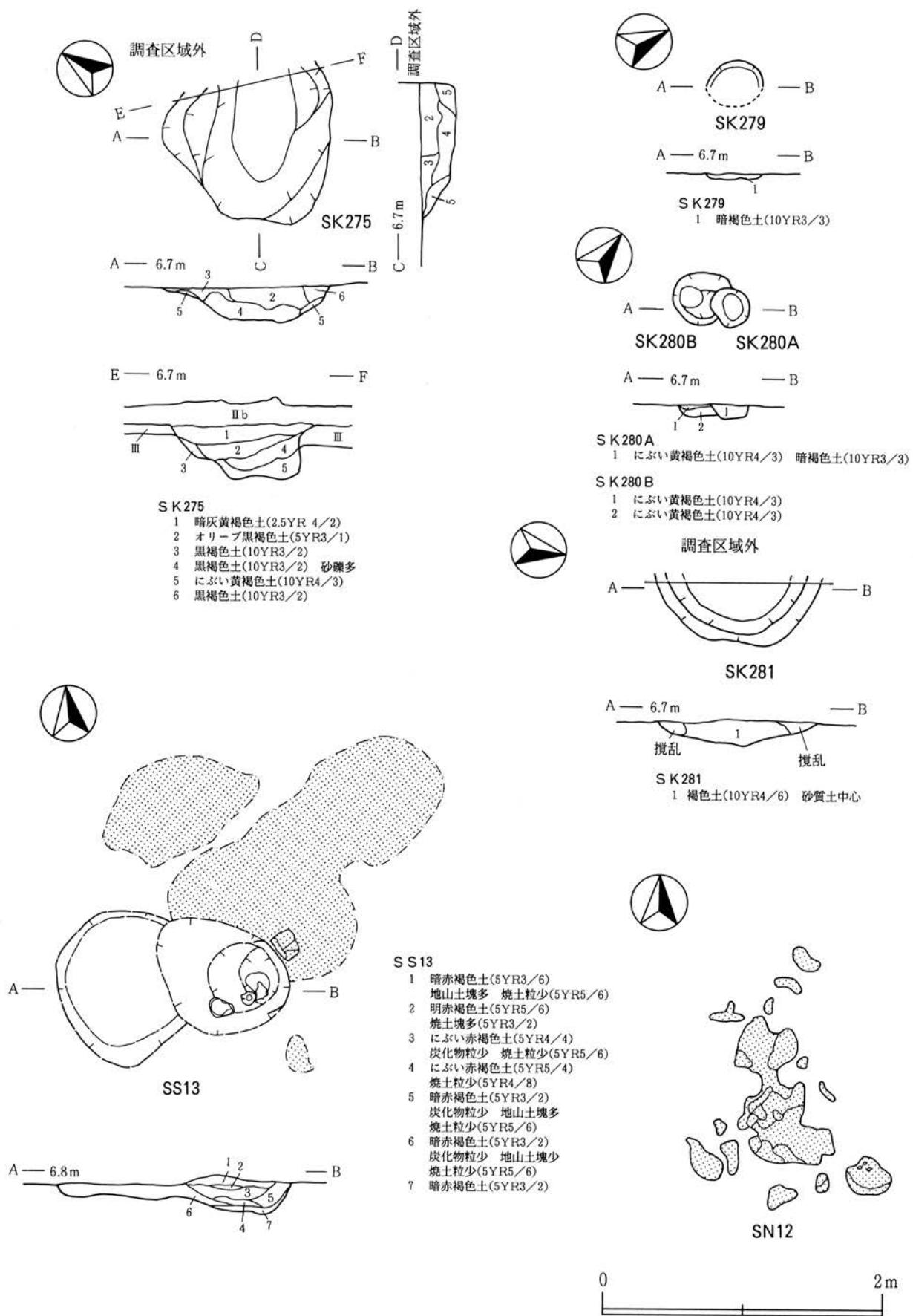
## 7 溝跡

S D 1(第96図、図版25-1)

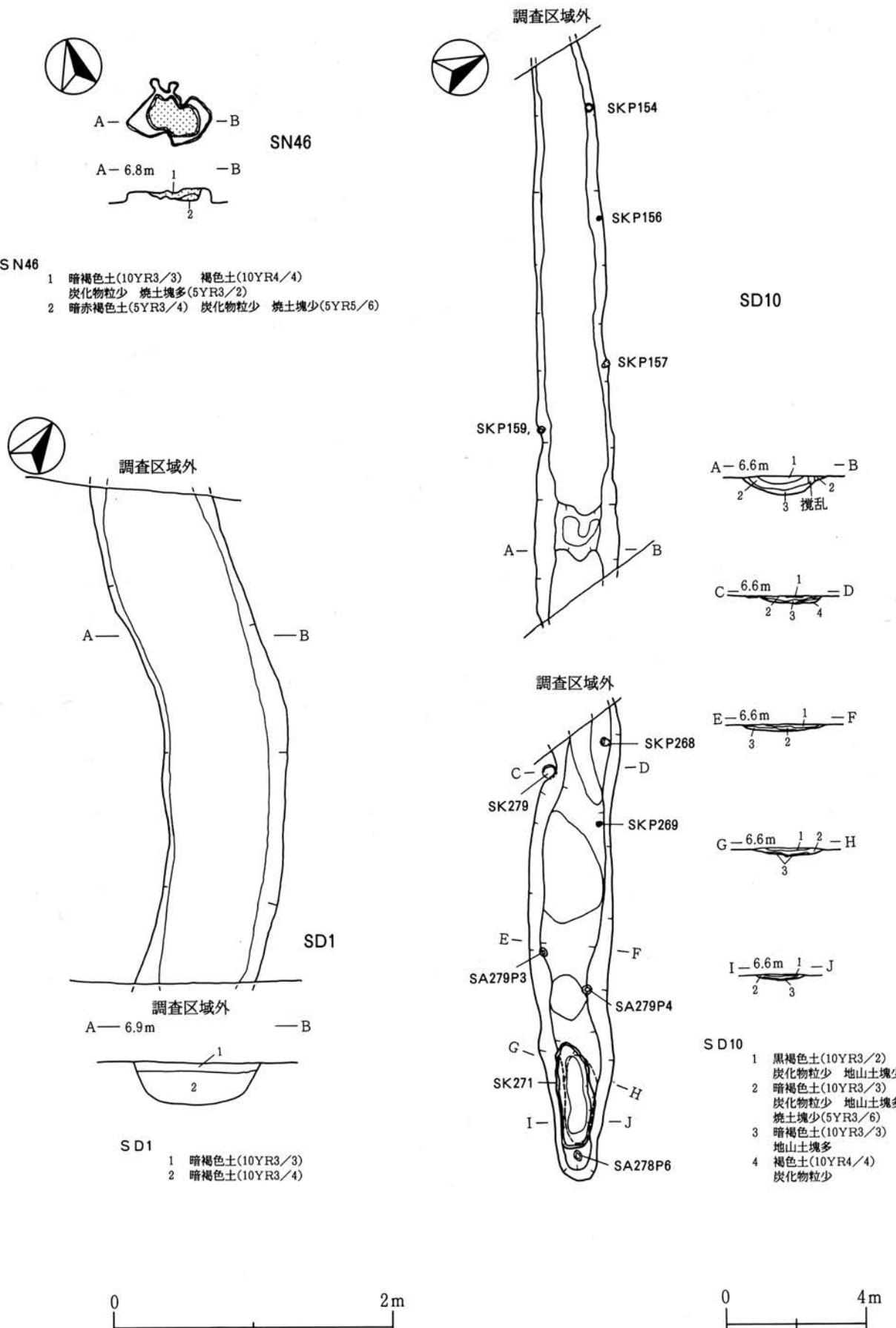
南西側のM C 38、M B 37・38グリッドに位置する。確認面はIII層で、暗褐色が溝状に広がっていた。北西-南東方向にやや蛇行しながら延びる。北西側及び南東側が、調査区域外である。規模は長さ3.5m、最大幅0.96mで、深さは0.19mである。断面形は「U」字状を呈している。遺物は土師器が出土した。

S D 10(第96・99図、図版25-2~4)

北西-南東側のM B 45、M A 44・45、L T 44・45、L S 43・44、L R 43・44、L Q 42・43、L P・L O 42グリッドに位置している。確認面は層で、黒褐色が溝状に広がっていた。北西-南東方向に直線的に延びる。北西側は調査区域外である。S K 271・S K P 154・S K P 156・S K P 157・S K P 159・S K P 268・S K P 269と重複し、それらより古い。規模は長さ28.6m、最大幅2.4mで、深さは最大0.52mである。断面形は北西側は擂鉢状を呈して、南東側は底面が緩く立ち上がる。遺物は須恵器、土師器、鉄滓が出土した。15は須



第95図 土坑(2)、鍛冶炉(1)、焼土遺構(1)



第96図 燃土遺構(2)、溝跡(2)

惠器の有台皿である。底面はほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる。16は須恵器壺で、底部から丸みをもって立ち上がる。底部の中央は極端に分厚い。17は須恵器甕で、底部が丸底で「U」字状に立ち上がる。18～19・22は土師器壺である。18・19・22は底部から若干丸みをもって立ち上がる。19の切り離しは回転糸切りで、18・22の切り離しは回転ヘラ切りである。20・23は有台壺で、底部が丸みをもって立ち上がる。20・23はともに内面に黒色処理を施している。21は土師器皿で、底部から大きく開いて立ち上がる。21の切り離しは回転糸切りである。24は土師器甕で、底部の口径が小さく若干突出ぎみである。内面に木口状の痕跡が多く認められる。25は、重量が2,910gの楕円形鍛冶滓である。

#### S D11(第97図、図版25-5)

北側のMB・MA・LT49グリッドに位置している。確認面はⅢ層で、暗褐色が溝状に広がっていた。西一東方向に直線的に延びる。西側は調査区域外である。規模は長さ8.1m、最大幅0.7mで、深さは0.08mである。底面は平坦で、壁は急傾斜に立ち上がる。遺物は土師器が出土した。

#### S D16(第97図)

北側のLT49・48、LS48グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、暗褐色が溝状に広がっていた。北北西一南南東の方向に直線的に延びる。SKP143と重複し、それより古い。規模は長さ4.8m、幅0.16mで、深さは0.14mである。断面形は「U」字形を呈している。遺物は土師器が出土した。

#### 8 柱穴様ピット(第18～21表)

遺物は須恵器、土師器、礫が出土した。

#### 9 性格不明遺構

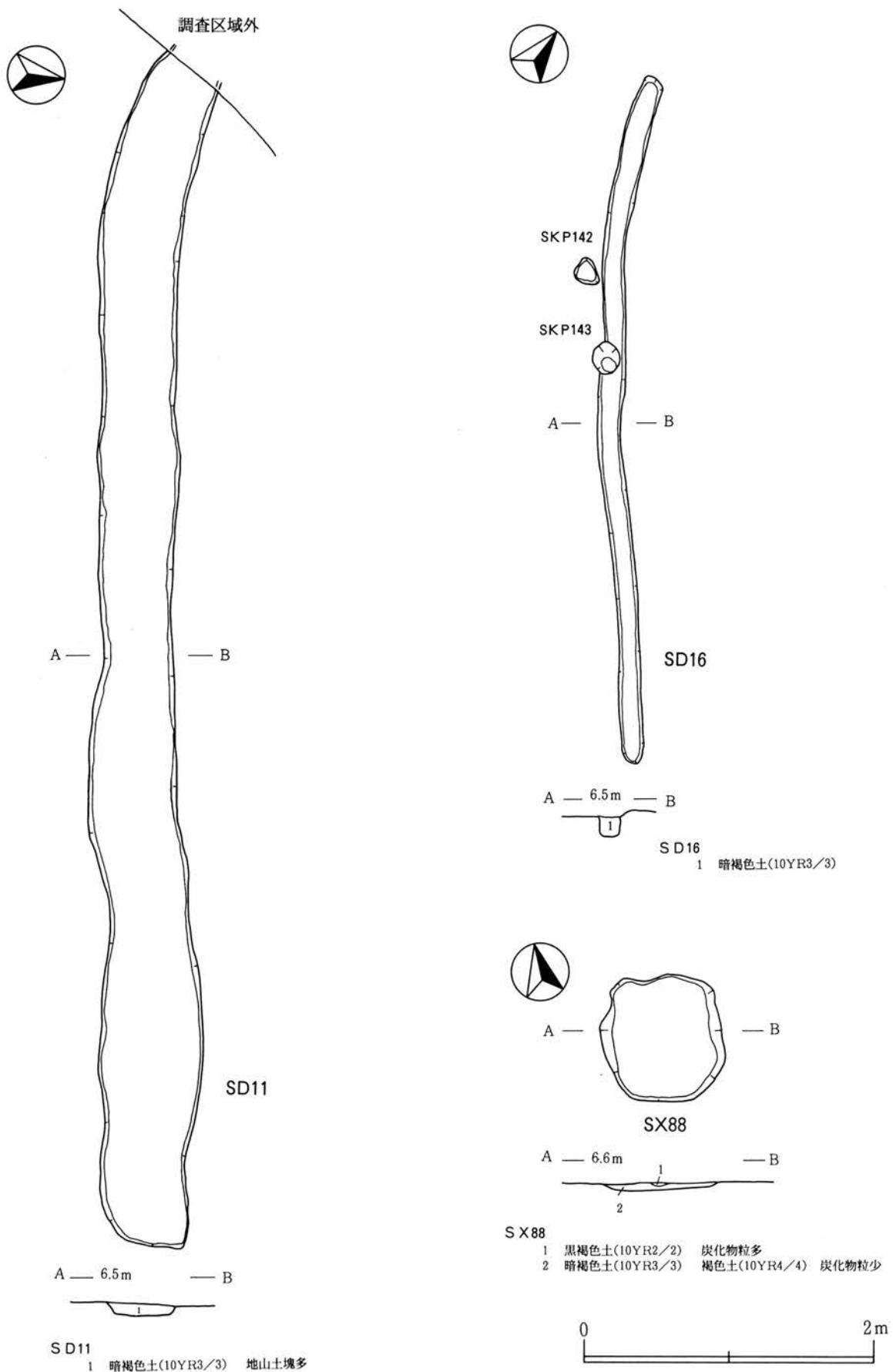
#### S X88(第97図、図版25-6)

西側のMA43グリッドに位置する。確認面はⅢ層で、黒褐色土が円形に広がっていた。上面形は長軸0.88m、短軸0.84mの不整形で、深さは0.05mである。底面は平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がる。

## 第2節 遺構外出土遺物

#### 1 遺構外出土遺物(第100図)

遺物は須恵器、土師器が出土した。26～28は須恵器壺、29は須恵器の有台壺、30～32は須恵器甕、33は土師器有台皿、34は土師器耳皿と考えられる。26～28は、底部から若干丸みをもって立ち上がる。切り離しは回転ヘラ切りである。29は、底部から丸みをもって立ち上がり、口唇部付近で僅かに外反する。切り離しは回転糸切りである。高台部は低く、僅かに外に張り出している。30は口縁部が外傾し、口縁端部が部が厚く膨らんでいる。31は底部に近い胴部破片で、外面に叩き目、内面に当て目がある。32は口縁部が外傾し、平坦な口唇部付近で横に張り出す。胴部上半の外面には叩き目が、内面には当て目がある。30～32の内外面には自然釉が認められる。33は、底部から大きく開いて立ち上がる。高台部が剥落している。切り離しは回転糸切りである。34は底部に指で押されたような窪みがあり、底部は柱状を呈している。切り離しは回転糸切りである。破片であるが、体部の平面観が、同心円状にならない摘み上げた箇所が2カ所対になることから、耳皿と考えられる。



第97図 溝跡(2)、性格不明遺構(1)

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
14	MA40	楕円形	0.26	0.22	0.14	
18	LT46	楕円形	0.16	0.12	0.24	
19	LT46	円形	0.18	0.18	0.21	
20	LT46	不整円形	0.26	0.24	0.21	
21	LT46	楕円形	0.24	0.18	0.20	
22	LT46	方形	0.24	0.19	0.20	
23	LT46	不整円形	0.26	0.22	0.28	SKP24に切られる 土師器出土
24	LT46	不整円形	0.24	0.20	0.29	SKP23を切る
25	LT46	不整円形	0.21	0.18	0.31	
26	LS46	不整円形	0.17	0.16	0.18	
27	LS46	方形	0.20	0.18	0.17	
28	LS46	方形	0.16	0.14	0.14	
29	LS46	方形	0.14	0.14	0.15	
30	LS46	不整円形	0.13	0.12	0.19	
31	LS46	円形	0.22	0.22	0.47	土師器出土
32	LS46	不整橢円形	0.23	0.19	0.42	
33	LS46	楕円形	0.28	0.22	0.33	SKP34を切る
34	LS46	楕円形	0.48	0.30	0.46	SKP33に切られる 土師器出土
35	LS46	楕円形	0.26	0.19	0.15	須恵器出土
36	LS46	不整円形	0.20	0.17	0.13	
37	LS46	円形	0.24	0.22	0.22	土師器出土
38	LS45	楕円形	0.18	0.14	0.21	
39	LR45	方形	0.18	0.16	0.25	
40	LS46	円形	0.20	0.20	0.24	
41	LS46	不整円形	0.16	0.14	0.15	
42	LS46	楕円形	0.22	0.16	0.17	
43	LS47	不整橢円形	0.37	0.32	0.28	SKP44に切られる・須恵器土師器出土
44	LS47	円形	0.19	0.17	0.37	SKP43を切る
45	LT47	楕円形	0.22	0.18	0.20	須恵器出土
48	LS47	楕円形	0.32	0.22	0.23	
49	LS48	方形	0.24	0.19	0.27	
50	LS48	隅丸方形	0.22	0.20	0.20	
51	LS48	楕円形	0.28	0.22	0.23	土師器出土
52	LS49	不整円形	0.20	0.18	0.26	土師器出土
53	LS49	方形	0.18	0.16	0.17	
54	LS49	隅丸方形	0.31	0.29	0.35	
55	LS49	不整円形	0.26	0.20	0.44	
56	LS50	不整橢円形	0.18	0.12	0.13	
57	LS50	不整橢円形	0.30	0.26	0.15	
58	LS50	楕円形	0.28	0.24	0.23	
59	LS50	方形	0.28	0.28	0.29	
60	LS50	隅丸方形	0.28	0.24	0.32	
61	MA50	不整円形	0.30	0.28	0.24	
62	LT49	不整円形	0.18	0.18	0.20	
63	LT48	隅丸方形	0.32	0.22	0.30	須恵器出土
64	LT48	円形	0.16	0.16	0.09	
65	LT47	円形	0.18	0.18	0.18	
66	LT47	円形	0.18	0.18	0.18	
67	LT47	不整円形	0.18	0.16	0.25	
68	MA47	楕円形	0.20	0.14	0.08	
69	MB47	不整円形	0.17	0.13	0.16	
70	MA46	円形	0.20	0.20	0.25	土師器出土
71	MB47	楕円形	0.22	0.18	0.19	
72	MA48	円形	0.23	0.22	0.44	土師器出土
73	MA48	不整円形	0.20	0.17	0.21	
74	LT48	不整円形	0.18	0.15	0.26	
75	LT46	隅丸方形	0.40	0.20	0.11	
76	MA46	不整円形	0.16	0.12	0.11	
77	MA45	円形	0.16	0.14	0.17	
78	MA45	不整円形	0.30	0.22	0.21	土師器出土

第18表 貝保遺跡柱穴様ピット一覧(1)

## 貝保遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
79	MB46	不整円形	0.28	0.28	0.12	
80	MB46	不整円形	0.16	0.14	0.15	
81	MB46	不整円形	0.30	0.26	0.16	
82	MB46	不整円形	0.15	0.15	0.15	
83	MB46	不整円形	0.20	0.19	0.18	
84	MB46	不整円形	0.22	0.18	0.10	
85	MB45	不整円形	0.22	0.20	0.11	
86	MA44	不整円形	0.28	0.26	0.22	
87	MB45	不整円形	0.16	0.14	0.08	
89	LT49	不整円形	0.30	0.27	0.35	
90	LT48	不整円形	0.26	0.24	0.14	
91	LT48	不整円形	0.28	0.24	0.18	
92	MA48	不整円形	0.23	0.15	0.23	
93	MA48	不整橢円形	0.18	0.11	0.15	
94	MA48	不整円形	0.20	0.17	0.13	
95	MA48	円形	0.24	0.22	0.27	
96	MB48	円形	0.20	0.19	0.29	
97	MB48	円形	0.20	0.20	0.16	
98	MB48	円形	0.17	0.17	0.14	
99	MB48	不整円形	0.17	0.14	0.18	
100	MB48	円形	0.22	0.20	0.22	
101	MA47	方形	0.13	0.12	0.15	
102	MA47	円形	0.12	0.10	0.22	
103	MA47	不整円形	0.21	0.18	0.18	
104	MA47	橢円形	0.18	0.14	0.17	
105	MA47	隅丸方形	0.21	0.20	0.19	土師器出土
106	MA47	円形	0.16	0.15	0.04	
107	LT47	不整円形	0.16	0.14	0.12	
108	LT47	不整円形	0.22	0.22	0.21	
109	MA46	不整円形	0.22	0.20	0.35	
110	MB49	不整円形	0.22	0.18	0.15	
111	MB49	橢円形	0.22	0.16	0.15	
112	LT46	隅丸方形	0.22	0.20	0.21	
113	LT46	不整円形	0.16	0.14	0.09	
114	LT47	不整円形	0.26	0.24	0.10	
115	LT47	橢円形	0.26	0.16	0.18	
116	LS48	不整円形	0.34	0.32	0.38	土師器出土
117	LS48	橢円形	0.22	0.16	0.14	須恵器出土
118	LT48	不整円形	0.20	0.17	0.20	
119	MA47	円形	0.26	0.24	0.25	
120	LT47	不整円形	0.16	0.12	0.15	
121	MA47	不整橢円形	0.22	0.18	0.30	土師器出土
122	LT48	不整橢円形	0.24	0.14	0.18	SKP123に切られる
123	LT48	不整橢円形	0.28	0.20	0.33	SKP122を切る
124	LT47	不整円形	0.22	0.20	0.22	
125	LS47	円形	0.18	0.18	0.24	
126	LT48	円形	0.16	0.16	0.37	
127	LT48	円形	0.18	0.16	0.24	
128	LT48	円形	0.16	0.16	0.22	
129	LT48	不整円形	0.22	0.19	0.19	
130	LT48	円形	0.24	0.23	0.19	
131	LT48	円形	0.16	0.15	0.27	
132	LS48	不整円形	0.16	0.14	0.26	
133	MA49	橢円形	0.12	0.10	0.08	
134	MA49	橢円形	0.22	0.18	0.35	
135	LT49	橢円形	0.33	0.19	0.23	
136	LS49	不整橢円形	0.28	0.18	0.15	SKP137を切る
137	LS49	不整橢円形	0.28	0.18	0.16	SKP136に切られる
138	LT50	方形	0.28	0.27	0.26	
139	LT49	円形	0.16	0.16	0.20	

第19表 貝保遺跡柱穴様ピット一覧(2)

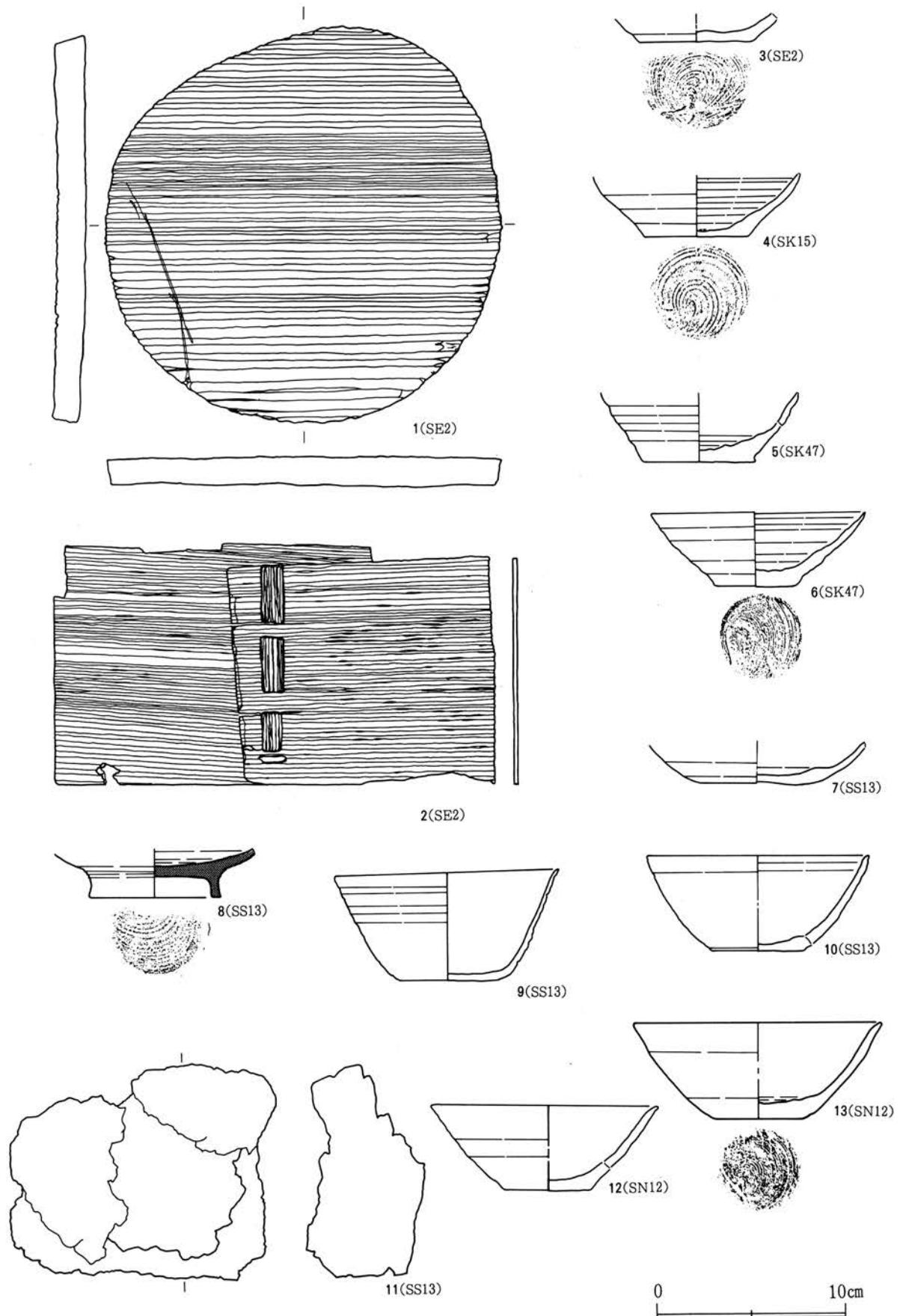
番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
140	LT49	円形	0.16	0.16	0.24	
141	LS49	不整円形	0.22	0.20	0.28	
142	LT49	不整橢円形	0.30	0.24	0.36	
143	LT49	不整円形	0.22	0.20	0.15	
144	MA47	不整円形	0.16	0.14	0.12	
145	LT48	不整円形	0.20	0.16	0.29	SKP146を切る
146	LT48	不整円形	0.24	0.22	0.27	SKP145に切られる
147	LT48	不整円形	0.14	0.14	0.38	
148	LT49	不整円形	0.27	0.24	0.31	
149	LT48	楕円形	0.20	0.13	0.13	
150	MA48	不整円形	0.26	0.23	0.38	
151	MA47	不整円形	0.30	0.25	0.18	
152	MA47	不整円形	0.24	0.22	0.20	
153	LT47	不整円形	0.30	0.24	0.41	
154	MA45	不整円形	0.24	0.22	0.53	SD10を切る
155	MA45	楕円形	0.26	0.19	0.20	
156	MA45	不整円形	0.14	0.12	0.13	SD10を切る
157	LT44	不整円形	0.24	0.23	0.32	SD10を切る
158	LS44	楕円形	0.22	0.18	0.36	SD10を切る
159	LS44	円形	0.30	0.28	0.13	
161	LS44	楕円形	0.18	0.14	0.18	
162	LT45	方形	0.15	0.13	0.15	
201	LR47	円形	0.20	0.19	0.34	土師器出土
202	LQ47	円形	0.21	0.20	0.16	
203	LR47	不整円形	0.23	0.19	0.16	土師器出土
204	LR46・47	楕円形	0.30	0.21	0.39	土師器出土
205	LR46	楕円形	0.24	0.19	0.28	土師器出土
206	LQ46	不整円形	0.19	0.17	0.14	
207	LR47	不整楕円形	0.27	0.19	0.14	土師器出土
208	LQ47	円形	0.30	0.30	0.40	土師器出土
209	LQ47	円形	0.26	0.26	0.49	土師器出土
210	LQ47	楕円形	0.28	0.16	0.63	土師器出土
211	LQ47	不整円形	0.23	0.21	0.12	
212	LQ47	不整楕円形	0.20	0.15	0.14	土師器出土
213	LQ47	円形	0.23	0.23	0.14	
214	LQ47	不整円形	0.26	0.24	0.37	
215	LP46	円形	0.16	0.15	0.14	土師器出土
216	LQ46	不整円形	0.18	0.17	0.22	
217	LR47	円形	0.23	0.22	0.16	
218	LP46	不整円形	0.18	0.15	0.10	土師器出土
219	LR46	不整円形	0.20	0.17	0.18	土師器出土
220	LR47	円形	0.17	0.16	0.12	
221	LR47	楕円形	0.20	0.15	0.11	
222	LR47	不整円形	0.17	0.14	0.11	土師器出土
223	LR49	不整円形	0.19	0.17	0.11	
224	LR49	不整円形	0.18	0.16	0.18	土師器出土
225	LR49	楕円形	0.24	0.21	0.34	土師器出土
226	LR49	楕円形	0.22	0.17	0.16	
227	LR49	楕円形	0.21	0.17	0.20	
228	LR49	円形	0.17	0.16	0.15	
229	LR49	円形	0.23	0.22	0.25	
230	LR48	不整円形	0.24	0.23	0.28	土師器出土
231	LR48	円形	0.21	0.20	0.19	土師器出土
232	LR48	不整楕円形	0.30	0.22	0.17	
233	LR48	不整楕円形	0.24	0.20	0.16	
234	LQ47	不整円形	0.15	0.13	0.10	
235	LQ45	隅丸方形	0.27	0.17	0.07	
236	LQ45	不整円形	0.21	0.17	0.13	
237	LQ45	楕円形	0.26	0.20	0.17	
238	LQ45	不整楕円形	0.29	0.23	0.17	

第20表 貝保遺跡柱穴様ピット一覧(3)

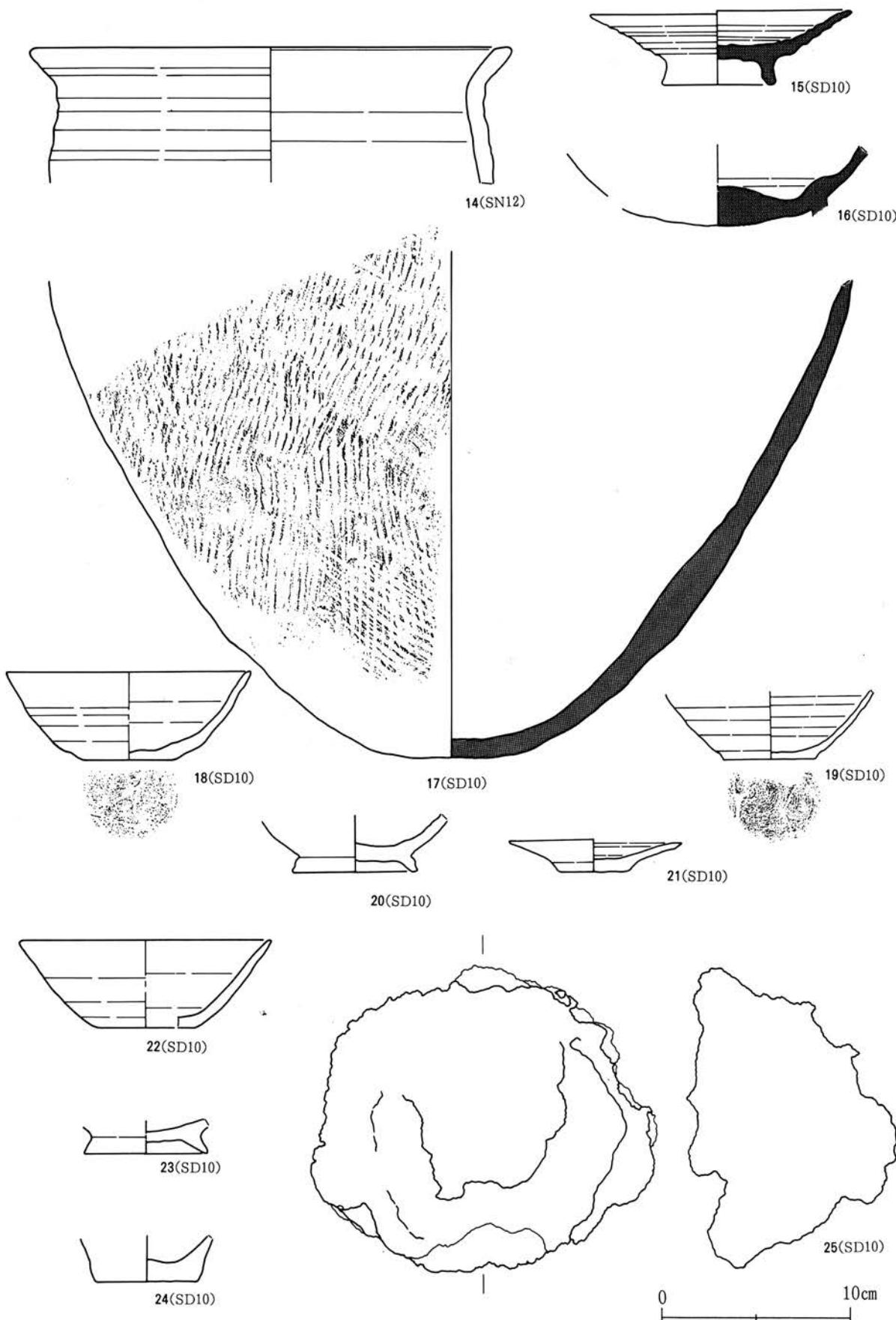
貝保遺跡

番号	グリッド	平面形	上端長軸(m)	上端短軸(m)	深さ(m)	備考
240	LP45	楕円形	0.16	0.13	0.05	
241	LP45	不整楕円形	0.20	0.15	0.14	
242	LQ45	不整円形	0.28	0.25	0.16	土師器出土
243	LP45	楕円形	0.25	0.17	0.26	
244	LQ45	楕円形	0.21	0.15	0.06	
245	LQ45	楕円形	0.20	0.15	0.20	
246	LQ45	円形	0.15	0.13	0.09	
249	LR44	円形	0.22	0.21	0.03	土師器出土
250	LR44	楕円形	0.13	0.11	0.08	
252	LQ41	不整円形	0.27	0.24	0.08	
254	LQ42	円形	0.25	0.23	0.15	
255	LR48	楕円形	0.23	0.18	0.17	
256	LR48	楕円形	0.12	0.09	0.07	
257	LR48	不整楕円形	0.18	0.12	0.15	
258	LR48	円形	0.32	0.32	0.18	
259	LR48	円形	0.18	0.17	0.10	
260	LR48	不整円形	0.25	0.23	0.18	
261	LR48	不整円形	0.16	0.14	0.11	
262	LR48	円形	0.31	0.31	0.16	
263	LR48	円形	0.19	0.19	0.13	
264	LR47	円形	0.21	0.20	0.16	
265	LR47	円形	0.22	0.21	0.13	
266	LQ47	楕円形	0.32	0.18	0.15	土師器出土
267	LR47	円形	0.27	0.25	0.20	土師器出土
268	LR43	不整楕円形	0.27	0.20	0.14	SD10を切る 土師器出土
269	LQ43	隅丸方形	0.15	0.11	0.07	SD10を切る
270	LR43	隅丸方形	0.17	0.15	0.08	

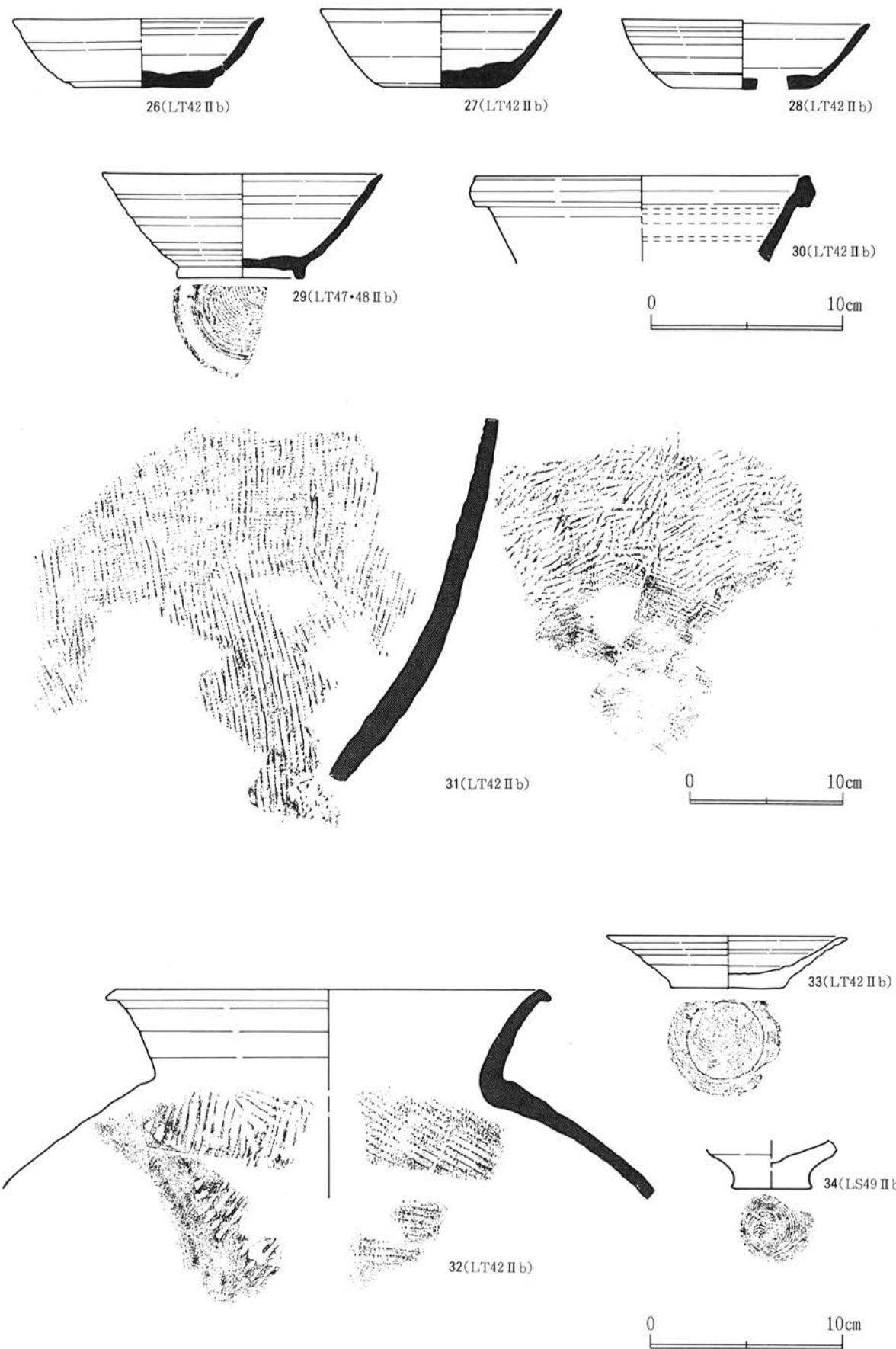
第21表 貝保遺跡柱穴様ピット一覧(4)



第98図 遺構内出土遺物(1)



第99図 遺構内出土遺物(2)



第100図 遺構外出土遺物(1)

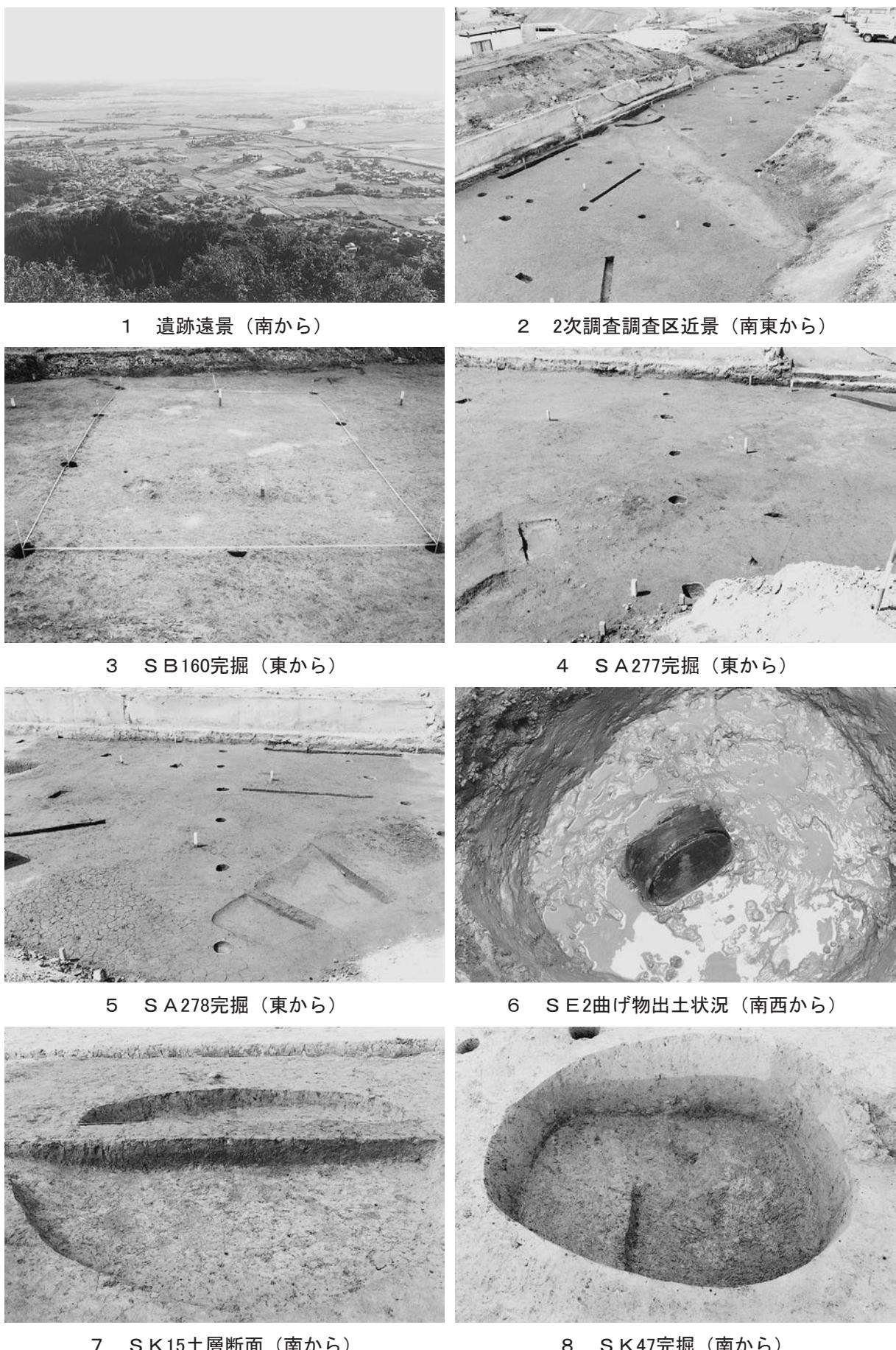
### 第3章 まとめ

貝保遺跡の2カ年の調査では、掘建柱建物跡1棟、柵列2列、井戸跡1基、土坑5基、鍛冶炉跡1基、焼土遺構3基、溝跡4条、柱穴様ピット207基、性格不明遺構1基が検出された。遺物は須恵器の壺・有台壺・有台皿・壺・甕、土師器の壺・有台壺・有台皿・耳皿・甕、曲げ物、鉄関連遺物の鉄滓・炉壁などが出土した。これらの遺物は、土器の年代から平安時代9・10世紀と考えられ、曲げ物も伴出遺物から平安時代と想定される。

今回調査した貝保遺跡は、開防遺跡の東側調査区にあたるD区とは、一段低い沢地を挟んで約140m東南東に位置しており、検出した遺構や遺物は開防遺跡と同時代である。検出遺構のうち、開防遺跡との関連性で注目されるのが掘立柱建物跡(SB160)である。この長軸方向はN-85°-Wを指すが、これとほぼ同じ長軸方向を示す開防遺跡D区の掘立柱建物跡には、SB1・SB2・SB3・SB5・SB8がある。このことは、貝保遺跡と開防遺跡の掘立柱建物跡が強く関連していることを示唆している。一方、貝保遺跡の柱穴様ピットは、SD10より北側に集中して検出されている。同じように、開防遺跡のC・D区では、柱穴様ピットが中央部で集中する区域がある。このような、柱穴様ピットの異常なまでの集中した在り方も、両遺跡の共通性として指摘しておきたい。

またSD10は、南側の掘立柱建物跡と北側の柱穴様ピット群を区分しているようであり、最大幅が2.4m、最大深さ0.52mと規模が大きく、現状での長さは28.6mである。底面は、南東から北西方向に緩く傾いており、北西側は低地に連続している。底面の傾斜は、南東から北西に水が流れて低地に注ぐように配慮したものであろう。南東側は、平面では窄まるが削平が強く及んでおり、本来は調査区域外に連続するとみられる。溝の北側で溝に近い西側には、SS13の鍛冶炉が存在する他、SN12・SN17・SN46の焼土遺構が見つかっており、溝との関連性も考慮される。

以上より、貝保遺跡は開防と同様に生産遺跡に関連した集落と考えられ、掘立柱建物跡は倉庫的な役割を担ったと想定される。遺物には、日常什器の他に須恵器の壺や土師器の耳皿と、官衙で認められる器種も出土しており、一般集落とは考えにくく、むしろ開防遺跡と一帯の在り方を示すと理解される。開防遺跡同様に、近くに位置する石崎遺跡や中谷地遺跡と強く関連していたものと思われる。





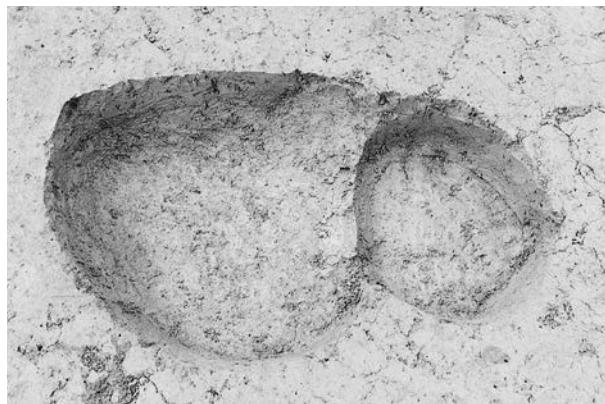
1 SK 163完掘 (南から)



2 SK 271精査経過 (南から)



3 SK 275完掘 (北西から)



4 SK 280A・B完掘 (南東から)



5 SK 281完掘 (東から)



6 S 13遺物出土状況 (南から)



7 S N 12遺物出土状況 (南から)



8 S N 17確認状況 (南から)



1 SD 1完掘（南から）



2 SD 10、1次調査区完掘（西から）

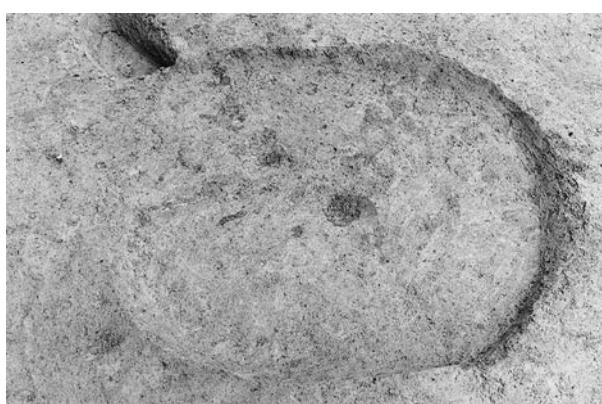
3 SD 10、2次調査区完掘（北東から）



4 SD 10遺物出土状況（北から）



5 SD 11土層断面（西から）



6 SX 88完掘（南から）



7 作業風景（北西から）

# 報告書抄録

ふりがな	かいぼういせき・かいほいせき							
書名	開防遺跡・貝保遺跡							
副書名	主要地方道秋田八郎潟線高速交通関連道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第361集							
編著者名	利部修・山田広美							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター							
所在地	秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地							
発行年月日	西暦2003年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かいぼういせき 開防遺跡	あきたけんみなみあきたぐん 秋田県南秋田郡  ごじょうめまちこいけばざ 五城目町小池字  かいぼう ほか 開防49-2外	05361		39度 56分 36秒	140度 6分 18秒	20010416 ～ 20010831	6,163	主要地方道 秋田八郎潟 線高速交通 関連道路整 備事業に係 る事前調査
かいほいせき 貝保遺跡	あきたけんみなみあきたぐん 秋田県南秋田郡  はちろうがたまちかわさきあざ 八郎潟町川崎字  かいほ ほか 貝保99-3外	05363		39度 56分 32秒	140度 6分 23秒	1次調査 20010827 ～ 20010918 2次調査 20020411 ～ 20020426	1次調査 726  2次調査 317	主要地方道 秋田八郎潟 線高速交通 関連道路整 備事業に係 る事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
開防遺跡	集落跡	古代	豎穴住居跡 6軒 豎穴状遺構 2基 掘立柱建物跡22棟 柱穴列 4列 土器埋設遺構 7基 井戸跡 1基 土坑134基 鍛冶炉 4基 製鉄関連捨て場 1カ所 炭焼成遺構 7基 カマド状遺構 4基 焼土遺構21基 溝跡36条 性格不明遺構 9基 柱穴様ピット 986基 柱穴列 2列 井戸跡 1基		土師器 須恵器 土錐 土製勾玉 石器 鉄製品 鉄滓	木製品	古代の製鉄を生業とする集落の跡を検出した。	
貝保遺跡	集落跡	古代	掘立柱建物跡 1棟 柱穴列 2列 井戸跡 1基 土坑 8基 鍛冶炉 1基 焼土遺構 3基 溝跡 4条 性格不明遺構 1基 柱穴様ピット 207基		土師器 須恵器 曲げ物 鉄滓		大溝で区画された古代の集落の一部を検出した。	

## 秋田県文化財調査報告書第361集

### 開防遺跡・貝保遺跡

－高速交通関連道路秋田八郎潟線整備事業に－

係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷・発行 平成15年3月

編 集 秋田県埋蔵文化財センター

〒014-0802 仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地

電話(0187)69-3331 FAX(0187)69-3330

発 行 秋田県教育委員会

〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号

電話(018)860-5193

印 刷 株式会社 仙北印刷所